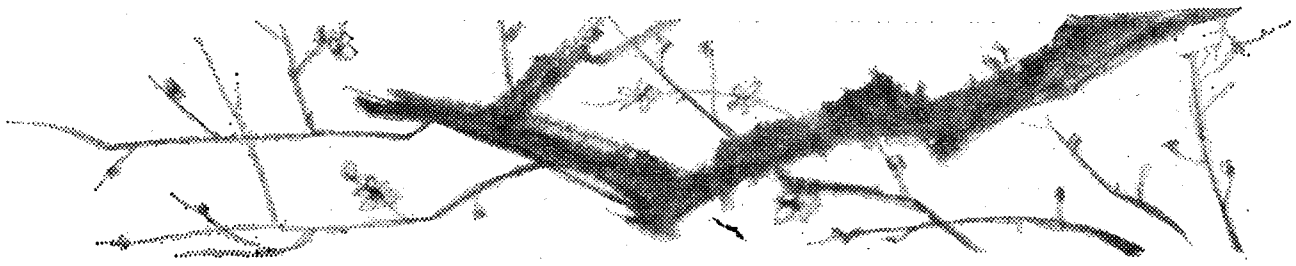


カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

親愛なる福岡教区のみなさまに、わが主の御降誕と新年のおよろこびを申し上げます。

今年も平穏のうちに、救主イエズス様のご誕生をお祝いし、新しい熱意をもって公会議終了第二年目を迎えることができました。まことによろこばしいことでございます。戦乱にあけくれしている国の人々のことを見ききするにつけ、この平和のめぐみがどれほど貴重なものであるかを、このお祝いの日にあって殊更につよく感じさせられます。

しかし人類が求めてやまない「地上の平和」とは、ただ悲惨な戦争がないということだけではありません、人間のまことの平和は、正しい良心、神の掟に従う生活、神と人に対する愛の実践のなかに生れるものであります。そしてまた精神と心の落着きのなかに保たれるものであります。社会全体がめまぐるしく変動する現代に生きる私達は、絶対にゆれ動くことのない永遠の神に、強い信仰をもって結ばれていなければなりません。

カトリック教会は、この不動のものを堅持しつつ、公会議によって示された道を慎重に開拓しておりますが、私はみなさまに、今年とくに信徒使徒職の実行にふかい関心と努力をつくして頂きたいと願っております。神の国の発展と栄光は、キリストの教会に属しているすべての信徒の最大の責務であります。

新しい年が平和と愛の年であることを念じつつ、みなさまの上に心をこめて司教祝福を送ります。

昭和四二年一月元日

福岡司教
ドミニコ　深堀　仙右衛門

「共同祈願」について

この度典礼司教委員会秘書局からミサ用の「共同祈祷文」の第一分冊が発刊された。

共同祈祷は、日曜日と守るべき大祝日および司教が特別に許可した日に、ミサ中となえられる。

ミサのみことばの祭儀の終り、「信仰宣言」のあと、聖体祭儀がはじまる前、司式司祭はまず「祈りましょう」と云ってから、前文をとなえる。

つぎに四類の意向十数項が、司式司祭または先唱者によって朗唱される。そして各項毎に参加者は「主、われらの祈りをきき給え」と連祷式に答える。

最後にふたび司式司祭は後文をとなえ、参加者が「アーメン」と答える。

四類の意向はつぎのように構成されている。

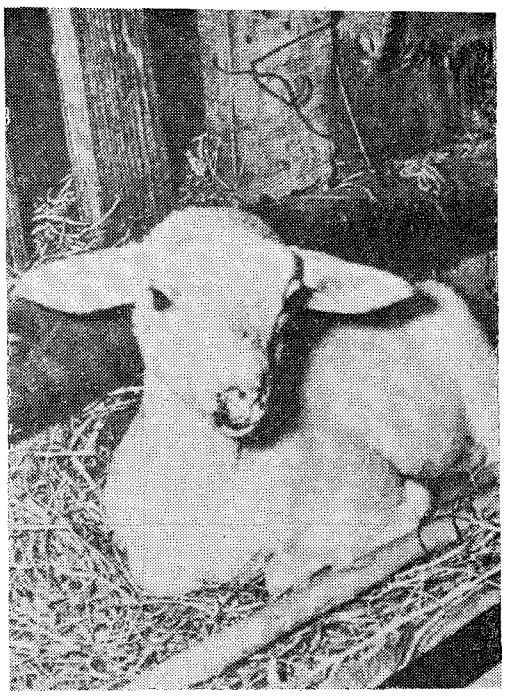
第一類＝全教会のため、即ち教皇　教会の特別の活動のためまたキリスト者の一致、司教、司祭、カトリック運動の指導者カテキスタのためなど…

第二類＝世界のため、即ち世界平和のため、国の政治家、すべて権威をおびている人のため、選挙、収穫のためなど…

第三類＝貧しい人のため、即ち身体的に精神的に苦しんでいる人のため、失業者、低開発国の人のためなど…

第四類＝共同体のため、即ち小教区、学校のため、初聖体、堅信をうける人、事故にあった人のためなど…

×　×　×



羊が牧者の声に従うように
わたしたちも今年は……

世の光

カトリック信者間の一致 (1)

灰皿になった聖水盤

この秋、結婚シーズンを迎え、私の教会も数組の新郎新婦が生まれ、全信者とともはなやいだ数週間を過しました。その間、花嫁花嫁を祝福する多くの未信者のお客様を聖堂にむかえ、あるいは共に披露宴にあずかり、なごやかな雰囲気のうちに対談する機会を得ました。

ところがある晩、聖堂を閉めようとした時、入口の聖水盤の聖水が妙な色をしているのに気がつきました。もっと近くから見ますとなんと煙草の吸がらが二、三本はいっているではありませんか。私はある一つの話を思い出してほほえみました。「教会は何ごとをよく行き届いていますね、入口には灰皿が備えてあり、水までいれてあるのですね、全く徹底していま す」と。

〝かれらがいかに互いに愛しているかを見よ〟

しかし、カトリック教会の魅力は灰皿の準備にだけあるのではないでしょう。

先の結婚の話ですが、私の教会の青年たちは自分たちの兄弟の結婚式の準備で大わらわです。折り紙で菓子器をつくる者、料理の予算をたて会費を徴収する者、結婚ミサの解説の準備をするものなど。

そして当日、出席者みなをあっと言わせるような活気あふれた披露宴をくりひろげるのです。この質素なしかし明るく愉快な披露宴に出席したお客はみな、青年たちの一致と兄弟的まじわりの深さに感動します。そして新郎新婦たちも、人生の大事業を始めるに当って精神的・経済的に兄弟たちの心に強く支えられたのです。

初代教会の信者たちを未信者は「キリスト信者はおたがいに、うらやましいほど愛し合っています」と賞賛し、そのためにカトリック教会に入ったと伝えられています。使徒ヨハネは、人々がふしぎに思うほど「おたがいに相愛せよ」という言葉をくり返しました。

兄弟的まじわり

もちろんそれも結構でしょう。しかし、兄弟的一致の根源は、なんと言っても聖体を中心とするミサ聖祭にあるのです。

ミサ、それは喜びと感謝にみちた宴卓であります。

十二使徒と同じ信仰をもって、キリストの食卓をかこみ主の最後の晩さんと同じ一家たんらんの食事、神の子たちの会食がなされるのであります。わずかのパンをさいて五千人の人々を飽かした同じキリストは今、ご自身を限りなく裂き、世の終りまで、兄弟なる信者にわたし、永遠の生命に招いていらっしゃるのです。

つまり皆は一つのパンにあずかっているのです。聖体は、まことにひとりのキリストであり、これを拝領する信者は同じひとりのキリストに結ばれているのです。ご聖体こそ私たち信者の一致のしるし、一致のきずなであります。この聖体拝領によって活かされた各信者は、神への愛、神のみ旨に従う生活をしたいという熱望によって一致をみるのです。

兄弟的愛の泉

この信者間の兄弟的一致の泉はどこにあるのでしょうか。よく言われるように、信者の親睦をたびかさねることにあるのでしょうか。

つまり皆は一つのパンにあずかっているのです。聖体は、まことにひとりのキリストであり、これを拝領する信者は同じひとりのキリストに結ばれているのです。ご聖体こそ私たち信者の一致のしるし、一致のきずなであります。この聖体拝領によって活かされた各信者は、神への愛、神のみ旨に従う生活をしたいという熱望によって一致をみるのです。

信者のなかの片輪

ミサのあいだにくみとられた信者間の一致は、実生活の上に実を結ばなければ、恩寵を地にふみつけて無駄にしたことになります。ところが残念なことに、霊的な意味での利己主義におちいり、世間と没交渉の孤立した信者を見ることがあります。

信者の利己主義の主な原因は、かれらがキリストの教えの真髄をまだ悟っていないということにあるのではないでしょうか。

「その霊魂を失なわば何の益があらん」と、自分の霊魂のことだけに気をとられている信者は果たして救われるでしょうか。

こういう信者は、愛によって生きている人間とは言えません。なぜなら、愛は自分から解放され、他者に向かうものだからです。愛することを知らない生活は、真に自分を活かし、発展成長させることができずに、実際は陰気で、消極的な片輪の人間を作っていきます。

信者各自のキリストにおける一致が保たれ、深められるためには社会において人々の救いのために働くことが大切です。キリストの神秘体の部分をなすひとりひとりは、「教会」で、世を救う使命を持っているのです。私たちの住む社会環境は、困難な諸問題をかかえゆき悩んでいます。ひとりの力ではどうにもなりません。

その中で社会の正義と平和のために、キリストの福音を実現しようと立ちあがるとき、同志への信頼をあてにしないで何ができましょうか。現実にキリストのみ国をこの社会に広げようと努力する活きた信者は、一致して社会に向かい、その使命を発見することでしょう。

（トクベフ）

平田寛師 助祭位に

二月一一日午前八時半から福岡大神学院で深堀司教司式で助祭以下の叙階式があり、次の諸師が聖位にあげられた。（カッコは教区）

助祭＝平田寛（福岡）古川武信（長崎）川上忠秋（長崎）美島春雄（鹿児島）

副助祭＝片岡久司（長崎）川口清（長崎）

守門・読師＝牧山和人（福岡）山川忠（長崎）中島浩一（大分）トンスラ＝江村武志（福岡）橋本勲（長崎）

幼稚園教育記念式典で表彰

既報の通り去る一一月一日小倉と飯塚のカトリック幼稚園の松尾静香氏と堤マツノ氏が大臣表彰をうけたが、一二月九日福岡県教育委員会と同県幼稚園協会主催で行なわれた福岡県幼稚園教育九〇年記念式典で松尾、堤両氏の他、飯塚聖母幼稚園長アンドレ・ペニエ師と戸畑天使園の池田ミキ氏が幼児教育の功績をみとめられて県知事から表彰をうけた。ペニエ師は三〇年以上も幼稚園に関係している。

永久誓願式

二月二二日伊万里トラピスチス修道院で深堀司教司式でシスター・マリア・ベルナルダ（鈴木幹子、神奈川県茅ケ崎教会出身）の永久誓願式が行なわれた。

信堅のよろこび

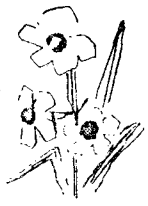
【島崎教会】一一月二七日56名
【大里教会】一二月一一日46名
うち5名は広石教会
【崎津教会】一二月一八日45名

聖体礼拝（一月）

第一日曜　サンモール修院
第二日曜　大名町教会
第三日曜　門司教会
第四日曜　大牟田教会
第五日曜

祈禱の使徒会（一月）

【一般意向】信仰一致運動の促進
【布教意向】布教と他宗教の精神的価値



1月

1日（日）　降誕後の八日目　元日
新しい家に住み、新しい晴着をしき、新しい洋服をきると、われわれは身も心も一新された気持になる。年が変っただけでもそうである。しかし、われわれにとってもっとも大切なのは、神に対して常に新しい信仰感覚をいだくことであろう。

2日（月）　イエズスのみ名の祝日
古代人にとって名前は、その人自身と同一視され、そしてこの世で果すべき使命を示していた。アブラム（高められた父）は、多くの人の高められた父となるためにアブラハムとよばれケファはペトロと改名されて教会のいしずえとなる。イエズスは他の誰にもまして、そのお名前の通り救いの業を達成なされる。

6日（金）　わが主公現の祝日
「キリストは諸民族の光」としてお降りになり、「すべての造られたものに福音を告げること」をお望みになる。博士らはこの光にみちびかれて、はるばる幼な子のもとに集ってくる。教会は今もキリストの光を照らして人々を神のもとに集める。

8日（日）　聖家族の祝日
教会憲章は、家庭生活についてこう教えている。家庭という教育の場所で、夫婦は相互のため、また子どもたちのために、キリストに対する信仰と愛の証人となる独自の使命をもっているキリスト者の家庭は、神の国がもつ力と幸福なる生命への希望とを、声高く宣言する（第四章35番）。

10日（火）　教区司祭月例集会の日

13日（金）　キリストの受洗の記念
深堀司教ご上京、15日羽田発グワム島へ。21日頃お帰りの予定

15日（日）　公現後第二の主日　成人の日
神のお招きに応じて集ってきたものに、御子キリストは、とっておきの美酒をふるまって下さる。このよろこびの酒は、今日ミサ聖祭中信者に与えられる。

18日（水）　祈禱週間始まる
今日から25日まで、教会一致のための特別の祈りの週間が始まる。われわれカトリック信者は、分かれた兄弟たちに深い関心をもち、かれらの為に祈り、愛をもって話し合い、歩みよるべきであろう。

23日（日）　七旬節の主日
教会典礼は早くも悲しみの季節に入る。七旬節（今日から灰の水曜日まで）は正確にいって四旬節の準備期である。

23日（月）　九州地区カトリック教育協議会（於戸畑明治学園）

25日（水）　使徒聖パウロの改心の記念日　祈禱週間終る

29日（日）　六旬節の主日
全力をつくして神と社会のために働く人は、自分の弱さを自覚する。そしてこのふかい淵から神の恩寵の助けを嘆願する。
児童福祉のための献金日　八代教会で堅信

共にクリスマスの喜びを
学生・勤労者のつどい

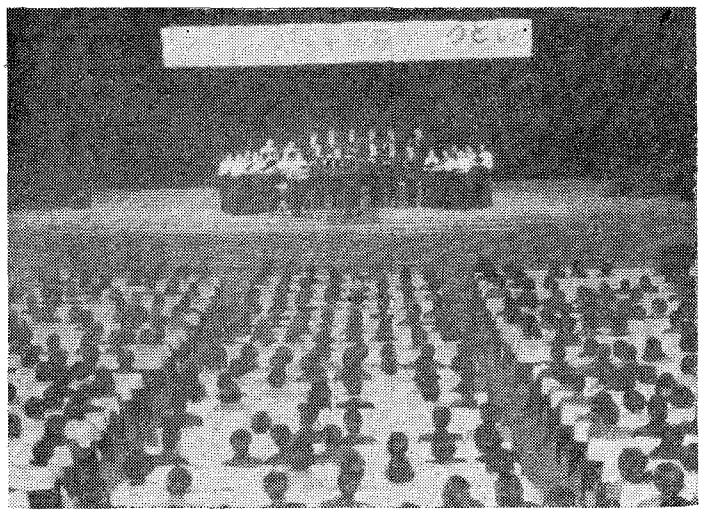
チャリティーショー　小倉市民会館

チャリティーショーをかねたクリスマス青年のつどいが、一二月一八日（日）午後一時半から北九州市小倉市民会館に約千名の参加者が集まってひらかれた。これは北九州キリスト教青年連合会（カトリック青年労働者連盟＝JOC会員とプロテスタント諸教派青年信者で結成）が、朝日新聞社西部本社、TNCテレビ西日本後援で昨年につづき試みたもの。

JOCの岡部謙一実行委員長のあいさつ、賛美歌合唱、聖書朗読のあと、安部福吉氏（小倉教会所属）がBBS運動による豊富な経験をもとに、若いエネルギーの使い方をクリスマスと対比させつつ講演した。

第二部では宮崎市民劇団が「レ・ミゼラブル」を上演して大喝采を浴び、地元楽友協会コール・フロイデによるコーラスのあとで参加者全員がゲームとソングで童心にかえり、「ひとひのおわり」を斉唱して四時半散会した。

このつどいには司祭一〇名も姿を見せ、牧師らと懇談した。



学生も輪になって

福岡カトリック学生会の肝いりで福岡の各大学カトリック研究部全員によるクリスマスの集いが、一二月一八日午後三時から大名町教会旧聖堂でひらかれた。

学生会は主に信者大学生によって組織され毎週土曜日午後に日置師の指導で集会をもち、大黙想会のほか年数回の静修をしているが、研究会は各大学の公認のサークル活動。

この日は学生会員のほか九大、教育大、中村短大の研究部員、日置、乾、山内の諸師ら約四五名が顔を合せて、各研究部の現状、問題点を報告し、相互のつながりを一層緊密にするための方法を話し合い、来春早々に全研究会の総会をひらくことを決定した。

このあと学生らしいにぎやかなパーティにうつり、贈りもの交換ゲーム、歌に興じ午後七時散会した。

福岡市東田島教会でも一八日午後六時から高校、大学の学生、青年勤労者六五名を招いてクリスマスの集いをひらいた。九時まで「エネスフェールの鐘」の劇、ゲーム、ゼスチュア、フォークダンスに興じ楽しい一時を過した。

（写真は小倉市民会館でのつどい）

街頭で募金
福岡・助け合い運動

福岡地区各教会の司祭、信者によるクリスマス・歳末助け合い運動が一二月始めから三週間つづけられた。これは同地区布教委員会の決定にもとずき数年前から欠かさず行なっているもので、今年もデパートや駅などに四、五名一組で道ゆく人々の善意に訴えた。

一見貧しそうな人、子供、老人が誠意をこめてお金を投ずるのが、箱をさし出す者の心を打った。

このような協力で募金は目標額を越える四〇万四〇九九円に達し、すぐに聖ヴィンセンシオ会員の手で年内に貧困家庭に必要物資が届けられた。

なお各カトリック学校でも生徒たちの手でクリスマス募金を行なった。

率直な意見の交換
熊本市内四教会で

熊本市内の四教会（手取、島崎帯山、健軍）の主任司祭、信者委員たち、および市内の修道会（マリアの宣教者フランシスコ会、幼きイエズス会、マリスト会）の各院長らは、一一月二七日手取教会に集ってはじめての対話を行なった。

司会のノーリス師は「神父、修道者、信徒が一堂に会して教会発展のために、率直に意見をかわすこの日はまさに熊本教会史にとって記念すべき日である。聖霊はゆたかに降り、この会を導かれるであろう」とあいさつし、地区長ブレンチフィールド師は、話し合いに臨む態度について、「武器を捨てて愛のうちに語り合う柔和さ、および自分の意見を固執しない謙虚さ」を強調した。

会は終始なごやかな雰囲気のうちに進められ、次のことが決定された。

1、教会内の対話の合同会議を年に四回行なう。

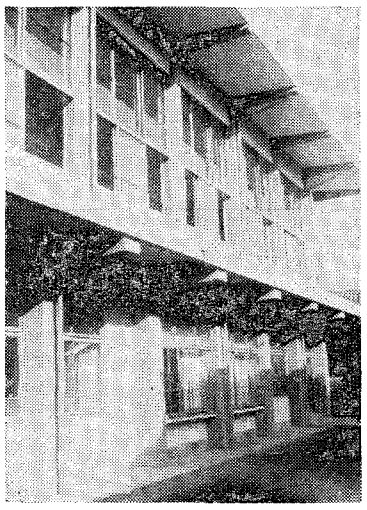
2、次回は一月末とし、テーマは「信者は神父および修道会に何を望むか」

3、心のともしび運動を促進するため、来る一月七日の辻久子ウアイオリン演奏会に協力する。

今後この会合を通じて、キリストの手足の各部分が協力一致して「頭」の喝さいをいやすことが期待される

（高木記）

二階に大ホール
熊本信者会館完成



熊本市手取教会（上通町、主任ノーリス師）に信者会館が完成、一二月一一日（日）コロンバン会熊本地区長ブレンチフィールド師が祝別、これを記念して市内四教会、修道会、学校合同の親睦バザーがひらかれた。市の繁華街に面した同教会の内外は人で埋まり、ドレスメーカーの生徒の作品は午前中で全部売切れ、抽せん会はカラーテレビをめざしてわき立った。バザーには市内のプロテスタント牧師にも招待状が送られ、一一名が三々伍々教会を訪れて司祭信者らと交歓した。

信者会館は四二八平方メートル鉄筋二階建、一階は大小の和室、料理室などで、生花、料理の講習もでき、二階は大ホール（一五〇平方メートル）で、諸種の会合、黙想会などに利用できる。

（写真上は祝別式、下は新信者会館）

福岡学士会消息

福岡カトリック学士会（会長桑原万寿太郎氏）では、一一月の例会で日置師を講師に迎え「教会に托されたお言葉を、現代の言葉によって具現してゆく」という教皇メッセージに盛られた第二バチカン公会議の精神、公会議の精華である三種の公文書（憲章・教令・宣言）について概説をきいたが、この機会に会員相互により、これら公文書の研究会を開くことを取決め、まず信徒使徒職に関する教令について、毎月の例会で逐次研究をつづけることになった。

一二月の例会では待降節に当り学士会恒例の一日静修を行なったあと、日置師により信徒使徒職に関する教令を貫く精神について講話があり、使徒職の出発もその終極も結局ヨハネ聖福音第一七章のおことばに帰せられるということに感銘をあらたにした。

次回から会員各自の持回りで、研究発表をもとにして、教令第一章から始める。

ちなみに同学士会は、時に開催期日と場所の変更はあるが、原則としては毎月第一日曜午後二時より司教館で例会が、また毎年七月と一二月に黙想会あるいは一月の静修をひらいている。なお次回新年第一回例会は、一月三日午後七時から司教館で、研究テキストは「信徒使徒職に関する教令」（小林有方司教、解説つき、中央出版社）。

銀祝のドノフー師
中国宣教の経験も

熊本県菊池教会主任ゼームス・ドノフー師（コロンバン会）は司祭叙階銀祝を迎え、一二月二八日熊本市手取教会で深堀司教を中心に感謝のミサが行なわれた。

ドノフー師は一九一六年アイルランドの生れ、四一年一二月二一日ダブリン市のコロンバン会本部聖堂で司祭にあげられ、世界大戦中の四二年から四六年まで英国のメネリア教区で働き、中国に渡って五一年二月まで漢江の近くのハンニャン教区で布教に従事、中共軍に追われて香港に脱出、三年間千葉県銚子教会につとめ、五四年一一月から菊池教会主任となり今日に至っている。

謹賀新年

福岡司教　深堀仙右衛門

福岡邦人司祭地区

司教館　深堀　敏
浦口　均
牧山　重光
三村　邦明
鵜野　泰年
日置孝三郎
大名町教会　平田　正喜
浦　俊雄
浄水通教会　平田惣五郎
地行町教会　黒川　博
箱島教会　堤　敏雄
西新町教会　平田　勇
大楠教会　青木　功
茶山教会　棚町　正力
高宮教会　ソラノ
吉塚教会　ショーツ
モーラン
那珂町教会　ハー
ウィリアムズ
籾崎教会　ベリボー
東田島教会　グリフィン
オッカナー
二日市教会　堤　要吉
古賀教会　シモンズ
今村教会　乾　盛夫
糸永　一
糸永　武男
岩永　義人
本郷教会　山田　成章
久留米教会　牧山　藤房
牧山　田一
三木　義明
大牟田教会　畠山　七郎
吉野教会　山川　辰幸
呼子教会　畑原　富雄
馬渡島教会　田川　清美
大神学院　ラブラント
ツルデル
ラベル
イエル
岩永　薫
岩村　清太
高木　誓行
山内　清海
川口　康頼
小神学校　中浜　一男
フランシスコ会　シージスベルト
山東　龍雄
御受難会　カール
ポール
マリア会　村岡　隆義
パウロ会　前田　俊郎
長嶋　久雄

北九州バリ会地区

広石教会　ベルトラン
門司教会　モーゼ
小倉教会　青木　保
平山　高明
湯川教会　グロージャン
戸畑教会　バスチ
ガイヤール
ボネ
若松教会　デシャンブー
天神町教会　バイヨ
黒崎教会　トクベフ
キニュー
八王寺教会　ドルヌ
ヴェイヨン
本城教会　ルリエ
水巻教会　ベルトラン
直方教会　ドレル
飯塚教会　ベニエ
田川教会　ラバルタ
行橋教会　デュノワイエ
新田原教会　伊東　誠二
門司天使の聖母修院付　ラグレヴ
八幡煉獄援助修院付　ボア

佐賀ミラノ会地区

佐賀教会　ガッザルディ
多久教会　アックワビバ
唐津教会　サルビ
鳥栖教会　アッレグリーニ
伊万里教会　サルデイ
鹿島教会　ルッチ
武雄教会　マグリン
トラピスチヌ修院付　ルカ

熊本コロンバン会地区

手取教会　ブレンチフィルド
ノーリス
コネリー
ダウ
健軍教会　シーヒー
モラハン
島崎教会　ギャラハ
帯山教会　ドイル
モロイ
八代教会　グリフィン
水俣教会　オゴールマン
人吉教会　ハンター
ライス
玉名教会　マッコーネル
隈府教会　ドノフー
グリフィス
荒尾教会　オマーラ
本渡教会　ライル
大江教会　デイヴァイン
ケリー
崎津教会　ケルンズ
コール
マリスト学園付　ラバリー
聖心崎修院付　ブルク
待労院付　パチフィコ
少年の町付　ベラス

カルメル製手編みロザリオ

子供用　¥150～300
大人用　¥250～500

木玉・石玉・各種・各色
そろえてございます

優美・堅牢で
決してさびない
ステンレスのくさり

御注文先
福岡市片江神松園
カルメル修道院

聖心の使徒
（昭和四十二年一・二月号合併）

年の始めに……薄田　昇
一月の意向　キリストと世界の前で……寺西　英夫
諸宗教の霊的遺産（一月の布教の意向）……谷口　幸紀
聖書の時間　久遠の賛美……三木　次郎
写真特集　善き牧者……
病める友へ　視野をひろく……十字架のイエズス修道女会
二月の意向　牧杖のもとに……下山　正義
ベトナムの教会（二月の布教の意向）……谷口　幸紀
黙想　イエズスの聖心の連禱（二十四）……河野　義祐
隣人への道……堀江　節郎
東北の聖者……H・チースリク
ポスト……
新本めぐり……

聖心の使徒購読会員費
一部　一カ月　五七円
（〒共）　一カ年　五七〇円

主日典礼のまねび

公現後第2の主日

―ぶどう畑のみのり―

朗読

福音　ヨハネ二・1―11

イエスは、ユダヤ人の切なる希望にこたえておいでになった。しかしかれらは天来の賓客に、婚宴用の上等のぶどう酒をふるまうことができない「かれらに酒なし」。かれらは神の期待にそえない不毛のぶどう畑だからである。救主はこのやせた土地を、肥沃なものになさって、ご自分の方から極上のぶどう酒を人々に飲ませて下さるであろう。

第一朗読　ローマ一二・6―16

われわれは神からの賜物をキリストの神秘体の一致のために利用すべきである。信者にとって最も大切なのは兄弟愛の実行である。これは社交上のつきあいでなくキリストに従って生きる道である。われわれは誰にでも最上のぶどう酒を供さねばならない。

聖書を通して

イスラエルの民は、神にとって期待外れのぶどう畑となった。キリストは神をよろこばすぶどう酒を作り出す真のぶどう畑である。

その意味

キリストおひとり、そしてその生命によって生きる者が、御父の期待のものをささげることができる。愛によってなされる業がそれである。

教会において

ミサでキリストは、ご自分の愛の最上のぶどう酒を御父にささげになり、さらにご自分の生命がわれわれのうちに生きるように、これを飲ませて下さる。

実生活において

われわれは、ぶどうの木であるキリストと一致して御父のお望みにかなう愛の実を結ぶ枝となるよう努めたい。

❶ 裏切りのぶどう畑

預言者イザヤは、ぶどう収穫祭に集ったイスラエル人に、神が期待を裏切られておられると告げる

イザヤ五・1―7の朗読

神はよいぶどうの若木を植えようと、全能の力をふるってこれをエジプトの地に探しにいかれた。(詩八〇・9)。敵を追出したあとの肥沃な土地にこれを移植し、至りつくせりの世話をなさった。なぜ神はぶどう畑をこれほど大切になさったのであるか。神は最良のぶどうを刈入れて、この上なく美味なぶどう酒を作ろうと計画されていたのである。

ではイスラエルはどんな実を結んだのであろうか。

★私はぶどうの実をくだこうと待っていたのに、なぜうらなかしこの無用のぶどう畑イスラエルの民を、もう一度全能のお力で新しく再興しようとおぼしめされる。いつかその日、畑にはマスカットが実るであろう。

イザヤ二七・2―4、6朗読

❷ キリストは最上のぶどう酒をお与えになる

神はイザヤの死後数百年ののちぶどう畑の収穫を集めるために、御子をおつかわしになった(マテオ二一・32―41参照)。

では御父の畑においでになった御子は、どんなぶどうを手にお入れになったであろうか。

律法を形式的にだけ守り、人にみられるために善業をする者。

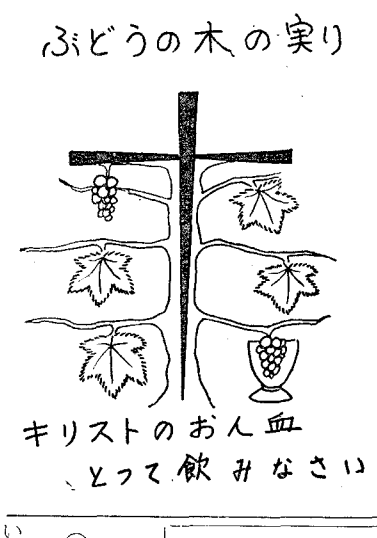
当時のユダヤ人が他の民族より悪かったとはいえないが、かれらは神の選みの民、特別に目をかけられた民であり、それなのにいいぶどう畑になっていなかった。

今日の福音の朗読

イエスはある日婚宴においでになる。ぶどう酒がつきかけて招待主は困っている。ぶどう酒がないのはこの家族だけでなく、民全体がそうなのである。

「私の時はまだ来ていない。」その時とは主のご受難・ご復活の時である(ヨハネ七・30、八・20参照)。

この時に主はイスラエルの畑を再興し、最上のぶどう畑が出来上るのである。御母マリアのお願いに答えて、主はこの時が間近にせまっていることをお示しになる。ユダヤ人の清めのための水を、すばらしい酒にお変えになる。このしるしこそ、ご自分が誰であるか何をしようとしてこられたかを示すものである。



六旬節の主日

―みことばのたね―

朗読

福音　ルカ八・4―15

福音書に記されたたとえばなしによると、神の国は近い将来すぐに到来するものでなく、試練をへてゆっくりと築かれてゆくものである。風雪にたえるのがその成功の秘訣であるから「寛大なよい心」をもって、「しんぼう強く」苦しみに打ち勝っていかなければならない。

第一朗読コリント前一一・19―一二・9

パウロは毎日人々の魂の救いのためになめつづけている労苦について告白する。まずかれはコリントの心変りのはげしい、だまされやすい信者の愚ぎをしのぶ。次に自身の愚さもある。第三天にまであげられた身でありながらユダヤ主義者からのいやがらせに悩むのである。しかしこれらの苦しみもすべては神の国のためである。

聖書を通して

神は、われわれのうちにお言葉のたねをまかれる。

その意味

このたねは全能力をもつが、われわれの自由を無視しない。

教会において

われわれのミサの集りは、キリストのたねがまかれる畑である。

実生活において

お言葉をきいて、これをしんぼう強く実行する人は、実を結ぶことができる。

❶ 神の国のたね

★たねは神のみことばである。

(一) 御父のみことばはキリスト

キリストは御父からくる教えをいろいろと言葉でお伝えになっただけではない。キリストご自身、その考え方、なされ方、愛し方すべてが御父のことを教示しているのである。

❷ 人はこのたねの力をさまたげることがある

植物のたねのもつ驚異的な力を示す実例がある。

紀元前三千年頃のエジプトのある王様の墓のなかから発見された麦の粒をまいたところ、芽を出してりっぱに成長した。五千年間もこのたねは生命力を宿していたわけである。

イエスが神の国の奥義を教えるために、たねのたとえを使われたのは、このようにたねが形こそ小さくても実に驚くべき生命力を秘めているからである。

あの小さなものが、人にかまわれなくても偉大な力を発揮して大木に成長してゆく(公現後第六の主日のテーマ)。

いい麦は霜害にかこまれても枯れることがない(同じく第五の主日のテーマ)。しかしながら、今日の福音の前半部朗読

あれほど強い力をもっていても道ばたに落ちてふみつけられ、水気がなく、いばらにふさがれたらどうなるであろうか。

神のみことばは全能の力をそなえているが、そのたねがまかれる畑が問題である。

この畑はわれわれの心であって自由をそなえている。たねを心よくうけるかうけないか、教えられたことを理解して、生活を向上させようと決意するか否かは、われわれの自由意志にかかっている。もし寛大なよい心でみことばをうけ入れるなら、たねは力を発揮する。その力をさまたげるもの、それはわれわれ自身の無関心や悪意である。

イエスは決してわれわれを強制なさらない。

今日の福音の後半部朗読

★道ばたに落ちたたね

神のみことばに余く冷淡そのもの、耳にきこえても心では何もきいていない、だからたねは鳥にたべられてしまう。

★岩の上におちたたね

よろこんできき感心もするが、すぐに忘れてしまう。決心はしても実行の勇気がない。

★いばらのなかに落ちたたね

自分のこと、楽しみ、利害にだけ没頭しているので、主イエスのための場所がない。

★よい土地におちたたね

心をこめて神のお声に耳をかたむけ、きいたことを心にとどめ、困難に出会っても後ずさりしない神のたねがこのような畑におちたら、必ず芽を出しぐんぐん成長して実を結ぶ。もちろん一足とびに好結果がえられるのではなく、徐々にわれわれは完全な生活に近づいてゆく。しかしわれわれは毎日畑を耕すことを怠ってはならない。今まで三〇倍の実を結んだならばこれからは六〇倍、百倍の実を結ぶことを目指すべきである。

❸ 教会において

聖体のいけにえのための集りは主キリストがたねをおまきになる畑である。主こそ人となされた神のみことば、無数のたねを生じるために地中に埋れて死去なされたことを理解して、生活を向上させようと決意するか否かは、われわれの自由意志にかかっている。もし寛大なよい心でみことばをうけ入れるなら、たねは力を発揮する。その力をさまたげるもの、それはわれわれ自身の無関心や悪意である。

イエスは決してわれわれを強制なさらない。

今日の福音の後半部朗読

★道ばたに落ちたたね

神のみことばに余く冷淡そのもの、耳にきこえても心では何もきいていない、だからたねは鳥にたべられてしまう。

★岩の上におちたたね

よろこんできき感心もするが、すぐに忘れてしまう。決心はしても実行の勇気がない。

★いばらのなかに落ちたたね

自分のこと、楽しみ、利害にだけ没頭しているので、主イエスのための場所がない。

★よい土地におちたたね

心をこめて神のお声に耳をかたむけ、きいたことを心にとどめ、困難に出会っても後ずさりしない神のたねがこのような畑におちたら、必ず芽を出しぐんぐん成長して実を結ぶ。もちろん一足とびに好結果がえられるのではなく、徐々にわれわれは完全な生活に近づいてゆく。しかしわれわれは毎日畑を耕すことを怠ってはならない。今まで三〇倍の実を結んだならばこれからは六〇倍、百倍の実を結ぶことを目指すべきである。

❸ 教会において

聖体のいけにえのための集りは主キリストがたねをおまきになる畑である。主こそ人となされた神のみことば、無数のたねを生じるために地中に埋れて死去なされた二粒のたねであられる。こうして得られたたねは、今日ゆたかに惜しみなくわれわれに分配されている。

神のおことばはミサ中の聖書朗読と説教で公言される。われわれはこれを耳できいているだけではないか。それともイエスご自身のおことばとして注目しているだろうか。

キリストはまたおことばをわれわれの心の奥ふかくにしみこませるために、食物としてご自分をお与えになる。聖体を拝領するのはよい畑に生命力あふれる神のみことばを受けいれることである。このたねはたしかに私の心を一新し予期以上の実を結ぶことになるであろう。

ミサが終ると、神からいただいたみことばを心にしまって、それぞれの家庭、職場にたずさえてゆく。われわれはそこに、生活の場でたねが芽を出し成長してゆくように努めなければならない。

(一) 聖体

御死去の前晩イエスは使徒たちとぶどうの汁をお飲みになってからいわれた。

★私はまことのぶどうの木である(ヨハネ一五・1)。

そしてついに御父が待っておられた愛の実をおささげになった。しかしこの愛は、ぶどうが圧搾機にかけられるように、ご受難において試みにかけられた。十字架の苦しみは御父への愛の極致を示すもので、この完全な愛こそ十字架上に実ったぶどうである。

しかし主はこの愛の良酒をおひとりでささげるのを好まれない。だからわれわれも主の愛に同化されてキリストと同じ愛の実をささげなければならない。

(二) 実生活において―ぶどうの枝

★私はぶどうの木で、あなたたちは枝である。私にとどまっていて、私もまたかれのうちにいるなら、その人は多くの実を結ぶ(ヨハネ一五・5)。

主はわれわれにおん血を飲ませご自分の生命で生きるようにして下さった。だから私はこれからずっとすばらしい実を結ばなければならない。

聖パウロは今日の第一朗読のなかで、キリストがご自分と共に生きる人々のなかで結ぶ実を列挙している。

その実とは隣人に対する愛である。主イエスもぶどうの枝が結ぶべき愛について教えておられる「私があなたたちを愛したように、あなたたちが互いに愛し合うこと、これが私の掟である」(ヨハネ一五・12)。

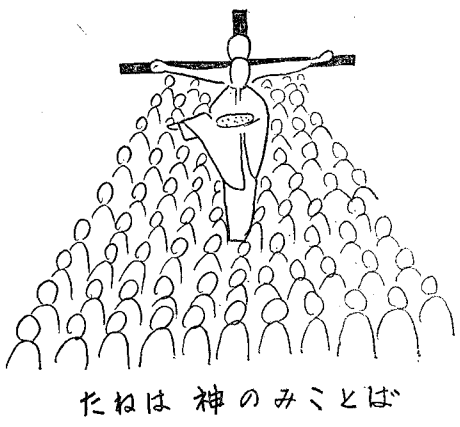
(三) みことばのたね

みことばであるイエスは、地にまかれて腐敗し、芽を出して(復活して)成長し穂が出て、実を生じる。そして休みなくわれわれのうちに新しくたねをまきつづけておられる。たとえば、

ミサ中の、あるいは個人での聖書祭読、日曜日や黙想会中の説教告白のときの勧告を通して。なお両親、友人、指導者の言葉を通して。

しかし神のみことばのたねは、読書や説教、勧告のように外からわれわれにまかれるだけではない心のなかにささやく神のお招き、いいことをしようとの望み、他人がみせてくれる模範、自然界の姿すべて美しく感嘆すべき事柄、不幸な出来事さえも、神の愛のことばである。

つまり主がわれわれに悟らせようとしておられることすべてが、神のみことばのたねである。そしてそれは実にさまざまの手段でなされる。



辻 久子 バイオリン・リサイタル

(カトリック放送資金のため)

1月7日	午後2時	八代厚生会館	¥300
1月7日	午後6時半	熊本尚絅高校	¥300
1月8日	午後2時 / 午後6時半	福岡雙葉学園	¥400

当日券がありますから多数おいで下さい

新刊紹介

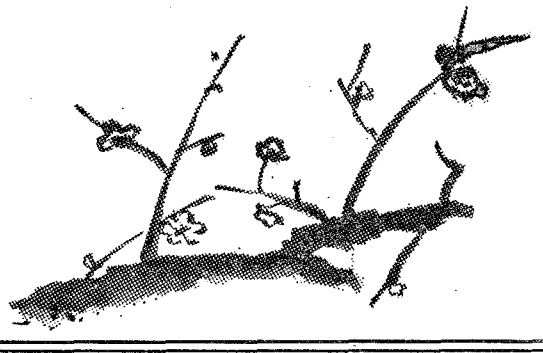
新しき歌　粕谷甲一著　¥七〇〇　(中央出版社)

すすむ教会　第二バチカン公会議講話集　¥三五〇　(中央出版社)

告白録　聖アウグスチヌス著　池田敏雄訳編　¥二八〇　(中央出版社)

賀正

大名町　聖パウロ書院
六岩田階屋　セント・ポール・コーナー



第11回国際カトリック医師大会に参加して

青木栄雄

慶応大学教授三浦博士を団長とする日本カトリック医師会代表は一〇月二九日羽田を出発して約二時間でマニラに着きました。翌日飛行機でさらにバギオにむかいここに一泊しました。

バギオ市はフィリッピンでは日本の箱根に似て一番涼しい所と言われていますが、それでも司成りの暑さを感じました。ここで注目すべきは、六〇年前に日本人の手で作られた立派なジグザグの道路で、記念碑もあって現地人の尊敬を集めています。この道路を建設するのに千二百名の犠牲者を出したとのことで、如何に難工事であったが知れます。沿道には野菜畑があり、これは日本人がずっと栽培しておりましたが、戦後も日本人技術指導のもとで経営され、作物はマニラ市内にまで出荷されているとのことです。

一一月三日マニラ市の大司教座聖堂でサントス枢機卿司式の荘厳ミサに列席しました。いかめしいガウンを着た司教、司祭、修道者一般信者の医師が、二六カ国から参集していました。日本からは医師一一名と南山大学のジンマーマン神父、うち九州からは久留米の聖マリア病院長井手博士と私の二人でした。フィリッピン人は日本人に対して非常な好感をいだいているように思えました。

会議はサント・トマス大学で三日間ひらかれ、開会式にはマルコス大統領をはじめ、サントス枢機卿、ローマ教皇使節も参列され、いかにもカトリックの集まりらしい雰囲気でした。会議の主要テーマは人口問題でしたが、最後に次のような結論が発表されました。

❶人間の生命と信仰は神の偉大なる賜であって、最大の敬意を払わねばならない。

❷カトリック医師は人間の生命を出来るだけ延長させること、およびあらゆる時代を通じて生命を守る義務がある。夫婦間の出産機能は精神治療学の範囲内で導びかれ支配さるべきであるが崇高なものとして取扱われねばならない。

❸人工妊娠中絶は、人間に対する直接攻撃とみなすべきである。

❹カトリック医師は、親であることの責任感とそれにもとづく実践をおし進める義務がある。

❺この責任感を促進させるにあたって、医師は単に純科学的観点だけでなく、社会・経済・精神・医学上の観点をも考慮して、人類の奉仕者となり、かつまた常に教会の考えに従わねばならない。

❻教義と良心の混乱をさけるために教会の声明（教義・社会学・生物学上のより進んだ研究成果にもとづく）があるまでは、医師は避妊の手段としてプロゲステロン（錠剤）や類似の薬品の使用をすすめてはならない。

❼人口問題は第一義的には医学的に解決さるべきでなく、根本的には教育や社会正義に基づくものであり、かつまた世界の富の公平な分配に基づくものである。

❽人工妊娠中絶が医学上、社会上有害であることがますます明白になっているので、カトリック医師はこの中絶を立法化しようとする動きに対して、社会への害毒を強調しなければならない。

写真は国際医師大会の参列者日本代表は二列目の右側

戦時中の友来る

上記の国際会議中に発刊された会報は、青木栄雄氏の大会出席を特別に報じた。氏は戦時中カトリック宣撫班としてフィリッピンに渡ったときサンチャゴ要塞に幽閉されていたドッハーティ大司教の釈放に尽力した。

ノイローゼなでしこ

ノイローゼってどこの言葉で、医学的にどんな意味を持っているのか私は全然しらない。

またどんなものかもしらない。だけど雑誌や新聞でよくお目にかかる字だし、言葉だ。

私は元来オセッカイなのかオッチョコチョイなのか兎も角人から頼まれたことをイヤですと断り切れない性分で、何でもかんでもひき受けてしまう。度のすぎたお人好しなんだろう。

よくブルトン司教様があなたのその単純さを天主様はお愛しになるとおっしゃった。また事実おこがましいが「私は天主様がとても愛して下さっていらっしゃる」と思っている。だから、毎日毎日ご恩返しのつもりで人のおせっかいにまで及ぶ。人のいいのも、そこまで行ったら上に馬鹿がつくと家族の者から笑われる。

笑われてもいい、兎も角自分の持ち味と言うものは、天主様が直接私に下さったものなのだからと、胸を張って馬鹿正直を表看板に生きている。ところが馬鹿正直のたたった面白いことが起こった。

暮からお正月にかけて次から次からといろいろの要件が起こった最初は快調に処理していった。ただのしかった。ところがお正月の初場所がはじまるころから、角力なんて何と馬鹿げたことをするものなんだろう、大きな大人が押したりついたり、けったりはったり、とバカバカしくて見る気がしなくなった。

前からきらいなら少しも不思議はない。乃木大将殉死何周年目ので、奉納角力が両国の国技館であって、その頃の名力士が見事な土俵入りをくりひろげた。私がいくつだったか、兎も角袴をはいて見に行ったことだけ覚えている。

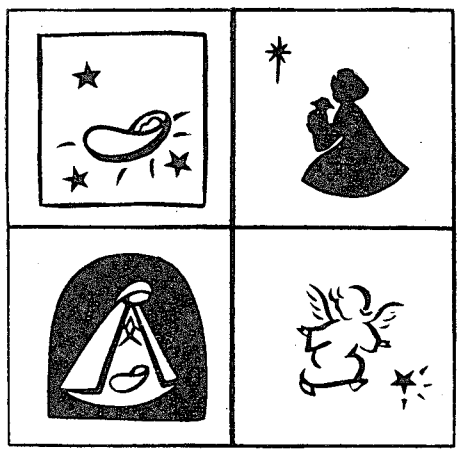
問近かに見る鍛えられた見事な体躯、その道一筋に生きている緊張の美しさを見せられて、子供心に恍惚としたものだった。それ以来病みつきで角力が始まると「オカアサマ、始まるよ」と言ってみんなで知らせてくれる。忙がしがって台所にいると、大鵬、大鵬と言って呼んでくれる。大鵬だけは見のがせない。そんな私がバカバカしくて見ていられない。特に仕切り時間なんてバカゲてたまらない。自分乍らおかしなことが起こったとは思った。

人間の神経がだんだんすりへって行くということは、あまり考えて見たこともなかった。その道順はこうだった。だんだん神経がとんがって来、あれもしなくては、これもしなくては……すると夜もオチオチねむれない。一時間オキに目がさめる。まだ二時か、まだ二時か。五時になると近所の犬がさわぎ出す。あの家では犬の管理はどうしているのだろう。よその犬のことまで気になる。うちの犬がまねしてさわぎ出す。電車が通りはじめる。近くの教会の鐘がお告げの祈りをしらせる。はじめの間はお告げの祈りも捧げられたがその中に祈る気力もなくなった。西新からあめのかどが聞こえてくる。神父様、よくまあ、あきもしないで、同じ時間に同じ曲を鳴らされるものだ。

だんだんおかしくなって来た。神父様お一人だが、お食事のお仕度、どなたがしてあげられるのかしら。よけいなことまで気にかかってねてもいられない。娘も息子もよくねること、起こしても起こしても。もとはアヴェマリアでピンとはね起きたわたしが、ノッソリ、ノッソリうごきだし、ムクムクと起きる。さむいから仕方なく着物を着る。いつもたのしかった私がこんなに何もかもめんどうだしバカバカしい。

息子も気がついたか、疲れているようだから整体してあげようという。してもらえば身体は軽くなる。だけど心までは軽くならない鉛のような重たい心をかかえて、一日中こまねずみのようにうごきまわる。うごいていないとたまらないのだ。不安と言うものはこう言うものなのか。

大きな大きなベルトにのっけられてドンドコドンドコはこばれて行く。そして果てまで来た時人間はポトンと向うへおちてしまう。しがみついたって、かじりついたっておちてしまう。そんな妄想が頭の中をくるくるくるくるまわり出した。丁度その頃私がいつもいつも時計にさげて大切にしているマリア様のおメダイがなくなっていることに気がついた。マリア様まで私をお見限りになったのかしら。またすぐポトンにつながる。時を同じくしてドイツからルルドのおメダイが届いた。マリア様にしがみつく思いで首にかけさして頂いた。そして天使祝詞にあけくれた。



司教団の呼びかけ

去る五月の定例全国司教会議は日本カトリック教会の唯一の広報機関としてのカトリック新聞の重要性を再確認し、そのために司教団がその発行部数の増加、内容の充実に関心をはらうことを決議しました。

司教様方のこの決定が具体化されるため、まず各教区に新聞担当司祭が任命され、さらに広報司教委員会が編成されて、仙台の小林司教様が委員長、高松の田中司教様、東京の白柳司教様がそれぞれ委員に就任されました。

最近小林司教さまは「広報活動の現状打開のため」と題して、全国の信徒一同に、カトリック新聞への理解を呼びかけると共に、読者獲得への協力をお願いになり、こう述べておられます。

「ご承知のようにカトリック新聞は、日本カトリック教会においては、日本司教団によって公認された全国的広報機関です。ところが現在発刊されている部数は一万五千部足らずで、三十数万の信徒数を擁する日本カトリック教会の公式報道機関としてはあまりにもみじめな現状です。そこで何とかして『一家に一部』の部数まで伸ばしたいものと、広報委員会を中心に関係者一同苦心していますが同時に、信徒の皆さまの理解と協力をもいただきたいと思います」（カトリック新聞一九六九号）

カトリック新聞友の会

ところで信徒の協力をあらわす方策として中央協議会内に数カ月前からカトリック新聞友の会の結成準備をすすめ、会員の募集を行なってアンケートをもとに会則を作成中でしたが、このほど暫定会則が発表された。

友の会暫定会則

第一条　本会はカトリック新聞友の会と称する。

第二条　本会は事務所を東京都千代田区六番町一〇、カトリック中央協議会に置く。

第三条　本会はカトリック新聞の充実発展のために協力支援するとともに会員相互の霊的向上と親睦を図ることを目的とする。

第四条　カトリック信者未信者を問わずカトリック新聞を愛し前条の目的に賛同した者は誰でも本会会員になることが出来る。

第五条　本会は第三条の目的を達成するために次の事業を行う

1、カトリック新聞編集委員会の諮問に答える。

2、カトリック新聞編集委員会に、意見、記事、写真などを積極的に提供する。

3、カトリック新聞を適当な場所に掲示する。

4、カトリック新聞のPR版などを未購読者に配布し、購読をすすめる。

5、カトリック新聞の一括購入の世話をする。

6、少なくとも年三回会報を発行する。

7、その他必要と認めた事項。

第六条　本会は向う一カ年、役員をおかず カトリック新聞編集委員会委員、および各教区新聞担当司祭の指導のもとに、運営する。

第七条　事務処理は在京有志が行う。

第八条　本会は、会員への文書による連絡、投票により、必要事項を審議決定する。

第九条　審議事項は、会員の返答数の過半数をもって決定する。

第十条　本会の経費は、会員の通信費負担金および寄付金をもって当てる。

第十一条　本暫定会則は、一九六六年十二月二十五日より、一九六七年十二月二十四日まで効力をもつ。

◇　◇　◇

なおカトリック新聞編集委員会のメンバーは左の通り。

委員長小林有方司教、委員志村辰弥師、松村菅和師、塚本伊和男師、パガニニ師。

福岡教区の場合

福岡教区のカトリック新聞購読者数は六六七名、うち福岡県が四一六名、佐賀県が八五名、熊本県が一六六名。

友の会賛同者は左の六名。

松尾光敏（北九州市若松区大正町三丁目七六）坂倉汎子（福岡市春吉一丁目一二）小原顕了（熊本県下益城郡富合村榎津）サルディ（伊万里市伊万里カトリック教会内）佐藤正雄（熊本市黒髪町下立田五五〇）岡野秋義（熊本市西子飼町七）（敬称略）

新規入会希望者は、東京の事務所に通知なさるほか、本教区新聞担当司祭の深堀敏師（福岡司教館内）にもご一報下されば幸甚です

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス　英和和英辞典
コンサイス　英和和英辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス　英和和英辞典
コンサイス　独和和独辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン　英和和英辞典
新クラウン　英和和英辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

グワム島で慰霊祭を挙行

深堀司教に現地の模様をきく

深堀司教は、南太平洋戦没者慰霊団の一員として一月一五日グワム島にとび、慰霊祭と慰霊塔起工式に参列して二八日帰京された。今年最大の寒波がおそった日に東京をたって赤道直下の酷暑のなかに数日を過ごされたにもかかわらずお元気で任務を果たし終えられた司教から、現地での模様をお話しして頂いた。

☆　☆　☆

今回の慰霊団はグワム・サイパン・テニアンの各島にむかう約一二〇名（うち報道班四名）で結成され、団長が植木光教氏（京都選出の参議院議員）でそれに中村喜四郎氏（サイパン島団長）柳田桃太郎氏（テニアン）寒河江善秋氏（グワム）が顧問となり、私も顧問の名目で加わりました。仏教各派の僧侶一〇名は黒衣に袈裟、私の白のスータンという服装でした。

日曜日午前九時に日航特別機で羽田を出発、太平洋をひととびして正午一寸すぎにはもうグワム島に着陸しました。真冬の東京からアッという間に三十三度という真夏の暑さのなかに降り立ちました。カルボ神父様はじめ在留邦人が全員で出迎え、しばらくの休憩ののちすぐに激戦地跡に向かいました。

アガナ地区は島の西海岸にあって今では町の中心ですが、そこから少し西寄りの地点はかって米軍が上陸を敢行し、これを迎えうつ日本軍三コ大隊と死闘をくり返した所です。その時、全隊を指揮して兵を鼓舞したもと大隊長という人が、今回の慰霊団に加っていてこの人から当時の戦況がくわしく説明されましたが、現地に立って激戦の模様を聞かされる遺族方々は胸つまる思いでありました。主な戦跡には簡単な記念碑が建てられていますが、仏教の人達はその一つ一つに供物をおいて読経をし、私はカルボ神父様とデ・プロフンジスの祈りをとなえました。

夕方全員は宿舎にひき上げましたが団長以下本部役員九名ほど、同地で司牧に当たっているアメリカ人カプチン会の本部修院に迎えられました。この日は日曜日でしたので島のあちこちで教会を受持っている司祭たち二十三名が夕食に集ってきました。キーラン院長はじめ皆さんは私達を非常に歓待し下さって、私と一緒にいた東京目黒の祐天寺の住職という方は、修院の明かるいなごやかな雰囲気に接してびっくりしておられました。

翌日早朝サイパンとテニアンにむかう慰霊団が飛行機で出発したあと、私はキーラン院長の案内で島の各地を見物しました。昭和一七年私が六カ月間滞在したときとは様子が全く変っており、りっぱな道路、清潔な家並で、アメリカ色一辺倒という感じです。しかし山地は相変らずのジャングルで、沼地と繁茂した樹木で足をふみこむことさえできません。

午後財団法人南太平洋戦没者慰霊協会の理事会がひらかれました。

十七日は本部員一同そろって島知事、バウムガートナー司教（カプチン会）、裁判長らを公式訪問現地の理事との合同会議、そして午後に新聞記者とのインタヴューがもたれました。グワムは大部分がカトリック信者ですし、戦時中宣撫班としてここに居たことがあるという理由ですか、記者の質問は私に集中されました。

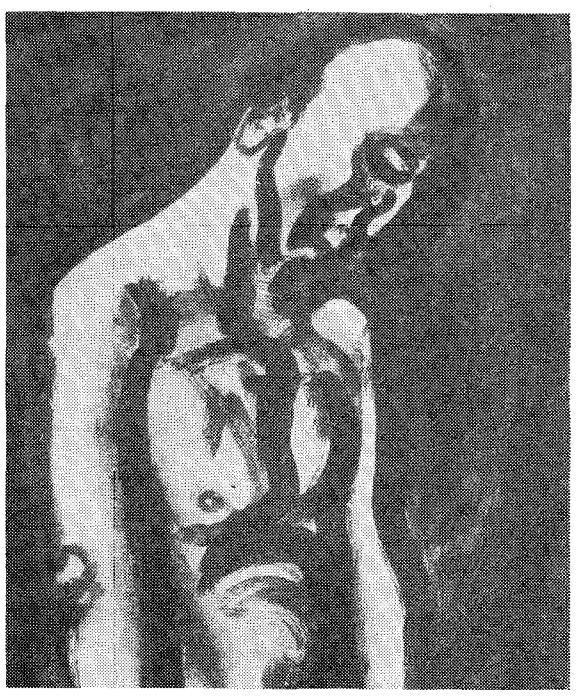
一八日はいよいよグワム島最後の日に九時から正式の慰霊祭が行なわれました。日本軍が最後の組織的反撃を試みたという島北部の山当時は又木山とよばれた所で、今度ここに慰霊公苑が建設されます。さきに仏式の祭礼があり、私がカルボ師ら四名の司祭と並んで射撃式を司式し、島の信者がリベラをうたってくれました。私はこの時霊魂の不滅、神への信仰、全人類の友好と平和への努力について日英両語で説教しました。

このあと慰霊公苑の起工式があり、私が最初に鍬を入れ、団長、役員、遺族代表がこれにつづきました。この公苑と塔は今年中に完成の予定ですが、そのための拠金は現地と日本とアメリカでなされます。これを提案し推進しておられるカルボ神父様はお体も余り達者ではありませんが、全く超人的な活躍ぶりです。

私がこの度グワム島にでかけて多くの人達と接し行を共にして、一番うれしく思ったことは、仏教の僧侶の方々と親交を結ぶことができたことです。他宗教の人達とどのように接すべきかは、公会議においてはっきりと教えられていますが、私達はこの僅か数日間の旅行で実際的に相尊敬する道をひらくことができました。とくに日本の仏教界で重要な地位にある方々に、カトリックの本当の姿を少しでも見ていただけたことは、何よりも大きな成果でした。

式が終って飛行機に乗り込むわずかな時間をねらって、私はカルボ神父様のおうちに参りました。ご尊父、ご兄弟、そのお子さん達が私の来訪を心から歓迎してくれました。また二十数年前私が知っていた少年が司祭になって働いているのを見てうれしく思いました。今島では、中国を追い出されたスペイン系のカルメル会のシスターが修院を建設中です。

私は今一度この地域で戦没された同胞の上に永遠の安息をお祈りすると共に、慰霊公苑の完成を希望し、日本カトリック教会信者ご一同のご協力を厚くお願い申し上げます。（文責編集部）



人よ汝はちりにして　（ルオー）
ちりにかえることをおぼゆべし

パウロ教皇 ソ連元首と会見

パウロ六世教皇は、一月三〇日ローマ訪問中のソ連のボドゴルヌイ最高幹部会議議長と会見された。教皇とソ連国家元首の会見は一九一七年のロシア革命いらいはじめてだが、バチカンではこれをきっかけにソ連とカトリック教会との間に〝歴史的な合意〟が生れそうとの予測が流れている。

パウロ六世は、六四年一月エルザレムで五〇〇年ぶりにギリシャ正教のアテナゴラス総主教と会見そのご国連訪問やベトナム平和についての度重なる声明などによって、思想や国境を越えた平和への動きを続けている。ソ連との融和の動きも〝活動する教会〟のひとつの現われといえよう。

主な聖式予定

叙階式

三月一五日（水）午後二時から福岡大神学院聖堂で、深堀司教司式の叙階式が行なわれる。この式で今村教会出身の平田寛師が司祭の位をうける。

司教の日

四月一六日（月）北九州地区の司教の日が祝われる。場所、時間式典について未定。

教区主催聖体行列

四月三日（日）福岡市で教区主催聖体行列が挙行される。行事の具体的な取りきめは未定。

聖体礼拝（二月）

第一日曜　古賀教会
第二日曜　浄水通教会
第三日曜　小倉教会
第四日曜　健軍教会
大濠聖母訪問会

祈禱の使徒会（二月）

【一般意向】　司教の教職に対する従順
【布教意向】　ベトナムの教会

南太平洋戦没者のために

世の光　カトリック信者間の一致 ②

信者としての訓練

昨年は飛行機の墜落事故があいついでおこり、そのためパイロットの訓練がよりきびしくなりました。アメリカのボーイング操縦士のための訓練所の責任者がこう言ったことがあります。「パイロットの訓練にはきびしすぎることはありえない。そうしてこの訓練はパイロットをやめる日までつづけられねばならない。」

私たち信者としては、このことばに考えさせられるものがあります。なぜなら私たち信者も、環境の人々の生命の安全＝永遠のたすかり＝のために主キリストからつかわされたものだからです。この使命ゆえにキリスト信者こそ、きびしいそして無期限の訓練をつける義務を、教会と社会に負っています。

前に述べたように、カトリック信者全員は一つのご聖体にあずかることによって、お互いにつよく結ばれますが、ミサ聖祭のあいだにみんながくみとった一致の種を社会のなかに持ってゆかねばなりません。しかし生命のみことばと愛による一致の力を社会に存在させ、活かすには信者として相当の訓練を必要とします。

公会議の呼びかけに応えて

「信徒によらなければ、教会が地の塩となり得ない場所と環境において、教会を存在させ活動ないものとすることが、とくに信徒に与えられた使命である」（教会憲章33番）と、聖なる公会議は社会における信徒の固有な、そして絶対に必要な使徒的使命を明らかにしました。

科学の進歩にともなう社会の発展、複雑な人間関係、信徒でなければ立ちいることができない活動分野、果てしなく拡大してゆく現代社会に全信者がつかわされているのです。そこには困難な諸問題がひかえ、信者たちの賢明な判断と活動を待ちうけています。

社会道徳の面においても、信者の責務を自覚させるような種々の課題が横たわっています。堕胎、離婚、青少年の不良化、政界の腐敗と混乱など。

ところでこれら多方面からの呼びかけに応じて立ち上る構えが、私たちに出来ているでしょうか。いや、その構えをしているのでなくて、実はすでに社会に挺身するキリスト信者として、活発に働きはじめているべきなのです。

ない袖はふれぬ

しかしながら、いかなる重要使命に呼び出されても、それを受けて立つ力が私達にたくわえられているでしょうか。ない袖はふれません。私たちは社会を左右にゆすぶっている悪魔的力を、甘くみてはいけません。戦いに臨むにあたって、武器の点検に充分の時間をかけねばなりません。この武器とはもちろん、私たちと共に生き、働かれるキリストへの信仰であり神の知恵であります。

グループによる養成の必要

これほどあてにされている私たち信者は、実際にそれに見合っただけの訓練をかさね、必要な養成ができているでしょうか。

社会環境を福音の光をあてて観察し、そこにかくれて働かれるキリストのみわざを発見し、自分もそのなかに入ってゆけるには、相当の訓練と準備がいります。自分に与えられた才能を用いて環境に働きかけ、チャンスをつかむには機敏な、きたえ上げられた運動神経がなくてはなりません。これがあってはじめて社会をとびまわるヴェテラン・パイロットになることができます。

それにもう一つ大切なのは訓練の場であります。信者各人がそれぞれ勝手に暗中模索しながら、自己訓練に熱中するのがいいのでしょうか。

それよりも研究グループをつくり、信者の兄弟的まじわりを通じて、お互いに切磋琢磨し、はげみ合う方がいいのではないでしょうか、「わたしの名によって、二、三人集るところには、わたしもまたそこにいる」と主イエズスも教えておられます（マテオ八・20）。

兄弟的グループの上に働かれる聖霊のおみちびきを信じ、信者の使命を話しあいのうちに発見しようと努めるのが、教会的精神にそうことであろうと思います。

信者たちは誰でも生活のために終日はたらき、多忙な日々を過しているのですから、研究会の時間をつくるのは決して楽ではありません。しかし聖霊に生かされた信者となり、たくましく社会の荒波のなかで神と教会から誤せられた使命を完遂してゆくためには、研究会的集りにくることは、日曜日のミサに参加することに次いで重要かつ神聖な行為ではないでしょうか。

ですから小教区にある婦人や壮年者や青年達の組織的な教育機関にすすんで出席して、自分を改革し、社会を改善、向上させるパン種として世の善意の人々と伍して働ける能力と判断力を身につけていきましょう。

最後に「信徒使徒職に関する教令」から一箇所だけ引用します。

「使徒職、あるいは他の超自然的な目的をめざす信徒の団体と会いまた、その目的と条件に応じて使徒職への養成を絶えず促進しなければならない。このような団体や会こそ、しばしば使徒職への適切な養成を行なう一般的な手段となっている…それらの会員は同僚や友人と小さな集まりを持ち、そこで使徒的活動の方法と結果を検討している」（30番）。

（トクベフ）

信者相互の教育

2月

2日（木）　聖母マリアのお清めの祝日（ろうそく祝別式）
今日幼な児イエズスは、両親にだかれて神殿にゆかれる。民にとって神殿は神の現存の場所であった。しかし人となってこの世に降られた神の御子キリストこそ、まことの神殿ではないか。だから生ける神の御子がこの世にあらわれ給うたことによって、これまでの石でできた神殿の存在理由は終ったのである。キリストこそ「すべての人を照らすまことの光」として万人をお集めになる。

5日（日）　五旬節の主日
日本二六聖殉教者
イエズスは生涯の終りにも、使徒たちをつれてエルザレムに上ってゆかれる。人々はこの生きた神殿を破壊するであろう。しかしその時、神の永遠のご計画が実現し、天の栄光がかがやき出るであろう。そして十字架の上に立たれるキリストのもとに世界中の人々が集まってくる。われわれも目をひらいてキリストと共にエルザレムに上ろう、二六聖殉教者のように。

8日（水）　灰の水曜日（大斎）
四旬節がはじまる今日、信者は頭に灰をうける。灰の式はきわめて簡単なものであるが、灰をうけたわれわれが果たすべきことは、それほどやさしいことではない。四旬節の精神がめざすものは、心のふかいけんそんである。神の前にちりにすぎないわれわれ人間。もしそうであれば、ごうまんな態度ほどこっけいなものが他にあるだろうか。

11日（土）　ルルドにおける無原罪の聖母ご出現の記念日
全教区修道女の集い（10日夕方から、福岡双葉学園で）

12日（日）　四旬節第一の主日
イスラエルの民は、神にしるしを見せるよう求めた。神を試みるという思い上った態度である。神のおことばを信じないで、なにか異常な出来事が起るのを待ったのである。われわれもよく、自分に都合のよいことを神がして下さらないか、そうすれば信仰がもっと強くなるのだがと、思っていることがある。

15日（水）　四季の水曜日

19日（日）　四旬節第二の主日
モイゼはシナイ山で神の十戒をうけ、民は神にのみ従うことをそうごんに約束した（神との契約）。イエズスはタボル山で新しい神の法＝福音をわれわれにおさずけになる（洗礼の約束）。キリストの福音をうけるとは、キリストのあとについてカルワリオ山まで登ると決意することである。

22日（水）　使徒聖ペトロが教座を定めた祝日

24日（金）　使徒聖マチアの祝日

26日（日）　四旬節第三の主日
日曜日にミサにあずかるのは、信者の神聖なつとめであるが、どうしても習慣的になりやすい。それをきけるためにミサ毎に自分を霊的いけにえとしてささげよう。日々の仕事、それに伴う色々の苦しみやよろこび、人を愛するための努力や失敗をキリストのお苦しみに合せて、いけにえとしてささげることである。

第二回九州地区 学校教育協議会

教育者の目標を再認識

一月二三日北九州市戸畑明治学園で第二回九州地区カトリック学校教育協議会がひらかれた。

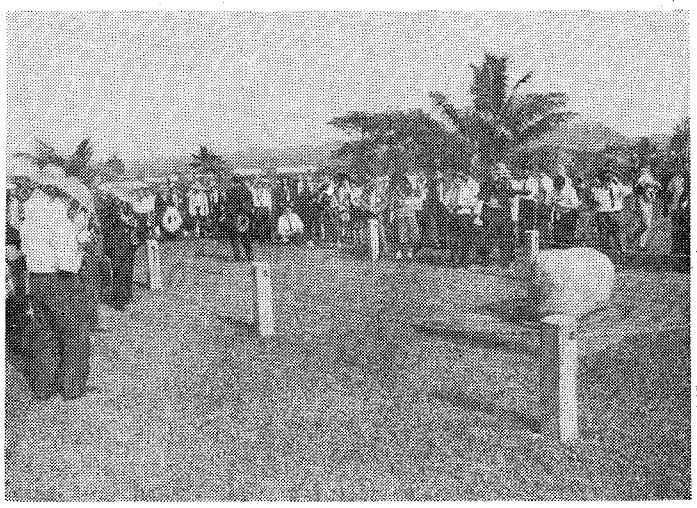
まず九時に修院聖堂で深堀司教をかこんで四名の司祭が共同ミサをきさげ、協議のはじめに司教が挨拶に立って「同じ仕事にたずさわる人々が一つに相集って真剣に語り合えることをうれしく思う」と述べた。ついでカトリック学校協議会のヘルヴェック師が、この協議会の目的を明示し、日本のカトリック教育者としての反省と誇りの必要なことを指摘し、全日本での協議会の活動状況を報告、さらに来る二月クワラルンプールでひらかれる第三回アジア・カトリック教育研究会でとり上げられる問題、最後に日本のカトリック学校の現状と将来について紹介した。

今回の会議には九州各地から二二校が参加し、会員約六〇名が広い視野の上に立って提案事項を検討した。

一一時から二時間は九州大学牛島茂友教授が「家庭教育の確立・学校教育との関連において」と題して講演し、親の教育権について日本憲法の不備な点、世界人権宣言中の明文をあげて、親には子供にどんな教育をほどこすか選択する優先権があること、そのため私立学校をもっと振興する必要のあることを強調した。

午後の部ではまずヘルヴェック師が一時間半にわたって「これからのカトリック学校と教育課題」について述べ、カトリック教育者が教会と社会に対してどんな使命をもつのかはっきり具体的に把握すべきであり、それは一口でいって奉仕にあることを説明、生徒を完全な人間、日本人に育て上げてゆくために注目すべき諸点を列挙した。

最後に各学校から提出されていた事項について、とくに宗教教育の実施方法について意見の交換がなされ、五時すぎ、全員今後の努力を誓い会いながら散会した。なお来年の会合地は熊本マリスト学園に決定した。



(上)は慰霊祭　(下)は戦跡巡歴

父兄に講演

ヘルヴェック師は一月二三日午後二時から一時間半、双葉学園講堂で福岡市内のカトリック幼稚園の父兄約五〇〇名に「子供を甘やかすこと、厳しさについて」講演を行なった。親たちにとってもっとも関心のふかい問題を、実例をあげて解りやすく説明されたので聴衆のうけた感銘は大きかった。

リサイタルで放送資金

「心のともしび」に協力

ラジオ放送「心のともしび」を継続し、できればテレビ放送も再開する資金を獲得するため、京都の心のともしび運動本部の協賛を得て、一月七、八両日、熊本・八代・福岡の三カ所で辻久子によるバイオリン・リサイタルを開催した。

福岡地方では数年前から朝日放送(KBC)を通じて、日曜日を除く毎日午後一一時五〇分から五分間ラジオ放送をしており、テレビの方は昨年はじめ頃毎月曜日に一五分間放送をしたがこれは資金の都合で中断している。熊本地方では熊本放送(RKK)からラジオ番組を送っていたが、これも資金の不足のため中止になっている。

電波によるカトリック布教活動は、直接の目立った効果はまだ得られていないが、布教方法としては一層強化拡充すべきものであるこのため京都の心のともしび運動本部では全国にカトリック放送を普及させるため、毎年数千万円に上る経費を支出しており、一方各教区とも負担金の捻出に苦労している。

熊本・八代・福岡とも教会、修道会、学校の非常な努力で入場券をさばき、約八〇万円の純益をあげることができた。

ブルノン司教来福

スルピス会新総長

フランスをはじめ南北アメリカ日本、ベトナムの約八〇カ所の神学校で司祭養成にあたっているサンスルピス会の新総長J・B・ブルノン司教=写真=は一月中旬来日、福岡大神学院に二八日まで滞在して公会議精神にもとずく神学生教育の諸問題について教授達と協議すると共に、九州の各地の司教らと会談した。

ブルノン司教は長年リヨンおよびツールーズの大神学校で聖書学を講じ、大神学校長をへてツールーズの補佐司教に任ぜられたが昨年七月のスルピス会総会議で総長に選出された。

英会話講習会

週二回・福岡で

一月一八日から福岡市大名町教会旧聖堂で英会話講習会がひらかれている。

講師シュルツ師ら数名
週二回、水曜日と金曜日午後六時より
聴講料　三カ月で四・五〇〇円
近くスペイン語会話の講習もひらかれる予定
希望者は大名町教会に申込めばよい。

電話番号訂正

昭和42年度カトリック教会典礼歴(中央協議会発行)の電話番号が間違っていますので、訂正して下さい。

誤　電　092—52—5323
正　電　092—53—5323

「国内移住」を協議

大阪で教区担当者が会合

昨年の一一月の司教会議で再編成された司教移住委員会(委員長田口大阪司教)では、カトリック移住問題全般について研究、協議するため、各教区の担当司祭の参加を求めて一月二三日大阪司教館で初の会合をひらいた。会議には田口司教はじめ委員会秘書佐々木鉄治師、顧問の棚町健之助師、福岡教区からは深堀敏師が出席。

今回の重要協議事項として国内移住の問題がとり上げられたが、これは一般の転入・転出信者とは別に、とくに国内のある地方(主として農・漁村地域)から他の地方(主として大都市地域)に転住または出稼ぎに出る人々の問題である。現在の日本の教会にとっては九州または山陰のような地方から京阪神、中京、または京浜地方に職を得て移り住む信者の司牧問題である。これらの信者の生活全体とくに信仰生活推持についてどのような対策をとるべきかが、今回の会合で協議されたが、送り出す側と受け入る側との連絡を密接にするために、両方に専任の司祭が任命されるのが望ましいとの結論に達した。

海員や水上生活者の精神的、宗教的援助については具体的な討論はなされず、最後に佐々木師から海外移住事業の実績と今後のあり方について説明があった。

中国教会のためミサ

日本少年合唱団も参列

ローマ便り

一月六日　御公現の祝日

ローマの初雪、外は真白くかすむほど降っています。きのうからの雨がとうとう今日になってボタン雪に変りました。つきる気配はなさそうですが、明日から授業再開なので、このまま降りつづけて初雪休校なんてことにならないかなと心ひそかに期待。

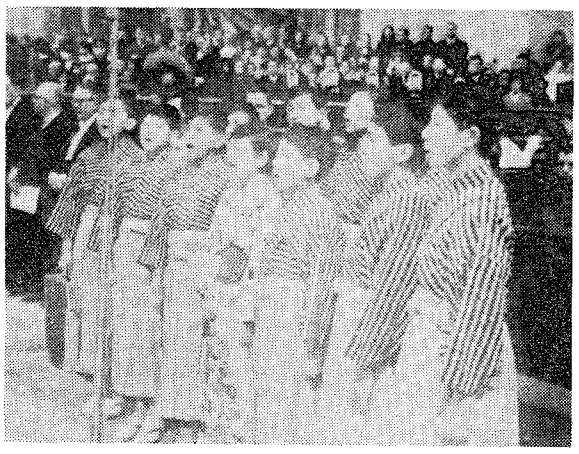
ところで今朝はまたすばらしい記憶すべき一時でした。御公現の祝日は知っての通り、ここの神学校にとって最も意味ある祝日、その上今日は初の中国人司教様がピオ一一世教皇さまから祝聖されて四〇周年とか、これを機会にパパ様は、今迫害下にあるこの国のために祈りましょうと、聖ペトロ大聖堂でミサをおささげになることになり、われわれ異邦の神学生がこれにかつぎ出されたわけです。

私は信徒の祈り(共同祈願)を日本語でとなえるように仰せつかり、光栄の至りとよろこんで承諾しました。九時半香部屋で私たちが待つうちにパパ様がおいでになり祭服をおつけになる。間もなく神学生六〇名(大体各国の代表者)を先頭に、そのあと高位聖職者、みこしに乗られたパパ様とつづく行列が後陣から出発。聖堂内部は人で一杯、その真中を進む、何ともいえぬ気持。ミサ中は祭壇のすぐ下からとどくようにパパ様の美しいお祈り姿に見とれました。

使徒信経のあと、たくさんの人の見守るなかを祭壇にのぼり、中国、日本、韓国、ベトナム、タイ、アフリカ、インドの各国語で一つ一つ信徒の祈りが朗読されました。パパ様のミサ中にこんなことができるなんて、祭壇に上って聖堂内を見下したときには、さすがに感激でした。もちろんこのミサはテレビで実況中継、おちついて読むことができました。それに特別にパパ様から聖体も拝領しました。

ミサ中もちろん中国語の歌が二つほどうたわれましたが、ちょうど今ローマにきている東京少年合唱団の一一名のメンバーが、男の子は袴姿、女の子は振袖といういでたちで雅楽の旋律をもとにして作曲されたラテン語の歌を、奉献のときにうたいました。この時ばかりは全聚の目がパパ様の方から子供たちの上に移っていました。ひいき目なしにりっぱな歌いぶりでした。

ミサ後パパ様は香部屋で中国人の外交官らに話されたあと、うしろで待っていたわれわれのところにおいでになり、ありがとうを申され、一緒に写真をとりましょうとのお言葉で、みんなアッというまにパパ様のまわりに集ってしまい、残念ながら私はうしろにとり残され、半分顔が写っておればいい方でしょう。それにしても感激の二時間でした。今帰ってきて感激がさめないうちにとペンをとった次第です。(在ローマ・深堀純)



和服姿で聖歌をうたう日本少年合唱団

(写真は教皇ミサでうたう日本少年合唱団)

お互いの親睦のために

司祭と牧師の集い

一月二二日(木)北九州市のカトリック・プロテスタント者の顔合せをかねた初の親睦会がひらかれた。この集りはYMCAの肝入りで実現したもので出席者二七名中カトリック司祭はパチス師ら一〇名、小倉のステーション・ビルで正午から二時まで中食をはさんで懇談したまずYMCAの小倉支部長が司会の祈りと紹介をおこない、食前の祈りは両方から代表者がとなえ、自己紹介につづいて、昨年のクリスマス・チャリティー・ショーの今後の運営法について各派の意見をのべ、司祭・牧師全員の名簿作成を決定した。なお小倉刑務所にカトリック側から教誨師を一名任命していただきたいとの要望も出された。

ルーテル教会で集り

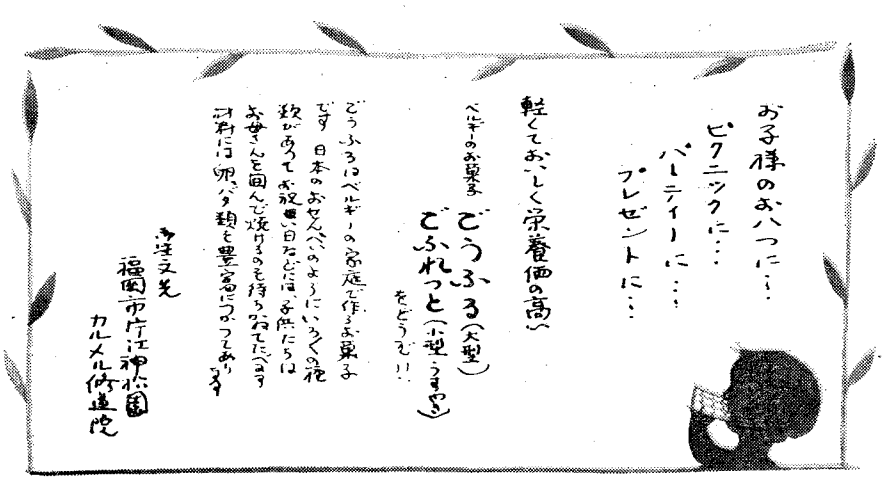
熊本市でも一月二四日夜ルーテル教会牧師館に、カトリック司祭ら七名とプロテスタント牧師一三名が互いの親交をめざして会合した。ユーモアをまじえた自己紹介で心の通いが生れ、散会前に三名が祈りをとなえ、カトリック側からは司教団認可の共同祈願中の「教会の一致のため」の祈りをとなえ、これに全員が和した。

聖心の使徒

(昭和四十二年一・二月号合併)

年の始めに……薄田昇
一月の意向　キリストと世界の前で……寺西英夫
諸宗教の霊的遺産(一月の布教の意向)……谷口幸紀
聖書の時間　久遠の賛美……三木次郎
写真特集　善き牧者……
病める友へ　視野をひろく……十字架のイエズス修道女会
二月の意向　牧杖のもとに……下山正義
ベトナムの教会(二月の布教の意向)……谷口幸紀
黙想　イエズスの聖心の連禱(二十四)……河野義祐
隣人への道……堀江節郎
東北の聖者……H・チースリク
ポスト……
新本めぐり……

聖心の使徒購読会員費
一部　一カ月　五七円
(〒共)　一カ年　五七〇円



主日典礼へのまねき

灰の水曜日

＝神のお気にめす断食＝

朗読

福音　マテオ六・16―21

福音のこの部分は、同章の1―6に結びつけて考えるとよい。われわれが善業をおこなうのは、天の御父のお気にめすためである。この根本精神が施し、祈り、断食に適用される。キリストは断食についての法的規則でなく、実行にあたっての精神のもち方を教えておられる。

第一朗読　ヨエル二・12―19

キリスト前四〇〇年頃、ユダヤはいなごの大群におそわれ作物をくいつくされた。これは神の罰であった。ヨエル預言者は民に断食を命じる。それは形式的なものでなく、民全体が神のお心に立ち返るためのものである。ヨエルは神が必ずエデンの喜びを民に返えして下さると告げる。

聖書の教えとその意味

預言者たち、そしてキリストご自身も、われわれに形式的な断食でなく、神へのまことの立ち返えりである断食の実行を命じている。

教会において

ミサはキリストの完全な断食を祝う。われわれもミサでキリストと共に断食をし、御父から飽かされる。

実生活において

われわれの四旬節は、美食や娯楽をひかえるだけでなく、悪意と利己心をたつ時期である。神から充分にむくいられるという喜びがわれわれを力づける。

❶ ふくろと灰をしいて断食

エリア預言者は、偶像崇拝者、人殺し、略奪者であるアカブ王の前にあらわれて、神のきびしい罰を告げる、王はおそれて断食をはじめる、それによって罪の痛悔を示し、罰を下されないよう神に嘆願するためであった。

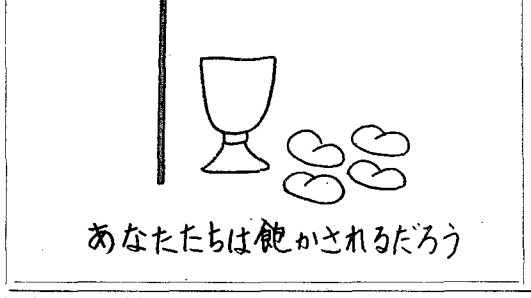
列王上二一・27の朗読

このように断食は、わざわいをうけた民から神への嘆願の行為である。例えば、ききんが起る、かんばつ、いなごの来襲で作物が全部やられてしまった。ヨエル預言者は角笛を吹いて、民に断食を命じるのである。

しかし多くの者が、神をよろこばせお怒りをなだめるのに、色々の動作をしたり、動物をたくさんささげ、犠牲行為を多くしさえすればそれでよいのだと考えた。これは余りにも神を知らなすぎることではないか。心を神にむけずにいてゼスチュアーばかりして一体何の価値があろう。神に心から立ち返ることなくて痛悔の恰好だけして何の役にたとう。イザヤはこういう見せかけの断食を難詰している。（五八・3―5参照）

神は預言者たちに、別の新しい断食を民にさせるために、角笛をならすようお命じになる。（イザヤ五八・1）。

この角笛は、耳でなく心できくべき神のみことばである。



❷ 神のお気にめす断食

この新しい断食とは、どのように行なうべきものであろうか。

◇あなたたちは神である主に立ちもどれ、服でなく心をひきさけ（第一朗読）

神のお気にめす断食とは、後悔の外的しるしとして食物や娯楽をひかえるばかりでなく、神のお望みを果たすために、悪意や利己心をすっかり捨てさるという事実にこそある。

イザヤ五八・6―7、10の朗読

このような断食によって利己心を取り除いてしまうと、カラになったその心が神のおめぐみによって満される。

◇みよ、私は妻と新しいぶどう酒と、新しい油とをあなたたちに贈る。（第一朗読）

❸ キリストの断食

神の御子が民のところにこられたとき、誰もがするような断食をお守りにならなかったので、いわゆるきちょう面な人はそれに反撥した（マテオ一一・18）。

しかしご生涯のもっとも重要な時期、即ち御父から委托されたみわざを開始なさるにあたって、四〇日間の断食をなさった。この断食はこれから始まる大事業の第一歩にすぎず、われわれの罪のためにキリストはより一層きびしい断食に入ってゆかれる。十字架の上では文字通り無一物になり、愛する母さえも弟子にお与えになったキリストのご受難とご死去こそ最高の断食であった。このなかで主はわれわれの罪のゆるしを嘆願し回心を祈り、御父のお望みに最後まで従順であられたのである。

このすばらしい断食のむくいとして御父はイエズスに復活の栄光を与えられた。

❹ 教会において

（一）聖体

われわれは時々断食（大斉）をすることがあるが、それは必ずしも神への回心のしるしとなっていない。だからキリストは完全な断食、即ち御父に限りない光栄をもたらす断食を、われわれのうちで再現なさる。あの十字架上での離脱、御父への従順、人々の回心の望みは今もミサのなかでつづいている。ミサの聖なるいけにえこそキリストの完全な断食の再現であるから、われわれはミサに与る毎に、この最高の霊的断食に一致するよう努むべきである。

もしそうするならば、聖体拝領において神的生命を強める新しいパンに飽かされるであろう。

（二）四旬節中の実行

現在教会が大斉を命じているのは灰の水曜日と聖金曜日だけ、小斉は毎金曜日であるが、四旬節の全期間がキリストのあの断食の精神につらぬかれていなければならない。その実行として何か感覚的な楽しみをひかえ、心の中でも悪い傾きと戦うようにしよう。キリストと共に断食をする者には、キリストと共に御父から充分にむくいられるはずである。

四旬節第1の主日

＝こころみのとき＝

朗読

福音　マテオ四・1―11

旧約の選民が砂漠で試みられたように（第二の法第八章）新しい選民のかしらであるキリストも、同じ試みをうけ、しかしこれに見事に打勝たれた。試みとは、神と自分といずれを選ぶかの瀬戸ぎわに立たされることである。これに勝つには神への全き従順と信頼を武器としなければならない。

第一朗読　コリント後六・1―10

神は使徒たちの働きを通して今日も教会のなかで、キリストのみわざをつづけておられる。キリストのみわざが実を結ぶかどうかは、われわれがこれにどう応じるかまた福音の伝達者である使徒たちのやり方にかかっている。パウロ自身は、自分は神の役者として恥じる所がないという。ではわれわれはどうか。

聖書を通じて

民は試みをうけたが、神への忠実を守りきれなかった。イエズスもこの民と同じ試みをうけられたが、完全であられた。

その意味

神はわれわれが試みに会わないようにはなさらない。試みは何よりも神を選ぶことを証明する好機だから。

教会において

聖体祭儀において、キリストはあらためて御父へのご意志を選び、われわれをご自分の道にひきよせ給う。

実生活において

四旬節は、キリストが選ばれた道をたどる好機である。

❶ 神の友は試みをうける

（一）アブラハム　創世二二・1―18

アブラハムはユーフラテス下流のウールの出身である。ここの住民は偶像に子供をいけにえとしてささげる習慣があった。だからヤーウェの神を信じるようになっても、この神に同じようないけにえをささげるのは当然だと思っていた。神はかれのこの考えを利用して、かれに試みをかけられた。

神はかれが何を選ぶかを知るために、アブラハムを試みられた。かれが最愛の子供をとるか。あるいは神の神秘的なご意志に従うか。イザアクは独息子で、これが殺されたら子孫をつくることはできなくなる。

しかしアブラハムは苦悩の末、神のご意志に従った。かれは実際には子供を殺さずにすんだが、神のお気にめす霊的いけにえをささげることができた。神への従順と愛はりっぱに証明され、神はかれに祝福を与えられた。

（二）砂漠における民　第二の法八・2―18エ

エジプトから救出されたイスラエル人（アブラハムの子孫）は飲料水と食物が欠乏した。この苦しみこそ民にむけられた神の試みであった。どこまでも偉大な神を信じこれに従うか、それともエジプトの生活にもどるか。

多くの者はここの試みの前にもろくも坐折し、神につぶやき偶像のもとに走った。あるときはもっとめざましい奇跡をあらわすように神に強要さえした（出エジプト一七・1―7）。それは人間が神を試みることであった。

結局かれらは試みにたえることができなかった。神だけに従いこれに信頼をよせることがなかったのである。真の神と地上的安楽というふたりの主人に仕えるような卑怯な態度が露見したわけである。ではアブラハムの子孫に約束された祝福はどうなるであろうか。

❷ アブラハムの子イエズスも試みをうけられた

今日の福音の朗読

民は神だけを選ぶ好機を失ったがアブラハムの子孫のひとりは、あの民と同じ試みをうけるために砂漠におもむくのである。

しかし試みに直面して民のたどった道とイエズスのそれとは雲泥の差がある。

飢えの試みに対して、イエズスは神のおことばのパンを選び、神のめざましいお力を見たいという試みに対しては、ただ神への信頼を選ぶ。富の試みに対しては、神の国の建設に富の無力を知り、神のみを礼拝する道を選ばれた。

この他にイエズスはご生涯中にも度々苦悩と悲哀、屈辱と死によって攻撃されたけれども、神のご意志への忠実は少しもたじろぐことはなかった。この完全な忠実の故に新しい神の民は、約束された祝福をそそがれることができた。

❸ 教会において

（一）聖体

聖体のいけにえにおいて、キリストはもう苦しみによって試みをおうけになることはない。しかし神に対してあれほどりっぱに表明なさった忠実さは、今も変ることはない。この神への忠実さこそ、御父のお気にめすいけにえの中心的な要素である。

今日でもキリストは御父のご意志を選んでおられる。人目をひくような手段でなく、ご受難という試みを通してわれわれを救い、われわれを愛そうとつとめておられる。アブラハムのいけにえによって遠い昔すでに予告されていた完全な霊的いけにえを、ささげておられる。

「この供物に、ご嘉納のおだやかなおん目を下し給え……大祖アブラハムのいけにえをうけいれ給うた如く、この聖なるいけにえ、けがれなきオスティアをうけいれ給え」（ミサの典文より）。

聖体拝領によって主はわれわれのうちにおいでになり、ご自身と同じ選びをするように導いて下さる。イエズスを拝領することによって、われわれは御父なる神がさし出しておられるものを、他のすべてのものを捨ててでもいただくことができるようになる。

ミサ中主祷文をとなえるとき、試みにおちいることなく、御父の聖旨がこの地上に完全に果たされるよう祈ろう。

ミサこそは、神のみことばのパンをうけ、神に信頼をよせ、神を礼拝する〝めぐみの時〟である。

（二）実生活において＝新しい神の民がうける試み。

聖パウロは数えきれないほどの苦難をなめ、恐怖にさらされた。しかしかれはその中でさけぶ。

◇実に、今はめぐみのとき、今は救いの日である（第一朗読）

かれのいう通り、今はめぐみのときである。なぜならさまざまの難局に直面しても、イエズスのように神を選ぶことのできるときであり、神への愛を実証することのできるときであり、神の祝福をそそがれうるときだからである。

四旬節と共に教会は試みのとき即ちめぐみのときを迎えた。各信者はできるかぎりキリストの試みに一致し、そしてキリストが選ばれた道を一緒にたどるべきである。

われわれにとって試みとは、神を選ぶか他のものを選ぶか、決定の選択を迫られることである。このような局面に立たされることは決して悪ではない。たといそれが悪魔から由来しているとしても、神への愛と忠実を証明する好機というべきである。

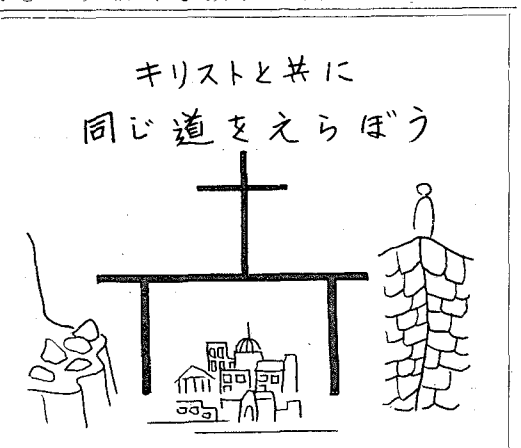
われわれは日々いろいろな試みをうけている。例えば、肉体的安楽、体が少し疲れている。だから自分の務めを怠りたくなる。

奇跡を求める心。神が秘跡を通してどれほどすばらしいみわざをしておられるかを忘れている。

才能を誇る。私は他の人よりも頭がいい、それは神に感謝して使うべきであって、他人を軽んじるためではない。

他人から批評され反対される。それは苦しいことである。しかし祭りをもってそれに応じてはいけない。

今日の詠誦に引用される詩篇九〇は試みに勝った者の勝利のうたである。



新しき歌
―キリスト教一断面―
粕谷甲一著
¥700

ヘルマスの牧者
ヘルマス著
佐藤清太郎訳
¥380
本書の内容は、受洗後に罪を犯した者を、すみやかに悔い改めさせることを主眼としたものだが、けっしてかたくるしい説教の連続ではなくて、始めから終わりまでまことに風変わりな、おもしろい物語りふうに書かれている。

すすむ教会
―第二バチカン公会議講話集―
東京大司教区特別聖年委員会編
¥350
現代の最大の誤謬の一つは、信仰と生活の遊離であり、もっと人間的な世界の建設のために尽すことは、すべての人の任務である。
世界をよくしていくための地上の活動の基本法は愛の法であって、権力や財力の法則ではない。

告解と修道生活
および良心糾明
ジャン・ギャロ著
¥810

現代に於ける
修道女の使徒的生活
ヴィンセンシオ・ア・パウロ
愛徳童貞会
¥90

大名町　聖パウロ書院
岩田屋
六階　セント・ポール・コーナー

聖書の国 ㊱

平山高明

神殿（三）

婦人の庭からイスラエル人の庭に入るには、半円形の一五段の階段を登り、ニカルノの大門を通らねばならない。金銀で装飾されたこの門扉は青銅製の巨大なものでこれを開閉するには、二〇人の男の力を要したほどで、そのきしる音はエルザレムの人々にとって朝の祈りで始まる一日の開始の合図のようなものであった。

ニカルノとよばれるのは、アンチオクス・エピファヌスの将軍ニカルノが自分の名をそれに冠したからだともいい、あるいはアレキサンドリアの富豪ニカルノが難船の機になした誓いを果たすために寄進したものだとも伝えられている。

イスラエル人の庭のなかには祭日ごとに式に参列する二二族の代表者のための三四の座席と、犠牲を奉納する者のための席とがあったが、多くのイスラエル人（男子のみ）は幅六〇メートル、奥行五メートルのこの前庭にひしめき合いながら、立ったまま祭式にあずかった。

△　△　△

さらにこの庭から三段のぼると司祭の庭があり、婦人の庭と同様に床は模様入りの石だたみになっており、青天井で屋根はなかった司祭の庭にかこまれて西寄りのところに本殿があった。司祭の庭は幅六〇メートル、奥行八〇メートルあり、本殿は大玄関と聖所と至聖所からなり、黄金色にかがやく屋根や破風をもった堂々たる建物であった。

玄関には高さ三〇メートル幅四五メートルの柱列があり、南側と北側には儀式中浄めのために用いる水を貯える部屋や、香料や薪をおさめる部屋があったし、衆議所のための広間があった。ここは宗教上だけでなく政治上の中枢でもあった。立法や行政財政の中心であり、最高裁判所でもあった。かれらにとって政治は宗教をはなれて考えられなかった。それはまた神宮の最高府であり伝統保持の強固なとりでもあった。しかし何よりも神殿は犠牲と祈りの家であった。

△　△　△

この玄関を入ると聖所である。この入口の黄金でおおわれた扉は常時ひらかれていた。そして白紅紫緋の四色織のバビロニア絨緞が幕として垂れていた。幕の上部には、神の創造とイスラエルの象徴であるぶどうの木が金糸銀糸でしゅうしてあった。

内部は格子わくの窓がついた明るい部屋で、壁の板には黄金が張ってあったが、部屋としては簡素であった。そこには有名な黄金製の七枝の燭台と供えのパンをおく机、日に二度香をたく金製の香壇があった。ここにはくじで定められた組に属する司祭達が、交替で香をささげるために入った。

司祭であった洗者ヨハネの父ザカリアが、天使の出現をうけ先駆者の誕生を告げられたのは、ここであった。

△　△　△

さらにこの奥の部分、即ち聖所の西側は木の壁と幕で仕切られている。この第二の幕は手のひらほどの厚さの絨緞の幕であった。主キリストがお亡くなりになった時裂けた神殿の幕は、聖所の方の幕であると聖エロニムスは考えているが、十字架上の犠牲によって旧約の犠牲が廃せられたことの象徴としてこの幕は、至聖所の方の幕であったろうと考える人もいる。

ここから内が聖の聖なる場所、至聖所とよばれる所で、内部には全く何もなく、象徴のたぐいもなく、暗くてふかい静寂につつまれていた（以前はここに契約の櫃が安置されていた）。

ただ年に一度だけ大司祭は大赦罪の日に、民の罪と自分の罪のために犠牲の血をたずさえて、おそれおののきつつ至聖所に入り、見え給わない至高のお方におかって香をささげたのである。

異邦人をてらす光

両親は　幼児イエズスを主にささげるために　エルザレムにつれて行った。

シメオンは　その子をだき　神を賛美していった。

「私の目は　もう主の救いを見ました。　その救いは　万民のためにそなえられたもの、異邦人をてらす光であります」

救いのご計画の協力者

カトリック信心生活において神の母マリアが占める位置が確認されはじめたのは、近年のことではない。それはキリスト教初期の時代にまでさかのぼり、信仰の一部分として長い世紀を通じてさまざまに表現されてきた。

初期ギリシヤ語系信者たちはマリアをテオトコス、即ち神の母とよび、神に人性をお与えになった者の聖性をたたえ、人間救済という神のご計画における独特の役割を認めていた。またかれらはマリアを人類の光栄、罪のけがれを免れた者、贖い主の母と見なしていた。

中世紀になると、マリアは「ノートル・ダム」とよばれ、すべて高貴なものの象徴、聖徳のモデル信者の導き手、暁の明星と仰がれた。芸術や詩はマリアのなかにくみつくせぬ霊感の泉をみいだした。ルネッサンス時代になると、マリアは「マドンナ」とよばれ、御子をいだく母、時代の代表的女性神の来臨ともっとも密接に結ばれている者とみなされる。マリアをイエズスおよびその救世の業と切りはなすことはできない。

カトリック信者はマリアが霊魂を救い聖化する任務をおびておられると考える。なぜなら神の子らのモデルであり母であられるからである。神はかの女を通じて人となられたのであるが、そうかといって単なる受身的な役割を果たされたのではない。マリアは全存在をあげて神のご意向に合致し、人間的能力と神からお恵みを全部この偉大な使命達成のために注がれた。こういう意味でマリアは神を求める者の模範ということができる。マリアは神の意向をよく見きわめて、進んでこれに協力されたのである。

マリアの聖性をさぐるうちに、男は男性であることの性格にぴったりする力強さと献身を見出してよろこぶ。男性は全生涯をあげて神をどこまでも追求する傾きをもっているのである。女はマリアが様々の務めを静かに果たし、神のお指図に十分に答えてゆかれるその落着きを見て、これをまねようとする。

あらゆる名目でマリアはご自分の痕跡を歴史の上に残された。それぞれの民族がマリアの存在を思い出させるものを必ず持っており、あらゆる国語でかの女への賛歌がささげられている。「代々の人々は、私を幸な女とよぶであろう」とマリアはいったがシリアの聖エフレムの頌律詩からフランスのジャン・ギットンのふかい神学のなかまで、文字通り事実となって表われている。

ある時代だけがマリア信心を知っていたのではない。かの女は信心の面からも神学の面からも、いつも取扱われている。

マリアに祈り、親しさを感じ、信心生活でかの女が占める位置について理屈をこねず、かの女のご加護のうちに慰めと力とを見出すのは、カトリック者の特徴である。

カトリック神学は、贖いのご計画におけるマリアの役割についてふかい理解の域に達しており、内容も豊富で殆んどユニークなものである。そこではとくにマリアの輝やかしい聖性、聖霊によって注がれた恩寵の偉大さが強調されている。

それが貧朴な農夫のロザリオであろうと、あるいは知名の神学者のロザリオであろうと、マリアにささげる賛歌は同じ一つのものである。「めでたしマリアよ…主はおんみと共に在す…女の中で祝せられたお方…われらのために祈り給え」。牧者の母であられたマリアは羊たちの母となられた。全世代の人々はいつまでもマリアを賛えるであろう。

（スティーブン神父）

神のおん母

冬の朝

木保之
鬼

「冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜のいとしろきも……」

これは有名な枕草子の冬の始の所である。

ひさしぶりに早く起きる。六時も前になると、寒のしまりの前で寒さも未だしという所。

井戸端に出ると東の空に明るさというものがわずかに感ぜられる位で、夜空である。

そして星月夜である。真夏を思わせる星座の配列である。勿論、そのくらさは夏のものとはちがって凛烈である。

さそりが南天にかかり、そのアンターレスを射る形の南斗六星がその東にあり、矢の一端はようやく明るきをきざして来たしののめの中にかろうじて見てとれる。

北斗七星は大きく北天にあって形をくねらせて北極星を指向し、二等星ながら北極星は未だの夜星にまたたいている。そしてその先にはカシオペアが正しいW形を見せているが、そのまた東の先にあるアンドロメダは、殆んどの形を東に沈めて、ペガサスの四辺形が広がり始めた微光の中に光をちらつかせている。

これだけのことは、空を、南は北は、東はと眺めて、夏の思い出とともに見てしまう。

こちらは早起きのつもりでも、もう新聞や牛乳の配達の人は自転車やバイクで通りすぎて行く。街も街灯が輝き、遠くには電車のライトが動き、街の地鳴りのような音が立ち上っていて、もはや眠りより目覚め始めていることを示す。ミサのために家を出る頃ともなると東の空満山群は屋根の形をあらわにして灰黒色に紅と明るさを交じえた空にうかび上ってくる。その紅が明るきを増すと、灰色がはぎとられて、あたり一面が紫を帯びた浮遊した光があふれて来ても夜明まではわずかである。

さて、御堂でミサにあずかる。御堂のステンドグラスは外がくらいため、未だ本来の色を示さず、内部の電灯の光のみが、いたずらに光っているが、ミサが進むにつれて、外の明るさも、冬の寒さとともに増して来る。

大体御聖体拝領の頃になると、明るさとともに、ステンドグラスは色つき始める。御聖体をいただき、しばらくの黙想のあと、おもむろに目をむけると、暗いながら色ずき、やがて透明なガラスにも空の色、木の緑などが、朝焼けとともに形をあきらかにしながら、うかび出てくる。

空には朝日にふちだけが輝く雲がうかぶ。

この頃には寒も一だんとしまり霜が真白になって、道辺にあるいは草においている――

霜はひどい。朝晴れ、午後はくもりだろう。

ミサのあと、すがすがしい。今度は光の中を帰ることになる。

司祭異動

留学を終えて帰朝したマリア会司祭山口実師は泰星高等学校へ。パスカレル師は休暇を終えて水巻教会に帰任、水巻代理主任をつとめたベルトラン師は休暇でフランスへ。

聖心会シスター本渡へ

東京、神奈川、札幌で女子教育にあたっている聖心会が今春からはじめて福岡教区内に修院を開設することになった。

聖心会では四名のシスターを熊本県本渡市のカトリック教会（ライル師主任）の付属幼稚園に送ることになり、深堀司教からの承認をえた。シスターたちはもし事情が許せば公立学校の教師としても奉職する予定である。

郷里で銀祝ミサ

名古屋の平田義雄師

名古屋教区司祭ペトロ平田義雄師はこのほど司祭銀祝を迎えたが一月三日出身地の福岡県三井郡太刀洗町本郷で親族一同のお祝いをうけ、今村教会で同僚司祭にかこまれて感謝のミサをささげた。平田師は現在、名古屋市主税町教会主任。

大分司教館落成

昨年暮完成した大分司教館の落成式が一二月二七日正午から行なわれ、深堀司教も山口長崎大司教とともにお祝いの式に列席された。

邦人司祭養成のための献金（12月4日）

大名町	一四、五八〇円
浄水通	五、五二〇
地行町	三、〇〇〇
簑島	一、〇五八
大楠町	二、三七〇
高宮	二、七〇〇
田島	一、六四三
茶山	二、二〇〇
西新町	三、〇三〇
箱崎	一、六四三
吉塚	五、〇〇〇
那珂町	三、五八〇
古賀	二、〇〇〇
二日市	一、二八一
小郡	九八〇
今村	一、〇〇〇
本郷	四、五〇〇
久留米	五、〇五〇
大牟田	二、五〇〇
吉野	二、四七五
呼子	二、五〇〇
馬渡島	一、二〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
伊万里	三五〇
鳥栖	一、九五〇
武雄	五〇〇
鹿島	四〇〇
多久	八〇〇
広石	一、〇〇〇
大里	三、一〇〇
小倉	一一、〇〇〇
湯川	二、五〇〇
戸畑	一六、〇〇〇
若松	二、〇〇〇
八幡	五、〇〇〇
黒崎	一〇、〇〇〇
八王寺	三、〇〇〇
本城	一、〇〇〇
水巻	二、五〇〇
直方	一、二〇〇
飯塚	一、五〇〇
田川	一、八〇〇
行橋	二、〇〇〇
新田原	八、〇七六
手取	九、〇〇〇
島崎	二二、一〇〇
健軍	七、〇〇〇
帯山	二、〇〇〇
八代	六、三〇〇
人吉	一、三〇〇
玉名	二、六一〇
隈府	六、三五〇
荒尾	一、〇〇〇
本渡	一、四〇〇
大江	二、〇〇〇
崎津	二、一五〇
合計	二三一、六九六
昨年度	二〇五、一九六

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 独和 和独 辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂 福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

福岡司教四旬節教書

使徒的生活について

一、使徒職

みなさん、カトリック教会は今日、公会議の精神にながされて主キリストからさずけられた人類救いの使命を力強く果たしてゆこうとしております。キリストの御名を全地にひろめて、すべての人々を救いのおめぐみにあずからせこの世界を神の御旨にかなったものにするのは、神の選ばれた民である私達の尊い務めであります。この使命が「使徒職」とよれば、そのための努力と働きが「使徒的活動」であります。

主キリストは御昇天にさきだって十二使徒にこの使命をさずけられました。「私には天と地との一切の権力が与えられている。だからあなたたちは諸国に弟子をつくりにいき、聖父と聖子と聖霊との御名によって洗礼をさずけ、私があなたたちに命じたことをすべて守るように教えなさい」（マテオ二八・一八―二〇）。

二、全信徒の責任

使徒たちはこのご命令に従ってユダヤをはじめローマ帝国の隅々にまで足をのばしてキリストの福音を教え、洗礼をほどこし、町々に信者の団体をつくりました。この働きは教会の最高の使命として今日まで続けられていますが、これは使徒たちやその後継者である司教たち、そしてまた司祭たちばかりでなく、教会の全キリスト信者に負わされたものであります。教会とは聖職者だけでなく、洗礼によってキリストの神秘体に結ばれ、神の民となった者全部を指しております。

みなさん、実に私たちはキリストと一つの体となっています。みなが同じ信仰をうけて神の子となり、みな同じ霊的食物によって養われ、「天の御父が完全であられるように」（マテオ五・四八）完全なものになろうと励んでいるのでありますが、みなが同じ役割をつとめるわけではありません。ある人はキリストの権威をもって教え聖化し治める牧者に立てられ、またより深く神に奉仕するために修道生活を送るよう召された人もあり、なおほかに世俗にとどまって福音の教えによって生きながら世の人達と共に働き聖なる社会を築くよう召された信者もいます。それぞれ特別の役割を負わされていますが、聖職者であろうと、また修道者、信徒であろうと神のおめぐみと力に助けられて、教会の発展と聖化、社会の秩序という唯一最高の目標をめざして協力し献身しなければならないのであります。しかしみなさんのうちにはこう考えている人がいらっしゃるかも知れません。「私は普通の信者だから、日曜日の務めをよく守り維持費をおさめ、罪をおかさないように出来るだけ用心し、自分が天国にゆけさえすればそれで十分だ」と。この人は自分のたずかりに専念するのが信者の唯一の務めであって、それ以上のことは余分のことであり、時間や才能にめぐまれた人がいれば、その人が上から頼まれたときに教会を助けてあげればよいのだと思込んでいるのです。このような人は利己的な精神にとじこもって神秘体的責任を忘れ、形式的な信心生活にだけ満足し、信仰の熱も神の子としての誇りも持たないのであります。

三、使徒職の実践

しかしみなさん、教会の信者として召された者はこうであってはなりません。真の信者は、主キリストの愛の聖心から火をいただいて、全世界をも焼きつくすほどの奮発にもえています。キリストは世の終りまで神秘体のかしらとして私たちと一緒に人類の救いのわざを続けることを望んでいらっしゃいます。だから私たちを召してご自分の手足となって人々に神の愛を知らせて救いへの道をひらきこの世界を神のお心にかなう美しいものにするよう、協力を求めておられます。

信徒のみさんは、世間のなかに過しておられますから、司祭たちが接触できない場所や環境にまで教会の働きを浸透させてゆくこともできます。みなさんのまわりには、キリストを全く知らず、また宗教そのものに無関心な人たちが多いでしょうが、救いの手引きを探している人も決して少くはありません。この人たちに信仰への関心をいだかせ、キリストの愛を知らせるのは、司祭自身であるよりもまず信徒みなさんの働きによるといわなければなりません。もちろんこの世の人々に信仰の立場から近づいてゆくには、相手によってさまざまの方法が考えられるでしょうが、もっとも力ある方法はみなさんがキリスト信者としてりっぱに堂々と生活することであろうと思います。

信者であることを隣近所にも職場の同僚にもわざと隠していたり、恥じるような素振りを見せるのは、使徒職の実行という点から見れば全く論外のことであります。私たちは信者であることの喜びと誇りをいだきつつ、模範的生活をもって人々を神の方に引きつけましょう。「あなたがたも、人の前で光を輝かしなさい。そうすれば、人はあなたがたのよい行ないを見て、天においでになる父をあがめるであろう」（マテオ五・一六）と主も仰せられています。

真の信仰を裏書きする模範的生活を実践するために、みなさんは夫婦として相むつび、子供たちをりっぱなキリスト信者、奉仕的精神にみちた人間に育て上げるように全力をつくして下さい。また社会人としては進んで多くの人と愛をもって交わり、町内の人や職場の同僚の生活、労働、悩み、希望の問題を親身になって助け、よき相談相手になってあげるなどしてみなの心をおのずと救いのめぐみを受けうる状態へと導くようにしたいものであります。

みなさんは生活そのものをもって人々によい影響をおよぼすばかりでなく、さらにことばをもってキリストを告げ知らせる機会をさがすべきであります。私たちはみながみな、教理のふかい説明ができるとは限りませんが、無益な議論はさけて卒直に、信仰の根本的な教えをのべ、キリストのご生涯を話すなどすることは誰にでもできることではないでしょうか。

四、キリストの愛に生かされて

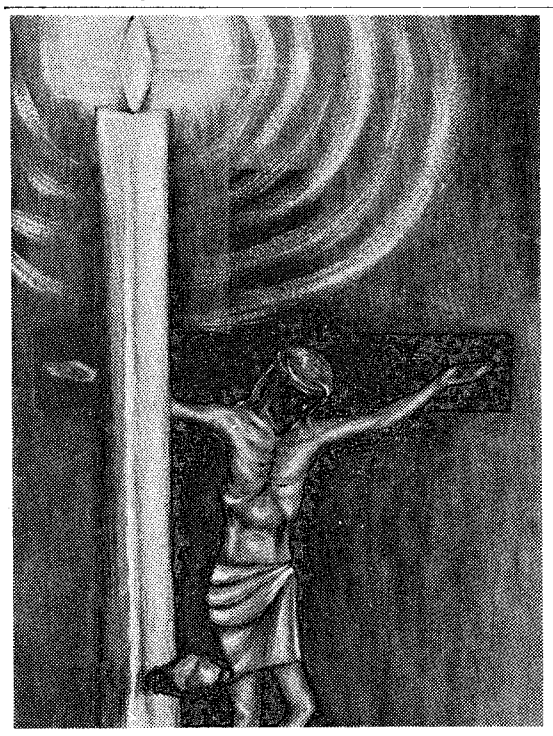
しかし私たちが信仰について語るときにも、また信者らしい生活を送ってゆくためにも、絶対に欠かしてならないのは、私たちが福音の教えにつよい確信をもち、キリストに対してふかい愛を抱くことであります。私たちは自分の知恵や雄弁をふるってひとを救いの道にみちびくことはできません。異邦人の使徒とよばれた聖パウロはこう断言しています。「私の言葉と宣教は、人を屈服させる知恵の雄弁ではなく、霊とみいずの現われである。それは、あなたたちの信仰を、人間の知恵ではなく、神の力の上に基づかせるためであった」（コリント前書二・四―五）。実に使徒的活動の力は、私たちのうちに生き、働いておられるキリストご自身であって、私たちの才能や経験ではありません。「わたしがいないと、あなたたちには何一つできない」と主も仰せられています。

洗礼の秘跡によってキリストとかたく結ばれ、堅信によって聖霊のたまものの力をうけている私たちは、度々の聖体拝領によって、使徒的愛、即ち神と人とに対するまことの愛を養いましょう。さらにミサ聖祭においてキリストと共に自分を霊的いけにえとしてささげ、信心にはげみ、常々、信・望・愛の超自然的徳をはぐくんでキリストとの生々とした交わりをふかめることを忘れないようにして下さい。霊的生活のともなわない、従ってまことの愛に生かされない使徒的活動は、神の前にむなしい努力に終ってしまうでしょう。

五、むすび

みなさん、私は四旬節にあたって、使徒的精神が教区の内外にみなぎりあふれることを希望すると同時に、この「恵みの時」に主キリストとの一致をふかめ、信仰と愛に充実した信者となるように、特別の努力をかたむけて頂きたいと思います。幸い多くの教会ではこの時期に黙想会が行なわれますので、進んでこれに参加する他、できるだけ平日にもミサにあずかって聖体を拝領し、主の御受難を黙想してその生きた模範にならい、ぎせいをおそれない勇気をもって、一人でも多くの人にキリストの愛を知らせ、救いのおめぐみにあずからせるよう、奮発心にもえた使徒としておはげみ下さい。

（中見出しは編集部による。なお前文とおすびの一部を省略）



十字架をへて光栄の復活へ

世の光

カトリック信者間の一致 ③

小教区の黙想に思う

めざめ

四旬節に入りますと、各小教区とも、主の御復活への準備として種々の霊的行事が行なわれます。その行事の一つとして信者たちの黙想会を計画するところも少なくないようです。

ところがこの意義ある行事も、単なる習慣と〝年のつとめ〟を信者に果たさせるチャンスの提供に終わり、近頃では疑問さえ持ちはじめました。各サークルでの聖書研究会や黙想会があればこんな大がかりな十把一からげ的な黙想会はなくしてもよいのではないかなど……。

あれやこれやで黙想会は例年にならい計画されたものの、司祭も信者もあまり期待していませんでした。ともかくよそから指導司祭を迎え、信者に説教をしていただき、告解をお願いし、その間、わりあい、ゆっくりした気分になれるかも、など甘く、あつかましい考えさえ、いくぶんか持っていました。ところが指導の神父様からの返事でこの怠け者の主任神父の夢は破られ、一カツ入れられてしまいました。

小教区の黙想会の意義

その手紙に要求されていることによって、司祭をはじめ信者たちは反省させられました。この度の黙想こそ単なる〝年のつとめ〟〝告解のチャンス〟に終わらず、また日常生活からかけはなれた空想的、感情的なものとして終わらない様にしなければならないのです。重要なことは、説教を聞くだけでなく、現代に応じたキリスト者の生活をあらゆる面から、小教区の信者が一つとなって反省することだと思うのです。キリストの教会の中での各小教区の役割を再認識する様につとめなければなりません。それには信者相互の話しあいの機会をつくり、皆で発見して行く様にするのです。そしてほんとうに力ある黙想、小教区を前進させる様な黙想にしなければならないのです。公会議の示めして下さった方針に従って小教区を新たにするために司祭と信者が一つとなって、小教区や環境におけるキリスト者の生活や使命についてこの機会に考え、話しあわなければなりません。

呼びかけに応えて

一月一五日、信者の新年のつどいの時に第一の準備の話しあいをはじめました。例年の黙想を反省し小教区あげて黙想の準備にとりかかりました。各サークルの代表によって黙想の準備委員会が結成され、サークル単位に、研究テーマ（はなしあいのテーマ）をきめてプランをたてました。それからことしの黙想こそ小教区の刷新、恵みの年となる様に祈りの運動をおこしました。小教区の黙想が教会の布教、一致、キリスト者の生活の上に大切な行事であり、その成果が準備の祈りにあるという確信のもとに、小教区全体に祈りの雰囲気をつくろうとしています。

また各サークルのテーマに従って、難解な教会憲章にとっくみ、教会およびそれを構成する信徒の秘義を勉強しています。

黙想会は出発点である

黙想の準備といえば、普段、守らない信者を訪問し告解をさせようとつとめることに終わっていました。考えてみるとこの事に主眼を置くのはおかしなことです。むろん、この恵みに呼ばれているのは全信者ですが、なんといっても積極的に改心を望んでいる信者たちの黙想会だと思います。黙想会は、出発点であります、出発点にすべてを期待するのは無理な話です。黙想により力を得た信者が、弱った信者を時をみはからって長期計画で助ける様にしなくてはなりません。黙想の前にあまりに大騒ぎしても意味がないのではないでしょうか。そういうたてまえから準備は進められました。

とにかく、始めてのやり方で、成果はわかりませんが、昨年と違った力を感じます。準備委員会を中心に小教区に家族的な対話が見られたのも嬉しいことでした。

（トクベフ）

3月　聖ヨゼフの月

5日（日）　四旬節第四の主日
四旬節は半ばをすぎた。復活祭は近い、キリストはまず死からよみがえって、新しい生命にうつってゆかれ、そのうしろからわれわれも神の町エルザレムに入ってゆく。神の町エルザレムとは人の手で作られたものでなく、天上的なエルザレム、神の王座のある所である。

7日（火）　アキノの聖トマ博士証聖者

12日（日）　受難第一の主日
旧約時代には司祭は動物を供えて神に祈ったが、新約の大司祭キリストはご自分をおささげになる。司祭と供え物が一つである。われわれもミサにあずかるとき、自分自身をささげるべきである。

13日（月）　カルデン枢機卿御来福　教区司祭月例集会

15日（水）　福岡大神学院で叙階式（午後二時）

17日（金）　日本のキリスト信者発見の聖貞マリアの記念日
本渡・聖心会修院の開設式（司教臨席）

18日（土）　聖母マリアの浄配および全教会の保護者聖ヨゼフの祝日
聖ヨゼフの第一の使命はマリアとその御子の保護者であること。この使命は教会の上につづけられる。
佐賀・特別老人ホーム・ロザリオの園落成祝別式（午前十時）

19日（日）　受難第二の主日（枝の主日）
主は今エルザレムに勝利の王として入城なさる、エルザレムはわれわれがめざす天国の前表である。枝の行列は、キリストのご死去が新しい生命を生んだこと、十字架の悲惨がご復活の光栄と不可分のものであること、そしてまたあがないのいけにえがご昇天の日に完成することを教える。

21日（火）　聖ベネディクト大修院長証聖者　春分の日

23日（木）　聖木曜日
今日は愛の日である、救主キリストのわれわれに対する愛が「極まで」示され、相互愛の掟が遺言の形で教えられ、愛の秘跡である聖体が制定され教会に司祭職が与えられた。

24日（金）　聖金曜日
十字架の上で神の御子が悲惨な死をおとげになり、同時にアダムの子らわれわれが神のいのちに生き返えった。われわれは御子のいのちと引き換えに生れたものである。

26日（日）　わが主イエズス・キリストの復活の大祝日
キリストのご復活は象徴的な教えでなくて、歴史的な事実である。われわれがキリストと共に新しい人間に生れ変ることも現実のことである。信仰のよろこびはそこにある。
大名町司教座聖堂で司教荘厳ミサ（午前九時）

31日（金）　カトリック高校生のリーダー会議（於熊本マリスト高校）

教会の緊急の要望に注目

教区全修道女の会合で

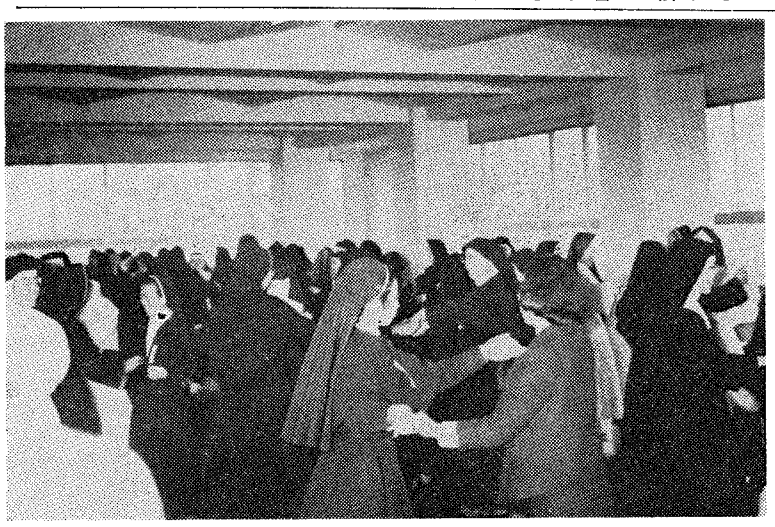
「教会は現代の修道女になにを期待しているのであろうか」。この問いかけを共に考え、共にさぐるために教区内の約二〇の修道会から一五〇名の修道女が、二月一〇日二一日の両日、深堀司教のひざもとに集って一大会合をひらいた。布教の第一線に立つ者も、教育、福祉の事業に挺身する者も、あるいは観想と労働に潜心する者もこの日は一大家族にとけ込んで「教会」の緊急の要望に注目した。

第一日は夜六時から八時まで司教の直接の指導のもとに「永遠に価値あるものは何か」について静かに黙想し、双葉学園校舎で聖体行列を行なった。

翌朝は八時から聖母像を先頭にスタバト・マーテル「悲しみの聖母に対する祈」をうたいながら、行列して共同ミサのささげられる幼稚園ホール内の仮祭壇へとむかった。福音のあとで十字架のいけにえにおいての聖母の役割について短かい説教があり、ミサ後の講話では平山高明師（小倉助任）が祈り、ぎせい、諸活動を通じて修道者が教会と社会に奉仕する使命について、聖書の教えをもとにして語った。

このあとはじめての試みとして修道女自身が講演を受持ち、聖心のウルスラ修道院本部のマリア・エンリカ院長と煉獄援助修道院のマリア・クリスチナ院長が一五分づつ、教会の期待にそう修道女であるための心構えを披歴した。

午後は「典礼の精神を生かし向上させるため」「社会との接触をはかるため」「小教区との協力を具体化するために」という三つの課題をめぐって三の分科会で話し合いを行ない、これまでの各自の経験、失敗、成功、将来への希望などを語り合った。最後に総会において分科会のまとめを発表し聖体降福式と司教のおことばをもって五時散会したが、二日間の集会は終始、一致と融合のふんきにあふれ、時おり飛入りの合唱や寸話で笑いのうずがまき、食後の休憩時間にはフォークダンスに興じるなどの場面もみられた。



（写真左は総会、右はフォークダンスに興じる修道女）

熊本合同会議

協力のあり方について

熊本市内の四教会の主任司祭、男女修道会の院長および補佐、教会委員による合同会議の第二回集会が、一月二九日三三名の出席のもとで行なわれた。今回は協力について、まず信者側から教会での協力の現状について述べ、今後は信者が自分の時間やお金を教会の必要事にささげる覚悟をかため、正しいと信じることを発言する勇気をもち、組織的に行動すべきであろうと語った。

つぎに修道院側からは、これまではとかく外部から離れすぎていたから積極的に小教区に奉仕し、信者との交わりをふかめて、お互いの悩みを通じ合ってゆきたいと述べた。

司祭側は以上の発言に賛成の意をあらわし、これからの協力の実現に努力しようと語った。

浜崎氏ら出席

パクス・ロマナに

二月二日から一七日まで香港でひらかれたパクス・ロマナ（国際カトリック学生連盟）のアジアセミナーに浜崎浩氏（福岡大名町教会所属・福岡ＮＨＫ放送局制作課勤務）、安斉伸氏（カトリック学生会員）、粕谷甲一師（カトリック学連指導司祭）の三名が出席した。

開会式は市公会堂でひらかれ、ビアンキ司教司式のミサが行なわれた。日本・香港・韓国・パキスタンなど二一カ国の代表二五名（うち司祭四名）が参加したほかジュネーヴ本部からジョージ・ストレッサー氏（事務局長）が顔を見せた。

今回のセミナーは「アジアのキリスト者の国家への貢献」を総テーマとしており、各国の知識人の組織と活動状況と問題点を紹介しつつ意見の交換を行なった。

教会名改称

教区事務所では左の教会の通称を改訂することを、二月二〇日付で決定した。（カッコ内は旧称）

光ケ丘教会（那珂町教会）
門司港教会（広行教会）

聖体礼拝（三月）

第三日曜　地行教会
第四日曜　湯川教会
　　男子聖パウロ修院

祈禱の使徒会（三月）

【一般意向】復活秘義のより深い理解と実践
【布教意向】宣教者の使徒的養成

聖週間最後の三日間の聖式

聖木曜日
1、聖香油の司教荘厳ミサ
浄水通教会で午前九時半より
2、最後の晩さんの司教荘厳ミサ
大名町教会で午後七時より

聖金曜日
主のご受難ご死去の記念聖式
大名町教会で午後七時より

聖土曜日
ご復活の徹夜の聖式とミサ
大名町教会で午後七時より

カルデン枢機卿ご日程

信者にもお話し

ＪＯＣ（カトリック青年労働者連盟）の創立者として知られるヨゼフ・カルデン枢機卿は、**ＪＯＣ**の活動状況を視察のため三月中旬来日されるが、左のようなご日程で福岡教区をも公式訪問なさることに決定した。

△三月一三日（月）
一一時四〇分　板付着
一二時四〇分　教区司祭団による歓迎会
一四時―一五時　司祭・修道者にお話し
一九時―二〇時三〇分　信者たちにお話し

△三月一四日（火）
朝　福岡大神学院でミサ後北九州市へ
夜　北九州市で信者たちにお話し

△三月一五日（水）
一六時三〇分　曽根空港から大阪へ

枢機卿は司祭、修道者だけでなく、ひろく信徒一同との接触を希望しておられるので、福岡・北九州両市での会には多数信徒の参加がすすめられている。

上に公告されている通り、近くカルデン枢機卿が福岡教区を親しく公式訪問されるので、この機会に国際的規模をもつ**ＪＯＣ**について概略を述べよう。

ＪＯＣの創立と発展

ＪＯＣ（ジョック）は Jeunesse ouvriere chretienne の略称で、日本では カトリック青年労働者連盟と訳されている。男子部が**ＪＯＣ**、女子部が**ＪＯＣＦ**また英語を使って**ＹＣＷ**ともよばれている。

カルデン枢機卿は一八八二年ベルギーのブラッセルの生れ、本年八四歳。貧しいが模範的なキリスト教家庭に育ち、労働者であった父親の影響もあって早くから労働者の問題に非常な関心をいだき、司祭になって間もなく教会当局からブラッセルの社会運動の指導司祭に任命され、やがて青年労働者運動を起した。この運動は一九二五年カトリック青年労働者連盟として正式に発足した。この運動組織はその後ただちにフランス、カナダ、イギリスに採用され第二次大戦勃発前にはすでに欧米亜の各地にひろがっていた。

わが国に**ＪＯＣ**が誕生したのは戦後の一九四九年（昭和二四年）三月で、北九州市小倉がその揺らんの地であり、六人の会員がムルグ神父の指導で結束し活動を開始した。

現在では一一〇カ国に約三〇〇万の会員がおり、日本は男女一四〇の組会、約一〇〇〇名の会員数に達している。

ＪＯＣの使命

❶**ＪＯＣ**の使命は、一口にいってカトリックの青年労働者たちが仲間である青年労働者たちにはたらきかけ、かれらの生活のあらゆる分野にキリストの精神をもたらし、愛のおきてを浸透させることである。

もちろん信者は誰でも全世界の人びとをキリストにみちびく使命をもっているが、今日のように社会環境が分割化された時代では、無差別に自分の環境と異った所に影響をおよぼす力はむしろ弱まっていることを否定できない。従って使徒的活動においても仲間が仲間に対して働きかけるということが、強いわれるようになった。病人には医者が要求されるように各環境にはそれに適応した使徒が必要である。そして労働者には労働者の使徒、農民には農民の、海員には海員の、学生には学生の、経営者には経営者の使徒が望まれる。自分と同じ環境に住んで同じように悩み、反応し、同じ不安におののく者のみが、相助け相はげます力をもっているからである。

❷このような考えで青年労働者の救いに立ち上がったのが**ＪＯＣ**であり、カトリック医師会、カトリック学生会などと並んで「特殊化された環境の使徒職」の一つに加えられるのも、このためである

使徒職はこのように特殊化されたにしても、めざす所はみな一つであり、キリストによって教会に与えられたご命令に従って、神の国の建設のために働くということである。

❸**ＪＯＣ**会員は、自分が青年労働者であるという身分を誇りとし独特の役割を生かしつつ労働者以外の誰も手をのばしえない仲間たちに、キリストの福音の精神を浸透させ、かれらの生活を上り人間らしいものに改善させ、創造主なる神のご計画、救主なるキリストの救いのみわざが、そこに実現するように働きかけるである。

ＪＯＣの具体的活動

❶**ＪＯＣ**は、純粋に経済的、社会的秩序に属する何らかの権利を戦いとるために、働いているのではない。戦いとろうとしているのは、もっぱらキリストが死をもってあがないとられた霊魂である。

そのためには経済的問題にも社会的問題にも決して無関心とはならず、世の人びとに人間の品位と労働の尊さをみとめさせ、正しい人生観を身につけさせるためには

ＪＯＣ会員はそのため、使徒としての養成をきびしく要求されるしかし養成が終ってから社会にのり出すのではなく、活動をつづけ愛を実践しながら使徒として成長してゆくよう養成される。

❷それにかれらは一人で働くことを好まない。カトリック・アクションの本質が示すように、個人的使徒活動と異り、組織的活動を推進する。だから環境にはたらく場合でも一人でするよりも仲間と手を組んで働こうと心掛ける。

ＪＯＣ会員は、自分の組会に所属して定期的にあつまり、研究会にあずかって、自分の働きの分野である環境にたちむかうための力をくみとる。組会内部における活動そのものは**ＪＯＣ**の本質的な働きではなく、あくまで基礎づくりであり出発点にすぎない。いわば毎週の集まりは明日の働きのための学校である。

会員はここで見る、判断する、実行するの三大原則を学び、それをあらゆる問題に適応することをおぼえる。

見る　環境に起った出来事はどんな些細なものでも注意ぶかく観察する。しかもキリストの目をもって眺める。そのために調査活動が重視される。

判断する　こうして観察したことをキリストの心で判断する。そのために判断規準が明らかにされる必要があり、聖書や教理の研究がなされる、これは理論的な講義でなく実行的結論を伴なった実践的・具体的事実をふまえての研究である。

実行する　適確な判断は直ちに実行にうつすべきである。**ＪＯＣ**は知らないことを教えてもらう場所でなく、組織された対外活動である。そのために内部からわき出る奮発心をたくわえ、超自然的徳を強めるべきである。

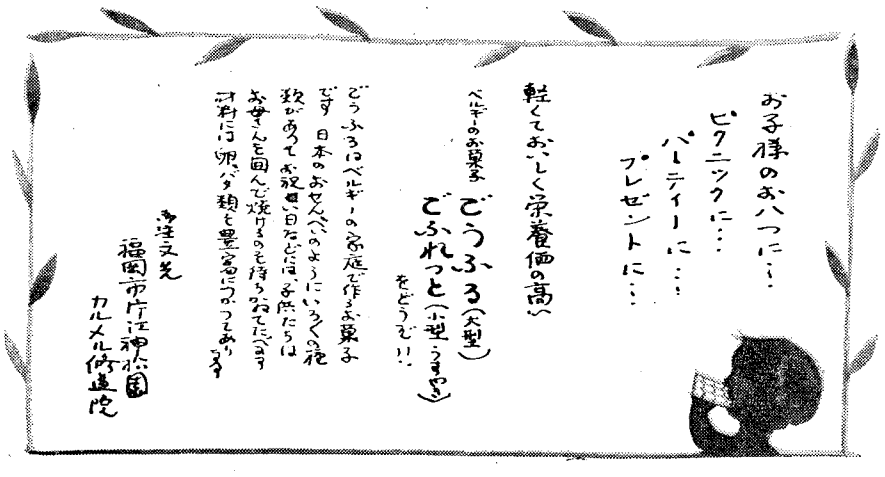
このようによく見るためには調査を、よく判断するためには研究会を、行動的使徒となるためには霊的生活を忠実に守ってゆかねばならない。

要するに**ＪＯＣ**は、同じ環境の仲間達をキリストにみちびくために、キリストの目で見、キリストの心で判断し、キリストによって行動しようと心掛けているのである。

ＪＯＣの精神と活動

環境の使徒職

仲間である青年労働者のために



暁星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式
事務用・学校用家具一式
室内外装飾・一般塗装

ご用命うけたまわります

福岡市箱崎飛島町4114
電・65―7121

主日典礼へのまねび

＝司祭キリストと司祭的民＝

受難第1の主日

朗読

福音　ヨハネ八・46―59

これはキリストとユダヤ人指導者との論争の一部である。かれらは心がくらんでいるので、イエズスがメシアであることも、御父との特別の関係もみとめることができない。「神からの人でないから、私の言葉を聞こうとしない」。イエズスは自分の誉れのために奇跡を行なわない。それはすべて御父の誉れのためである。

第一朗読　ヘブライ九・11―15

旧約では神殿の幕屋が神と人との出会いの場であったが、今ではキリストの人性という完全な幕屋でわれわれは神と交わる。昔は罪のきよめのために動物の血が流されたが、この血には実は何の価値もなかった。今は無限の価値をもつキリストの御血が流され、人の良心を罪からきよめる。御血は神への服従のしるしとして神の御子がおささげになったからである。

聖書の教えとその意味

イエズスは、アアロン家系の司祭達に代って一度だけでいつまでも、真の至聖所に入り、ご自分を完全ないけにえとしておささげになり、御血によってわれらをきよめ給うた。そしてわれらをみな司祭的民とするために、ご自分に一致させられる。

教会において

キリストに一致した司祭的民は御父のお気に召すいけにえをささげる。

実生活において

われらの全生活は、神のお気に召すものである限り、キリストの霊的崇敬を継続する。

① レビ族＝神に奉仕するもの

旧約ではレビ族の人だけが神に仕える資格をもっていた。そしてこのレビ族のうちでもアアロンの家系の人だけが塗油され、司祭として祝聖された。かれらは聖真にふれ、いけにえをささげ、幕屋のうちの聖所に入ることができたが この司祭のなかでもひとり大司祭のみが 年に一度、償罪祭 の日に「至聖所」に入ることがゆるされた。

② 司祭らは神のお気に召す崇敬をささげえなかつた

牛の血は人間の罪をきよめ、心を改めさせることができるだろうか。いや、それは外的なけがれをきよめるだけであった。例えば死人にふれた者はけがれた者とみなされ、神殿に入れず、いけにえの血をそそがれてはじめてきよい者になった。

では民のためにつぐないをしていた司祭ら自身は、罪のないものであったか。いや、かれらも自分の罪のつぐないを必要としていた。

ではかれらがささげる礼拝の儀式は神の望みにかなうものであったか。いや、神はささげる者の心を見、賛美や愛や従順などの霊的いけにえを好まれる。

アアロンの家系の者であれば誰でも敬けんな人物であったか、他の人達は神のお気に召す崇敬をささげることはできないのか。

イスラエルの人々は、神のお心にかなう司祭とは必ずしもアアロンの血筋のものでないことを、悟るようになった。では神のお心に完全にかなう真の司祭は誰であろうか。

③ 大司祭イエズス

イエズスは神殿に仕える司祭でなく、ひとりの「俗人」であった。しかし聖書はいう。

◆キリストは大司祭としてこられた（第一朗読）

キリストはご昇天のとき、天の至聖所である神の玉座の前に進み出られた。

◆ただ一度だけでいつまでも至聖所に入られた。

キリストのいけにえは完全であるから、旧約の大司祭のように毎年くり返す必要がない。

◆山羊と子牛の血を用いず、ご自分の血をもって永遠のあがないをなしとげられた。

キリストの御血は旧約の動物の血と違って、霊的いけにえであり しかも無限の価値あるものであった。

◆キリストは永遠の聖霊によって、汚れのないご自分を神にささげられた。

愛の霊と一致してささげられたいけにえ、これだけが神のお気に召すものである。だからその御血はわれわれの良心をきよめることができる。

以上述べた所からして、今ではただひとりの司祭・イエズスがおられること、これまでの司祭職は廃止されたことがわかる。

④ 司祭である民＝教会において

ユダヤの大司祭が至聖所に入っているあいだ民は外に留まっていた。所がイエズスは「われわれの先駆としてまことの至聖所に入られた」（ヘブライ六・20）。主はわれわれをつれて一緒に至聖所におはいりになる。主がご自分をささげられたのは

◆われわれが活きる神に奉仕するためである。

われわれはキリストと一致しているので、キリストと共に司祭である。

◆キリストはわれわれを愛し、その御血によってわれわれを罪から洗いきよめ…司祭の王国とされた（黙示一・5―6）。

洗礼と堅信によってわれわれは司祭として塗油されている。ではどのようにわれわれ司祭は任務を果すのであろうか。

(一) 聖体

司祭である民は神の家に集まりキリストを通して神に近づく。この集会を司式する者は、司祭キリストのいけにえを現実のものにする権能をもっている。しかしキリストとその民全部が一緒にいけにえを御父にささげる。

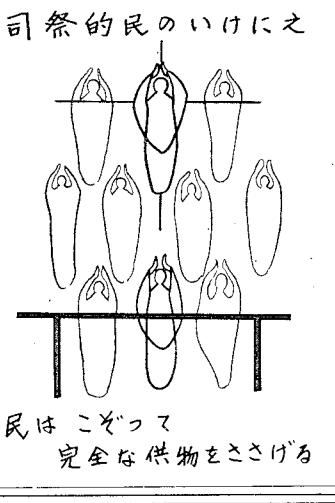
では何を御父にささげるのか。キリストご自身である。そして聖霊の神殿であるわれわれ自身をささげる。

◆あなたたちの体を、神によみせられる生きた聖なるいけにえとしてささげよ（ローマ一二・1）。

(二) 実生活において、

われわれは司祭たるにふさわしいものであろうか。「聖なる神にささげられるホスチア」になっているだろうか。霊的いけにえはミサのあいだだけでなく、家でも町でも友人と一緒のときにもささげるべきである。神によみせられる生活こそ、われわれのミサをつづけるための霊的いけにえである。

キリストが十字架の上だけでなく全生涯をもって司祭的つとめを果たされたように、われわれもミサ中だけでなく生活のなかで司祭でなければならない。



受難第2の主日

＝貧しい者の叫び＝

朗読

福音　マテオ二六・36―二七・60

マテオによる主のご受難の記事で主要テーマの一つは、聖書の預言の成就ということである。とくに「貧しい者」の詩篇（六九、二二）と苦しむしもべの預言（イザヤによる）のそれである。マテオは光栄のメシアを待っていたユダヤ教出身の信者に、貧しさを甘受し、自分を無きものとされた苦しむメシアの姿をはっきりと印象づける。

第一朗読　フイリッピ二・5―11

これは主なるキリストの自己卑下と光栄化の賛歌である。神の座をはなれて人となられた（ご受難・ご死去）。だから父なる神は御子に最高の光栄を与え、万物はかれを主として礼拝する（ご復活・ご昇天）。

聖書を通して

御父への従順の故に苦しみをうけられた御子は、イスラエルの貧しい者たちと同じように、御父にむかって叫ばれる。

その意味

神は、この信頼にみちた叫びを完全ないけにえとしておうけになる。

教会において

苦しみのなかから神に叫び、神から栄えをうける貧しいお方のいけにえ、これがミサである。

実生活において

このいけにえをつづけるわれらは、世界中の貧苦の叫びを御父にささげよう。

① イスラエルの貧しい者

神は、忠実な者に祝福を、不忠実な者に貧困や病気の苦しみをお与えになるというのが、イスラエル人の通念であった。

◆神は正しい人の望みをかならずかなえる（格言一〇・3）。

しかも貧困者は富者のようにたくさんのいけにえをささげられないから、神のお心を動かすことはできないとも考えていた。

ところが戦争や不作で貧困者はふえる一方である。そしてふしぎなことに心が悪く偶像を拝んでいる者のなかに、富者が少なくない。これは一体どうしたことか。イエレミアは神に問いかける。

◆なぜ悪人の生活がさかえ、不誠実な悪の人が平和に生きるのか（イエレミア一二・1）。

② 貧しさの意味をさぐる

正しい者が貧に苦しみ、悪人がさかえてよいものだろうか、いや神が民をお救いになるその日は、貧しい者にとって大いなるよろこびの日となると、預言者は告げる（イザヤ一四・30―32、六六・1―2参照）。だから貧しい者も神から愛されていないのではない。詩篇作者や預言者たちは少しずつ神のおはからいを理解する。

◆主は、貧しい者の願いを軽んじることなく、いやがることもなく、かれらからみ顔をそむけず、むしろその叫びを聞き入れられた（詩篇二二・26。今日の詠誦）。

貧しい者は、満ち足りた者よりも心を神にむけやすい。だから神はかれらをいたわり愛して下さる。預言者たちは、貧しい者の叫びこそ牡牛や山羊のいけにえよりも、神のお心にかなうことを知るにいたる。（詩篇五〇）

◆苦悩の日には私を呼べ、私はあなたを助ける（同15）。

③ おん自ら貧しい者となつて

イエズスは、われわれのすべての貧しさを肩にになって下さる。

まずわれわれの人間的貧しさ。神の御子は光栄の主としてではなく、貧しい者、従う者としてこの世にお下りになった。

◆私の思うままではなく、御旨のままに（マテオ二六・39）

またわれわれの罪人としての貧しさ。われわれに代って罪のゆるしを御父にこん願して下さる。

◆そのお体にわれわれの罪をせおって、木にかけられた（ペトロ前二・24）。

さらにわれわれのうちでも最も貧しい者になられた。

◆エリ、エリ、レマ、サバクタニ。私の神よ、私の神よ、なぜ私を見すてられたのか（マテオ二七・46、詩篇二二参照）。

イエズスは十字架上で貧しい者の詩篇二二を文字通りに体験なされたのである。

詩篇二二番　マテオ二七章

18～19　35～63
8～9　39～44
2、5～6
46

しかしこの貧しいお方キリストは決して絶望なさらない。死のまぎわにこうお祈りになる。

◆父よ、私の霊を、み手にゆだねます（ルカ二三・46、詩篇三〇・6参照）。

貧しさの故に神にだけたよる心これが神のお気に召すいけにえである。だから神はこの貧しいお方をふしぎなお力をもってお救いになり、万物の主という名をお与えになった（今日の第一朗読）。

ご受難の数日前人々はそれと知らずに歓呼の声をあげてキリストを迎えた（今日の福音）。そのときすでに、貧しき王が近くお受けになるはずの栄光が予告されていたのである。

「キリストは、地上での生活のあいだ、大声の叫びと涙とをもって、ご自分を死から救うことのできるお方に、祈りと祈願とをささげ」すべての貧しい者のために完全な大司祭となられた（ヘブライ五・7―10）。

④ 教会において

(一) 聖体

われわれが自分のうちの貧しさ世界の人々の貧しさを痛感したならば、ミサの聖なる集りにおいて積極的な態度をとることができるのではなかろうか。この社会でどれほど多くの人が苦しみ、嘆き、痛みつけられていることか、新聞テレビでいやというほど知らされているではないか。

だから司祭がパンとぶどう酒の供え物を準備しているあいだ、われわれは人々の窮乏を神に申し上げよう。これこそミサへの積極的参加である。

ミサは、御父への従順の故に苦しみをうけ、あとで光栄をおうけになった貧しきお方のいけにえである。

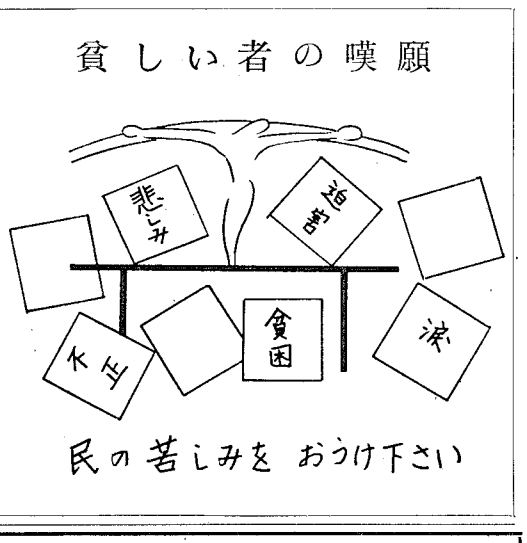
キリストは今も、神秘体の苦しみ、即ちわれわれと世界の人々の苦しみを御父に叫び訴えておられる。

キリストの叫びは聞き入れられ御父は少しずつわれわれをキリストのご光栄にあずからせて下さる。

(二) 実生活において

キリストの十字架の上からの叫びは、御父のお気に召すいけにえとして受け入れられた。貧しきお方は今光栄のみ国に住まわれるがその体である教会は貧しさのうちに留まっている。ききん、死、病気、離別、社会不正義など。

神はもちろんこのような苦しみをお望みではない。世界のうちに生きるキリスト信者はこれら現実の苦しみに一つの意味を与えるべきである。キリストの手足であるわれわれは霊的いけにえをささげる司祭である。世界中の苦しみを神にむかって嘆き訴えよう。



新刊紹介

中央出版
聖務
バチカン公会議による典礼改革にともなって女子修道女連盟が、各会の間の一致、和合を求める精神から小異を棄てて、この版を採用することに決定したもの。
¥900

安斎伸、土屋吉正共編
教会と典礼
一九六六年度夏期神学講座講話集の第三集目、教会生活の中心である典礼についての理解を深め、これに対する愛と関心を強め、新しい時代の新しい典礼として発展するための一助として編さんされたもの。
¥650

ベルジャーエフ著　野口啓祐訳
共産主義という名の宗教
一般新聞は連日、中共の文化革命の模様を伝えているが、読めば読むほど共産主義の不思議さが拡がる。本書は〝共産主義〟の深いところを、目の前につかみ出して見せてくれる。名著である。
¥330

第一集　現代日本社会とキリスト教徒　¥500
第二集　秘跡のすべて　¥450

ヘルマス著　佐藤清太郎訳
ヘルマスの牧者
罪と許しの問題を取り扱った西暦一～二世紀の全く風変わりな物語りふうの読みもの。
¥380

ベネディクト会修女絵
子どものイエズスさま
B5判
¥300

えほん

大名町　聖パウロ書院
岩田屋　セント・ポール・
六階　コーナー

この悲劇のなかにひびく神の声

「人よ、汝はちりにして、ちりに帰るものと知れ」。教会は灰の水曜日おごそかにこの言葉を信者にさずける。この言葉こそは信者の心を支え力づける英知の言葉である。

死とは各人の生涯を完結しその最後を飾る厳粛な出来事である。予期するとしないとにかかわらず死は必ずやってくる。ある人の一生がどんなに貧く、充実したものであっても、その人の全存在をゆり動かし、ろうばいさせ、終止符をうち、かれの欲望と夢と計画、そして手をつけた仕事を容赦なく中断させる。

死を前にして私達は、言葉なく助けもなく、見放された存在でしかない。なぜなら去ってゆく人を引きとめうるものは何もなく、どんな言葉をもってきてもその人を慰めることはできず、私達には生前の記憶と埋めつくすことのかなわぬ大きな空虚が残るのみである。

人の一生はどんなに充実したものであっても、死はそれ以上に奥行きのふかいものである。しかも神のような人でなければ誰も、死という冷厳な現実の意味をきわめることはできない。

どの死にも苦悶と悲しみがつきまとうが、同時に墓のかなたを眺め、死を不滅の種子と見なし、人生を永遠への入口、そして人間のこの世における存在はより偉大なる。

筋道の通った希望、神への信仰とその教えによってのみ、私達は死の脅迫と苦痛をのり越えることができる。人生に意味があるとすれば死にも意味がある。なぜなら二つとも神の手になるものであり両者とも人間存在を織りなす二つの部分であり、不可分のものだからである。そして死が人生のゴールを飾るものであるならば、それはまた人生の完成であるはずである。

神につき従って歩いているものは、苦悩に見舞われたときに神のもとに逃れて力づけられる。神はむき出しの悲劇を伴った死の旋風のなかからも、暗黒を打ちくだく百雷の声をもって語られる。いつか死者をよび起されるときの声と同じである。（スティブン神父）

死は人生の完成

何ものかのための準備であるとの確信と希望も生れてこなければならない。

もしそうでなかったら、信仰とは詩のようなもの、宗教とは錯覚の所産、死は意味のない悲劇か不可解な謎でしかない。

宇宙は私達のものでなく神のものである。人生とその喜び、深い幸福、労苦と戦いも神の賜であり神の計画のままに、神の望みのときにいつでも中断される性格のものである。

死は神の光に照らしだして初めて意味をもち神から教えられないと、私達は暗やみに落ちこんだ子供、嵐のなかで方角を失ってあらぬ方向にとんでゆく鳥のようになえたと思い込むようになったとき、神は預言者の口をかりて、はげしくこれを非難し給うのである。

「私に焼きつくすいけにえをささげても、私はあなたの供えものをよろこばず、肥えたけものをいけにえに目をやろうともしない」（アモス五・22）。

「なぜ私にシェバの香と遠地の高貴なしょうぶとをささげるのかあなたたちのささげる焼きつくすいけにえを、私は好まず、あなたたちのいけにえを、きらう」（エレミア六・20）。

△　△　△

これらの犠牲は、救主キリストの十字架上の犠牲のかたどりとしての役割をもっていた。そしてこの潔いいけにえ（ミサ聖祭）がエルザレムだけでなく全地においてささげられるであろうことも、マラキアは預言していた。

「日の昇るところから日の没するところまで、私の名は異国の民のなかで偉大なものといわれている。あらゆる地でいけにえがささげられ、私の名にきよい供えものがささげられている。そうだ、私の名は異国の民のなかで、偉大なものといわれている」（一・11）

聖書の国 ㊲

神殿（四）

平山高明

イスラエル人にとって神殿は、神の住み給う家であったので人々はニカルノの門がひらくのを待ちかねて、神の家の門の前で熱心に祈った。

祈りの時間になると、かれらはどこにいてもエルザレムの方をむきエルザレムの人は神殿の方をむき神殿にある者は至聖所にむいて祈った。イエズスが言われたように神殿は祈りの家であり、敬けんなユダヤ人たちは、騒々しく人々が行きかようかたわらで、ふかい神との交わりに達していたのである。

△　△　△

だが神殿のもう一つの大きな役割は犠牲にあった。

聖所の玄関の正面には、高さ五メートル、広さ一六平方メートル（基部）、上部一二平方メートルの石造りの祭壇がしつらえてあった。

その祭壇の下は薪をもやすことのできる炉になっていた。祭壇の四隅には角がつき出ており、また犠牲の血が流れ出る溝がほられていた。祭壇の南側には洗いきよめるための真鍮製の洗盤があった。また北側には犠牲の屠殺場があり、八本の柱のあいだに渡された梁には多数のかぎがあって屠られた犠牲をぶらさげるようになっていたし、また犠牲を一時おくための大理石の机が八つもあった。

フラビウス・ヨゼフによれば、ヘロデ・アグリッパ王の時代には犠牲の羊が年間六〇万頭もささげられたといっているが、それが誇張であったにせよ、莫大な数の犠牲がここでささげられたことは疑いがない。

唯一なる神に対して唯一なる民がささげる犠牲の場所は、エルザレムの神殿以外にあってはならないと、かれらは考えていたのである。

△　△　△

イスラエル人は、神からうけた恵みを感謝するために、自分の財産のなかから見事な小羊を惜しみなくささげた。それは自分の犯した罪をつぐなうために、身代りに犠牲の血を流すことによって赦しを願おうとしたのである。

かれらは個人としてだけでなく神からえらばれた民として感謝し礼拝することを、自分たちの最大の義務と考えていた。

とくに焼きつくす犠牲においては、自分のもっともよい捧げものを惜しみなく神にささげるということだけで、神への義務を果し終意をあらわすために、一物も残さず焼きつくしたので、かんばしいその香りは、こころよい祈りとして神のみ前に立ち上るものとして尊ばれた。

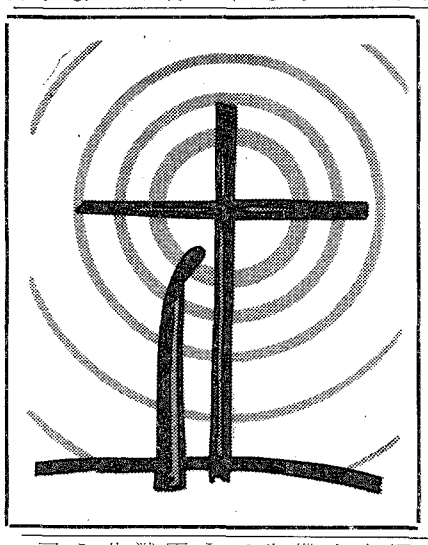
また償罪祭においては、自分の犯した罪によって神の光栄をけがしたことを解いてもらい、神と和睦することを願って、ささげられたものの一部は焼きつくし、一部は下げていただいて神殿内で食したのであった。神にささげ、神のものとされた供え物を食することによって、神との一致、和睦がなされることを願うものであった。

△　△　△

ささげられる犠牲については、いろいろの細かい規定がきめられていた。

たとえば燔祭にささげられる動物はなんであり、なにが禁ぜられているか、大祭日と平日とではどのような順序でささげるか、あるいはまたささげのお菓子の作り方にいたるまで、細かくきめられ学者たちはさらにそれを煩雑にしていった。

いつの時代でもそうであるように、余りに規定が多くなりすぎると同時に、精神を忘れ形式に流れる風が生じた。犠牲をささげることが神への礼拝と感謝、また痛悔の心のあらわれであることを見のがし、律法にもられた神のふかいお望みさえも考えなくなってしまった。そしてただ犠牲をくり返すことだけで、神への義務を果し終



カトリックへの道

なでしこ

今日こうしてカトリックの家族を構成しつつある私がふりかえって見ると、神様のお気の長いことに感嘆しただただおどろくばかりだ。私の母は静かに讃美歌をうたいながら縫い物をしていた。私がキリストへの道を歩みはじめたのは十三の頃だったろう。母がうたう新教の讃美歌に心ひかれた。その中のどこでどうして知り合ったのか、上海育ちの青年があった。日本人のお父さん、アメリカ人のお母さんの家に子供がないため、アメリカ人の女の子三人と日本人の男の子一人を育てているキリスト者一家に育った人だった。その青年は本当に信仰が厚くて私をまずある伝道所に導いた。

マクドナルドさんという英国人みたいな名前の六十近いアメリカのおばあさんと、ベーカーさんという三十二、三の六尺豊かなユーモラスな婦人ミッショナリーが日本屋敷でこの伝道所を開いていた。二人とも日本語の巧みなのには子供心に目をみはった。讃美歌はいつも四重唱でうたわれた。私とその青年がソプラノ、一般の婦人の方々はアルト、男声がテノールとバリトン、中々讃美歌の練習もきびしい。だけどたのしい何ものかがあるので一生懸命日曜毎に通った。クリスマスにも何べんか加わってその青年のボーイソプラノと私とでメロディーをリードした。

その頃、私の従姉で神田の三崎会館に英会話の勉強に行っているのがいた。その従姉は将来外交官夫人になりたいから英会話に行くという事だった。散々さそわれたあげくの果て、やっと一緒に行く事になった。行ってみると、何と英会話は表看板で沢山の夫人伝道者によって構成されている。伝道会なのでまず英語で主の祈りを唱えて始まる礼拝が毎度なされる。讃美歌も英語だ。行くところ、行くところでキリスト教に御縁があった。

その頃従妹が結核に倒れた。白百合に通っていた従妹なので毎週神父様がおいで下さって公教要理が始められた。私が見舞に行くとシェレル神父様によくお目にかかった。従妹は静かな心境の中に闘病生活はつづけられ遂に信仰に到った。

三十八才で召される迄に家族中の信仰へのきづなとなった。その従妹が受洗の記念として私に公教要理を一冊くれた。美しい御絵とともに。その頃私は公教要理の何たるかは全く分らず本棚の隅っこにしまい込んだ。八十になる伯母が受洗したときいても今のような感激はなかった。

それからずい分時は流れた。福岡に住むようになってお向いの方から日本基督教団へ導かれた。でもそれも暫くの事だった。その方の朝鮮転任で御縁は切れた。その頃近くに幼稚園が出来た。長男長女次女三女とお世話になっている中に終戦という日本史上の大転換機が訪れた。私はいつも大和魂で生き抜く覚悟でいた。大和魂なんて古くさい精神生活のようにきこえるが部分的には非常に新らしい面もあるように思う。でもあの終戦のショックで大和魂以上に世界共通の大精神がある筈と思いめぐらした挙句、おとなりにお住いの司教様のところへとび込んだ。

「司教様世界共通の大精神があると思いますんですが教えて頂きに参りました」と伺ったところ「シスター、シスター、みんなの祈りは聞かれたね。とうとう教えを聞きに来たね」とおっしゃった。

昭和二十年のことだ。

司教様が御自分で公教要理をしてあげるから少し待って下さいとおっしゃった。ところが司教様が御病気になられた。そこでマルタン神父様が公教要理をして下さることになった。昔従妹からもらった公教要理を持ち出して伺ったところ古すぎて物の役に立たなかった。

公教要理はたのしかった。伺うほどにだんだん大和魂のまちがっていない面とまちがっている面とがハッキリして来た。別の従妹が受洗した記念に聖人伝を送ってくれた。公教要理がすんでささあ洗礼というところへ来たところ、家族の者が自分達の準備が出来る迄待ってくれるということなので、その旨神父様に願った。それから何と十三年、遂に家族の者が準備が出来た。その間新教の方々から散々受洗のおさそいがあった。でも心は動かなかった。

御復活祭に私共二人が受洗した。被昇天に次男、クリスマスにお手伝いさん、翌年娘、翌々年孫三人、そして信者の嫁が来る。男の初孫が受洗する。私が十三の時母の讃美歌で初めてキリスト様の御教えを耳にしてから四十年たって初めて信仰に入った。それから何と十年に満たない中に個人の信仰から家の宗教になろうとしている。

児童福祉会への献金

大名町	五、三〇〇
浄水通	四、六〇〇
地行	四、〇〇〇
簑島	一、三一二
光ケ丘	四、一八〇
西新	三、一〇
高宮	四、六〇〇
吉塚	四、一七五
茶山	二、〇〇四
箱崎	二、二六〇
大楠	一、六三六
東田島	二、〇〇〇
古賀	三、三〇五
二日市	七、〇〇〇
久留米	二、〇〇〇
大牟田	一、四五〇
吉野	八、二〇〇
今村	三、九〇〇
本郷	一、五〇〇
小郡	二、三〇〇
呼子	二、二〇〇
馬渡	三、五〇〇
佐賀	一、四〇〇
唐津	八〇〇
鳥栖	一、三〇〇
伊万里	八〇〇
武雄	五〇〇
鹿島	一、三〇〇
多久	一、二〇〇
門司港	
門司	一三、五五〇
小倉	三、八〇〇
湯川	一七、〇〇〇
戸畑	一三、〇〇〇
若松	
天神町	
黒崎	一〇、〇〇〇
八王寺	四、〇〇〇
本城	一、〇〇〇
水巻	五、〇〇〇
直方	二、二〇〇
飯塚	一、七〇〇
田川	二、七〇〇
行橋	七、〇〇〇
新田原	七、五〇〇
手取	一八、六〇〇
島崎	五、〇〇〇
健軍	二、五〇〇
帯山	四、二〇〇
八代	七、〇〇〇
人吉	一、七〇〇
玉名	四、二〇〇
菊池	一、一〇〇
水俣	五〇〇
荒尾	一、六一五
本渡	二、〇〇〇
大江	二、六二〇
崎津	一七二、七〇四
双葉学園	七、三九〇
大濠幼稚園	七、九六六
高宮幼稚園	二四、〇〇〇
海星女子学院	一四、〇〇三
二日市幼稚園	一〇、〇〇〇
久留米信愛女学院	三九、〇一〇
〃　幼稚園	四、三五〇
吉野幼稚園	三〇、〇〇〇
明光学園	二四、〇〇〇
小倉幼稚園（二ケ所）	二八、三〇〇
戸畑天使園	一二、〇〇〇
黒崎幼稚園	二五、〇〇〇
八王寺幼稚園	五、〇〇〇
新田原修道院	二〇、〇〇〇
熊本信愛女学院	一〇、〇〇〇
琵琶崎聖母愛児園	一三、六〇〇
八代白百合学園	七、〇〇〇
人吉幼稚園	七、五四〇
隈府幼稚園	九一、〇〇〇
明治学園	一九、一九〇
西新幼稚園	七九一、一七〇
合計	

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス　英和和英辞典
コンサイス　英和和英辞典
コンサイス英英辞典
ディリーコンサイス　英和和英辞典
コンサイス　独和和独辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン　英和和英辞典
新クラウン　英和和英辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

神学校への援助求めて
一粒会・建設募金運動発足

深堀司教はこの度、司祭召命への関心を教区内に高め、福岡小神学校を後援するための二つの構想を明らかにして、教区民の寛大な協力を求める旨司祭団に発表した。

その一つ「一粒会」は、神学校への永続的な援助であって、その具体的方法は各小教区の主任司祭が各地の事情に応じて、信者と各位の意の上で決定する。普通には信者各位の継続的な祈りと寄付（物資または献金）によってなされる。

もう一つの「小神学校建設募金運動」は、二年間で福岡小神学校の改築工事の資金を募るための運動で、これを推進するために深堀司教は左のメンバーによる委員会を発足させた。

同委員会の顔ぶれ

川口康頼師（福岡小神校長）
岩永薫師（福岡小神付）
棚町正刀師（茶山主任）
平田正壽師（大名町主任）
平田勇師（西新主任）
深堀敏師（司教館付）
浦口均師（　〃　）
グリフィン師（東田島主任）
バスチ師（北九州地区長）
ブランチフィールド師（熊本地区長）
アックワビバ師（佐賀地区長）
以上一一名

同委員会は近く委員総会をひらいて募金要項を審議決定し、各小教区・修道会に伝達することになっている。

すでに始められている工事は第一期分で、工費は約二千五百万円もしローマからの援助と信者からの募金が充分に得られるならば、第二期最終工事まで完成させたい意向である。

なおこの二年間は小神学校建設という大きな事業に全教区民の協力が集中されるため、この「募金運動」と「一粒会」とは一本化され、一粒会への寄付はすべて建設資金にくり入れられる。

〔解説〕福岡小神学校は、福岡教区の第二代司教であったブルトン司教が昭和のはじめ着任以来最重要事業として手がけられたもので、大名町教会の一隅にここの声をあげ、平尾学院、泰星中学（現在の泰星高校の前身）と発展し戦後、浄水通教会の隣接地に移って、中学生は平尾中学に高校生は泰星高校に通学している。かってこの神学校に学んで現在司祭として活躍中の卒業生は日本全国に数十名に達している。

これまでの校舎は、一部がもと聖母訪問会本部、一部が戦後応急に建てられたカマボコ兵舎で、いずれもいたみがひどい上にせまく、発育盛りの神学生を収容するには余りに不適当であった。

「一粒会」については、他の多くの教区ですでに実施されているもので、これによって神学生養成への関心が信者のあいだに高まっている。実際神学校運営については援助金がローマ聖座から送られているが、もちろん全経費をまかなうには不充分である。信者のなかには真に貧しい給料のなかから倹約した分を献金している人もいる。

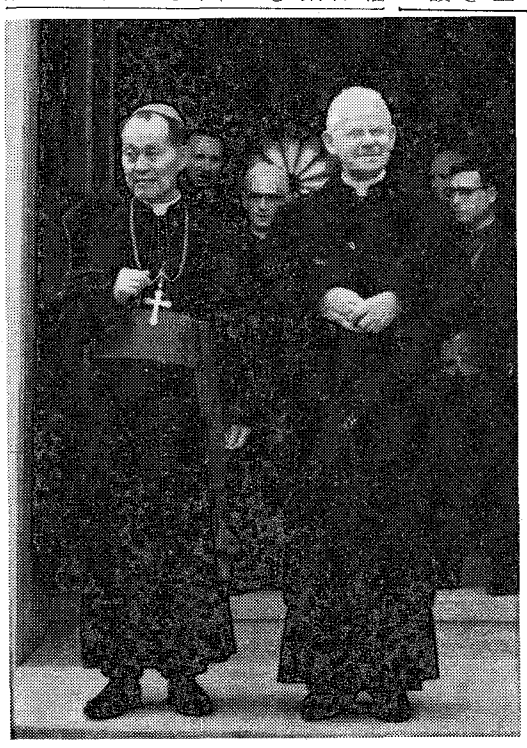
「召命祈願の日」
復活後第2の主日

パウロ六世教皇は、来る四月九日復活後第二の主日（よき牧者の主日）を、司祭職と修道生活への召命が増加するよう世界こぞって祈る「召命祈願の日」とする旨、神学校・大学聖省長官ピッツアルド枢機卿を通じて全司教に通達された。

これはすでに三年前から実施されているもので、この日教皇のご意向に従って、全教会に召命にこたえる青年男女がふえるよう祈る祈祷の使徒会の四月の一般意向も「召命に対するすべての信者の協力」となっており、これは次のように説明されている。

近年、司祭や修道者の宣教者への召命が減少する傾向がありますその理由には青少年が受ける社会の非宗教的影響と、誤った召命観とがあります。召命を感じているものは、いろいろな困難に直面します。たとえば親、教師、友人その他周囲の人々の否定的消極的態度とか、本人の心に浮かぶ種々様々の誘惑です。しかも日本では司祭や修道者になるものに対する偏見が今もなお見られます。

司祭や修道者になることは世間で生活できない人々の逃避とか、困難回避の消極的行動ではありません。神への愛と隣人への愛のために献身する積極的な勇気を要する行動です。また、このような超自然的動機と積極的態度がなければ、真の召命があるとはいえません。邦人の有能な司祭や修道者がますます増加するためには、すべての信者の協力を要します。おもな協力は召命（聖職）に関する正しい理解と青少年への普及、召命を感ずる者に対する正しい指導と激励、召命の増加とその完成とのための祈りと援助などでありますが、とりわけ青少年の霊的指導を盛んにすることであります。



カルデン枢機卿を歓迎

信徒使徒職黙想会
佐賀地区

ミラノ会司祭の司牧をうけている佐賀県下の諸教会の壮年男子信者二五名は、福岡黙想の家で三月一一日と一二日の両日特別練成をうけた。信徒使徒職の精神を高めるためのこの集いでまずカール師が、さらにアツクワビバ師と深堀司教、最後にJOCの地連指導師であるバイヨ師が講話を行なった参加者一同は沈黙のうちに徹底的な自己反省をふかめたあと、これからの実践項目について活発な意見を交換し、信徒使徒職活動にむかって積極的な第一歩をふみ出した。

予定変更

四月二三日は教区主催聖体行列を予定してありましたが本年は聖ペトロ・聖パウロの千九百年祭にあたり、この記念を荘厳に祝うよう教皇親書が発布されましたので、これに代って六月一一日に特別行事が行なわれます。

5月7日は
広報の日

カトリック広報司教委員会の小林司教は、ローマ使徒座の要望により、ご昇天と聖霊降臨の間の主日―今年は五月七日―がカトリック「広報の日」となり、特別献金をするよう通告した。

ところで、従来は五月第二主日が「移民の日」と定められて献金を行っていたが、献金の日が余り近附きすぎる恐れがあるので、昨秋の司教会議決定の線にそい、これからは「移民の日」は毎年九月第三主日にくりのべられる。

世の光
アレルヤ

最大の奇蹟、イエスの復活にはどんな意義があるのか。これは秘義である。神が永遠から定めた計画であるとしても人間には神秘な面をもった事柄なのである。

イエスが復活して彼等に現れる前の使徒達の精神状態は不安と疑いに深く迷っていた。それを破って、新しい信仰をそそぎ入れるためには、その心に嵐の様に外からおそう所の、確実な手でふれる事の出来る一つの事実がなければならなかった。

弟子達がつくり上げた救い主の姿は、ユダヤ人一般がいだきつづけて来たメシヤと同じものであった。彼等の夢見ていたのは、王であるメシヤであった。正義の王冠をいただき、父ダビドの王座にすわり、すべての敵を自分の足台にする王であった。中世に於てキリスト教徒もこれを夢みた事があった。

最後の晩餐の時も、二人の使徒が、いさましくメシヤの理想を実現しようとして、二ふりの剣をもってくる。武力によって事を片附けようとする人間のおろかさは昔も今も変りはない。

所が、復活の朝が来たとき不思議な事に、突如としてその古い理想が消えてしまった。弟子達の心に、一人の新しい人が、新しいメシヤが、そして新しい信仰が入った。復活したキリストの出現が、弟子達の心におこした最初のものは「主」という考えであった。

「主が復活してシモンにお現われになった」と、エンマウスから帰った二人の弟子に、十一人の使徒はいった。「主だ」と湖の岸でキリストをみつけたヨハネは叫んだ。「私の主よ、私の神よ」とキリストの傷のあとを見てトマスはいった。

「主よ」は復活の知らせに対する新しい信仰の、最初の答えであった。ペトロは、聖霊降臨の日の説教でおごそかにこう宣言する。

「イスラエルのすべての人は、あなた達が十字架にかけたそのイエスを、神が主とし、キリストとされた事をしかと知らねばなりません。」

ヘレニズムの文化圏で、「主」は普通、信仰団体の中で威力をもってあらわれる「神」の呼名であった。

弟子達は、復活のその日まで、イエスの人間的な面に主として目を向けていた。時々、奇跡やことばによって、キリストが、みずからをつつむ人間のヴェールをとる時だけ弟子達は彼の神秘的な面をうかがい知る事が出来た。しかし、復活したキリストを見た今となっては、神秘の面が、彼の信仰の中心となった。

彼等はもつ、イエスの人間性も、神性の立場から見る様になっていた。復活の時の経験によって彼等はより明かにイエスを知った。イエスの人間性が、今までの彼等に与えていたいろいろな印象は、神として新しい印象によって吸収されてしまったようだった。そのとき彼等は、「イエスはその人間としての実在の底に於て、主であり神である」と信じた。

教会が人間的なものに目を向けすぎ、特に聖職者が政治に関与すると必ず腐敗が生じた。

教会から地上的な教皇領が失われた時に、それとうらはらに教皇の首位権と不謬性が確立された。

しかしながら、復活の喜びの前には、十字架という心理的に長い道程があったという事をわれわれは知らなければならないのである。ルカは十字架上の出来事を次の様にのべている。

十二時頃から三時まで地上一帯薄暗くなった。

三時ごろイエスは、「エリ、エリ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「私の神よ、私の神よ、なぜ私を見捨てられたのか」という意味である。それからイエスはすべて成し遂げられたと知り、聖書を実現するために「渇く」と仰せられた。酢を満した器がそこにあったので、彼等は酢に浸した海綿を投槍につけて、イエスの口に近づけた。イエスは酢を受けて「成り終れり」といい、「父よ私の霊を御身に委ねます」と大声で叫び、そういいながら息絶え給うた。

この十字架上の言葉の答が、そのまま復活の喜びにつながるのである。

十字架の愚さをあざけるギリシャ人型、ユダヤ人型の人達に対してキリスト信者はなぜ自分達が常識的であり、理想的であり、常に明るく、生き生きとほほえんでいるのであるかを知らせなければならないのである。

「私の神」即ち私達自身の中の偶像がすべてくずれ去った時に始めて真の神、「主」との出合いが始る。

人間が「かわいて」すっからかんになるまで、自分を愛によってすりつぶした時に始めて神なる「主」を知る事が出来る。

この地上の生命を、つまづきながらも精一杯生きぬき「すべてが終った」肉体の死のかなたに私達は、神なる「主」のすばらしさを感ずる。

私達が、幸の極までいたらせる「主のふところに委ね」られる時神なる「主」は復活の秘義を全く明かにされるのである。

神なる「主」よ、私達の心にも復活の風が吹きぬけ、新しい信仰をそそぎ入れて下さい。アレルヤ

（山東龍雄）

祈禱の使徒会
（四月）

【一般意向】召命に対するすべての信者の協力

【布教意向】伝道士の養成機関

辻久子リサイタル
北九州市で

五月一三日（土）北九州市で辻久子によるバイヨリン・リサイタルがひらかれる。これはカトリック放送審組を知らせ、この番組を継続するための資金をうるためのもので、カトリック福岡司教区が主催、心のともしび運動本部の協賛による。入場券は各教会で取扱っている。

聖体礼拝（四月）

第一日曜　――
第二日曜　今村教会
第三日曜　黒崎教会
第四日曜　女子聖パウロ会
第五日曜　八代教会

4月

2日（日）　白衣の主日（復活後第一の主日）
ご復活を準備する期間は七〇日であるのに対して、ご復活から聖霊降臨までの復活節は五〇日である。準備の七〇日は、ヘブライ人がバビロンに流されて神の罰をゆるされる日を待っていた七〇年を思い出させる。復活節の五〇日は、約束の地への復帰、神殿の再建を希望させ、天国を望見させる時である。

レジオ・マリエ北九州クリアのお告げの祝日（移動）

3日（月）　聖母マリアのお告げの祝日（移動）
中世期には四季それぞれに聖母の祝日があった。春の聖母は三月二五日お告げ、夏の聖母は八月一五日被昇天、秋の聖母は九月八日ご誕生、冬の聖母は二月二日清めの祝日である。この四つが聖母の祝日としてもっとも古いものであることがわかる。

5日（水）　福音の光修道院で着衣と誓願式（司教司式）

6日（木）　聖心のウルスラ修道院で誓願式（司教司式）

9日（日）　復活後第二の主日
今日は「よい牧者の主日」ともよばれる。このたとえ話しのなかに「教会の秘義」がふくまれている。教会は羊のさくである。そこに入るための唯一の入口はキリストである。そこにいる羊の群れが教会であり、神おん自らがその牧者となられる。人間である牧者もいるが、キリストによって絶えず導かれ、養われている。このキリストは、自分の生命を羊のためにお与えになる。

レジオ・マリエ福岡セナートスのアチエスの式（司教司式）

16日（日）　復活後第三の主日
復活なさったイエスは、いま天の御父のもとに帰ろうとしておられる。イエスはただひとりで天に帰られるのではない。そのうしろにあがないをうけた全人類が一団となって従っている。キリストがまず最初にいけにえとなり、まず最初に死者のうちからよみがえり、まず最初に天の国にお入りになる。そして全教会が全く同じ道をたどるのである。

北九州地区司教の日（吉畑明治学園で）

23日（日）　復活後第四の主日
キリストはわれらに真理の霊をつかわすことをお約束になる。「真理の霊がくるとき、かれはあなたたちをあらゆる真理にみちびくであろう」。われわれは真理をおそれることがある。きびしい改革を要求するような真理がそうである。しかしわれわれはどんな真理にも目をひらき、これに従わねばならない。

大江教会で堅信

25日（火）　福音史家聖マルコの祝日　大祈願祭

29日（土）　天皇誕生日

30日（日）　復活後第五の主日
キリストは「私の名によって父に求めよ」と仰せられる。典礼の祈りの特徴はここにある。キリストは、人間と共に祈る司祭であり、いかに祈るべきかを教える教師であり、神のお心を動かすことのできる御子であられる。

労働者の使徒を養成せよ

心ゆさぶるカルデン枢機卿の熱弁

JOCの創立者ヨゼフ・カルデン枢機卿は三月一三日午前一〇時五〇分日航機で板付にお着きになった。空港では深堀司教、バイヨ師らが出迎え、直ちに福岡司教館にむかった枢機卿にはJOCアジア地区指導司祭スタニスラウス・フェルナンドス師と日本の総指導司祭杉田稔師が同行した。

司祭団による歓迎中食会のあと浄水通教会で司祭および修道者に二時間、八四才とは思えぬ若々しく力強いお声で熱弁をふるった。卿はそのなかで、次の諸点を強調された。

(一) 教会が労働者階級を失ったならば、この教会はすでにキリストの教会ではない。

(一) 男女青年の人間形成においては学校教育では不充分である。家庭と教会からの強力なバック・アップを必要とする。学校を巣立つ青年は、勤労社会にすぐに適応できるように教えうるべきである。

(一) かれらを助け導くために、同じ労働者のなかからリーダを養成すべきである。「労働者の使徒は労働者でなければならない」。

(一) 司祭は、労働者の使徒を養成するために、かれらの助言者としての限度を守るべきである。かれらにすべてのことを教えるのではなく、かれらに見る目をつくり正しく判断する力をもたせ、実行する力を強めるべきである。

(一) 労働者を孤立無援の立場においてはならない。結束一致させ、そのなかからリーダーとなる者をえらび、労働者のために働かせること。組織化されるときかれらは国際的水準で発言し、人間の品位と労働の尊厳を高めさせることができる。

(一) 労働者のために働くものは必ずしも有識者ではない。欧州には大学卒でなくJOC卒の労働大臣さえ少くない。

JOC会員らを激励

枢機卿の今回のご視察中の最大のお望みは、一人でも多くの信者とじかに語り合うことであった。このお望みにそって一三日と一四日の夜、福岡と北九州両市で「枢機卿と語る信者の会」がもたれた。

福岡では長崎のJOC会員も加わって、種々の分野の信者たちが卿のお話しをうかがい、だんらんの一時を過した。(お話しの要旨は第四面参照)

北九州市では地元をはじめ、宮崎、広島、大分、山口からも遠路をいとわず現役会員やOBが一五〇名余集って、親愛と尊敬の発露のなかで枢機卿を歓迎した。替えうた「今日はカルデン」の大合唱のあと、一人ひとりが卿と握手、新会員へのバッヂを授与してから次のように話された。

一九二九年私は千五百名のジョシストと一緒に、時の教皇ピオ一一世にお会いした。パパ様は各員に握手して職業などをお尋ねになった。私は今晩ここで教皇様の代理者として皆さんと握手した。皆さんは世界を変えるという使命を果し、各自の働きの場でキリストのみ教えをのべて欲しい。四〇年前のジョシストは今では家庭の父となり母となり、あるいは司祭・修道者となっている。小倉はJOCの揺籃の地です。JOCはここで産声をあげ全日本にひろまっていった。いま日本の工業製品が全世界にその名を知られているように、皆さんもジョシストとしての働きをもって世界の隅々にまで進出していって下さい。

なおこの夜の集会の直前、卿は小倉のもとJOC会員安部福吉氏の三番目の男子に洗礼をお授けになった。霊名はご自分の霊名と同じヨゼフ。

枢機卿の一行は一五日午後四時三〇分に曽根空港から大阪にむかうはずであったが、視界不良のため運行がとめられたので、再び福岡におもどりになり、翌一七日朝一〇時三〇分板付から出発された。

平田寛師司祭聖位に

福岡大神で綜合叙階式

三月二五日福岡サンスルピス大神学院でおこなわれた叙階式で、平田寛師(福岡教区)が司祭に片岡久司師(長崎教区)と成相明人師(鹿児島教区)が助祭に、牧山勝美師と西田邦明師(福岡教区)が副助祭にあげられ、また二名が下級聖品を、一名がトンスラをうけた。

トンスラから司祭まで全聖位がつぎつぎとさずけられる綜合叙階式は、春雨けぶる午後二時から深堀司教司式で挙行され、先輩司祭関係親族、友人ら多数が主の祭壇に近づいてゆく若い聖職者の上に神の特別のお助けを祈った。

下級聖品式が終って副助祭以上の上級聖品者が床の上に伏して諸聖人の連祷をうたう場面では、参列者の心にも叙階式のもつ重大な意味がひしひしと迫ってくる。そして遂に司祭志願者の頭上に司教はじめ全司祭の按手が無言のうちにつづけられる時、一同の感激は最高頂に達する。それはおそろしいまでに厳粛な一瞬である。永遠にメルキセデクの如き司祭がここに誕生したのである。

新司祭は聖なる権能を与えられた直後、祭壇上に司教とならんで共同執行ミサをささげ、終りに近親者に初の司祭祝福を与えた。

☆　☆　☆

新司祭ミカエル平田寛師は、昭和一六年生れ、福岡県三井郡北野町彼埜出身、三四年福岡小神卒業後八年間福岡大神学院で研学。両親の平田胸刀・ミサオのおふたりともすでに故人、姉さんと叔母さんは聖心愛子会シスター、弟さんも大神学院に在学中である。

なお晴れの初ミサは郷土の今村教会で午前六時四五分からささげられた。今村教会出身の司祭は平田師で一四人目である。

☆　☆　☆

下級受階の諸氏は左の通り

抜魔・侍者＝牧山和人(福岡)中守門・読師＝江村武志(福岡)トンスラ＝長浜聡(福岡)

(写真は今村教会で初ミサをあげた平田寛師)

久留米に女子短大

幼きイエズス会は久留米市に女子のための短期大学を設置する意向を明らかにした。同会はすでに同地に久留米信愛女学院(高幼)をもっており、来春開学をめざして準備をはじめている。

佐賀に特別老人ホーム

ロザリオの園落成

九州で三番目といわれる特別養護老人ホームが、佐賀県佐賀郡大和町に竣工した。この老人ホーム「ロザリオの園」は厚生省や地元のつよい要望にこたえて社会福祉法人聖母の騎士会(汚れなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会＝会長中山カズ子修女)が工費四、五〇〇万円(うち県から二、三五〇万円)で完工したもの。昨年五月中旬前駐日バチカン大使カーニヤ大司教が定礎式を行なって以来一〇カ月ぶりである。

三月二一日(月)午前一〇時半から深堀司教が全館を祝別したあと、落成式典にうつり佐賀副知事厚生部長、大和町長、福祉事務所長らが祝辞をのべ、中山会長が謝意をひれきした。

この第一期工事で五〇名の身寄りのない要治療老人が、七名のシスターと一〇名の看護婦さんの暖かい世話をうけることができるが、この六月には収容人員を二〇名ふやすために第二期工事をはじめるロザリオの園は、鉄筋コンクリート一階建一、一七四平方メートル(三五六坪)会館冷暖房設備をそなえている。開園は四月一日。園長はシスター岩崎定子。

聖心会・天草に支部

地元から暖い歓迎

東京、神奈川、札幌で女子教育にあたっている聖心会ではこの度はじめて九州の、しかも天草に支部を設立することにきまり、その祝賀会が三月一七日本渡市のみこころ幼稚園でひらかれた。式典には深堀司教はじめコロンバン会司祭ら約一五名のほか横山市長や幼稚園父兄らが出席して、シスターの来島に歓迎の意を表わした。

聖体降福式につづいて主任司祭兼園長のライル神父があいさつをのべたあと、深堀司教が「教育の専門家である聖心会のシスター達が天草にまでおいでになったことは望外のよろこびである。どうか親愛と期待をこめてお子さんをおあずけ下さい」と語った。

ついでこの日のために特に西下したプリジット・キョー管区長はシスター達を紹介して次のように述べた。「過去に長い歴史をもち美しい希望にみちているこの天草に私共の会の支部をもつことができたことをうれしく思います。これは深堀司教さまはじめコロンバン会の神父様方のご尽力によるものであります。ここに参りましたシスター・グータレズ(院長)は神戸生れのポルトガル人、シスター・エタイヨはスペイン人、シスター福川は東京、シスター岩井は静岡、シスター相川は長崎の出身です。それぞれ出身地は違っておりますが、これからは皆天草の人になります。私達には足りない所がありますが、どうか善意を見て下さいませ」。

式に来賓として出席した横山市長や松岡県議、安田住職らも心をこめてシスターらの来島に祝辞をのべた。

なお聖心会の修院にはこれまでの司祭館があてられ、新司祭館は建築中である。また十数年にわたり本渡で活躍したライル神父は休暇でアイルランドに帰国し、後任にはデイキン神父(コロンバン会東京本部付)が任命された。

(写真は天草支部に着任の聖心会シスター達、後列左から横山市長、安田住職、深堀司教、ライル神父)

公教要理講座

4月18日から

修道女を対象とした公教要理講座が左記の通り再開される。

開始　四月一八日から六月二七日まで毎火曜日一一回

時間　午後一時から三時半まで

場所　福岡双葉学園

講師　ラベル神父、平山神父、日置神父

各講師のテーマ

ラベル神父

一、「教会の宣教活動に関する教令」による宣教活動の段階とそのやり方

二、神の超越性とその内在性＝聖書にみる神の教育法の一例と方テケシスの関係

平山神父

一、中学生の要理教育について配慮すべき諸問題

二、堅信について

三、キリストの証人

四、使徒職への召し

五、礼拝への召し

六、現代社会の中におけるキリストの証人

七、我らの信仰

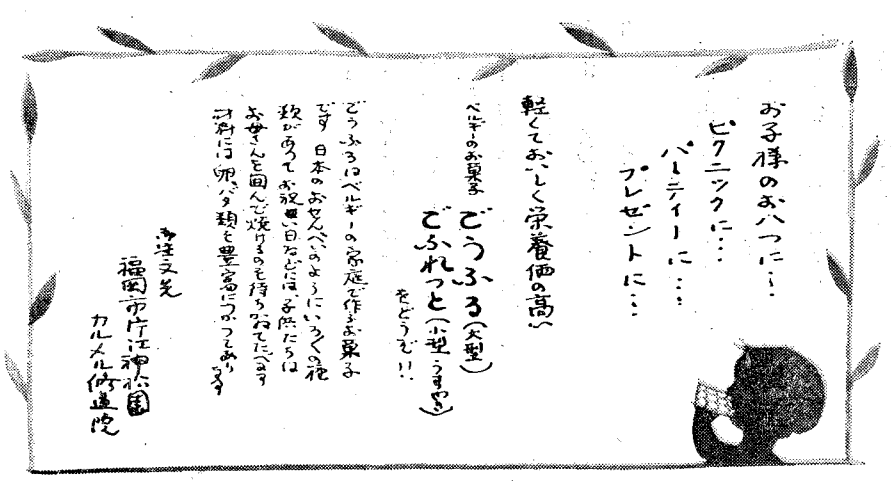
日置神父

聖マテオによる聖福音の説明

着衣式

三月一二日福岡女子カルメル修道院において男子跣足カルメル会日本管区長司式で着衣式が行なわれた。

十字架の聖ヨハネ修女(小川文子＝清水市出身)、ナザレトのマリア修女(岩崎弓子＝福岡市出身)



暁星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式
事務用・学校用家具一式
室内外装飾・一般塗装

ご用命うけたまわります

福岡市箱崎飛島町4114
電・65－7121

主日典礼へのまねび

復活後第2の主日

＝生命をあたえる牧者＝

朗読

福音　ヨハネ一〇・11―16

ファリザイ派のユダヤ人は、羊（民衆）の指導者をもって自任する。しかし羊を愛し、羊のためにつくしているか。イエズスはご自分こそ羊のまことの牧者であると言明される。実際に羊のために生命をおささげになる。この牧者と羊とのあいだには心の通いがあり、安息の牧場が約束される。

第一朗読　ペトロ前二・21―25

ペトロはここで不正な苦しみをしのんでいる下僕にはげましを与えている。家畜のように酷使され、いいことをしてもむくいられないとき、キリストが残された模範を思い出すがよい。キリストは「多くの人の罪をせおって十字架の上に死なれた」。不正な主人のもとにあっても絶望するな。あなたたちにはキリストというまことの牧者が与えられている。

聖書を通して

イスラエル民族の牧者である神は、この民をご自分の代理者である牧者たちにおゆだねになった。御子は羊のためにつくす牧者としておいでになった。

その意味

まことの牧者は、神のものであると同時に、羊たちのものでなければならない。

教会において

聖体において羊たちは、ご自分のいのちをお与えになる牧者と結ばれる。

実生活において

われらはよい牧者との親交によってこの方を知る。われらの牧者となっている人々は、よい牧者イエズスの代理者である。

❶ ヤーウェはイスラエルの牧者

イスラエル人はもともと牧畜の民であり、毎日の生活は家畜の世話にあけくれていた。この生活様式はかれらの宗教観に影響している。定住の地をもたず牧草と水を求めて旅する羊飼は、羊の群を自分の家族員のようにいつくしむ（民数二七・15―18）。ヤーウェも同じように民をいつくしみ世話して下さる。神は「イスラエルの牧者」とよばれる。

❷ イスラエルを牧する人々

ある時イスラエル人は、目に見える牧者としてひとりの王を立てて下さるよう神に願った。

預言者サムエルは、民を治め牧する方は神以外にないといって、この願いをしりぞけた（サムエル上八・6参照）が、神はサウルを主としてお与えになった。しかしかれはよい牧者ではなかった。

（一）ダヴィド・神の心にかなう王

神はイエッセの七人の子供のうちから末子ダヴィドをえらんで王とされる。かれは神を知り愛する者だったからである。

サムエル上一七・34―36朗読

ダヴィドは父親から羊の番をさせられていた。だから羊の飼育については経験があり、羊を心からかわいがり、けものがおそってくるとこれを追いはらい羊を守った。

このダヴィドが神にえらばれてイスラエルの民を守る牧者にされたのである。かれは神のお心を心として民を牧する。

あるとき自分の過ちのため国にわざわいが下るのをみて、かれは神に赦しを乞うと共に、民でなく自分だけを罰して下さいと祈る。

◇罪をおかしたのは私です。羊にすぎないこれらのものが何をしたとおっしゃるのですか。おん手は私と私の父の家にむけられますように（サムエル下二四17）。

（二）よこしまな牧者たち

しかしダヴィドのあとをついだ王たちは、神のお心からはなれて（エレミア一〇・21）民のことをかえりみず迷わせてしまった（エゼキエル三四・4―6）。

（三）預言者のおしえ

神は預言者の口をかりて、ご自分が群をまもるであろうとお告げになる。

◇主はこう仰せられる。私は自分で群を心にかけ、世話しよう（エゼキエル三四・11）

神はダヴィドのようなすぐれた牧者にご自分の羊をおまかせになる

◇私は、かれらを牧するひとりの牧者を立てる。それは私のしもべダヴィドである

❸ よい牧者イエズス

神が約束されたダヴィドのような牧者とは誰のことであろうか。今日の福音朗読

◇私はよい牧者である。

イエズスはご自分がエゼキエル預言者によって告げられた者、新しいダヴィド、よい牧者であるばかりか他に比類のない牧者であると申される。なぜであろうか。

（一）御父と羊たちを知っておられるから

◇私は羊を知っている…父が私を知り、私が父を知っているように

―御父を完全に知っておられる。永遠に神のおそばれに生きておられるから

◇私は知っている。なぜなら私はそのお方から来たもので、そのお方につかわされたから（ヨハネ七・29）

―また羊たちをよく知っておられる。われわれ一人ひとりの心の奥底まで余す所なく知っておられる

（二）羊たちに生命をお与えになる。

◇私は自分の羊のために生命をすてる。

生命をすてるとはどういう意味であろうか。

まずそれは羊をわざわいから救うために、自分がぎせいになることである。ダヴィドがけものから羊を守ったように、民の罪を一身にひきうけて、その救いのために十字架にお上りになる。

それはまたご自分の生命をわれわれにさずけることである。ご復活によってえられた新しい生命である。

◇私は羊たちに生命を与えるために来た

それはどんな生命であろうか。

◇永遠の生命とは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたがおつかわしになったイエズス・キリストを知ることです（ヨハネ一七・3）。

キリストのお与えになる生命はわれわれが御父から知られるように御父を知ること、そしてよい牧者であるイエズスを知ることである。相知るとは、相愛することである。

❹ 教会において

（一）聖体

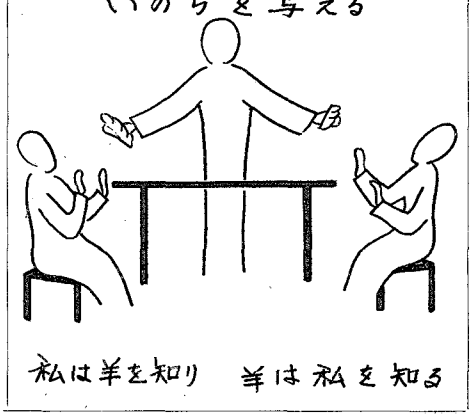
ご復活の日の夕方、主はエマウスへ行く弟子に現われ、道すがら自分についての聖書の言葉を説明になり、宿で食卓につかれたときパンをとり祝福し、それをさいてお与えになった。そのとき目がひらけてイエズスであるとわかった。

ミサにおいても同じである。牧者イエズスはご自分について人々にお話しになる。このあとおいのちをお与え下さる。ミサはキリストのご死去とご復活への感謝である。キリストを頂いたときわれわれの目はひらけ、愛の牧者を知ることができる。

（二）教会の牧者たち

イエズスはペトロを群の最高の牧者とされた。「私の羊を牧しなさい」。他の使徒も群の世話をする。今教会では全司教が教皇の権威のもとに、全体として牧者キリストの愛のみわざを果たしてゆく。そして司祭は司教の仕事を助けるものである。

教会の牧者に立てられた者はキリストの愛をもって群のためにつくす。われわれは牧者をよく知って、その世話けんそんに従うべきである（ペトロ前五・2―5）。



復活後第3の主日

＝よろこび＝

朗読

福音　ヨハネ一六・16―22

主の最後の晩さん後のお話しは三部に分れる。第一はお別れのことは、再び相まみえる日がくるから、愛を実行せよ（一三・33―一四・31）。第二は主と使徒との親交を固めること、聖霊のお助け（一五―一六）。第三はキリストの司祭的祈り（一七）。今日の福音は第二部の結尾のおことばである。

第一朗読　ペトロ前二・11―19

キリスト者は旅人である。約束の地さして歩む者である。この旅のあいだ異教の人々と交わりながら、模範的な生活をもって神の光栄をあげなければならない。そうすれば信仰を迫害する者、愚かな人々の口を封じることができる。このような旅の苦しみのあと神の訪れの日にまことのよろこびを与えられるであろう。

聖書の教えとその意味

死から復活されたキリストはわれわれにまことの喜びを約束なさった。この喜びは苦しみに対する勝利の実である。

教会において

今日でもミサのあいだ、復活のイエズスはわれわれにご自分の喜びを味わせて下さる。

実生活において

天国への旅のつらさのなかで、神はわれわれを喜びに召しておられるとの確信をつよめよう。

❶ 日々のよろこび

子供の誕生、結婚、試験合格そのほか帰郷、再会などはわれわれの日常のよろこびである。神もわれわれの仕事が実をむすび、望みがかなえられるのをごらんになってよろこばれる。誕生日を祝つのは、私がこの家族の一員として生をうけたことをよろこぶからであり、試験に合格した者は、自分の能力が高まったのを見てよろこぶのである。

人間の喜びは、多くの場合、苦しみから生れる。収穫は長い労働と汗のたまもの、進学はこれまでのつらい勉強のむくいである。

われわれには出来合の喜びというものはない。喜びをもちたければ自分から苦労を求める覚悟がいる。

しかし人間は日常生活のなかのささやかな喜び以上の、もっと完全な喜びを知るように召されているのではなかろうか。

◇主よ、私たちにおん顔の輝きを示されよ、かれらに小麦と新しいぶどう酒がみちあふれる時よりも、それよりも大きな喜びを、あなたは私の心に与えられた（詩篇四・7―8）。

人間が期待もしていなかったこの喜びも、やはり苦労と苦しみをくぐって現われる。預言者もそれが苦しむ者、勇気をなくしたと見える者に与えられると教える。

◇心のなえた人にいえ。元気をだせ、おそれるな、神はあなたたちを救いにこられる。そのとき、めくらは目をあけ、耳しいは耳をひらく（イザヤ三五・4―5）。

❷ キリストの喜び

キリストも人間としての喜びを味われたが、貧しさや労働の苦しみも経験なさった。

しかしそれよりももっと完全な喜びを知っておられた。それは普通の喜びではなくて、御父のお望みを果し、救主としての使命を果たすことから出る喜びであった。

ルカ一〇・21―24の朗読

イエズスのこの喜びは既成品ではなく、いいつくしがたいお苦しみを通して得られたものである。ご受難がなければご復活の喜びもありえない。だからご死去の前晩に喜びについてお話しになるのである。

◇もし私を愛しているなら、私が父のもとに行くのを喜んでくれるはずである（ヨハネ一四・25）。

使徒たちはこのお言葉を理解できただろうか。かれらは主の上にふりかかる不幸を予感して悲しみに沈んでいた。だから主はかれらにはっきりと仰せられる。

◇あなたたちは泣き悲しみ、この世は喜ぶだろう。そうだ、あなたたちは悲しむが、その悲しみは喜びに変るだろう（今日の福音）。

使徒たちが将来宣教にでかけてさまざまの困難に出会ったとき、この苦しみが大きな喜びの源となることを知るのである。

◇泣く人はしあわせである。かれらは慰められるから。

❸ キリスト信者の喜び

キリストは喜んで苦しみをうけられた。なぜなら苦しみを通して神のご計画が成就するから、使徒たちも、ご自分の使命を果された主に再会できることを喜んでいた。「再び私があなたたちに会うとき、あなたたちの心は喜ぶであろう」。

われわれにとっても「キリストを再び見ること」が喜びである。苦しみをへて喜びを得られたキリストを目の前にするならば、われわれも今は苦しんでいるが必ず同じ喜びを味わえると確信できるからである。ではどこでわれわれはキリストにお会いするのであろうか。

❹ 教会において

（一）聖体

今日主はミサにおいてわれわれのところにもどってこられる。使命を果たし、神の御子の光栄につつまれて御父のもとに帰えられたことをよろこびつつ、もどっておいでになる。

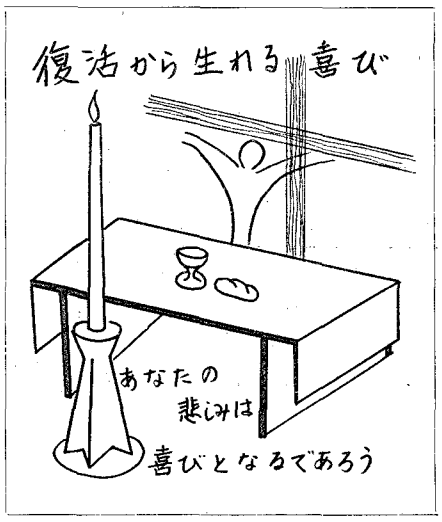
◇あなたたちは間もなく私を見るであろう。なぜなら私は父のもとにゆくから（今日の聖体拝領唱）

聖体を拝領したとき、喜びの主を見ることができる。またこのとき、主の喜びに合わせられ、主がご使命を果たされたこと、われわれも主と共に自分の使命を達成できることを知って喜びと感謝にあふれる。

（二）実生活において

われわれキリスト信者はつらい日々の生活の中でも、できるだけ明るい喜びを失わないように努めたいものである。どんなにまじめに努力しても失敗が起らないとは限らない。キリストの宣教のお働きも人目には全くの失敗とうつった。

しかしそれがまことの成功と喜びへの道だったのである。しかしこの世には偽りの喜びも多すぎる程にある。手軽るに得られる喜びは、必ずわれわれをあざむき不幸にみちびく。十字架をおそれないこと、これがまことの喜びへの道であることを忘れまい。



新学期に だまって 教える あなたの 先生!

ご入園・ご入学 ご進学おめでとうございます

―幼稚園―

えほん

ゆるしてあげましょ　ひとをゆるすことをおしえるおはなし　¥200

らざろさん　（せいしょのたとえばなし）思いやりの心をそだてるために。　¥200

―小学校低学年―

絵本　子どものイエズスさま　イエズスさまの私生活のおはなし　¥200

イエズスのおかあさん　脇田晶子著　マリアさまを中心にして子どものために書かれた聖書のおはなし　¥380

しあわせの王国　イヴォン・マキシム著　乞食の姿をして心の清い人をさがす王子さまのお話　¥250

―小学校高学年―

サレム姫　イヴォン・マキシム著　すて子のサレム姫の生涯をとおして神の愛を知らせる話　¥300

天から来た人　全国学校図書協議会選定　新約聖書物語　¥400

光を待つ人びと　旧約聖書物語　¥400

―中学生文庫―

三つの家庭　ファーラー著　谷村まち子訳　お互いが自分の権利のみを主張して、自分の義務を果たそうとしないところには、真の平和も幸福もないことを力説する。　¥320

新刊

パウロ六世教皇の最初の回勅　エクレジアム・スアム　東門陽二郎訳　現代に生きる教会、その使命を遂行するためどうしても進まねばならない三つの道（精神的な"良心"の道、道徳的な"刷新"の道、使徒的な"対話"の道）を示す。　¥150

A.M 10.00～P.M 6.00　A.M 9.00～P.M 6.30　大名町　岩田屋　六階

聖パウロ書院　セント・ポール・コーナー

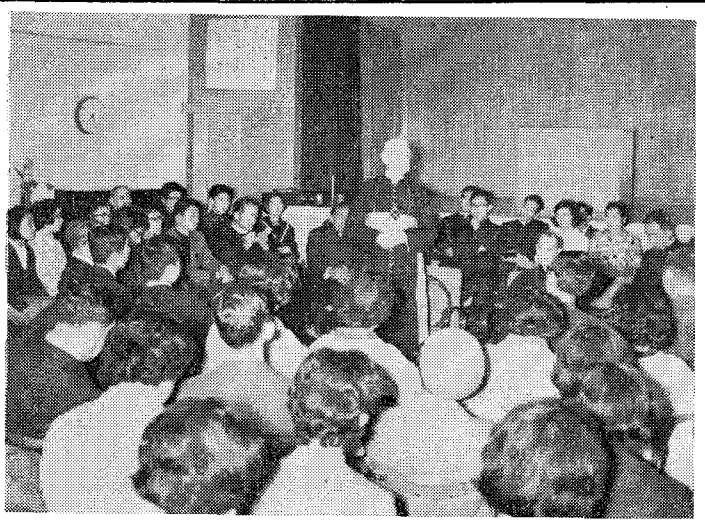
社会環境を改善せよ

キリスト者の責任を強調

カルデン枢機卿

カルデン枢機卿は、一三日夜の信者の集りで「現代世界におけるカトリック信者各自の責任と心構え」について大要つぎのようなお話をなさった。

私は今度で三回この美しく豊かな日本を訪れることができたことをうれしく思う。日本は経済、技術および生産の面で世界にぬきんでている。しかし信者の数は少ない。日本が技術、工業的に世界の先進国であるだけに皆んさん一人びとりに課せられた責任はまことに大きいものがある。この責任とは周囲の人々にキリスト教的影響をおよぼすということである。皆さんは勤めの場において説教をもってでなく生活を通して同胞を愛し、これに奉仕し国の将来の発展に寄与しなければならない。



私は八四歳ですが、まだとても若いつもりです。私は一生若い人達、とくに若い労働者を愛してきた。私自身も貧しい労働者の息子で、父母とも教育とは縁の少ないしかし熱心な信仰の持ち主であった。一四歳のとき私は父母に司祭になりたいという希望を打明けたが、ふたりとも私の望みを聞いて涙をながし、「もしお前が司祭になるのなら私はもう一度仕事に出て死ぬまで働きつづけよう」といってくれた。こうして私は神学校の勉強を始めたが、父の臨終の床で私はその手をとって「司祭になってからは一生労働者のために働きます」と誓った。

司祭になった私は世界をめぐって青年労働者のために働く者を養成し、労働者が人格を高め相愛するように教えた。二年前教皇は私を枢機卿に親任された。私はそのときに「ありがたいことですが、私が前に父にした誓いが守れなくなるのではないかと心配しています」と申し上げた。すると教皇はこう答えられた。「私があなたを枢機卿にしたのは、世界中の司教司祭、信者がもっと青年労働者に関心をもつためです」

信者は、ミサに行くだけで自分の責任を果たしたと思ってはならない。キリスト者として殺し合いや搾取をやめて、貧しい人々を尊敬し地球上の人達が互いに助け合えるように努めるべきである。

家庭の父と母は与えられた使命に大きな責任を感じるべきである。父母の協力がなければ教会には司教も司祭もいなくなるのである。

一四歳から二五歳までの青年男女の教育はむつかしく重大なものである。この教育は学校の先生だけにまかせておくべきではない。かれらが社会で働けるように労働の環境を改善し将来りっぱな家庭人となれるように配慮すべきである。

戦争は恐るべき破壊の業である。私も二度戦争を経験し捕虜生活を送り、自分の周囲で子供たちが倒れ、住む家もなくなっているのを目撃した。

私達はすべての人を尊敬しなければならない。飢えた人に食物を子供に教育の機会を与えよう、人間が家畜にもひとしい所で起居しているのを放置してはいけない。それは正義の問題であり、私達は貧困者に援助する義務がある。

病院で学校で職場で信徒使徒職に励むように、これこそ公会議の最重要事の一つであった。

全世界から教皇の召集に応じて集った司教達は、教会が現代世界に対してどのように正義と愛を実践し、その責任を果すかについて考えたのである。教皇は皆に率先してこの責任を果しておられる。教皇の関心は私達の関心でなければならない。しかし教皇は私達の代りをなさるのではない。皆さんには皆さんの責任がある。

皆さん心を合せて祈りましょう聖霊が教会を助け、何をなすべきかを悟らせて下さるように。（写真は信者にお話し中の枢機卿）

ゆずり合い

コント

自分の都合のよいものはうばい合うが、都合のわるいものはゆずり合う、これが人間の傾きのようですが、これでは人生は灰色になります。反対に失敗や不名誉はうばい合い、成功や名誉はゆずり合うようになったら、この世はなんと美しく、住みやすくなるものでしょう。

主人が帰宅早々、うっかりして玄関においてあった花びんをこわしたときでも、「まあ、ごめんなさいね。私がそんな所においていたのがいけなかったのよ」と妻がわびれば、夫だって「いや、失敗失敗、僕がもっと注意して歩けばよかったんだよ」と、互いに失敗を自分のせいにしてしまう。これが反対に「あなた、なんてことをしてくれたんです、気をつけてくれなきゃ困ります。大事な花びんを、ああもったいない」とでもいえば、夫は夫で「お前がこんな所においておくからだよ」と責任のなすり合い。こうなると必然的にけんかは免れないでしょう。

失敗は自分のもの、成功はひとのものと思うことができたら、世の中に争いは起るまいものを。

ある教会に、とても信者思いの熱心な神父様が住んでいました。熱心さのせいか、その性格のはげしいこと、気短かで曲ったことの大きらいな、いわゆる頑固一徹、まさにひなをかかえて敵にむかう雌鳥を思わせるような神父様でした。

その教会にはまた頑固さという点でこの司祭に輪をかけたようなしかも熱心で司祭思いの信者が住んでいました。とにかく負けるのが嫌いで、神父様よりも三つ年下で、いつまでたっても年上になれないのがくやしいという人ですから、頑固もの二人が会えば、いつでもけんかになってしまうのも当然といえるでしょう。ところがそのけんかというのが至って珍妙で人にはどうしても理解に苦しむようなことばかりなのです。

ある日この頑固信者が求道者をひとり教会につれて来ました。

「神父さま、あんたが布教しないでなまけているから、この人をつれてきたよ。あんたにまかせるのは心配だけど、教会でぼかんとしているより、公教要理でも教えている方が、自分のためになるでしょう」。

そういいながら司祭の顔色が変るのを期待しているが、なかなかそうはいきません。

「またお前が余計なことをしてくれた。この忙しいのに仕事がふえたじゃないか。自分の手に負えなくなったから、わしの所にもってきて肩の荷をおろしたつもりなんだろう。そうはさせないぞ。この人が信者になるかならぬかは、あくまでお前の責任だからな。祈りや犠牲までも免除されたと思ったら大間違いだよ」。

二人のこんなやりとりをはじめて聞いて、求道者は目を丸くしておどろきましたが、司祭と信者のあいだに流れるなんとなく温いものを見抜くのに、それほど時間はかかりませんでした。

それから程なくして洗礼式があげられました。感激に胸つまらせた新信者が司祭にむかってふかぶかと頭を下げようとすると、司祭はもっての外だという顔をして、代父になったあの信者の方を指さしながら「礼をいうならあっちにいいなさい。あなたが信者になれたのは、あの人のおかげですよ」といえば、いつものくせがまたもや出てきて

「いや、そうじゃない、神父さまの熱心のおかげですから」

「そうじゃないよ、お前のせいだよ」

「いや、ちがいますよ」

「お前はどうして、いちいちわしにさからうんだね」「あなたは、なんでもひとのせいにしてしまう」

「お前がはじめにこの人をつれてきたんじゃないか。自分が誘惑したんだったら、最後まで責任をとりなさい」

こうなると、何がなんだかわからない。

「自分でうまい具合に丸めこんだのは棚にあげて、神父というのはだいたいするがしこい」

だんだん語調があらくなる。この二人にとっては、すべてがけんかの種になるらしい。しかし争っているのがいかにも楽しそうなのだから、何をかいわんやである。

この信者は会う人ごとにこの司祭の悪口をいうのが楽しみらしいのですが、聞いている人がうっかり相づちでも打とうものなら、いきなり鉄拳がとんでくるのを覚悟しなければなりません。司祭の悪口をいう権利があるのは自分だけだと思っているんですから。

神父様の方でも、仕事につかれたあとなどは、聖体訪問にきたかれをつかまえて、どなりつけるのが何よりの疲労回復になるそうです。

（きりぎりす）

夏みかん

なてしこ

狭い中庭に二〇年位前にうえた夏みかんの木が一本ある。家の歴史のうつりかわりと共にあっちにうえられたりこっちにうえられたり随分迷惑している事と思われる。

それにもかかわらず、あまり日も当らない中庭に年々育ち年々実の数もふえる。主人は息子の生れる度、娘の生れる度に果樹を一本づつ植えた。昔の様に先祖代々同じ土地に住む時代ならとも角、今の様に二年、三年で引越しする世の中には、記念として木を植えるのはどんなものだろうか、そんな事を考え乍ら庭を眺めているとこの木々に若し心があるものなら、どんなことを考えている事だろうなどと尋ねても見たくなる。

木にも心があるんだろうか、今年は実に夏みかんが沢山なった。おどろくほどなった。

「黄色くなったらあげるから、今はとらないのよ」と孫に一生懸命青い実をとるのをとめた。そして幸いにもその実は殆んど黄色くなった。中庭だから颱風にも影響されないのだろう。みんなでよろこんで眺めている中に二月に入った珍らしく大雨が降った。雪が降った。朝雨戸をあけると黄金の玉を散らした様にしめった土にまた白い雪の上に大玉の夏みかんがころがっている。こんなに落ちてまあとみんなで驚いた。雨のため、雪のため落ちて数が減って行く。荷が勝ちすぎたのだろうかと、木に対して気の毒な思いもする。嫁も嫁も、少しちょうだい、湯どうふに使うからとか、ちりに使うからとみんなよろこんで持ってかえる。次男などまたすっぱいのに男性的な味が魅力だと喜んでかぶりついている。

晩春つぼみを見せ初夏にはすばらしい甘いかおりの白い花をみせてくれる夏みかん「君よ知るや南の国」の甘ずっぱいメロディーが浮ぶ様なかおりだ。開げ放った茶の間に吹き込む風にうっとりする日もある。小指の先位の青い実が見えはじめると私達は来春のみのりの日をえがく。そんな日があって今の寒さに雨に雪に実がぽとんぽとんと落ちて行く、結構みんなそれなりに落ちみかんをたのしんではいるが、あのほの甘いうまさまでこぎつけられる実はいくつある事だろう。

明日は分らない、どの実が落ちるのか。そんな事を考えているとふっと心が暗くなった。幼稚園のいたいけな坊やが、突然行方不明になった事件だった。十七日もたって、お父様の手で水死された遺体が見出された。人間の浅はかな心ではなぜこんな小さい魂を早く天国に召されたのか、不思議でたまらない。

でも人間では計り知られない英智によって計られたことが沢山ある。とんでもない時になって、ああそうだったのか、と納得されることが多い。目前の現象で一喜一憂する事はやめよう。すべてを天主様におまかせして。

グワム島慰霊塔建設献金

（3月5日）

名	町	円
大浄地籠	水巻	一〇、二一〇
茶	通	二、八〇〇
西	行	三、一〇〇
大	島	一、三六三
高	山	二、二五〇
光	新	四、八三八
稲	楠	三、八六五
東	宮	一、二八五
田	丘	八一〇
ケ	崎	
古	島	二、三八八
二	賀	一〇、〇〇〇
日	市	
今	村	九〇〇
本	郷	七、二〇〇
小	郡	
久留米		
大牟田		二、〇〇〇
吉野		四、三七〇
呼子		三、〇〇〇
馬渡島		二、五〇〇
佐賀		三、〇〇〇
唐津		一、四〇〇
鳥栖		
伊万里		二、一五〇
武雄		五二〇
麗島		五〇〇
多久		二、九〇〇
門司港		三、三〇〇
門司		二、五〇〇
小倉		一七、四〇〇
湯川		五、〇〇〇
戸畑		一、〇〇〇
若松		二、〇〇〇
天神		
黒崎		七、〇〇〇
八王寺		
本城		
水巻		一、〇〇〇
直方		一、二〇〇
飯塚		一、〇〇〇
田川		一、五〇〇
行橋		
新田原		八、二〇〇
手取		
島崎		一八、二〇〇
健軍		三、〇〇〇
帯山		二、五〇〇
八代		一、五〇〇
人吉		二、三〇〇
水俣		一、〇〇〇
玉名		一、〇九〇
隈府		六、〇〇〇
荒尾		
本渡		八五〇
大江		一、八三〇
崎津		一、五〇〇
福岡幼稚園		一、二五〇
高宮幼稚園		一、二四一
二日市幼稚園		一、〇二一
今村聖母園		四、二一〇
人吉修道院		二、〇〇〇
計		一九三、九四一

推せん図書

「英霊の絶叫」

玉砕島アンガウル

船坂弘著　文芸春秋刊

深堀司教推せんのことば

「本書は戦争を手段とした平和のために如何に数多くの尊い生命が失われ、悲惨であったかを、今は声なき戦友に替って訴える「平和」への直訴状であり、真の平和は「愛」の手段以外にないことを本書から読みとって頂きたい。」

この本の純益はグワム島の慰霊塔建設基金にあてられます。

（定価三六〇円）

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和和英辞典
コンサイス和英英和辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス英和和英辞典
コンサイス独和和独辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン英和和英辞典
新クラウン英和和英辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価一部　十五円

司祭召し出しと神学校援助について

＝福岡司教教書＝

邦人司祭養成の責任を自覚せよ

福岡教区の愛する信者みなさまに

イエスス様は町や村をめぐり、福音を告げておられたとき、多くの人が牧者のいない羊のようになっているのをごらんになって、弟子達にむかい「刈り入れは多いけれども、働く人は少い。だから刈り入れ主に、働く人をふやして下さるように願いなさい」と仰せられました。

みなさん、現代のカトリック教会にとっての大きな心配の一つは司祭の数の不足であります。日本のような布教国だけでなく、世界中いたる所で働き手が少いために教会の使命達成に重大な支障をきたしておりますが、なかでも司祭の数が少なすぎることが、大きな問題になっているのであります。

神は、多くの信者のなかから司祭になるものをおえらびになります。神のお召しがなければ、誰も司祭になることはできませんが、一方、そのお召しはあってもこれに心よく応じる者がいなければ、司祭は生まれません。

ですから私達は、神が教会に司祭の数をふやして下さるように祈る義務があります。神が青少年の心に司祭になりたいとのあこがれをわかせて下さるように、そしてこれに答えてキリスト様の救いのみわざの直接の協力者となる人がふえるようにお祈り致しましょう。子供をおもちのご両親は、幼なく純なかれらの心を、崇高な司祭職にむけるように心掛けてまいりましょう。

教会は常に司祭への召し出しがふえるように祈っておりますが、教皇さまは近年とくに司祭志願者の数が減少しているのをご心配になって、信者の祈りと召命への関心をつよく求めておられますが、四年前から毎年特別の日をきめて、これを「召命祈願の日」となさっておられます。今年は四月九日すなわち復活後第二の日曜日がそれにあたっております。

みなさんは、教皇さまの呼びかけに忠実に答えて、わが国にも司祭が増加するよう祈って下さることと確信いたしますが、私は今日福岡教区の司教としてみなさんに特別のお願いを致したいのであります。

それは福岡教区の神学生のために「一粒会」という組織を発足させると同時に、教区の小神学校の改築工事のための「募金運動」をはじめることであります。

「一粒会」というのは、神学生養成の援助のために、文字通り小さなお祈りと犠牲、そして自発的な献金を永続的に持ちよることであります。

もう一つ「小神学校建設募金運動」の方は、今から二年間で、建築に要する資金を、全教区をあげて集めることであります。

現在の小神学校は、もともと神学校として建てられたものでない上に、建物が古くなすぎ、これ以上、神学生の養成の場として使用することができない状態であります。

従って私は思い切って教区のみなさんの莫大なご協力を仰ぐこととし、新建築の着手にふみ切ったわけであります。

神学生養成のためには、ローマ聖座から毎年大きな援助が送られております。これがなければ、教区だけで神学校を維持することはとうてい不可能であります。しかし私達はいつまでもこれに頼って自分の方から形ばかりの助けで事足れりと思ってはなりません。日本の信者として日本人司祭の養成のために果たすべき責任を自覚して、一層の奮発をもやすべきではないでしょか。

ですからいま開始されている第一期工事の建築費捻出のために、司祭団はじめ修道会、教会信者各位のお祈りと共に、積極的なご援助をお願い致します。

なおこの募金運動にみなさんのお助けを集中するために、一粒会への献金も当分は建築費の方にくり入れるつもりですからご諒承下さい。

私はこのような神学校援助の具体的行動を通して、教区のなかに司祭召命への関心がたかまり、りっぱな神学生、将来の司祭が生れることを大いに期待しています。

最後に、みなさまのご協力とご援助に感謝しつつ、司教掩視をおくります。

一九六七年四月一日

福岡司教　ドミニコ　深堀仙右エ門

貧困と飢えをなくそう

教皇回勅「人類の進歩について」

パウロ六世教皇は三月二八日、「ポプロールム・プログレシオ」（人類の進歩について）と題する回勅を発表し、キリスト信者だけでなくすべての善意の人々が、世界における悲惨、貧困と饑餓をなくすため団結し、全世界的な計画を進めるよう訴えた。回勅は、序文のほか二部に分かれ、第一部が個人としての人間の全き進歩について、第二部は人類全体の連帯進歩について、となっており、最後にカトリック者、政治家らへの呼びかけがなされている。

回勅の主な内容はつぎの通り。

一、私有財産はだれにとっても絶対、無条件の権利ではない。だれも他の人たちが生活必需品さえなくて困っているときに、自分が必要としない物を独占することは許されない。

一、もしある地主の所有地が広大で利用されていなかったり、利用方法がまずいため、または人々の苦難の種となったり、国家の利益をそこなったりするゆえに全般の繁栄を妨げるならば、ときには共同の利益のためにこれらの土地を収用することが必要となる。

一、工業の導入は経済成長と人間進歩のために必要である。しかし無制限の自由主義は独裁主義を生むものである。

一、私は、すべての善意の人々が団結して世界の悲惨な状態を終らせるよう努力するよう訴える。富める国は貧しい国々にいっそうの援助を与えなければならない。

一、革命は破壊的なものであり革命がどうしても避けられない場合以外は非難されねばならない。一方改革は不正と戦い、これを克服するためになされねばならない。

具体的な提案

一、現在、兵器のために使われている資金の一部で、世界の貧困を救うための世界的な基金制度の設立。

一、貧しい人々を守るための種々の援助計画の再組織の検討

一、債務、債権者のいずれの側にも大きな負担とならないよう金利および借款返済制度の改定。

一、物価規制、生産の保証、新産業援助、および競争的市場を廃止することなく、世界自由貿易の管理の確立。

人口問題にも言及

回勅の第37項は人口問題に言及してつぎのように述べている。

「急進的な手段で人口の増加を阻止しようとする誘惑は大きい。公権は、与えられた権限の範囲内で、適切な知識を広め、適当な措置をとることによって、市民生活に介入することができる。しかしこの措置は道徳律にかなったものでなければならず、夫婦の正当な自由を尊重しなければならない。結婚と生産の不可侵の権利がなくなれば、人間の尊厳は存在しなくなってしまう。

子どもの数は、最終的には両親があらゆる事情を考慮し、神の前に、自分自身の前に、すでに生れている子どもの前に、そして社会の前に責任をとりつつ、良心の命令に従って決定すべきである。そしてこの良心は正しく解釈された神の掟に従い、また神への信頼に支えられていなければならない」

に関係なく不変である。しかし人間社会はめまぐるしく変転しているし、道徳律が適用される環境も刻々と変化している。だからこの新回勅で教皇は、人類の完全な進歩という事実を目の前にして、人間が調和のとれたすばらしい進歩に達するために払うべき努力に対し、道徳的教えの新しい適用ととくに強調すべき点を、指摘しておられるのである。

○……○

私有権が人間の不可譲の権利であることは、レオ一三世も教えているし、富んでいる者が余分の物を共同体の善のために使う道徳的義務があることは、ピオ一一世も述べている通りである。パウロ教皇はさらに進んでこの義務は富んでいる個人にと同様に富める国にも課せられている、なぜなら国家も道徳律に従うべきものであり、道徳律の無視は国家におそるべき罰をもたらすであろうからである国家の上にも神の裁きはあると教えている。

○……○

教皇は、資本主義の現代の発展のある面を非難している。利潤を経済発展の主要な目的とし、競争を経済の最高の目的としているからである。

教皇は家庭の権利を擁護しているが、個人の正当な権利を犠牲にしてまで家庭を重視することは、ゆき過ぎであると述べている。

○……○

新回勅は二万語におよぶ非常に長いものであるが、内容を一点にしぼるとすれば、それは人類全体の完全な発展ということ、すなわち「どの民族、国民も政治的自由だけでなく、その上に人間の品位にふさわしい、自主的な経済的、社会的実力を増し加えて、真に人間らしい発展を確保し、国際関係において自国民が占めるべき正当な地位を得ること」、そのために富める国は低開発国を援助して、全人類が調和のある進歩に達するように努力する緊急な課題があるということである。

○……○

この教皇の呼びかけに効果が期待できるであろうか。荒野の叫び声にすぎないのではないか、

教皇ご自身は、この呼びかけが決してユートピックなものではないと断言しておられる。世界はすでに自分の希望している方向に動き出している、国家も個人もこれまでに多くのことをなしてきている。ただ、なすべきことはまだまだ残っている。多くの富が低開発国に提供されもしている。ただ不幸にして賢明な手段がとられなかったために、無駄になっている分が多い。与える側が自分の利害にとらわれすぎて、受ける側が実際に何を必要としているかに十分の考慮を払っていないのである。工業と農業にどの割合で重点をおくかがよく検討されていない。

古い文化的な遺産を保持しながら現代化への必要な変容をなしとげるためには、デリケートな調整と緩慢な変化が要求される。

ファチマの聖母出現50周年
（1917～1967）

解説

国家も道徳に従う義務

全人類が調和ある進歩へ

パウロ六世教皇がこの度発表された回勅は八〇年前レオ一三世教皇にはじまった「社会問題に関する回勅シリーズ」の一冨である。これ以上にまた新しい環をなすものである。その主なものを挙げると、

レオ一三世
労働者の境遇について（一八九一年）

ピオ一一世
社会秩序の再建について（一九三一年）

ヨハネ二三世
社会問題の最近の発展（一九六一年）

地上の平和（一九六三年）

この他にピオ一二世は回勅の形式はとらずに、ラジオ・メッセージのなかで社会問題にふれている。

これまでに教会が社会問題について明らかにした教えは非常に豊富である。これ以上にまた新しいことをつけ加える必要があるのであろうか、同じ内容のことを言葉を変えてくり返えすにすぎないのではなかろうか、そう考えている人も少なくない。パウロ六世教皇のこの度の回勅には何か特殊のものがあるのであろうか。

○……○

教会の道徳的教えの根本は時代

5月

聖マリアの月

1日（月）勤労者聖ヨセフの祝日
われわれが日々果している仕事は、どんなものであれ、世界をお造りになった神のお働きへの協力であり、神のお始めになったことを完成するものである。あるいはまた、神からいただいた能力を使い発展させることは、与え主である神への賛美である。
カルメル修道院で誓願式

3日（水）憲法発布記念日

4日（木）わが主昇天の大祝日（守るべき祝日）
キリストは、われわれ人間のひとりとして天国にお入りになった。それはわれわれにも同じ資格が与えられたことを意味するだから今日のキリストの光栄は、われわれの喜びであり、勝利であり、希望である。

5日（金）こどもの日（小斎なし）
JOC全国委員会（司教臨席）
今日から聖霊降臨祭準備の九日間の祈り

7日（日）昇天後の主日　広報の日
今日聖ペトロはミサのなかで、われわれ信者の世間における生理原理を教えている。神からのお恵みをもって他人に奉仕すること。受けるお恵みは各人ちがっているから、果すべき役割も決して一様ではない。しかし結局は生活をもってキリストを証明し、神に光栄を帰することである。

13日（土）ファチマの聖母マリアご出現五〇周年

14日（日）聖霊降臨の大祝日
聖霊は、われわれの心に始められた神のお働きを完成なさる。洗礼によって神の子となった者を、信仰と勇気にみちた一人前の信者になさる。聖霊は燃え上る信仰と愛の力の源泉であられる。

17日（水）―26日（金）東京で全国司教会議

21日（日）三位一体の祝日
神は、われわれの救いのために、御子と聖霊をおつかわしになる。「時が満ちて、神は御子をおつかわしになった…それはわれわれを養子にするためであった。そして神は、霊をわれわれの心におくられた」（ガラチア四・4―6）。だからキリスト信者の生活は、本質的に三位の神のみわざである。

25日（木）聖体の祝日
「聖体のたまものは、花婿であるキリストから教会に、大きな愛のしるしとして贈られたものである」。「聖体は潔め、かつ強める生命の源泉であって、これによってわれわれは、もはや自分自身のためでなく、神のために生き、相互に愛をもって結ばれるようになる」（パウロ六世教皇の回勅より）。

28日（日）聖霊降臨後第二の主日
キリストの聖体は、いけにえとしてささげられ、食物として与えられる。キリストと共にいけにえになる覚悟がない者は、キリストを食する資格もないのではなかろうか。
深堀司教祝聖記念日

31日（水）天地の元后なる聖母マリアの祝日

祈禱の使徒会（五月）

【一般意向】毎月のミサ聖祭への参加
【布教意向】布教における芸術と文化

第一日曜　久留米教会
第二日曜　聖心のウルスラ会
第三日曜　天神町教会
第四日曜　恵愛園
カノッサ会
熊本天使園

聖体礼拝（五月）

第一日曜　久留米教会
第二日曜　聖心のウルスラ会
第三日曜　天神町教会
第四日曜　恵愛園
カノッサ会
熊本天使園

聖ペトロ・聖パウロ殉教1900年祭

信仰をかため　再確認するよう

福岡で荘厳ミサと信徒大会

深堀司教は、パウロ六世教皇の要請に従い、使徒聖ペトロ聖パウロの殉教千九百年祭を、本教区において荘厳に祝うことを決定された。

二月二二日付の教皇親書によると、今年の六月二九日から一年間がその記念とされ、全世界の信者が信仰を荘厳に宣言し再確認するよう、従ってこの年を「信仰の年」とするよう勧められている。

教皇はこの教書のなかで、この記念祭の主な目標の一つが「世界に神への信仰感覚の再興」にあると指摘しておられる。

「存知の通り、現代世界の進歩は、外的事物の支配によるすばらしい征服へと進んでおり、獲得した知識の増大をほこりにしているが、神を忘れ否定する方向へ傾いている。宗教的頽廃がもたらす論理、道徳、社会各方面の不均衡に苦しんでいる人間は、荒れ狂う欲望と、静まることのない苦悩になやまされるものだと諦めている。神のいない所には、存在の窮極の理由はなく、人間世界が必要とする明白な道徳律もない。

もう一つの目標は「教会をその内部からの危険から守ること」であるといわれている。教会から権威をもって教えられた真理を疑いまたは歪めるような個人的な意見が横行し、公会議の真の精神を勝手に変え、教会の教職の指導をうとんじる風潮が、教会を内部から再している。

このような情勢において「聖ペトロ・聖パウロの殉教記念祭典は神の子イエズス、キリストへの信仰、その啓示と、救いをもたらす救世への信仰を、集団的にまた個人的に再確認するための、もっともよい機会であり、効果的な刺戟を提供するものである」。

福岡教区の行事

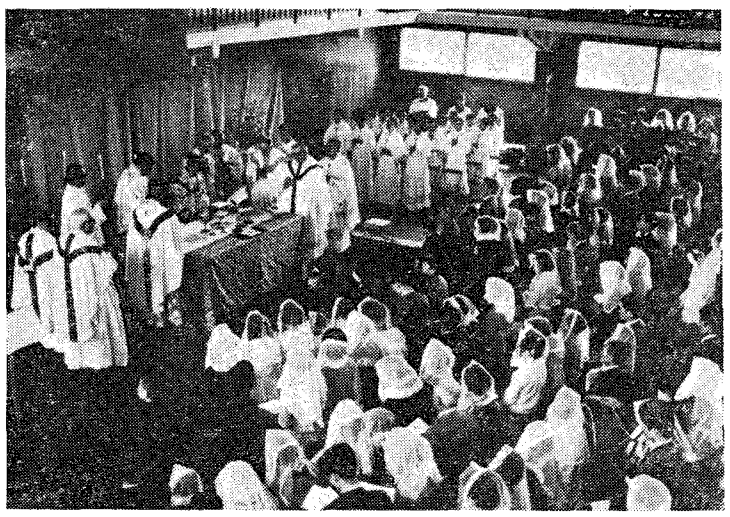
本教区では、六月二九日前後が梅雨期にあたるため、記念祭を約三週間早めて来る六月一一日、聖霊降臨後第四の主日に、全教区からの信者の参加出席のもとに、左記の通り福岡聖業学園で挙行する。

記

午前一〇時　共同執行ミサ

午後一時―三時信徒大会

なお記念式典のスケジュールの詳細については、五月上旬に準備責任者から各教区に通達される。



北九州地区　司教の日

神の民の指導者であり羊の群の牧者である教区司教との結びをかためし、教会的精神をたかめることをめざす北九州地区合同の「司教の日」の行事が、昨年につづき盛大に挙行された。

当日は小雨ふる悪天候であったが、一五〇〇名近い信者が「一つに集って約束の地に進む神の民」の姿を、荘厳ミサへの参加のなかに見事にあらわした。会場にあてられた戸畑明治学園体育館は定刻でほぼ一杯になり、一〇時二〇分バスチ師ら一一名の各地主任司祭が司教をかこんで共同ミサをささげた。トクベフ師が福音朗読のあと説教をのべ、信者の手によって祭壇にささげ物がそなえられた。

ミサ後戸畑教会の村松氏の司会で司教歓迎会につづき、まず地区長バスチ師が全参加者を代表して感謝をのべ一致と従順の意を披瀝し、信者から霊的花束と献金を奉呈、小学校六年の林君が福岡の神学校の建設に心から協力しますと誓いの言葉をのべ、最後に司教が教会の権威者への従順の意味について説教された。

この式典のためには地区の信者たちが司祭と密接に協力して準備を進め、各教会の代表が司教・司祭らと会食した。

最低一口50円

神学校募金委で決定

神学校建設募金委員会は三月二八日午後二時から深堀司教・出席のもとに初の会合をひらき、募金額の分担などを審議して、つぎの通り決定した。

❶、募金目標額は第一期工事費二四三七万円

❷、募金期間は2カ年

❸、教会維持費を出している信者世帯から、毎月最低一口五〇円の拠金で七〇〇万円

❹、教区司祭団から二四〇万円（一人あたり毎月千円）

❺、女子修道会からは事業の純益の五%以上（目標額は五〇〇万円）

❻、司教直轄の事業から、純益の10%以上

❼、本年四月より募金を開始

❽、委員のうちから浦口均師に会計を、深堀敏師に書記を一任

❾、会計への送金にはこのための振替を利用のこと。

口座番号　福岡一三五七〇

加入者名　神学校建設募金委員会

熊本でSVP中央理事会

SVP（聖ヴィンセンシオ・アーパウロ会）福岡中央理事会は去る四月九日、熊本手取教会で総会をひらいた。水野手取協議会長の開会の祈りと挨拶のあとダウ師の訓話、会員紹介につづいてSVP日本全国理で問題とされている「離郷者の処置」について具体的な討議を行なった。出席者は平田会長以下三六名（宮崎協議会より二名オブザーバーとして参加）。次回は九月中旬今村協議会でひらく。

司祭職をめざして

小神新入生12名

司祭職をめざして福岡小神学校の門をたたいた新入生一二名の氏名ならびに出身教会は左のとおり。

福岡教区

山中敏和、鹿山末男（大名町）中垣徹彦（茶山）竹崎雅之（今村）平田勇二（太郷）白浜（小倉）宮崎篤（荒尾）

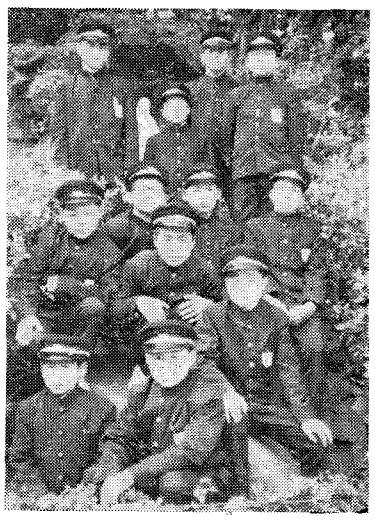
大分教区　田中良一（南宮崎）

広島教区　赤窄栄一（広島）久保敬二（彦島）

ドミニコ会　北川彰信（松山）

アトムメント会　大石和雄（平戸・宝亀）

（写真は小神新入生）



聖母への誓い新たに

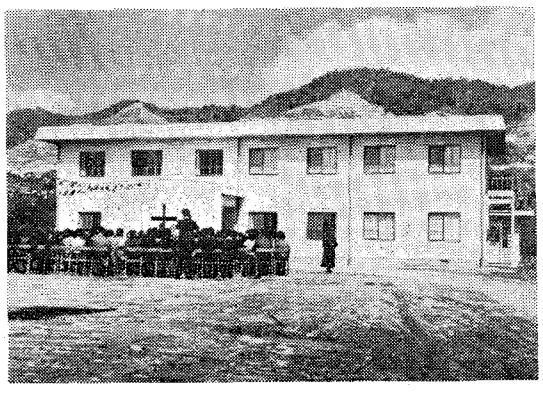
レヂオのアチエス

レヂオ・マリエ福岡セナートスでは深堀司教ご臨席のもとに四月九日午後二時半より、大名町教会でアチエスの式を行なった福岡地区の一二のシニア・プレシディウムと五つのジュニア・プレシディウムの指導司祭、正会員、ら約一〇〇名が参加した。

アチエスとは、マリアの兵士であるレヂオ・マリエ会員が、聖母への誓いを新たにする年に一回の閲兵式である。式はロザリオに始まり、一人ひとりが聖母像の前にひざまずいて「我は御身のものなり」と、マリアのお心のままに働くことを誓い、聖体降福式をもって終った。そのあと司教をかこんで茶話会をひらいたが、「レヂオ会員は常に聖母への信心をふかめるように」との訓話があり、会員決心をかためて散会した。なお四月二日北九州クリアでも約四〇名の会員参加のもとに、司教のご臨席を仰いで同じアチエスを行った。

ラベル師　マニラへ

福岡大神学校教授ラベル師は、四月二三日から二九日までマニラ市で開かれるアジア地区要理教育研究週間に出席する。前回は五年前にバンコックで開かれている。



佐賀・ロザリオの園

既報＝去る3月20日祝別・落成式を行なった特別養護老人ホーム＜ロザリオの園＞聖母の騎士の修道女が看護と世話にあたっている。

司祭異動

福岡地区＝大名町助任三村邦朗師（司教館付）

北九州地区＝帰国バスチ師（戸畑主任）戸畑主任デュノワィエ師（行橋主任）本部付ボンヌカズ師（帰国）若松助任三木義明師（久留米助任）新田原助任平田寛師（大神学校）

熊本地区＝帰国ライル師（太渡主任）本渡主任デイキン師（東京コロンバン会本部）マリスト学園付ニーダム師（東京コロンバン会本部付）

佐賀地区＝鳥栖主任マネルバ師（入院）ミラノ会本部アッレグリーニ師（鳥栖主任）。

北九州地区ではバスチ師の帰国中、若松主任デシャンプー師が地区長をつとめる。なお行橋主任には北海道八雲よりアインシャート師が着任予定。

移転と増築

教区の諸事業

久留米の聖テレジヤ・ドレス・メーカー専門学校（牧山藤房師校長）では、市内篠川町から日吉町の久留米教会の敷地内にあった修道院を改造して移転、新校舎は二階建三三〇平方メートル、夜間、昼間生徒数は一二〇名。これは昭和一三年青木八重子さんが市内で個人的に経営していたのを戦後教会に移管したもの、繁華街に面するので将来の発展が予測されている。

教区内の数カ所の幼稚園では入園希望者の増加のため教室を増設した。東田島、西新が二教室、小郡が一教室、大橋が遊戯室とステージなど。

誓願と着衣式

福音の光修道会福岡修練院で四月五日午後二時より深堀司教司式で誓願式と着衣式挙行。

誓願＝ヨハンナ修女（梶岡初枝―広島市祇園出身）

着衣＝ドロレス修女（岩元喜和子―島根県浜田出身）エリザベト修女（川岡俊子―山口県宇部出身）

四月六日午前九時半より聖心のウルスラ修道会大橋修道院本部で深堀司教司式で誓願式が行なわれた。

マリア・ロサンジェラ修女（千草豊子―延岡出身）マリア・インマコラタ修女（中牟田キミヨ―佐賀出身）マリア・ドロレス・ラファエラ修女（上野行子―大牟田出身）マリア・コンソラーダ・ゴレッティ修女（宮取好子―武雄出身）

出口茂四郎修士

マリア会員、フランシスコ・ザベリオ、四月一日帰天、七二歳、翌二日福岡市泰星高等学校付属聖堂で葬儀が挙行され、長崎市浦上の墓地に埋葬された。

長崎県南松浦郡玉ノ浦出身、一七歳で初誓願。

外人教師による

英語会話講座

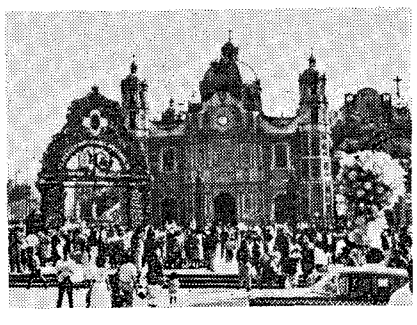
第2学期　4月26日より3カ月間

毎週水、金　午後6時、7時30分

場所：大名町教会　学費　4,500円

聖地と聖母ご出現記念
4大聖堂をぐる　世界一周巡礼団

C.E.O.財団
第4回巡礼団



1531年メキシコシティーに近い丘で聖母が3回にわたりご出現になった場所に1709年建立されたグァダルペの聖堂。

訪問地　ベイルート（レバノン）、エルサレム、ベツレヘム（ヨルダン）、ハイファ、ティベリアス、ナザレ、テルアビブ（イスラエル）、アテネ（ギリシャ）、ローマ（イタリア、ジュネーブ（スイス）、ベルリン（ドイツ）、ロンドン（イギリス）、パリ、ルルド（フランス）、マドリッド、サン・セバスチャン（スペイン）リスボン、ファチマ（ポルトガル）、メキシコシティー（メキシコ）、ニューヨーク、ロスアンジェルス、ハリウッド、ディズニーランド、サンフランシスコ、ホノルル（アメリカ）　合計　13か国25都市以上。

期間　28日間　（昭和42年7月25日～8月21日）

自己負担　¥698,000　（全航空運賃、A級ホテル代、三食の食費、傷害保険等すべてを含みますが、この額は当財団が相当額を負担しております）

申込締切　昭和42年6月5日　詳細は下記主催者へ

主催　C.E.O.財団奉仕局　東京都港区北青山3―6―16　TEL　東京408―2181・2182

主日典礼へのまねび

復活後第5の主日

＝神を知ること＝

朗読

福音　ヨハネ一六・23—30

われわれが父なる神を知れば知るほど、真の祈りができるようになる。その祈りは何かを乞い求める祈りというよりも、神の子としての新しい生き方を示すものである。父なる神がわれわれを愛しておられることを体験しているならば、この体験にもとづく祈り方があるはずである。

第一朗読　ヤコボ一・22—27

真理のことばについての前主日の朗読のつづき。キリスト信者は新しい創造の初穂である、かれは自分のうちに神のことばの種をもっている。これは成長しなければならない。ことばを実行に移すための先決はよく聴くことである。実行をともなわぬことばは空しい。

聖書を通して

神はすべての人に自分を知らせることをお望みである。

その意味

キリストがお与えになる聖霊によらなければ、真に神を知ることはできない。

教会において

聖体は、真に神を知っている者を呼び集める宴である。ここで神の知識がふかめられる。キリストが御父について明らかに語り、霊をお与えになるから。

実生活において

神を知れば知るほど、われわれはキリストの名において祈る。この知識は愛の業をともなう。

❶ **民は神を知らない**

鳥や昆虫は気候の変化をわずかのしるしで直感することができる神はイスラエルの民にご自分についてはっきりとしたしるしを示された。ところが民はそれを感じとりえないし、感じてもこれに素直に応じなかった。

◇空のこうのとりは、自分の時を知り、山鳩、つばめ、鶴は定めの季節を守って渡ってくる。それなのに私の民は、主の定めを知らない（エレミア八・7）

かれらは自分を育ていつくしみ養ってくれた方を知らない（イザヤ一・3参照）。

しかしいつかすべての者が直接に神を知り体験するであろう。これは神のお告げである（エレミア三一・31）。ではどのようにして

❷ **御子は神を知らせるために人になられた**

神はいま何かのしるしによってでなく、御子によってご自分を人々にお示しになる。

◇私を知っていたら、私の父も知るだろう。しかしあなたたちはかれを知っている。すでにかれを見たのだ。（ヨハネ一四・七）

だから神を知りたいならばキリストをまず知るべきである。ではどのようにしてキリストを知ることができるのであるか。

（一）肉によって知る

キリストについて全く表面的なことだけ知ること。これは知ってさまたげになる、あのユダヤ人達がそうであった。

使徒たちはかれらよりもふかくキリストを知っていた。しかし不完全なものであった（ヨハネ一四・9参照）。

（二）霊によって知ること

フィリッポは「主よ、私たちに父をお見せ下さい」という。かれは肉眼で御父を見、知ることができると思っているのである。キリストはお答えになる「私を見た人は父を見たのである」。

今日の福音の朗読

◇私がはっきりと、あなたたちに父のことを告げる時が来る。イエススは今弟子たちをはなれて、去っていこうとしておられるのに、どうして御父のことを明らかに語ることがおできになるのであろうか。

◇真理の霊が来るとき、かれはあなたたちをあらゆる真理にみちびくであろう（ヨハネ一六・13）。

聖霊だけが御父と御子を知り、また知らせることがおできになる

◇神の霊のほかには、誰も神のことを知ることはできない（コリント前二・11）。

だからキリストはご自分の霊＝聖霊＝によって、そのおことばを聞く耳をもっている者に、御父のことを明らかにお話しになるのである。

❸ **教会において**

（一）洗礼

われわれは聖霊によって神を知っているであろうか、洗礼によって神を知り、神を味わい感じることができるようになった。しかしこれは感覚を通しての認識とは全く別のものである、だから飢えたときに食物を欲求するように、神を喝望することは稀である。前者は感覚的で、後者は信仰によるものである。

洗礼はこの信仰、すなわち神を聖霊によって知るための特別の力を与える。

「あなたは神の教会に何を求めますか」「信仰を求めます」。司祭はエフェタとなえてキリストを知るための感覚をひらく。それは「天上の快き香りを感じ得るため」である。

（二）聖体

聖霊による知識に心をひらかれた者は、かれらだけが参加できる宴に招かれる。かれらだけがそこで与えられるものを見、味わい、ふれることができる。人間的な感覚や知恵しかもたないものにはそれが出来ないのである。かれらをここに引きつけるのは聖霊であって、感覚的な楽しみではない。

ここでキリストが御父について明らさまに語られるのを聞く。

キリストを本当に知ることによって、かれらは霊的いけにえをささげることができる。この宴席に主を見ることができる。

おん自らを食物として与えて、人々に御父を知る道をさずけになる。

（三）実生活において

＝神を知っている者は完全に祈ることができる。かれらはキリストの名において祈る。キリストはいわれる。

◇その日、あなたたちは、私の名によって乞い求めるだろう。

その時、使徒たちは聖霊をうけて神を身近かに体験する。そうすれば御子が御父を知っておられるように、使徒たちも同じように御父を知るであろう。かれらの祈りはキリストの祈りそのものになり「キリストの名に於て」祈ることになる。

＝実行を伴わない知識は空しい。

われわれが神のまことの知識を所有しているかどうかは、どうして判断できるであろうか。聖ヨハネはこう答える。

◇われわれがその掟を守るならそれによって、かれらを知っていることがわかる（ヨハネ第一、二・3—6）。

聖ヤコボも今日の第一朗読のなかで同じことを教えている。神を知り味わう者は、行動のなかにそれを現わすべきである。

三位一体の祝日

＝三位の神の生命＝

朗読

福音　マテオ二八・18—20

キリストの奥義が短かい言葉のうちに力づよく要約されている。キリストはご復活と御父から受けた叙任によって、天と地の主であられる。教会はこの主から全世界に派遣されている。そして教会は主の名において自分の使命を果す。この主は、神を信じ洗礼その他の秘跡をうける者のあいだに現存しておられる。

第一朗読　ローマ一一・33—36

これは神への賛美の祈りの形式をとっている。パウロはローマ書を通して、割礼・律法・約束などユダヤ人むけの救いの計画は二応終止符をうった。いまはイエスス・キリストへの信仰と洗礼によって万民が救われる時であると説く。そして救いのご計画にあらわれた神の英智に感嘆と賛美をささげる。

聖書の教えとその意味

われわれは父と子と聖霊のみ名において洗礼をうけた。即ち三位の神のおいのちに加えられたのである。

教会において

聖体祭儀において、三位の神のおいのちを与えられたことを御子の霊によって御父に感謝する。

実生活において

キリスト者としての生活をもって、三位の神のおいのちを証明しよう。

❶ **キリストは御父と一緒である。**

キリストはご生涯中たびたび孤独であられた。多くの敵に対してひとりで立向い、使徒たちさえもお心を理解できない。しかしいよいよ最後のときが来たとき、こう仰せられた。

◇私はひとりではなく、父がいっしょにおいでになる（ヨハネ一六・32）。

主は御父から托された業をなしとげられるのである。

ご自分をつかわされたお方と常に生きておられて、このお方のお望みをわれわれのために実現しようとなさる。

御父のお望みとは、そのご光栄をあらわすこと。

◇私はあなたが私に行わせようと思召したわざをなしとげて、この世にあなたの光栄をあらわしました（ヨハネ一七・4）。

そして御父のご光栄をあらわすとは、御父と御子の相互の愛と同じ愛をもって、われわれが御父を愛することができるようになることである。換言すれば、キリストと共にわれわれを子とすることである。

◇あなたが私を愛して下さったその愛が、かれらにもあるように（ヨハネ一七・26）。

イエススはある人々の心のなかに御父のみ業が達成されたのをごらんになって、非常によろこばれた。

◇イエススは聖霊によって、うれしさに身をふるわせ…（ルカ一〇・21）。

イエススは御父を愛しておられたから、御父のご光栄をよろこばれたのである。また「聖霊によって」というのは、聖霊は、御父と御子を結ぶ愛にて在すからであるだからイエススが実現しようとなさる御父の思召しとは「われわれの心に神の愛を注がれる聖霊」（ローマ五・5）、この聖霊を与えることである。

だから神のご計画を次のように要約することができる。

われわれを御父の子とする

御子と共に

聖霊によって

ではキリストはご生涯中にこのご計画を達成なさったのであろうか。主は、御父を知らせようとなさったその相手からぼうどく者とよばれ、死刑に処せられた、しかし勝利者として現われ、天に昇って御父の右に坐し給うた。このとき主は宣言なさった。

◇私には、天と地との一切の権力が与えられている（今日の福音）

この権力にもとづいてキリストはすべての人の上に聖霊をお与えになり、世つぎの子とされるのである。

◇キリストは天に昇り、おん父の右に坐し給い、この日おん約束の聖霊を、家督の子らの上に注ぎ給うた（聖霊降臨大祝日の序唱）。

御父の思召しは実現したのである。以後すべての人が三位の神のおいのちを受け、御父の子となり愛の霊を与えられたのである。

❷ **教会において**

（一）洗礼

ヨハネ三・1—16の朗読

イエススはニコデモの質問にお答えになる。

◇私はいう、人間は上から生れないと、神の国を見ることができない。

上から生れるとは、三位の神のおいのちを受けることである。

◇水と霊とによって生れない人は、天の国に入れない。肉から生れた人は肉、霊から生れた人は霊である。

われわれは洗礼の水を通ることによって、御父と御子の霊、聖霊を受ける、これによって三位の神のおいのちを頂き、霊の人として新しく誕生するのである。これは御父、御子、聖霊のお働きであるだからこの三位のみ名（お力）によって洗礼をさずけられるのである。

◇…われ父と子と聖霊とのみ名によって汝を洗う（洗礼の儀式のことば—今日の福音）。

（二）聖体

聖体の祭儀には、キリストによってあがなわれた「多くの兄弟たち」（ローマ八・29）すなわちすべての人達が集ってくる。しかしこの祭儀に実質的に参加できるのは、洗礼をうけ神の子となった者である。

ここでキリストは「聖霊によって、よろこびに身をふるわせながら」達成された御父のすべてのみ業について、御父にそうごんに感謝をおささげになる。

感謝をささげるのは御子おひとりではない。われわれが御子と一緒に感謝するのである。典文の祈りの前の序唱のなかで司祭は皆が一緒に感謝するように勧める。

典文の終りに、聖霊と一致して御子が御父におささげられる感謝に対し、会衆一同は大きな声で「アーメン」と答えて、これに同意を表明する。

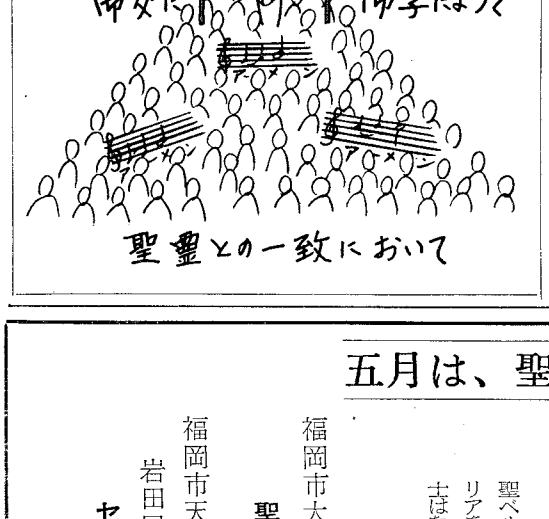
（三）実生活において

イエススと同様、われわれは決して孤立していない。孤立していない事実を生活のなかで立証すべきである。われわれは三位の神と全く親密に生きているのである。

イエススもわれわれを世界におつかわしになる。

◇あなた達は諸国に行って、万民に教えなさい。

われわれは毎日の生活のなかに派遣されて、そこで「われわれが御父を愛している」（ヨハネ一四・30）ことを世に知らせるべきである。



五月は、聖母の月★マリアに対する信心は救霊の一つのしるしなり★

現代人と聖母マリア
小林純一著　¥220
現代人はマリアと無関係ではありません。マリアは、わたしたちの目から隠れて人類のために偉大なわざを行なっている。わたしたちが聞く耳をもって聞き見る目をもって見るならば、身近かな親しみある関係となって現われてくるでしょう。

聖母マリアとともに
エ・ヌーベル著　野口光三郎訳　¥750
この本によって、あらゆる人が、マリア信心を照らし養い深めるものを、豊かに見い出すでしょう。

ルルドの出来事
志村辰弥編著　¥230
ルルドの出来事と奇跡の真相を誠実に伝えて、できるだけ多くの人びとともに、われらの母なる聖マリアを賛美することを願って書かれたもの

聖母マリアの栄光
聖アルフォソ・リゴリオ著　岳野慶作訳　¥400
聖ベルナルド以後、聖アルフォンソほどマリアを知らせ愛させるのに貢献した教会博士はない。

福岡市大名町二丁目7—3
聖パウロ書院
福岡市天神町三丁目11—1
岩田屋デパート六階
セント・ポール・コーナー

カトリック広報の日

5月7日は広報の日です

バチカン公会議の「社会広報の機関に関する教令」第18項の規定によって、カトリック「広報の日」が今年から全世界一せいに、カトリック行事の一つとしてとりあげられることになりました。そしてこの日は毎年、わが主の昇天の祝日と聖霊降臨祭との中間の主日と決定され、今年は5月7日にあたります。

出版・ラジオ・テレビ・映画

私たちは現代の生活から毎日の新聞やラジオ・テレビを除外することはできません。これはもう生活必需品です。この文明の利器によって今や人類はこれまでに知らなかった一致に達しています。広報の手段がなくなったら、私達は孤立してしまいます。

布教への強力な手段

私達は神の国を人びとにのべ伝えるために、有用な手段をなに一つおろそかにしてはなりません。とくに出版物や電波の利用は、神のご光栄の高揚のために大いに役立つはずです。

最悪の害毒ともなる

私たちのまわりには、悪い書物や雑誌がのさばり、悪魔が作ったと思われる映画もあとを絶ちません。人間の発明したものは、利用の仕方でこの上ない利器ともなれば、恐ろしい害毒ともなります。だから広報の手段は、政府の検閲とかは別として、私たちみなが責任をもって監視し浄化し、向上させるべきです。

カトリック的広報手段の育成

広報の手段の普及と発展には、多くの人手と専門家が必要ですし経済的裏付けも要求されます。いい出版物を一つ出すためにどれだけの時間と精力がついやされることか、テレビ・ラジオの製作のためにも同様です。だからこのような仕事にたずさわっている人たちに教会側から、物的・精神的援助を惜しんではなりません。

祈りと献金

5月7日広報の日には、各小教区、施設で献金をします。このお金はカトリック教会の広報機関の充実のために使われます。福岡教区では例えば、ラジオ番組心のともしびの放送の資金にあてます。また盲人のために点字を打つ人のために点字タイプの購入にあてることも考えられます。しかしこの日にとくに大切なのは、広報活動の発展のために祈ることです。

広報の日の共同祈願

教会で配布される「広報のしおり」に、この日のための共同祈願がのっています。これは広報司教委員会によって作成されたものです。ミサ中にこれを全員で誦えることになっています。

わが友に語る

山田伸一

友よ、私をいつも見、また私も君を眺めながら日々を送った友よ今日は私の机の上ではなく、せまいスーツケースの中に入ってもらうよ。いつも私を見ていてくれたが、四、五日の間はがまんしてくれ。やわらかい布で包んでやったじゃないか。外の様子は全部話してやるよ。

今私の乗っている汽車はホームをはなれようとしている。もう大声を出しても見送りの人達には聞こえないさ。防音のゆきとどいたドアーが、「あきらめろ」といわんばかりに閉じてしまっている。

みな面白い顔しているぜ。にこにこしている者、どうってことないっていた者、心から名残り惜しそうな者、がんばれと心で叫んでいる者、うらやましいな、オレも行ってみようかなという者、お前に出来るかという者。

この世で、愛する者とはなれることが耐えられない程つらいものなら、この世を去る時のことはどうだろう。いくらつらくても、その日のために、また後の世の幸福のために練習しておかなくてはならないだろうね。でも友よ、ちょっぴり悲しい、さびしい思いをしても赦してくれるかい。君だってあの〝木〟の上で、御父にさえも捨てられし思いをしたじゃいなか

友よ、いま私は口のひんまがる程ひどい冒瀆を吐いた。君のかの苦しみと、この怠け者で冷淡な私のちょっぴりのさびしさと、つらさを比べるなんて、なんと愚知らずで残酷だろう。友よ、今後いかなる苦しみに会うとも、君の私に対する愛の報いとなるなら耐えしのぼう。約束するよ。

すぐに函館の桟橋に着く。非常に残念なことだが、君をしばらくの間、はなれなくてはならない。青森まで赤帽に預けなくちゃならない。「残念なこと」とは虚飾かも知れない。本当は別に何とも感ずに、大事にすべき君をあっさりと、他人に任せているのかも知れない。

青森の桟橋までほとんど君を思い出さなかったことを告白する。友よ、実に私の一日、いや一生なんていうものはこんなものだよ。つまり、自由に任せて、好きなときに、好きなところで、好きなように君をほっぽり出す。なぜだろう私は知っている。君は私の友であり、慰問者であり、相談相手であり、指導者であり、そして私をもっとも愛してくれる者であるが、重い重い荷物を持ってくるからだよ。そして君はいう。その荷を負えと。私の心は望まない。はかりうとも君は負えの一点張りだ。

私は君の忠告に全く従わなくても、結構つまく暮してゆけそうだ友として君を失うが、より親しい友も作れそうだ、そしてその新しい友は、荷を負うなんて馬鹿らしいよ、といってくれそうだ。私の身辺に満ちあふれんばかりの倦せなものを用意してくれそうだ。

友よ、私は実にそうしたことがしばしばあったことを告白するとその後味の悪さったらありゃしない。友よ、君だけが私の友であって下さい。君だけがとこしえまで私と共に住みたいといってくれたそしてその時は、もう荷を負わなくてもいいといってくれた。

友よ、希望ある足取りで修道院の石段を昇っています。確かに、君と共に過せば重い重い荷も共についてくるでしょう。でもはっきり約束します。君もいつまでも友でありたいため、とこしえまで共に住みたいため、君と共にある重荷を負います。

君は再び机の前で私を眺めて居ります。

私と同じ望みのある人と、またこのすばらしき君を知らせるために私を使って下さい。

（フランシスコ会神学生）

緑ケ丘学園短大 延岡に開設

聖心のウルスラ修道女会では、宮崎県延岡市に緑ケ丘学園短期大学を設立（昨年九月申請、今年三月認可）、その第一回入学式と開学式を四月一四日県下知名人を招いて挙行した。深堀司教も、大分教区の平田司教に代って出席し祝辞を述べた。

同短大の教育課題は家政科（一般家政専攻）、理事長はガエターナ・フォルニ修女、初代学長はガバリエリ・クラウディア修女が就任。今回の入学生は六一名、校地は一九、八〇〇平方メートル、校舎は二、六四〇平方メートル鉄筋三階建、これに一〇〇名収容の学生寮をそなえている。

聖心のウルスラ修道女会は一五八五年イタリアで創立、日本では昭和二七年福岡にはじめて修道院を建て、三〇年に延岡市の要請にこたえて緑ケ丘学園高等学校を開設し、その後幼稚園も付設、以来一〇年短大、四年制大学設立の声が地元から高まっていた。

大学当局としては五ケ年計画にもとずき、将来は食物・被服の専攻別、保育科、文科、音楽科系列の増科をおこない、少くとも五〇〇名収容できる校舎増築設備の充足をめざしている。

全九州高校学生会

熊本でリーダー会議

昨年八月京都で全国高校学連々盟大会にあずかった時、連盟から九州で大会を開くように勧められていました。その準備の第一歩として三月三一日から四月二日までの三日間、熊本市のマリスト学園で全九州高校学生会のリーダー会議を開きました。

会議には学連のグループだけでなく、教会のレジオやロザリオ会の会員や学連に入っていない信者高校生も参加して、鹿児島、長崎宮崎、大分、熊本、北九州から八〇名のリーダー学生が集りました指導にあたって下さったのは、北九州のボネ神父様、鹿児島の丹羽神父様、長崎のアギラール神父様、マリスト学園のラバリー神父様、それに東京学連々盟の平田さんで、会場の準備はマリスト学園の高校生が、プログラムは北九州学連が引受けました。

第一日は午後六時集合、夕食後グループ紹介があり、第二日は九時から「九州の一致」についてボネ神父様から講演、午後は丹羽神父様が、「教会とリーダーの関係」について講演、第三日は午前にアギラール神父様から「呼びかけ」と題して講演がありました。

私達は、各講演のあとに六つのグループにわかれて、聞いたテーマについてセミナーをひらきました。

このセミナーで次のようなまとめと決心に達しました。

① 全九州が一致すること。高校生は、その生活において教会と結ばれている。それをあらわすために、まずお互いに機関誌を交換すること、もう一つは来年の春休みに全九州高校生大会を開くこと。

② 教会との関係

私たちは信者ですから、小教区のために働き、小教区との結びを強めること。また他の高校生との連繋をつよめ、互いに助け会い、話し合って学連を紹介すること。そのため神父様との交わりをふかめるようにする。

③ リーダーの務め

その一つ、リーダーは小教区のすべての高校生を集める。その二は、カトリック・アクションについて、公会議の考えをもって全国の他の高校生をつながりを持つこと。

④ キリストの呼びかけ

私たちは典礼によって、聖書によって、また他の人によって呼ばれているので、これからはキリストに出会うために聖書研究会にあずかること。典礼にもっと熱心にあずかること。現代における私たちのもつ問題について討議をすること。

二日間の会議は盛りたく山であったので、可成り疲れを感じたがやはり来る一年間の歩みのために必要な糧を与えられたと思います。

（北九州高校生委員会記）

○高校生黙想会

北九州高校学生会員約四〇名は三月二八日から三〇日まで、古賀教会で、日曜・ラバルタ両師の指導のもとに黙想会を行った。

テレパシー

（こなでし）

次女が嫁に行って丸二年たったこの頃得々として「パパとテレパシーよく通じるのよ、この間も電話でああ云ったらそうなったでしょう」といばっている。ふとそれでも私も昔の事を思い出した。

結婚して間もない頃主人が佐賀に出張した。三日間の出張と言う事だったが、三日たち帰りの時刻をすぎても待てど暮せど帰ってこない。これはおかしいと思ってすぐ着替えを揃え、食べ物、つまみ物などよせ集めて荷造りして、翌朝、至急発送した。よく母が生前父の演習へしていたように、上等のチョコレートも加えて。

それから三日立って帰って来た主人は、機械の故障が大きくて予定の作業が出来ず、それに手間取って予定がのびたと云う話し。一緒に行っていた人が心配して、下着もみんなよこれたし、どうしましょう、と心配そうだった。

「待っていてごらんなさい、きっと来るから」

と言っているところへ、二人分の着替えと二人分の食糧が届いたので、○○君不思議がっていたよ、と得意相だった。それは三十五年も昔の事だ。

朝、目がさめるかさめない頃、目ざましのベルが鳴る少し前、おみそ汁の具からお弁当のお菜、サンドイッチの中身迄、ヒントが浮んでくる。有難うございます。どこでどなたがテレパシーを放って下さるんだろうか。その日一日の生活が都合よく廻転する。

機械もフルに運転して歯車がすり切れると、ガタガタになる。そのガタガタになった姿が私の中風だろう。中風の中から立ち上った自分が拾い上げたものが、天からのテレパシーで生きる道だった。心を空にして祈ってその日が始まる。

マリア様からの、イエズス様からの、と云うと大げさだが、自分のちえや力でない思いがけないヒントで生きて行く今日、何と有難い毎日だろう。毎日毎日が有難い有難いの連続だ。

自分、私がと言って来た今日迄が、如何に傲慢だったか、段々とわからせて頂きながらも中々、軌道に乗り切れない。

突発的な事故が起る、自分だけの時はあわてふためいてどうしようもなくなった。いわゆる茫然自失と云うところだろう。ところがなんと、天主様はいざとなるとテレパシーを送って下さる、と言う安心感があるんであわてふためかない。いろいろの試練と云う形の突発的事故がおこるが、いくら起っても、私を信じてこの問題を課し給うたのだ、御信頼にお答えしなくてはと、心を低くして立ち上る時、適当な杖も供えられている。本当に有難い。有難いと言う事はこんな事を言うのだろう。天からのテレパシーをそのまま受け取れるすばらしいアンテナになろう。信仰のアンテナを私のからだ中にはりめぐらして、

四旬節のまっ最中、パリの霊的娘からいつでもいろんなやみを告げてくる。予言者様、私はいつパリーを去るべきでしょうか。自分で決める事は出来ない位コントンとしています、霊的ママのお考をきかして下さい。天主様、いつ霊的娘はパリーを去るべきでしょうか。いつ迄留まるべきでしょうか、お示し下さいませ。

幸いお示し下さったままを言い送ったところ、大よろこびでその通り致しましょう。実はコレコレでそれ迄は立ち去るわけには行かない実状がおこりました。やっぱり予言者様にご相談してよかったと言って来た。私も天主様にご相談してよかったと、よろこんでいる。

そうだ、本当にそうだ。でも天主様は四旬節と言うのに梅を咲かせ、スミレをにおわせ、たんぽぽをひらかせて下さる。いつくしみ深い天主様、私の心の中で登るゴルゴタの丘に十字架を背負いながらスミレを見ちゃいけない、たんぽぽをつんじゃいけないとは、おっしゃっていらっしゃらない御いつくしみに甘えさして頂き、私に課せられた十字架を背負って歩みつつ、すみれをめで、たんぽぽを愛し、天主様のお咲かせ下さった景も清く美しい地上の花、マリヤ様を讃美し奉ってあやからせて頂こう。

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 独和 和独 辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂 福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社 東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

平和祈願の巡礼

教皇 ファチマ聖母出現記念祭へ

パウロ六世教皇は五月一三日、ポルトガルのファチマに巡礼をされ、聖母御出現五〇周年の祭典に出席してミサをささげ、教会と世界の平和を祈願された。

午前六時四〇分教皇の御一行はローマ空港からポルトガル航空のキャラベル号で出発された。お伴のなかにはローマの大神学校を卒業した二人の新司祭のほか二九名の新聞記者もまじっていた。

モンテ・レアレの飛行場に到着の教皇はポルトガルの政府高官の出迎えをうけられ、ファチマまでの五〇キロの沿道では二〇〇万の群衆の歓迎にお答えになり、一二時一〇分から御出現ゆかりの地にある大聖堂の広場でミサをささげられた。そこには御出現に接した三人の子供のうちただひとりの生存者汚れなきマリア修女（カルメル会、かってのルチアで今は六〇才）も列席した。

教皇は説教のなかで、今回の巡礼の二つの意向を明らかにし、つぎのように述べられた。

◇まず第一に私は教会内部の平和のために祈りたい。公会議によって得られた内的力、広い視野、明らかな良心、緊密な協力、活動的使徒精神がこれからも保たれ増大するように。しかし教会の伝統的・合法的組織を危くするような勝手な教えによって、教会の平和が大いにそこなわれてもいる。

◇もう一つの意向、それは世界の平和である。教会が世界に対してもつ愛と奉仕の使命は、公会議以後さらに明らかになり、活発になっている。世界は地上的富の征服と知識によって巨人的な前進をしているが、しあわせでなく平穏でもない。その不安の第一原因は相互理解と平和のむつかしさにある。

◇あらゆるものは世界を兄弟的愛と一致の方にむけているようにみえる。それにも拘らず、人類の内部は恐ろしい絶えまないかっとうを起している。

◇人類の現在の状況は、二つの理由で憂つべきもの となっている。一つは致命的な軍備、もう一つは科学や技術の進歩に道徳的進歩が伴わないことである。

◇その上、人類の大部分が常に貧困と飢に苦しみ、そして自分の周囲の豊かさを目の前にして、自らの貧しさを意識させられている。このために世界は危険状態にある。だから私は神のみが与えることのできる平和の賜を平和の元后に祈求するためにここに来た。

ポルトガル政府は教皇のファチマ巡礼を機会に、特赦を発した。

聖ペトロ、聖パウロ1900年祭

6月11日の教区式典のプログラム

福岡教区では聖ペトロ・聖パウロ殉教一九〇〇年記念の特別式典を、六月一一日（日）福岡双葉学園講堂で挙行する。これは去る二月二二付の教皇親書に指摘された通り「信仰を再確認するため」行われ、あわせて使徒的精神の高揚をめざす。

式典のプログラムについては次のように決定発表された。

―・―

一、ミサ聖祭
午前一〇時三〇分
六月二九日　聖ペトロ・聖パウロの祝日のミサ
共同執行ミサ　司教および一二名の司祭による
聖歌隊＝大神学生
聖歌は個有式文を聖歌隊がうたい通常式文を全員で日本語でうたう。信仰宣言は日本語でとなえる。（当日の聖歌は印刷配布）

奉献＝共同祈願のあと教会侍者の代表がホスチアなど供物を奉献する。

※福岡市内の各教会ではこの日二番ミサは行わない。

一、昼食　一二時～一時
修道女会共催のバザーが行われる。純益は小神学校建設投資金とする。
バザー券は各教会販売中

一、信徒大会　一時～三時
福岡・筑後・北九州・佐賀熊本各地区の信徒代表が、所属地区の使徒職活動の状態と将来への方針・希望をのべる
全員で信仰宣言をうたう。

一、その他の催し
聖パウロに女子修道会の協力のもとに諸種展示会をひらく。

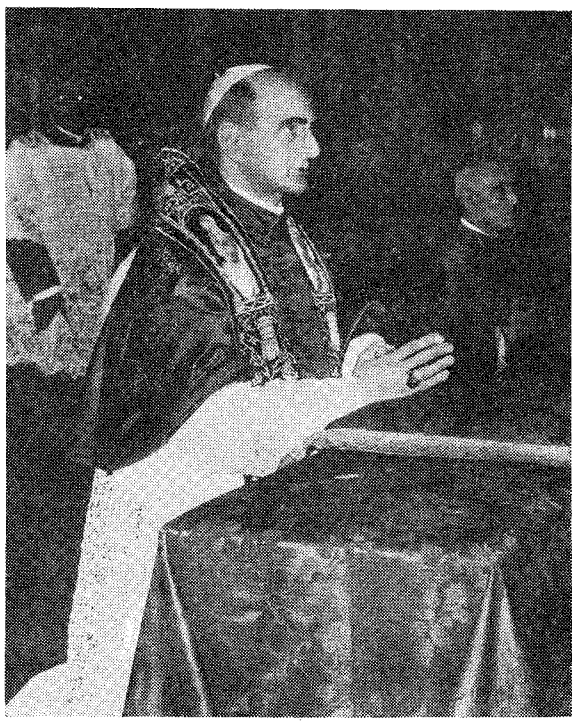
マリアへの真の信心のため教皇親書発布

パウロ六世教皇はファチマへの巡礼当日の日付で「大いなるしるし」と題する親書を全世界の司教あてに送り、マリアへの真の信心について述べられた。

これは永遠の救いに関して神の御母の果たすべき任務についてまたマリアと教会との関係について伝統的な教えを新しく綜合しようとしたものでなく、キリスト教的生活の刷新にふれる信仰の二つの重大な真理を取り上げて、信者の霊的利益に供しようとされたものである。

第一部は教会の母としてのマリアにささぐべき崇敬について、第二部は至聖処女マリアの諸徳に模倣すべきことについて。

すでに教会憲章の第八章67番はつぎのように記している。「信者は（マリアへの）真の信心が、実を結ばぬ一時的な感情や、あるむなしい迷信のあるものではなくして、真の信仰から出るものであることを忘れてはならぬ。真の信仰こそ神の母の卓越性を認めるようにわれわれを導き、われらの母を子どもとして愛し、母の徳を模倣するようにわれわれを励ますのである。」



教会と世界の平和を嘆願なさるパウロ六世教皇

典礼憲章の新一般指針

教皇庁礼部聖省は五月四日付で第二バチカン公会議の典礼憲章の適用についての二番目の一般指針を発表した。

数多い規定のなかから主要なものを列挙すると、

一、ミサの公式祈願は一つだけ。ただし教皇、司教の祝聖記念日のため公式祈願を加えることができる。

二、ミサ通常式のなかで
司式司祭は次の場合にだけ跪礼をする。
―聖体をおさめた聖ひつがあるなら、祭壇についたとき、退出するとき。

ミサ通常式など一部改正

・セクラ・セクロールムーア
―メン」のあと。
―司式司祭の聖体拝領の準備の祈りのあと。
―聖体拝領を終り残りのオスチアを聖ひつにおさめたあと。以上の場合をのぞいて他のすべての跪礼は省かれる。
奉献のとき、パンとぶどう酒のささげのあと、司祭は十字架をしるさないで聖体布の上におく。
信者列席のミサで、典文をみなにきこえるように声を出してとなえることができる。
典文のあいだ
―「聖なるかな」のあとの第一の祈りは、身をかがめず、手をひろげたままでとなえる。
―この第一の祈りで供物の上に一つの十字架をしるす。ほかの場合の十字のしるしは省く。
―聖別後に司祭は拇指と人差指を合せなくてもよい。
―司祭と信者の聖体拝領は次のようにする。
司祭は自分の拝領の前にオスチアをもって信者の方をむき「神の子羊、世の罪を…」をとなえ、信者は三回「主よ、私は…」をくり返す。それから司祭がお体とおん血を拝領し、そのあとこれまでの通りに信者に聖体をさずける。
―聖木曜日、聖香油のミサで聖体拝領ができ、夜の最後の晩さんのミサにあずかれば、再び拝領できる。
―ミサの終りに「ミサ聖祭を終ります―神に感謝」のまえに祝福を与える。これまで司教祝福前に小声でとなえていた「プラチェアト」の祈りは、退出中にとなえるように勧められる。
―死者のミサでも祝福を与え、「ミサ聖祭を終ります―神に感謝」ととなえる。但し救済式がつづくときは「主を賛美しましょう―神に感謝」のあと救済式を行う。

三、死者のための聖式
死者のための聖式（ミサをふくむ）で紫色の祭服を使用できる。全国司教協議会はそれ以外の色をきめることもできる。

四、祭服
―マニプルスを着用しなくてもよい。
―共同執行ミサでは、全司祭が個人でミサを立てるときと同じ祭服をつけるべきである。
但し重大な理由、たとえば司祭の数が多くて祭服が足りなければ、第一司式司祭をのぞき、他の司祭はカズラをつけなくてもよい。

五、母国語の使用
―ミサの典文、叙階式の聖式で母国語の使用を許可することができる。

司教協議会定期総会

本年度司教協議会定期総会は五月一七日から二五日正午まで東京のカトリック中央協議会館でひらかれた。

まず司教協議会長（土井枢機卿）副会長（田口司教）書記（白柳司教）常任委員会委員（上記三名のほか荒井、小林、長江の三司教）が選出された。

一三の司教委員会、全体会議、修道会・宣教会会長団との合同会議などが連日つづき、最後に総会決議がまとめられた。

なお本年八月一七日から三日間臨時総会がひらかれ今回の未審議のものが討議される。

大斉・小斉新規定

日本司教協議会では大斉・小斉についてのこれまでの規則を変更し、本年六月二九日からの新規則が発効する。これによると、わが国では大斉・小斉は灰の水曜日の聖金曜日の両日だけ。年間の他の金曜日の小斉は廃止されそれに代ってなにかの犠牲、愛の業、または信心業を行わねばならない。

永久誓願式

福岡市女子カルメル修道院で五月一日午後二時から深堀司教司式の永久誓願式が行われた。

イエズスのテレジア修女（和田昌子、山口県光市出身）
聖テレジアのマリア・ヨゼフィナ修女（西村スミエ、広島県安佐郡出身）

司祭異動

休暇帰国アックワビバ師（多久主任）多久主任マネルバ師（佐賀助任）休暇師国ソラノ師（高宮主任）

バランゼ女史の作品

西新教会に

福岡市西新教会＝主任平田勇師＝の聖堂にフランスから日本二六聖殉教者の絵がおくられ、その祝聖式が五月二八日深堀司教司式で行なわれた。

作者はパリ在住のバランゼ女史で、数年前の来日中、長崎の南山高校や福岡の聖体礼拝会修道院に作品を残している。西新教会におくられた今回の作品はトレーシングペーパーに画かれ青・黄色を基調としたもので二枚のガラスにはめこまれ、ステンドグラス式に光線を通して見られる。

同教会附属の幼稚園の子供を考慮して二六聖人のうちとくにルドビコ茨木ら三名の少年と、同教会の保護者パウロ三木が大きく画かれている。

同女史は教皇庁から公認された「芸術と賛美の会」の会員で、各国の固有の芸術とカトリックとの融合を試みている。

聖体祈拝

（六月）

第一日曜　馬渡島教会
第二日曜　戸畑教会
第三日曜　人吉教会
第四日曜　簑島教会
ノートルダム修院

祈禱の使徒会

（六月）

【一般意向】青少年の信仰生活
【布教意向】アフリカにおける修道生活

6月　イエズスの聖心の月

2日（金）　イエズスの至聖なる聖心の祝日
キリストのご生涯、とくにそのご死去は、神がわれらに対していだいておられた愛を具体的に示すものである。兵士の槍によってひらかれた脇腹のおん傷は、この愛をもっとも雄弁に物語るシンボルであろう。

福岡でカトリック保育関係者の集り（午後2時）

4日（日）　聖霊降臨後第3の主日
ルカ15章に一連の三つのたとえが記されている。いずれも人間に対する神のあわれみと慈しみを教えている。迷った羊をさがしにゆく牧者、見失った銀貨をみつけ出してよろこぶ女、そして立ちかえる放とう息子を両手をひろげて迎える父親。この三つとも罪になやむ人間に対する神の心を描いている。そのお心は「おろかなまでにふかい愛」であって、人間の常識でははかることができない。

11日（日）　聖霊降臨後第4の主日
少年ダビドと巨人ゴリアドの一騎打は、旧約聖書中の有名な物語である。ダビドはイスラエルの神のお力によってこの大敵をたおす。今日の典礼によると、ダビドはペトロの上に建てられた教会の前表である。教会はキリストへの信仰をたよりにおそろしい大海にいどみ、奇跡的豊漁をえる。

12日（月）　カトリック老人福祉施設全国大会
（熊本・慈恵病院）

18日（日）　聖霊降臨後第5の主日
ダビドのサウルに対する敬愛は感嘆すべきものである。しっとに狂ったサウルは、ダビドを殺そうと夜昼つけねらう。しかしダビドは決してかれをうらまず、野に伏し山にかくれて、追手をのがれた。ついにサウルが悲惨な死に方をしたときくと、哀悼のうたをよんで、その最後をいたむのである。

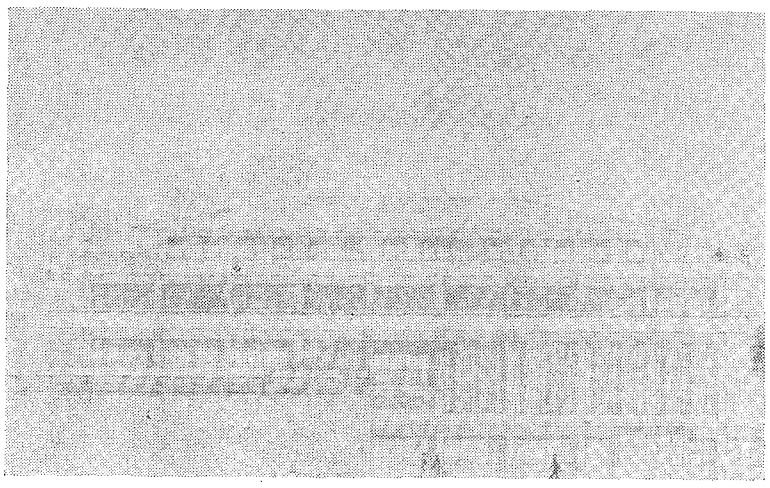
大楠教会で堅信

24日（土）　洗者聖ヨハネの誕生の祝日
来るべき救主の先駆者であったヨハネの生涯は、この神の御子のお姿にふしぎなほどに似かよっている。かれは救主の生きうつしであった。

25日（日）　聖霊降臨後第6の主日
ダビドはサウル王とちがい、神のお心にかなう聖王となった。しかしふとしたよわさで重大な罪をおかした。これは人間のもろさをまざまざと示すエピソードである。まこと神のお助けがなくては、正しい道を歩み通せるものではない。

29日（木）　聖ペトロ・聖パウロ両使徒の祝日
今日から一年間この両使徒の殉教一九〇〇年祭が全教会で挙行される。

30日（金）　使徒聖パウロの記念
現教皇パウロ六世が教皇位におつきになった記念日（一九六四年）



福岡小神募金すすむ

去る四月九日世界召命祈願の日を期して発足した「福岡小神学校建設募金運動」は、教区民こぞっての善意のふれる賛同によって、順調に進められている。

同募金委員会（委員長平田正喜師）からの発表によれば、五月三〇日現在の募金高は四二二万二、〇八五円に達している。

すでに建築をはじめている第一期工事では聖堂、自習室、食堂炊事場、ボイラー室、浴場司祭個室などがふくまれ、将来の第二期工事で生徒寮室、教室応接間客室、司祭個室、娯楽室が予定されている。

なお同小神の新設電話番号は、五三―六八二一。（上は福岡小神完成予想図）

教皇聖下に拝謁

巡礼団参加の白木氏

熊本手取教会信者白木紀幸氏＝大江町九品寺門木印刷株式会社・会長＝は高柳伊三郎氏を団長とする聖地巡礼団に参加し、三月二九日には二行と共に教皇聖下に特別謁見の栄に浴した。

なお白木氏は熊本市長石坂繁氏からのメッセージを同市と姉妹関係を結ぶドイツのハイデルベルグ市の市長に手渡した。

慰霊公苑のための献金

去る三月上旬日本全教区で南太平洋戦没者慰霊公苑建設のため献金が行なわれたが、拠金額は三二万一、一三七円に達した。

環境のリーダーをめざして

JOC 全国委員会ひらく

飛び石連休のつづいた五月一日から五日まで、JOC（カトリック青年労働者連盟）の昭和四二年度春季全国委員会と指導司祭会議が、北九州市八幡区の天神町教会でひらかれた。

JOCの全国委員会とは、日本各地にちらばっているJOCのリーダー達が集って、現代青年労働者の状態を見、かれらの救霊のためにどのように働きかけたらよいかという問題を中心に、JOCの現代から今後の活動を方向づけるための話し合いをする機関である。

これまでは時間や経費の都合で委員会は大体中央でひらかれていたが、今回はじめての試みで、日本JOCの発祥の地、北九州市が開催地にえらばれた。

全国委員は男女一〇名すつであるが、今回はオブザーバーの出席が多数あって、全国各地から約五〇名のジョンストと約二五名の指導司祭・修道女が参加、福岡地連のジョンストも合流して、一〇〇名を越すほどの大会議となった。

北は北海道、東北、南は宮崎からキリストの御名のもとに集った青年達は次のテーマで三日間討議を行なった。

❶日本の青年労働者の現状
とくに労働条件、余暇、対人、結婚についての具体的状況に対しJOCは積極的に働きかけているか、労働者の役に立っているか。

❷環境の問題
ジョンストはあらゆる環境のリーダーでなければならないが、実際どのように日々の生活のなかで周囲の人々を聖化していけるか。
見る、判断、実行の仕方
環境の問題とは何か
今後どのように展開していったらよいか。

❸ジョンストの養成
全国的に新しいジョンストが多い。真にキリストの兵士として環境の青年の中で働けるジョンストになるために、どのような点に特に力を入れて指導養成しなければならないか。

❹調査活動
家庭・故郷をはなれて働く青年達に対する問題が、最近社会的にもとり上げられ、マスコミの関心をよんでいるが、JOCは昨年から少しでもかれらの生活と精神的向上に役立とうと努めている。
今後どのようにこの運動を展開させていったらよいか。

❺その他
韓国歌劇団「小さな島」来日について、沖縄との交流について。

最終日の夕方深堀司教を迎えて感謝の共同執行ミサがあり、夕食を共にしながら閉会式が行なわれた。今回の委員会は、さきのカルデン枢機卿来日に励まされてか非常なハッスル振りであった。

（写真は全国委員会の参加者、前列中央深堀司教）

保育所について

（その一）

家庭保育を軽視の傾き

畑原富雄

幼稚園振興計画とならんで、最近とみに世論を賑わすようになったのが保育所の問題である。厚生省が保育所緊急整備五カ年計画をもって、全国に三九四〇カ所の増設整備計画を発表して第二年目を迎えた。この機に保育所について述べてみたい。

保育所の性格　保育所は法的には児童福祉施設に入る。社会事業として出発した過去の託児所が昭和二三年一月一日施行の児童福祉法によって保育所と改称され法的位置づけをもった。従って原則的には、家庭において母親の適切な保護をうけられない（いわゆる保育に欠ける）乳幼児を、公権によって委託保護（措置）とよぶする所が保育所ということになる。

右の原則からも、また中央児童福祉審議会答申の保育十原則からも、さらにわれわれにカトリックの立場から見ても、児童は先ず家庭において両親の温い愛情によって保育されなければならないけれども、両親の欠損、労働、疾病、人格的欠陥、災害等によって、保育に欠ける状態が生ずる。この保育欠除を充足するに十分な人的および物的環境が保育所には整えられなければならぬと謳われている。

保育所の現代的要請と思考錯誤の危機――昭和三八年の厚生省統計によると、全国約一千万の乳幼児のうち、要保育児童は一八・七%と称された。翌三九年には二一%と増加し、更に四〇年には二三%以上と発表された。

ではなぜこのような急激な増加を見たのか？　上記中央児童福祉審議会報告は、その背景として次のような理由を挙げている。

一、婦人の働く自覚と欲求
二、農村などの労働力不足と貧困
三、貧困感と消費生活向上への意欲の増大
四、社会的保育への期待
五、人づくりへの要請

日本の経済が戦後の復興型から昭和三〇年代に成長型に移行し、神武景気、岩戸景気と呼ばれた異常な成長率を示し、空前の消費ブームを呼んだことは記憶に新しい所である。その結果、人口の都市集中と農山漁村の労力不足、産業人口の増加に伴う婦人の職場進出が家庭機能の減退と要保育児童の増加を招来することになった。

一方、人口問題を産児制限によって解決しようと計った我が国の施策は「少く生んで良く育てる」思潮を国民の間に伸長させ、これまた空前の幼児教育ブームを呼んだ。

以上の点から、今日要求されている保育所像は次のようなものと考えられる。

一、家庭的保育責任を充足するもの＝前述した通り、中央審報告は保育十原則の第一に「両親による愛情に充ちた家庭保育」をあげている。しかし、両親の欠損、労働疾病その他により、家庭で十分な保育を受けられない乳幼児には、社会的責任でこれを充足しなければならない。

二、社会的保育責任を充足するもの＝幼児は二、三歳頃から急速な社会性の芽生えを見せ、その社会人としての基礎づくりには、家庭という異質社会（異る年令、縦の人間関係）の中だけでなく、同質社会（同一年令、横の人間関係）の中での集団保育の意義が生れる。この意味で保育所は、幼稚園の役割をも果すものである。

三、地域社会の福祉センター的役割＝特に保育所を囲む地域社会は教育に関する関心度等の低俗な場合が一般であり、地域の啓蒙、連絡等の役割を果たす必要がある。

このように、保育所は社会の非常性を充足する性格を持つものであるけれども、最近の保育業界には、保育に対する国家責任を強調する余り、保育所における集団保育をむしろ本質的なものと考え、家庭保育を軽視する思考錯誤の傾向がなくはない。産児制限や人工中絶が人命軽視につながるようにかような思潮が家庭機能の減退から破壊へ直結するものであることを、われわれは十分に警戒しなければならない。（つづく）

（呼子教会主任司祭・殿の浦愛児園長）

合同運動会

五月五日子供の日に熊本市とその近郊の諸教会、施設の合同運動会が少年の町でなごやかに行なわれた。これは熊本の年中行事の一つでこの日は司祭もシスターも子供たちと楽しい一時をすごし、信者同志の親睦をふかめた。

心のともしびのため

辻久子 リサイタル

福岡司教区主催、京都心のともしび運動本部協賛の辻久子バイオリン・リサイタルが、五月一三日北九州市戸畑文化ホールでひらかれた。これは福岡教区でカトリック放送番組をつづけるための資金獲得のため催されたもので、午後の部では戸畑明治学園生徒が、夜の部では一般約八〇〇名が名演奏に耳をかたむけた。

広報の日の献金（5月7日）

大名町	五、八五〇
浄水通	三、三二〇
地行	三、〇〇〇
みの島	一、二三一
西新	一、三二三
茶山	一、三〇〇
大楠	一、三〇〇
高宮	三、一〇〇
光丘	六、〇六〇
吉塚	
箱崎	一、七九六
田島	一、六〇〇
古賀	
二日市	二、四五〇
今村	八、〇〇〇
本郷	四、五〇〇
小郡	六〇〇
久留米	五、七五〇
大牟田	二、〇〇〇
吉野	一、四六五
呼子	三、〇〇〇
馬渡島	二、三〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
鳥栖	九三五
伊万里	八〇〇
武雄	五〇〇
麁島	
多久	五〇〇
門司港	一、〇三〇
大里	
小倉	三、〇〇〇
戸畑	一、五〇〇
若松	二、〇〇〇
天神	四、〇〇〇
黒崎	八、〇〇〇
八幡寺	
本城	七〇〇
水巻	
直方	一、三〇〇
飯塚	
田川	一、〇〇〇
行橋	一、六〇〇
新田原	六、〇〇〇
手取	九、五〇〇
健軍	
島崎	一〇、六〇〇
帯山	二、〇〇〇
八代	一、〇〇〇
人吉	二、〇〇〇
水俣	一、〇四〇
玉名	
隈府	七六五
荒尾	二、三〇〇
本渡	二〇〇
大江	一、〇〇〇
崎津	一、四〇〇
合計	一四七、四六五

聖心の使徒

（昭和四十二年六月号）

六月の意向　教会の魅力…薄田　昇
アフリカの修道会（六月の布教の意向）……谷口幸紀
黙想　イエズスの聖心の連禱（二十九）……河野義祐
ある漁夫の姿……辰野太郎
写真特集　人をすなどる者……
病める友へ　恐怖心……十字架のイエズス修道女会
宗教ならなんでもよいか…越前喜六
神の大使（上）……G・フーベル
明治のころ―アイヌの国へ（二）……M・リボー
自動車放浪記（三）……佐藤潔人
新本めぐり……
ポスト……
購読会費　一部　〒共　一カ月　五七円　一カ年　五七〇円

暁の星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式
事務用・学校用家具一式
室内外装飾・一般塗装

ご用命うけたまわります

福岡県粕屋郡粕屋町下若宮

昭和30年4月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第139号

主日典礼のまねび

聖降霊臨後第4の主日

―希望―

福音朗読　ルカ五・1―11

最初の弟子の召し出しについては四福音書とも記している。奇跡の大漁についてはルカだけが述べている。かれらは漁師である。がこれからは人を漁る者となるであろう。シモンの舟から教えられたキリストは、かれに漁にゆくよう命じられる。その結果えられた大漁は将来の働きの効果を暗示する。

第一朗読　ローマ八・18―23

われわれは洗礼によって神の子となっているのに、いつまでも苦悩と悲惨にひしがれるのはなぜであろうか。われわれは超自然的には神の子として自由である。しかし自然的には完全な解放に達していない。だから「神の子の光栄の自由にあずかる日を待って」いま道徳的努力によって準備をつづけるのである。

聖書の教えとその意味

神は、新しい創造によって人を幸福にすることを約束された。しかし人がこの約束に協力をすることを期待しておられる。

教会において

聖体はわれわれの希望の成就である。これによってわれわれは神のいのちを与えられ、新しく生れ変ったのである。

実生活において

神に協力してわれわれ自身と世界を刷新し、希望の力を発揮しよう

❶ 旧約時代―約束への希望

―人間への神の約束

いのちあるものはすべて成長し完全になることをめざす。神が人を造られたときも、地を支配し満たすようにと命じられた。

人間というものは、何か得ることがあるという希望がなければ働こうとはしない。だから神も民に何かをお命じになるとき、いろいろの約束を民になさって、民の方がこのお約束に希望をかけることができるようにしむけておられる。たとえば、

アブラハムには「お前の国から出よ、私はお前を大なる民とするであろう」と仰せられる。

エジプトのイスラエル人にはカナアンの地をお約束になる。

現代のわれわれも神の民と同じく一つの目標、一つの希望を必要とする。神はそれを約束によってお与えになる。

―人間は神のお約束が成就するように協力をもちよるべきである

即ち約束が実現するまで手をこまねいているのでなく、積極的に働きかけるはずである。

われわれのうちには、ある者は実現可能なことを希望しある者は不可能なことを希望している。ぼんやりと夢想している者もおればせっせと準備をする者もいる。

旧約時代の神のお約束に希望した人々は、夢想家であったろうかそれとも努力家であったろうか。

アブラハムは神に信頼したのですぐに国を出て、示された所に進んでいった。エジプトの民も約束の地に入るため砂漠にむかい、国難・試練と戦った。

◇正しい人の望みは喜びとなり悪人の望みは消えうせる（箴言一〇・28）。

―神の約束なさるもの、それは幸福である。

人間が希望するもの、その具体的姿はまちまちであろうが結局幸福の一語につきる。神の民も幸福を希望し、預言者らはそれを神に代って約束する。

イザヤ三五・4―10の朗読

死者の復活についてはエゼキエル三七、罪のゆるしについてはイザヤ一・18など参照

❷ メシア・民の待望の救主

神のお約束はキリストの到来によって実現した。イザヤ三五に預言されたことはキリストのみわざのなかに文字通り成就された。病人をいやし、死者をよみがえらせ食物をふやし、罪をゆるし給う。

まことに驚嘆すべきことであるしかしそれでこの世から苦しみが無くなったわけではない。なぜであろう。キリストは神のお約束を完全に成就なさらなかったのであるか。

重大な疑問である。イエズスご自身ユダヤ人の希望をうら切ったという理由で殺されたのである。

エンマウスへの弟子ふたりもイエズスにうら切られたという気持をあらわしている。

◇私たちは、イスラエルを救うのはその方であろうと望みをかけていました（ルカ二四・21）

全能のイエズスが少しもこの世を変えることをなさらなかったのはなぜであろうか。

答えはこれである。イエズスは人々をもう一つの別の希望にみちびこうとなさっておられるのである。

われわれがこの世のものに希望をかけることをお望みでない。

黙示録二一・3―7の朗読

◇勝つ者はそのすべてを受けるであろう。私はかれの神となりかれは私の子となる。

イエズスはこの幸福を与えるために苦しみを甘受し、すでに希望のうちにすべてをお与えになったのである。この新しい生命が世界を変化させ始めている。しかしわれわれの存在と世界そのものを徐々に変えてしまう必要がある。

今日の第一朗読

世界は一新されるであろう。しかし今はまだ陣痛の苦しみを味わっている。それは長いことでない。希望をもって待とう。

❸ 教会において―望徳

(1)洗礼

キリストは約束された幸福をすべてお受けになった。われわれもすでにこの幸福の「初穂」をうけている。洗礼によって光栄のキリストの生命を確かに頂いている。

今はまでこの体に苦悩を感じているが、必ず新しい生命にみたされる日がくることを希望する。

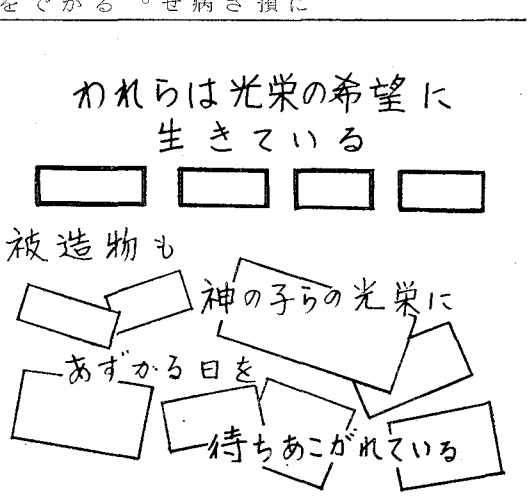
(2)聖体

神のお約束は、聖体のなかで実現している。聖体を拝領する毎に復活されたキリストの生命をわけゆるしをいただき、キリストを着ることができる。神が約束されたことが実際に与えられ、そしていつか完全に与えられる日を希望するのである。

(3)実生活において

われわれは「バラ色の人生」を夢みるのではない。神との幸福をめざして、いまのわれわれは「両手をひらげて」準備しなければならない。

「沖にこぎ出して、あみおおろして漁をしよう」（今日の福音）



聖霊降臨後第5の主日

―和睦による平和―

福音朗読　マテオ五・20―24

イエズスは律法や預言者を完成するためにこられた。昔の人は殺人を禁じていたが、イエズスは人を軽べつする者も天国に入れないと教えられる。昔の人は法律的にきよければ供物をささげることができたが、イエズスは他人と心から和睦していない者は祭壇の前に出る資格がないと教えられる。

第一朗読　ペトロ前三・8―15

ペトロは新信者に訓戒する。あなたたちは選ばれた民族、王の司祭職、聖なる民であるから、神のふしぎを異教者の間であらわす責任がある（二・9）。キリストの模範にのっとり（二・12）、われわれに対するキリストのお心を自分の心として兄弟たちを愛すべきである。

聖書を通して

イスラエルの民は、神に対して忠実な盟友ではなかった。しかしキリストはわれわれを御父と和睦させ給うた。

その意味

キリストによるこの和睦のおかげで、神のすべてのめぐみをおだやかに楽しむことができる。

教会において

和睦のいけにえにあずかるには隣人と融合すべきである。

実生活において

われわれは神と和睦しているのであるから、隣人とも仲良くしよう。過ちがあればゆるしを願い、こちらから出来るだけのことをしてあげよう。

❶ 民は神との契約を破ったので平和を保てない

ユダヤの民は隣接のどの民よりも強力なお方、神との同盟は平和を確固するものであった。これにはしかし条件がついていた。

―神はサウルという姿の美しい人物を民の王にとり立てられた。かれはどんな敵にも勝利をえた。神がかれの盟友だったからである。民の平和は不動のものであった。しかしかれは神をうら切った。神が自分以外の者を民の指導者となさったことに腹を立てた。

ダヴィドのめざましい戦いぶりを見て民は狂喜した。神はサウルにも民にも平和をめぐもうとなされたが、ダヴィドへのしっと、にくしみにもえたサウルは神の与えられるものを受けることができない。それのみかダヴィドにも平和の日々を味わせようとしない。

―ユダヤ人らはすべての義務をはたし、定められたいけにえをささげさえすれば、契約に対し忠実であると考えていた。神が望んでおられる礼拝とはそんなものではない。

イザヤ一・11―15の朗読

神が民のいけにえや祈りを嫌悪なさるのはなぜか。かれらの手に血がしたたっているからである。罪なき者を殺し、貧者をしいたげるからである。他人に安らぎを与えないからである。

かれらが生き方を改善しない限り、神も民に安らぎをお与えにならない。

イザヤ一・16―20の朗読

しかし民は回心しない。「私たちは平和を待っていたが、よいことはひとつもなく、救いのときを待っていたのに、おそれだけが来た」とエレミア預言者は祖国が敵にじゅうりんされるのを見て嘆く（エレミア一四・19）。

では神は民を永久に見捨てになったのであろうか。

◇しばしの間、私はあなたを捨てたが、大きな愛をもってあなたをつれもどす。怒りにみちて私はしばし、顔をかくしたが、永遠の愛をもってあなたをあわれんだ（イザヤ五四・7―8）

❷ イエズスは人々を民と和睦させ給う

神は「山が動き、丘が移っても私の愛はあなたからはなれず、平和の誓いは動かない」（イザヤ五四・10）と約束されたが、人間の方は果して神の盟友としての条件を守ったか。他人に対して誇良であったか。

神のまことの盟友として平和の日々を過すことのできたただ一人の人がいる。イエズスご自身である。イエズスは御父と平和な交わりをお持ちになり、そのお気に召すことを行い、その光栄をたかめそのご計画を成就なされた。

イエズスが御父への忠誠を最高度に発揮なさったのはいつであろうか。それは御父のお気に召すことを行うために、死さえもお引きうけになったときである。多くの敵にかこまれておられたときにも御父との平和を信じつづけておられたので、神はイエズスを復活させ、多くの人に分ち与えることのできる程の豊かな恵みを注いで下さった。こうしてイエズスは人々を神と結び、和睦させ給うた。

コロサイ一・20―22の朗読

❸ 教会において

聖パウロは言う「イエズスはわれわれを神と和睦させ給うた」とではわれわれはかつてのユダヤ人より罪の浅いものであろうか。本当に神と和睦しているのであろうか。

(1)聖体

キリストはわれわれをいけにえにあずからせて、御父と和睦させて下さる。今日の聖体の集りにおいても主は御父のお気に召すこと行っておられる。だからわれわれがミサにあずかるときに、キリストを通じて御父と和睦することができる。そのときわれわれは御父に誓いたことを悔い、御父のお気に召すことを行う決意をかためよう。

でももし隣人が私に対してなにかうらむことがあれば、私は神との和睦のいけにえにあずかることができようか（今日の福音）。

ユダヤ人はいけにえにあずかるとき、律法上のけがれがないようにと気をくばっていた。われわれはどうであろうか。ミサにあずかるのに一番大切なことは、隣人と和睦することである。

ではもし誰かにうらまれるようなことがあると思い出したら、すぐ教会を出て仲直りにゆくべきであろうか。もちろんそうできるはずはない。心のなかでゆるしを願い、和睦すればよい。

荘厳ミサや共同執行ミサで、聖体拝領前に聖職者は平和の接吻をかわす。これは実に美しい光景である。われわれがたがいにむつみ合うとき神は天よりの平和をおめぐみになる。

(2)告白

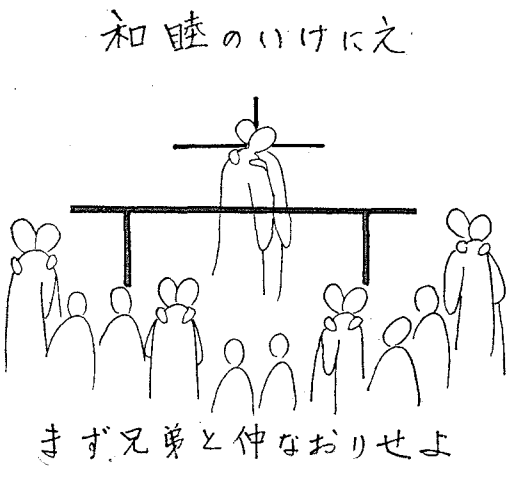
もしわれわれが神や兄弟達に対し重大な過ちをおかしているならいけにえにあずかる前に、教会の代表者である司祭はわれわれを神と教会に和睦させることができる。

(3)実生活において

友だちと仲良くするには、悪いことをしないというだけでは足りない。殺すな、うそを言うな、偽証をするなという掟は、余りに消極的な規定である。われわれの努力はもっと積極的な面にむけられなければならない。たとえば

―友だちを尊敬すること。だからそうに罪ぶかいことである。

―できるだけ友だちによいことをし、それを望むこと。「兄弟を祝福する」とはその意味である。



新刊書紹介

◆折り折りに
―考える―
井出雄太郎著
人生は成功することではなく、努力することのうちに意義がある、といわれる。
人生の途上にあって、誰でも一度は立たされる、その「折り折りに」いかになすべきかを考え、身近かにころがっている宝を見つけるための書。
¥200

◆天国を奪う人々
―カトリック百話―
鈴木習之著
明治百年を記念しておくる
日本の布教先駆者の労苦と逸話
がユーモアをもってつづられている。
¥280

◆旅する人
小山信夫著
信岡選訳
人生の意味と目的、神、道徳、幸福
などの諸問題を学問的により深く、きわめた名著
高校生、大学生、社会人一般にむけたメッセージ
また、友人、求道者にとって座右の書ともなりうる。
¥350

◆聖人たちの生涯
―現代的聖者一七五名―
池田敏雄著
現代から見た諸聖人一七五名の小伝
¥700

◆ルカによる福音書
フランシスコ会聖書研究所
原文からの批判的口語訳
上製 ¥620
並製 ¥480

福岡市大名二丁目七の三
TEL ⑭四五八八　聖パウロ書院
福岡市天神二丁目十一の一
TEL ⑭〇一三一　岩田屋六階
セント・ポール・コーナー

どこにでもいるような者

中村道生

二年ほど前、大学のクラスコンパで面白いゲームをやった。それは、他人のことを自分のこととして紹介する、いわゆる「他己紹介」という遊びである。そのとき「私」になったある友人は「私はどこにでもいて、どこにでもいないような者です」といった。かれがどんな意味でいったかは知らないが、そのときなる程と感心したのを憶えている。

「どこにでもいるような」といえばいかにも平凡で、つまらない価値のないものに聞こえるし、「どこにもいない」といえば何となくすぐれた価値があるように聞こえる、でも、ものの価値というのは一体何によってきまるのだろう。

私たちが、普通に、価値があるとかないとかいう場合、それは対象物、例えば万年筆がその使用者にとって価値があるかどうかによってきまるのであって、万年筆自体が自立的に価値を有するのではない、つまり万年筆は使用されることによって価値を生ずるのである。

この世に存在する全てのものは神の被造物であり、神によって、存在させられているものであってそれらはみな神の意図のもとに創られたが故にそのものの価値を有しているのである。

だから人間の真の価値も、神に創られたところにあることを忘れてはなるまい。

ひとはとかく、人間の価値を、その人の才能とか容姿ではかろうとする。でも才能とか容姿は神の賜物であって多くもらったから多く持っているにすぎない。要するに多い少ないが人の価値を定めるのではなく、それが創造主の意図にどれだけ沿って役立てられるかにかかっているのである。従ってもらったものが少ないとてなげくことも、多いからと自慢することも全くばかげたことだといわねばならない。

私たちは、神の賜物に対して、あまりにも利己的であり、盲目ではないだろうか。お恵みに満たされたときは、まるで自分のせいで幸福がまいこんだように有頂天になるし、たまたまお恵みがとり去られると、自分の無能さにあぜんとなって、うちしおれてしまうのである。うれしければ自己満足、悲しければ自己嫌悪に、人はなんでも自分を中心にしなければ気がすまないものだろうか。いくら万年筆が立派であっても、それを使ってくれる人がいなければ何の意味もないのに。

ごく平凡な人であっても神にみとめられ、神の望み通り使っていただく人であれば、たとえ立派な才能に恵まれながら、何の役にもたたない人よりどれだけよいかしれない。そうなれば、自己満足も自己嫌悪も全くごう慢からでてくるものであって、およそ謙遜とはほど遠いものとして、心の片すみにも寄せつけてはならない。

どこにでもいるような平凡な者であっても、神が自分をお用いになるときは、どこにもいないようなものになれるのだと、私は友人の他己紹介のときに、つくづく感じたのである。

子供の靴

なでしこ

御復活を迎えるために年の黙想会が持たれるのは例年の事だ。ところが私が今年の黙想会で子供の靴を拾って来たのだ。こういうと私の足に合わない小さい靴を拾って来て持てあましている様にきこえるだろう。

ドイツの諺に人間は大人になっても信仰は子供の靴をはいているというのがあるとか。

私の拾ったのはその子供の靴なんだった。その諺を伺った時私はドキンとして私の信仰の足を見つめた。自分の足に合わない程小さい靴をはいて、ひょろひょろ歩いているだけならまだいいとして、自分がよろけたはずみにまわりの人にまで迷惑をおよぼす様な事があったら大変だ。マンネリになっていた私の信仰のやけぼっくいがくすぶり出しもえ始めようとしている。

四七年程昔、父の郷里に一週帰った事があった。その頃の事だから東京から何十時間もかかってシュッシュッポッポと岡山の田舎へかえった。そこは旭川の中流で風光明媚な佳境、それだけに汽車からおりて渡し舟で渡って竹藪の中をうねうねとのぼる辺びな、夏でもやぶうぐいすがないて、何ともいえない場所だ。着いた時はとても珍らしくて大はしゃぎだった。

二週間もいるとその佳境にもたんだん馴れて大した事とも感じなくなって不便の方が先になって来た。水道の栓をひねれば水が出る東京から来たら、朝おきて顔を洗うのが一仕事だった。下駄をはいてガラゴロと石だたみを歩いて湧き水をためてある水ためまで下りて行く。夏の湧き水のつめたさ、ここまで来れば気持がいい。いい気持になれて毎朝手ぬぐいをぶらさげて歯ブラシ持ってガタゴトと兄弟三人揃って顔洗いに行く。

或朝意気揚々と顔洗いに行くと何とマア石垣に長々と大きな蛇のぬけがらがかかっているではないか、ゾーッとしてだまって顔も洗わないでかけもどった。祖父が私の顔を見てびっくりして「何ぞあったかの」ときいた。

大きな大きなへびのぬけがらがあってこわくって顔を洗いに行けないといった。「ああ、へびのからかな」とすましている。そして手さんに、どこか、おひるたべるところない？ときいたところ、海岸のしゃれた料亭に案内してくれた。「何にしましょうか」と仲居さんがきく。お宅の自慢料理たべさせてといったところ、間もなくお膳が出た。その中にどう見ても伊勢えびと見える品物なのにフニャフニャな皮がついている物がある。そこできいて見た。

「へェ、やっぱり伊勢えびでございますが、えびは春にはこうして皮をぬぎますんです。そしてだんだん大きくなりますんですが」といった。

へびが皮をぬいで育つ、伊勢えびが皮をぬいで育つ脱皮脱皮という言葉の意味が形の上でなされているんだな。

さてさて子供の靴をぬぐ、そして大人の靴をはく、それは信仰上の脱皮だなと分った。分ったには分ったが、エビやへびの様に形の上に見えないだけにむつかしい事だ。ましてやお相手が目に見えない神にてまします。当方もまた形に見えない霊的問題である。

ひょこひょこっと出て来て指先でひょいと取って田んぼへ捨ててしまった。どうしてあんなものが、あんなところにあったの、と根ほり葉ほりきいた。「へびはの、あして一年に一ぺんづつ皮をぬいで、だんだんふとるんぞ」と教えてくれた。ハハア、そんなものかなあ、とおどろいた。

三〇年位前の春宮崎の青島に旅した事があった。タクシーの運転手さんに、どこか、おひるたべるところない？ときいたところ、海岸のしゃれた料亭に案内してくれた。「何にしましょうか」と仲居さんがきく。お宅の自慢料理たべさせてといったところ、間もなくお膳が出た。その中にどう見ても伊勢えびと見える品物なのにフニャフニャな皮がついている物がある。そこできいて見た。

「へェ、やっぱり伊勢えびでございますが、えびは春にはこうして皮をぬぎますんです。そしてだんだん大きくなりますんですが」といった。

へびが皮をぬいで育つ、伊勢えびが皮をぬいで育つ脱皮脱皮という言葉の意味が形の上でなされているんだな。

さてさて子供の靴をぬぐ、そして大人の靴をはく、それは信仰上の脱皮だなと分った。分ったには分ったが、エビやへびの様に形の上に見えないだけにむつかしい事だ。ましてやお相手が目に見えない神にてまします。当方もまた形に見えない霊的問題である。

話しべた

喋るより喋らせる

説明してわからせることはできても、それを実行させることはなかなかむずかしいものです。

一年も二年もかかって公教要理を徹底的に説明したつもりでも、いっこうに洗礼をうけようとしない人がいることは、司祭のだれもがよく知っている所です。信者であっても同じこと、告解をすすめてもその気にならないし、布教者としての使命をわかっていながらそれかといって使徒職にはげむわけでもない、「わかりましたか」とたずねると、「はい、わかりました」と答えるが、わかったことを実行しようとしないのです。わかるとするというのはどうも別問題なのでしょうか。そういうわけで人々の指導にあたる司祭が、こういう人間の傾きと戦いながら日夜頭をいためているのも無理からぬことです。わかってもらうだけでは宗教は存在しないからです。

或る教会に信心深い神父様が住んでおられました。生れつき話しが下手と思い込んで、説教や講話を最も苦にしておられた神父様でしたが、それにしては信者達の熱心なこと、他のいずれの教会にも決しておくれをとらぬ位だったのは一体どういうわけでしょう。

神父様は日曜日がくるごとに悩みました。そして祈りました。「主よ、私の言葉によってではなく御身の御言葉によって彼らを養いたまえ」。そして彼は説教台にのぼりました。信者達は正に祈りの通り、彼の言葉からではなく、直接に神ご自身からそのみ言葉をきこうとばかり、面をみつめ、或は目をとじ、専ら黙想(?)にひたっているのであります。

おそらく信者達の熱心はこういうところから湧き出てきたものと考えられます。自分の説教にこれっぽちの自信ももっておられなかった神父様は、むしろ信者達の心の中に直接働かれる聖霊の力を信頼しておられたということができましょう

かれは、あらゆるチャンスをつかんで聖霊の働きを人々に感じさせようとしました。つまり、青年会、レジオ・婦人会・教会委員会などでどうしても何かを話さなければならないとき、彼らの中から自分の代りを見つけようとしました。そしていわく「神さまは、あなたに何をのぞんでおられますか よく考えなさい。多くの人々があなたのたすけを求めています。何か話してあげなさい」そういわれて信者はびっくりぎょうてん、それでも神様のおのぞみとあれば仕方ありません。必死で説教の準備をして発表する前に司祭の検討をねがう仕組みになっていたのです、彼が準備してきた説教を聞きながら、うっとりと頬を紅潮させているのは信者達ではなく、むしろ司祭の方だったのです。

「これでよかったのでしょうか」とおずおずたずねる彼に「立派だよ、すばらしい聖霊の働き……」と感動している司祭の心を、この説教者は全部さとることはできなかったかもしれません、それでも自分がまだ実行していなかった理想をもりこみすぎて、内心赤面していた彼も、それからはがぜん実行にとりかかっていたことは或いは当然でありましょう。こうして説教させられては実行に向わせられた信者たちが今までに何人におよぶでしょうか。

神父様にしてみれば必要せまられてしぼりだした苦肉の策だったのでしょうが、なまじつかうまい説教をするよりも、ひとをかりたてて実行に向わせる腕をもっているこの神父様こそ、いわゆる真の説教上手といえるのかもしれません。

実行はむずかしいけど……

ぼくたちは頑張った

この前の公教要理の実行は「ぎせいとして一週間テレビを見ないこと」、皆はそれぞれへんな顔をしたけれど不服はいいませんでした。いざ家にかえるとテレビが見たくなります。家族はおもしろくみています。ぼくも声をきいて下をむいて歩きますと。朝などテレビをかけるのでおちおち台所へもいかれません。いい番組があった日、見ようと思ったけど悪マの誘惑などとまけてはいられません。決心を守るといい気持になります。(中一)

× × × ×

ぼくは実行を守ろうと思っていたが、はじめの二日間は守れなかった。おもしろい番組があったからだ。早くねようと思っていてもテレビの音やはなし声でなかなかねむれない。家族のものが一しょになって実行を守ってくれたら、ぼくも守れると思う。人がみるから自分もみたくなる。自分だけ祈りしようと思っても、テレビの声がやかましいので、祈が頭に入らない。家族一しょにテレビを見ないようにしてくれたのんだら、兄が「ひとがみているときにみないのがほんとのぎせいじゃないか」といった。食事のときはテレビを背中にして食卓についた。「絶対に見ないぞ」と心にいいきかせているうちにその番組が終るとほっとする。こうして一週間すぎた。家族が一しょに守ってくれたらなあとつくづく思った。(中三)

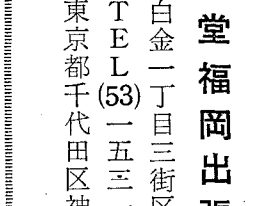
× × × ×

テレビを見ているのにぼくだけみないというのはつまらないものだと思った。皆のわらい声をきくとみたくなる。そのとき神父さまのおっしゃったように、痛悔の祈りをとなえて、おなかにぐっと力を入れ、みたい心をおし止めた。するとふしぎにテレビのことなど忘れてしまった。しかし又笑声だ。それでまた前と同じように痛悔の祈をしておなかに力を入れてぐっとがまんした。そういうことをくりかえして一週間みずにすごした。ぼくは勝った。でもみたいものをみないようにがまんするときはとってもくるしい。なぜだろう。(虫)ゆうわくにまけたときみたのはプロレスでした。たった二十分位みただけで決心をやぶったことをくやまれてなりません。ゆうわくはどうしてこんなにつよいだろう。だから親はよほど気をつけないといけない。親もテレビなどのゆうわくにまけてはいけない。(中三)

戦う子供

信仰は実行がともなわなければ意味がないとはわかっていても、「だけど……」と弁解する私たちには、「主よ主よ、という人が皆天国に入るのではない、神のみ旨を行なう人が天国に入る」というイエスさまのみ言葉は耳にいたい。子供たちは毎週決心をたてる。公教要理でならった知識を実際に身につけるため、小さなぎせい、祈りを実行していく。それはやがて信仰を自分の血とし肉とし、罪と闘う意志を訓練しながら、天の国にふさわしい者と育てられていくのである。子供たちの真剣な努力と訴えをきいてほしい。小さいながらも孤軍奮闘するかれらに、私たち大人は、むしろはげまされるのではないだろうか

(子供要理担当者)



伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 独和 和独 辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

全国司教共同教書

信仰の年を祝い 使徒職大会に関心を

去る五月の司教協議会定例総会は、今秋ローマでひらかれる第三回信徒使徒職世界大会への関心をたかめ、同時に聖ペトロ・聖パウロに殉教一九〇〇年記念を通告なさったパウロ六世教皇のご意向を一層明らかにするため、日本全国一六名の司教の名で共同教書を発表した。左はその抜粋である（見出しは編集部がつけた）。

〔あいさつ〕親愛なる全国の司祭、修道者ならびに信徒のみなさん、初代使徒団のかしら、聖ペトロと、宣教の大使徒、聖パウロの殉教一九〇〇年記念の年にあたり、カトリックの信仰をいっそう高めるため、教皇様は、この一年を「信仰の年」として祝うよう呼びかけられました。この記念すべき年に際し、わたくしたち日本の全司教は、心を一つにしてみなさんにあいさつと祝福を送ります……。

〔信徒の積極的な役割〕長い教会の歴史を顧みますと、わたくしたちは、むしろしあわせな、意義深い時代に生を受けているのではないかと思います。従来ともすれば、司教や司祭のかげに隠れがちであった信徒のみなさんは、公会議を機として、教会の宣教に積極的に参加し、同時に現代世界と教会との対話において、中心的な役割を演ずるようになりました。この使命を現代世界のまっただなかで全うすることは、神より信徒に直接あたえられた天職であり、信徒のみが果しうる任務であります。「人類の救いの秘跡」である教会は、さらに全人類の永遠の救いをめざし、地上の平和と開発のため、あらゆる分野で貢献する使命を持っていることも自覚しました。

〔信徒使徒職大会に注目〕なお、本年一〇月にはローマにおいて、全世界から信徒の代表者が集まり、「人類の旅路における神の民」を主題として、第三回信徒使徒職世界大会が開催されます。この大会では信徒が、第二バチカン公会議の教えをどのようにして体得、実践することができるかについて、研究討議が行なわれることになっています。日本からも代表がこの大会に参加しますが、わたくしたちは等しくその成果を期待しそれがみなさんの今後の生活活動に大きな助けとなるよう願っております……。

〔現代社会と交わる〕前教皇ヨハネ二三世および現教皇パウロ六世は、広く全世界の兄弟たちと接して心の触れ合いを持たれました。わたくしたちもこれにならって、世界平和の基礎である、正義と自由と真理にもとづく愛によって、広く世の人々と交わり、特に恵まれない人々との話し合いをすすめるよう努力しなければなりません。

司祭がたは、信徒の霊的指導にいっそう心をくばるとともに、公会議に関する理解を深め、実践においてもすぐれた模範となるようお願いします。わたくしたち司教も責任の重さを自覚し、一致してさらに前進する決意を新たにしております。主キリストは「兄弟たちの心を固めなさい」と聖ペトロを励まされましたが、これは司教たちを励ますことばでもあります。全国の司祭、修道者、信徒のみなさんも、わたくしたちと心を一つにして、キリストの真の精神に目ざめ、現代社会の中で前向きの姿勢ですすんでください。

〔真の信仰をもって〕この際その原動力となるものは、キリストの福音にもとづく確固たる信仰です。この信仰とは生気にかけたものではなく、愛と希望を生み、神と人のために献身するよう駆り立てる力をさしています。わたくしたちの近くには、愛に根ざした真理を渇望し、恵みの源である信仰や、心の慰めを深く求めている多くの人々がいます。真の信仰がみなぎっているならば、わたくしたちは神と教会、隣人と社会への奉仕に向かって、さらに全力を尽くして進むことができるでしょう。神はこのような信仰にもとづいた愛の奉仕を、わたくしたちひとりひとりに求めておられます。この「信仰の年」に際し、最も必要なものは、まさにこの愛、この信仰であります。

償いの規定に関して 司教協議会の宣言

日本の司教協議会は、パウロ六世教皇が一九六六年三月二一日、ペニテーミニという使徒憲章をもって与えた権限によって、日本における新しい償いの規定を次のように決定し発表した。

一、償いの務めを果たすべき日は守るべき祝日を除く年間の毎金曜日と灰の水曜日である（使憲Ⅲ・2）。

二、大斎と小斎を守るべき日は、灰の水曜日とキリストの御受難御死去の日、すなわち聖金曜日である。

三、その他の金曜日には小斎の義務はなくなったが、しかし償いの義務は守られねばならないので、節欲、愛徳、信心のわざなどによってこれを果さねばならない。そのために信者は、各自に適当と思われる償いのわざを選ぶことができる。たとえば節欲として、肉食、高価で美味な食物、アルコール飲料、煙草などを節制し、映画やテレビの観賞などを抑制する。また骨の折れる仕事や病気、苦しみなどを神に献げる。愛徳の業としては精神的・肉体的な種々の奉仕、貧しい人々、福祉事業、教会や使徒的事業などのために献金する。信心のわざとしては祈り、信心業、聖書の静読、特に家族そろって信心業などを果たす。

四、守るべき償いの日が国祭日と重なった場合には、信者は前項の償の義務をその当日、あるいはその週間内の適当な日にかえて果たすことができる。

五、満二一才から満五九才までの信者は、大斎のおきてを守らねばならない。前記第二項の小斎と、第三項の償いのおきては一四才以上の信者にとって義務である（使憲Ⅲ・4）。

六、上記の年令に該当する信者はこのおきてを守らなければならない。もしも、このおきてを無視したり軽んじたりして、十分な理由がないにもかかわらず、相当の期間にわたってこれを守ろうと努めないときには、重大な違犯となる。

七、すべての主任司祭、また司牧にあたるすべての司祭は、信者たちに上記の規定をよく説明してその精神を理解させねばならない。また特にキリストのからだに属する信者各自の自主性に信頼がおかれている点に注意を促さねばならない。さらに四旬節が特に償いの時であることを信者に知らせ、その期間内には特別なことばの祭儀や、それに類する行事を行なうように配慮せねばならない。

八、この新しい償いの規定は、日本においては一九六七年六月二九日から発効する。

一九六七年五月二四日
東京にて
日本カトリック司教協議会

聖体礼拝に関する指針

8月15日より発効

パウロ六世教皇の認可のもとに五月二五日付で聖体礼拝に関して広範な指針が発表された。これは聖体についての教理を教える際に特に注意すべき一般原則、主の記念祭儀（ミサ聖祭、聖体拝領）の実施についての注意、そして聖体の保存、顕示について述べているこのなかから信者にとって関心の大きなものを、いくつか取り上げてみよう。

㈠ まず第一部の聖体についての要理教育上の注意としては、

魂の牧者たるものは、聖体について教えを一つもさず信者に伝えさえすればよいのではなく、これについての教会の考えを信者の心と生活のなかにふかくしみ込ませなければならない。

聖体は全教会の生命の中心であり、同時に各司教に一致しているこの地方的集まりとしての教会の中心でもある。

それはまたキリストを信ずる者全体の一致を実現するものである。キリストは、その名によって集る信者の中に、典礼挙行のなかに現存しておられ、ミサを献げる司祭のなかに、最後に聖体の秘跡のなかには全く独特の方法で実際にこもりましましておられる。

信者も一種の司祭職をおびている者であるから、ミサにただ外見的に参加するだけでなく、積極的に共同して感謝と賛美をささげ、まかせられた任務をはたすべきである。

信者はミサ聖祭でうけた力と恵みを日常生活のなかに活用しなければならない。この世にキリストの精神をしみこませ、どこにおいてもキリストの証人となるよう努めることである。

㈡ 主の記念祭儀の実施に関しては、かなり具体的なことがあげられている。

信者が集って主の記念を行う時には、一定の秩序が必要である。

一つの教会で一つの祭壇をかこみ、全会衆が心を一つにして一つのいけにえをささげる姿を実現すること。

日曜日や守るべき祝日に、同一の教会のなかで同時にいくつかのミサが上げられることのないようにすべきである。司祭たちが同時にミサを行いたい場合には、共同執行をするのがふさわしい。

信者の聖体拝領については、信者は聖体拝領によって、もっとよくミサに参加することになる。これから司教の判断にもとづき次のような場合には両形色での聖体拝領（おん体とおん血）が許可される。

(1) 大人の受洗者、受堅者が洗礼・堅信のあとミサにあずかったとき。
(2) 婚姻のミサにあずかった両配偶者。
(3) 叙階のミサにおける受階者。
(4) 女子大修道院長はその祝別のミサで、誓願者はその修道誓願のミサで（誓願をミサ中に立てまたは更新する場合）。
(5) 省略
(6) 臨終の病人のために、その家庭でミサがささげられた場合、病人とそこに居合せた人々に。
(7) 司教ミサまた荘厳ミサに奉仕した助祭、副助祭および待者たち
(8) 共同執行ミサが行われた時
a このミサで正規の典礼任務を果たす者、信徒であっても。列席の全神学生。
b 省略
(9) 省略
(10) 黙想会を行っている者全員。特別に黙想者のためにささげられたミサのなかで。何らかの司牧的な委員会にあずかる者はその時のミサで。
(11) 省略
(12) 受洗の代父母、両親、配偶者、この洗礼を準備した信徒カテキスタは、大人の入信のミサで。
(13) 新司祭のミサにあずかる両親家族のもの、特定の恩人パンの形色の下での聖体拝領ができない者には、おん血だけを拝領させることもできる（司教の判断による）。

㈢ 聖体の保存、顕示、礼拝に関しては、

ミサ後聖体を教会に保存する第一の目的は病人の聖体拝領のため第二の目的はミサ以外の時に聖体を望む人に拝領させるためと、この秘跡に現存しておられる主キリストを礼拝するためである。

信者がこの秘跡にこもり在すキリストを礼拝するときには、この現存がいけにえから出たものであること、実際のそして霊的拝領と結ばれていることを考えるべきである。

教会はミサ以外にもこの聖体に対し個人的にまたは公付に信心をあらわすことを強く望んでいる。聖体行列、聖体顕示、聖体訪問などその方法である。

新枢機卿に

もと駐日教皇公使

駐ポルトガル教皇大使M・ド・フルステンベルグ大司教は、この度パウロ六世教皇によって枢機卿に任命された。新枢機卿は昭和二四年から一一年間、駐日教皇公使をつとめられた。

聖体礼拝

（七月）

第二日曜　直方教会
第三日曜　水俣教会
第四日曜　マリアの宣教者フランシスコ福岡修院
第五日曜　天使の聖母修院

（八月）

第一日曜　新田原聖母訪問会
第二日曜　飯塚教会
第三日曜　佐賀教会
吉塚聖体の三位一体会
第四日曜　八幡煉獄援助会

祈禱の使徒会

（七月）

【一般意向】出版界の真理・正義平和への貢献
【布教意向】洗礼志願者の準備教育

（八月）

【一般意向】婚姻の聖化
【布教意向】布教地における医療奉仕

7月

1 日（土）　わが主のいとも尊き御血の祝日
2 日（日）　聖霊降臨第7の主日
「偽預言者を警戒せよ」と主は仰せられる。われら信徒は、救いの教えをのべ伝える使命をもつ預言者である。しかし口にする教えにふさわしくない生活を送るならば、われらは偽預言者とよばれるであろう。
7 日（金）　日本二〇五福者殉教者の列福一〇〇周年
9 日（日）　聖霊降臨後第8の主日
サロモン王は世界一の知恵者とうわさされていた。そのかれが神への畏敬を忘れて偶像をまつるようになった。
16 日（日）　聖霊降臨後第9の主日
預言者エリアのとき、神の罰がイスラエルの国の上にくだる。偶像崇拝に対する神の怒りである。エリアの後継者エリゼオは神のいつくしみを人々に示す。神の怒りも愛のあらわれである
23 日（日）　聖霊降臨後第10の主日
ミサにあずかる時に第一に心にもつべきは、けんそんと痛悔の情である。神の前にふかく頭をたれていけにえをささげるべきである。
学士会静修
26 日（水）　聖母マリアの御母アンナの祝日
30 日（日）　聖霊降臨後第11の主日
前の主日につづいて今日もまことのけんそんが教えられる。聖パウロは「私が今のようになったのは、神の恩寵による」という。神がわれらの心のなかで成就されることは、目にみえる奇跡におどろぬほどに驚嘆すべきお働きである。

8月

4 日（金）　聖ドミニコ証聖者
6 日（日）　深堀司教様ご霊名祝日
わが主イエズス・キリストの御変容の祝日
ご苦難に先立って主がご自分の神性の光栄を示されたこと。
7 日（月）　教区カトリック学校体育大会（久留米市で）
13 日（日）　聖霊降臨後第13の主日
感謝とほもっとも宗教的な徳である。神がわれらのためになさったことを尊敬をもってながめ、たたえること。ミサは最高の感謝の行為である。
15 日（火）　聖マリア被昇天の大祝日（守るべき祝日）
聖母マリアに対する祝日のうちで最も荘厳なもの。永遠の神御子をご胎に宿されたマリアは、いま天国において神の栄光のうちにまします。
17日—19日　臨時日本司教協議会々議
20 日（日）　聖霊降臨後第14の主日
「まず神の国を求めよ」。人間にとって最重要なことは何か、それをはっきり知らないと、人生は食べ、着ることだけで消費されてしまう。
22 日（火）　聖マリアの汚れなきみ心の祝日
27 日（日）　聖霊降臨後第15の主日
28日—29日　教区幼児教育連盟併修会（二日市で）

両使徒の信仰にならう

聖ペトロ、聖パウロ殉教1900年祭

もり上った信徒の決意と親睦

使徒聖ペトロ、聖パウロの殉教一九〇〇年記念の福岡教区式典が六月一一日、福岡双葉学園講堂において挙行された。

定刻一〇時半、約二千名の信者が会場の内外にあふれるなかを十字架を先頭に侍者、一四名の共同司式司祭、副助祭、助祭、司教が進んで荘厳ミサが開始された。大神学生のコーラスに会わせて全員が典礼聖歌をうたい、信仰を宣言し、心のこもった供物を祭壇にささげ、両使徒の取次ぎを願いつつミサのいけにえにとけこんだ。

桑原万寿太郎氏が信者を代表して使徒行録を朗読、福音のあと深堀司教が「キリストは今もわれわれにむかって〝私を誰だというのか〟と問っておられる。われわれも聖ペトロと共に〝おんみは神の御子キリストです〟と告白できる信仰をお願いしよう」と説教。

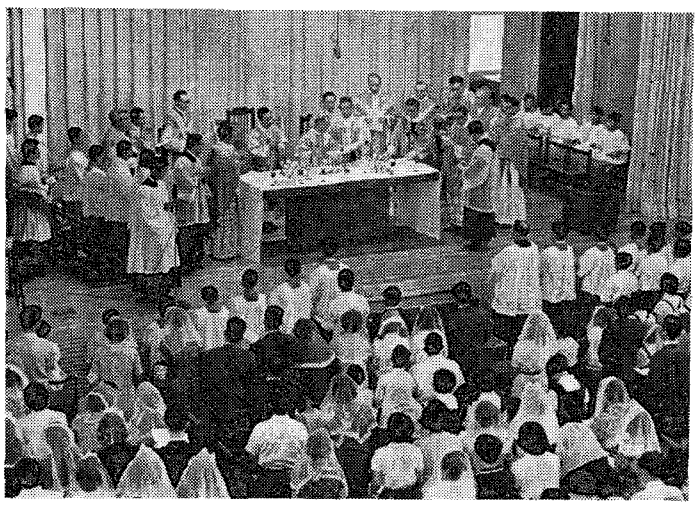
奉納の際に侍者たちがろうそくを手に司教の前に並び、ホスチアとぶどう酒、この日の献金をささげた。

遠くからはるばる参加した信者のうち約三〇〇名は、ミサの場に足をふみ入れることができなかったため、階下の体育館で別にミサが立てられた。

二時二五分全臨宥と教皇掩祝をもってミサを終えたあと、学園全館を使って、修道女会共催のバザーがひらかれ、全教会の信者がいりまじって大にぎわいのうちに食事をとったが、予想以上の参加者のためにうどんおすし、その他飲料水なども全部売切れ、その純益は小神学校建設の資金に納められた。

午後一時半、ミサのあった所は一変して信徒大会会場となり、福岡、筑後、佐賀、熊本、北九州各地区の信者代表がそれぞれ自分たちの活動状況や所感、将来への希望などについて数分間ずつ発言をとのべた。

ここで福岡浄水通教会のレジオ会員がエレキを手に登場して「バラが咲いた」を合唱、大会の固くるしいふんいきがぐっと和らいだところで、井手一郎氏が筑後地区の久留米教会の隣組、信仰を忘れた人々との接触、結婚相談などについて、また欧州と比国への外遊の感想を語った。



佐賀教会の塚原健太郎氏は、信徒使徒職会の規約をもとに昨秋からの具体的歩みを紹介し、これからは出来るだけ多くの人と交わることによって布教効果をあげたいとのべた。

会長がエレキを手に登場して「バラが咲いた」を合唱、大会の固くるしいふんいきがぐっと和らいだ

司会者坂井盛広氏の開会の辞のあとまず、福岡光丘教会の山口雄治者が侍者の会の模様を堂々とのべて大拍手をうけた。

つぎに立った熊本地区の内田奎文氏も同じくカトリック医師会メンバー。内田氏は信徒使徒職の重要性を認識してこの記念日に私は何をすべきかを真剣に考えるべきであるとのべ、同地区での信者活動を紹介した。

ここでまた飛び入りがあり、大名町教会の寺田君が「エーデルワイス」を、山東師との合奏では「ファイブ・ハンドレッド・マイルズ…」をうたって大喝采をあびた。つづいて北九州地区からはJOCFの石丸淑子さんが青少年への使徒職について強調。離郷した若人への働きかけを実例をあげて説明し、しんがりを福岡地区の田町節子さんがつとめて、婦人会の立場から司祭へのより緊密な協力と教会同志の横のつながりについて希望をのべ、東田島教会の信者会員の紹介した。

最後のアトラクションは九響のコンサートマスター松浦一郎氏のヴァイオリン演奏、夫人の伴奏で「グノーのアヴェマリア」他一曲を披露、「さすがは」のささやきがあちこちから聞かれた。

信者代表の力強い発言のあと深堀司教は「あなたたちは世の光である。そして神の民であり、神に選ばれた者であり、神に愛された者である。神に愛されていることを強く信じるとき、世の光として人々の前に使徒職を発揮することができる。キリストは神の愛を実際に見せて下さった。われわれはそのみあとに従って天国に進みゆく神の民である。しかしキリストの檻に属しない羊が多いのであるから、かれらのために働く責任のあることを忘れてはならない」とのべた。

散会してゆく前に全員で使徒信経「信じまつるわれら」を合唱して、三時一五分意義ふかい大会の幕をとじた。

神学校建設募金は6月22日現在で下記の金額に達しました。

4,965,405円

なお他に**60,500円**相当の物資も頂きました。

女子修道会共催のバザーの純益は**244,277円**でした。

神学校建設募金委員会

学生会静修

福岡カトリック学生会（会長野島一彦者、九大教育部二年）の会員二〇名が吉塚教会で、六月一六日福岡大神哲学教授山内師の指導で静修をおこなった。

落し物

六月一一日の一九〇〇年祭の会場での落し物は司教館に保管していますから、お心あたりの方はご一報下さい。

折たたみ洋傘　三本

めがね（熊本のお年寄のもの？）

ロザリオ、児童運動帽

急募!!

保母（有資格者）二名

右希望の方は左記宛履歴書をお送り下さい。委細文書連絡。

熊本県菊池郡西合志町須屋一七一〇

（養護施設）**熊本少年の町**

福祉関係者の集り

福岡（保育）と熊本（老人）で

〔福岡〕六月一、二両日福岡でひらかれた全九州地区保育事業研究会に参加したカトリック保育園関係者二四名は、研究会終了後、吉塚カトリック保育園で懇話会をひらいた。深堀司教司式の聖体降福式につづいて、片岡吉一師（長崎県保育部会長、木鉢教会主任）や畑原富雄師（呼子殿の浦愛児園園長）のリードで、事業経営上の経験を語り合い、今後の研究方針や改善を検討した。ちなみに福岡教区内の保育園は八カ所、長崎教区が三〇カ所、大分教区が二カ所、計四〇カ所となっている。

〔熊本〕六月一一、一二の両日熊本市の瑳瑳崎聖母老人ホームで、全国カトリック老人福祉協会の総会がひらかれ、遠くは青森からなど二二の施設、二六名の関係者が集って協会規約の変更や事務費の不足対策、社会に老人を理解させ、老人福祉に協力してもらうための方法について協議した。

この九州での初会合には社会・福祉司教委員会の委員である深堀司教、同会の秘書松村菅和師も出席して助言、訓話をのべた。

カトリック老人福祉施設は全国で二〇カ所、うち九カ所が九州にあり、福岡教区は次の五カ所

聖ヨゼフの園（北九州市八幡区煉獄援助修道会）

瑳瑳崎聖母老人ホーム（熊本市島崎町）

聖心老人ホーム（八吉市寺町、以上三つはマリアの宣教者フランシスコ会）

今村聖母園（福岡県三井郡太刀洗町、福岡教区）

ロザリオの園（佐賀県佐賀郡大和町、聖母の騎士姉妹会）

カトリック保育所の今日的意義

畑原富雄

保育所について（その二）

幼児保育とカトリック――前述したように、保育所に対する社会的要望が徐々に高まりつつあることは見逃すことの出来ない事実である。一方行政面においては故池田首相の人づくり政策から幼児教育が見直され、現佐藤首相の社会開発政策の一端として保育所問題が脚光を浴びて来た。これ等の具体化が文部省の幼稚園振興七ケ年計画であり、厚生省の保育所緊急整備五ケ年計画である。

このような状勢の中で、わがカトリック教会の幼児保育の現状はどうであろうか？

一九六六年の統計によると、全国のカトリック系幼稚園は総数五三三園、保育所は九四ケ園であるこれを全国統計に比すれば、全国で幼稚園数八、三九一園、園児総数一、一三二、四三四名（一九六五年五月）保育所は総数一一、二一四園、園児数八二六、七九六名（一九六五年一二月）であり、幼稚園で全国の六・三五％を占めているが、保育所では僅かに〇・八四％を占めるに過ぎない。

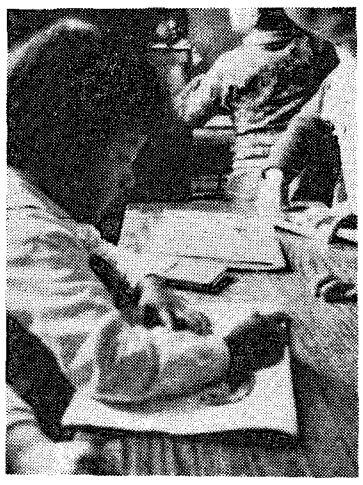
また、保育所をかりに他の宗教団体と比較すれば、例えば西本願寺派は全国で七三三園（信徒総数約二〇〇万）で信徒二、七〇〇名に一園の割であるのに比し、カトリック教会では三、五四五名に一園の割である。

教会の附帯事業として、幼稚園と保育所の何れがより効果的であるかは観点によって異論もあることだし、地域による相異もあり、または産業の振興に伴う社会的要請によって、児童の福祉をもたらす場が保育所であるとするなら、更に単なる物的環境や制度によるのではなく、真に人間性を尊重するカトリック的保育方針によって児童の福祉が守られるならば、保育所事業は教会が手掛ける事業の一つとしてもっともふさわしいものであろう。

児童および家庭との密着性――教会の布教的立場から見て、幼稚園より保育所の方が有利な理由の一つに、その児童および家庭との密着性があげられる。

先ず第一に、労働その他の理由によって家庭が十分に児童の保育が出来ないという理由で、また一般にこのような家庭条件のもとでは、世にいう教育ママなどが少ないという理由で、保育所のカトリック的保育方針はより容易に家庭とである。また他宗派との比較も無意味に終るかも知れない。しかし私は、カトリックの立場から見た保育所事業の今日的意味について、読者の注意をうながしたいのである。

児童福祉の場としての保育所――前述したように労働その他の理由に基く家庭的要請によって児童の福祉という基本的立場、更に布教の立場から見て、保育所は右のような多くの有利な条件を備えている。このような条件を布教とどのように結びつけるかは、使徒職活動が大きくクローズアップされた今日、真剣に考慮さるべき問題であろう。（つづく）



第二に、児童との接触の期間が長いことである。幼稚園が満三歳以上児しか収容できないのに比し保育所では零歳から就学前までの児童の面倒を見ることが出来る。更に幼稚園が一日四時間、年間二二〇日程度の保育時間であるのに比し、保育所は毎日八時間以上、年間二六四日以上が現定である。

第三に、家庭との密着度である。業務上家庭の生活状況等について知ることや、父兄との接触度は幼稚園の比ではない。

児童の福祉という基本的立場に受諾され吸収され得ることである。

親善体育大会

8月に久留米で

八月七日（月）教区内のカトリック女子学校七校の親善体育大会が、久留米信愛女学院と文化センターの体育館でひらかれる。種目はバスケット、バレー、卓球、テニスの四つ。

聖心の使徒

（昭和四十二年七・八月合併号）

七月の意向　マス・コミによる人類の救済……三輪志郎

信仰への準備（七月の布教の意向）……谷口幸紀

黙想　イエズスの聖心の連禱（二十九）……河野義祐

明治のころ――アイヌの国へ（三）……M・リボー

写真特集　コタンをたずねて……

八月の意向　婚姻の聖化…井手雄太郎

医療と宣教（八月の布教の意向）……谷口幸紀

神の大使（下）……G・フーベル

聖書の時間　イエズスの御姿……

……J・モンステルレ

アントニオ神父のSOS……

……F・ブラウマン

病める友へ　良識をちょっぴり……

……十字架のイエズス修道女

自動車放浪記（四）……佐藤潔人

新本めぐり……

ポスト……

購読会費　一部　〒共　一カ月　五七円　一カ年五七〇円

暁星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式

事務用・学校用家具一式

室内外装飾・一般塗装

ご用命うけたまわります

福岡市箱崎飛島町4114

電・65―7121

主日典礼へのまねき

聖霊降臨後第10の主日

＝義とされること＝

朗読

福音　ルカ一八・9―14

二つの型の義についての主のたとえばなし。自分がどれほどいいことをしたかを数えあげて誇るファリザイ派の人間、自分が罪ぶかい者であることをみとめて、神のあわれみに頼み改心しようとする税吏。義とは人間の業でなく、神が与え給うものである。

第一朗読　コリント前一二・2―11

パウロは当時の異教者のあいだで見られた悪魔によるふしぎと聖霊による働きを混同してはならないと教える。ある脱魂者がキリストは呪われよというなら、それは聖霊によるのではない、「イエスは主である」というのは聖霊の賜であって、信仰ある者に誰にでも与えられる。しかも賜はそれぞれ異っているが、皆の利益のためになる。

聖書の教えとその意味

全く罪がなく正しい人はいない、神おひとり正しく、罪ぶかい人間を義とすることができる。神の御子は人間の条件をそっくりおつけになり、罪ある人間にご自分の義を着せて下さる。

教会において

聖体において、キリストはご自分にふかく依りたのむ者を義となさる。

実生活において

キリストによって義とされたという確信があるから、われらは絶望に勝つことができる。

❶ 罪のない人はいない

ヨハネ八・1―10の朗読

イエスはかんいんの女をつれてきた者に教えられる。われわれには他人を正しくさばくことができない。真実を知らないし、罪のふかさもさぐれないからである。自分の罪ぶかさを知れば、ひとをさばくことはしないはずである。

◇罪のない人がまず女に石を投げなさい。

❷ 正しいのは神おひとり

女をさばこうとしていた人達自身がキリストにさばかれていたのである。神のまえでは自分も女と同様に罪ある者であることを思い知らされ、自分の罪が地面に記されているように感じた。

こうしてかれらは一人一人去ってしまった。あとにはイエスだけがさばく者として残られた。

なぜならイエスだけが罪のない人だからである。

イエスは神であられるから、この女について真実を知り、痛悔のふかさ、情状酌量すべき事情もご存知である。

イエスは神のまえに正しく、罪なく聖なるお方である。だから人々をさばく権利があり、有罪か無罪を宣することができる。

◇み前から私への審きを下し、そのおん自を正しい者にとめられよ（今日の昇階誦）

❸ 人間は正しさを求める

「主はノエに仰せられた。私はこの世代の人々のうちで、あなたが私の前に正しいものだと見た」（創七・1）

イスラエル人は、宗教的な感覚がつよく、いつも神の前にあって神に見られていることを感じていた。神のお目に正しいものであるために、ある人は神のご意志に忠実であろうと努めた。ノエやアブラハムがそうである。だから人々はかれらを「義人」とよんだ。正しさとは、神の掟を最小のものでも忠実に守ることであると、けいけんなユダヤ人は思い込んでいた。ではかれらはこの理想に達したであろうか。いや、できない。

◇私達の神である主に、正義があり、私達にとっては、いま顔に恥辱がかかっています。主のみまえで罪を犯したからです。主に従わなかったからです。（バルク一・15―19）

ところが自力で正しさに達しえないと知って落胆する者に、神から希望が与えられる。

◇エルザレムよ、喪と悲しみの衣をぬぎ、神から永久にあなたに下される光栄の美をまとえ、神の救いのマントをつけよ。（同五・1―2）

無力をなげくな、いつか罪の代りに神の正しさを着せて頂く日が来る。しかし罪人が他人の聖徳を着ることができようか。

❹ イエスが人々を義とする

◇その心の試練ののち、かれは光を見、それにみたされる。私の正しいしもべは、その苦しみによって多くの人を義とし、その罪を自らせおう。（イザヤ五三・11）

イザヤが告げるヤーウェのしもべとはキリストのことである。キリストは罪ぶかい人間の一人として生れ、苦しみをさけず絶対無私の愛に生き、人間のよわささえも共になさったので、死に対する勝利のあとでは、ご自分の正しさをわれわれにも分け与えて下さった。

❺ 痛悔と信頼

今日の福音の朗読

ファリザイ人は律法の遵守を誇示する典型的ユダヤ人である。税吏は罪をくやみ、神により頼むだけ。そして税吏だけが真に義とされて家に帰る。ファリザイ人は自分が義であると信じているので、神の助けを必要としない。だから神から何もうけることができない。

われわれ信者が他の人よりすぐれている点はただ一つ、神が正しい方であり、人々を義とすることをお望みであり、こちらの功績はないのにキリストのお功徳によって義とされていることを信じていることという、それだけである。

◇神の義があらわれたキリストへの信仰による神の義が、信ずるすべての人に与えられた。（ローマ三・21―24）

❻ 教会において

（一）聖体

ミサにおいてキリストは御托身のときにいだいておられたご意志（罪ぶかい人間の間に生きる）をおささげになる。

もし私が罪を反省し罪ぶかさを意識しないままでミサにあずかるならば、このたとえに出るファリザイ人と変る所はない。

私は税吏としてミサにあずかり神の限りないつくしみに信頼したい。「義とされて自分の家に帰ってゆく」ために。

（二）実生活において

洗礼によってわれわれには神の正しさと聖徳が与えられ、聖体をうける毎にそれが増大してゆく。しかしわれわれは腕をこまねいてよいわけでない。義人として生きるよう努めるべきである。

聖霊から受けた賜は各自それぞれ異るけれども、同一の神が働いておられる。われわれは神のお働きに力を合せて「皆の利益のために」生きよう。

聖マリア被昇天の大祝日

＝悪に打勝つ婦人＝

朗読

福音　ルカ一・41―50

エリザベトは聖霊にみたされてマリアを迎える。聖霊の現れはキリストのご托身のときにも教会の誕生のときにも見られ、メシア時代が到来したことを意味する。エリザベトの胎内でヨハネは喜びおどる。ダヴィドも契約のひつの前でそうであった。エリザベトは敵に勝った婦人としてマリアを賛えマリアも神の勝利をうたう。

第一朗読　ユヂト一三・22―25、一五・10

これはユヂトの栄光のために民がささげた賛歌で、エリザベトはこれをマリアへの賛歌として用いる。ユヂトは悪の攻撃に敢然と立向う。かの女は悪の力に対する民の抵抗のシンボルである。またかの女の美しさは道徳的正しさの反映で、これがあるために悪に打勝つことができた。

聖書を通じて

マリアは、ユヂトより以上に勝利者であり、女のうちで祝された方である。

その意味

マリアは、悪に対し全面的勝利をうるために神に用いられた婦人である。

教会において

教会も、マリアと共にこの勝利に昇ってゆく。聖体はこの上昇＝被昇天＝を実現する。

実生活において

われわれは悪に対し進んで戦うべきである。マリアは強力な援助を与えて下さる。

❶ 神はユヂトによって民を救う

小国イスラエルは大国アッシリアの軍隊に包囲されて、水ききんにおちいり、降伏寸前にあった。かれらは神への信頼を忘れてしまって、武力で反撃することだけを考えていたので、最後には絶望してしまっていた。

ここに年若く、美しくて、知恵があって信心ぶかいユヂトという婦人が登場する。神はこの婦人の手によって、悪の力の権化であるホロフェルネスの大軍を全滅させられた。

今日の第一朗読はかの女の勇気と勝利をたたえるうたであるが、実際は神のお力に対する感謝である。

◇ああ、われらの神よ、あなたは祝されよ、この日あなたは民の敵を亡しつくされた。

かの女は末長く神のお力を思出すであろう。

娘よ、地のあらゆる女にまさって、神の祝福をうけよ、

今日の福音に同じ言葉が使われる。

◇あなたは女の中で祝福された方で、あなたのみ子も祝福された方です。

これからのち代々の人々は、私を幸いな女とよぶことでしょう

マリアは第二のユヂトで、大敵と戦って勝利をえられた。その戦いとはなにか。

❷ 神の戦い

われわれの人生には善と悪の戦いが絶えない。善を欲し真の幸福に至ろうとする善の力と、安易な快楽を手に入れようと努める悪の力の闘争である。

いかなる大聖人でもこの戦いを経験し、聖パウロも一生がい悪と戦ったと記している。

◇去るべき時がもう近づいた。私は最後までよい戦いをたたかった（チモテオ後四・6―7）

旧約の人々もこのにがい戦いの苦しみを知っている。「私は不義のなかに生れ、母は罪のうちに私をみごもった」（詩篇五一）。

悪の力は猛獣のようにおそろしく、その魔の手から逃れるすべはないようである。

しかしイスラエル人は、自分らが神のものとして造られたこと、自力だけでは悪に勝てなくても神がいつか必ず勝利を与えて下さると信じるようになった。

◇その日、主は、かたい大きな強い剣で罰し、へび、レビアタンを、そして海の龍を殺される（イザヤ二七・1）。

❸ マリア＝第二のユヂト

（一）ひとりの女のかよわい手で敵の大軍を亡ぼされた神は、悪の力に勝つためにもひとりの婦人をお召しになる。

◇お前とかの女のあいだに、またお前の子孫とかの女の子孫とのあいだに、私は敵対をおこう

かの女はお前の頭をふみくだきお前はかの女のかかとをかむであろう（創三・15）。

ここでかの女とはマリアを、かの女の子孫とはキリストとすべてのキリスト信者をさす。蛇（悪）の子孫とはすべての人間のうちにあり、神に反対する悪である。

悪とかの女とのあいだに戦いがつづくが、かの女が最後の勝利を手中におさめる。

（二）エリザベトの祝福はマリヤにだけでなく、そのご胎の子にもむけられている。

―ユヂト以上にマリアが神のお力を身につけているのは、神ご自身を宿しておられるからである。この方は十字架とご復活によって決定的に悪を亡ぼそうとしてこられた方である。

神の母となることを承諾なさることによって、マリアは御子の勝利によるみ民の自由解放を可能にされたのである。

＝マリアが勝利の救主の母となるためには、神がマリア自身のなかでまず罪への勝利をおさめておかねばならなかった。だからマリアは神の聖寵にみたされ、マリアもまた罪に対しては全力をあげて抵抗なさった。こうしてマリアは全被造物のうちで最初に悪への勝利者となられた。

だからマリアはすべての者のうちで祝福された方である。

◇代々の人々は私を幸いな女と呼ぶであろう。全能のお方が私に偉大なことをなさったから。

黙示録のなかで、ヨハネは太陽に包まれ、月を足の下におき、星の冠をいただいた婦人の出現をのべている。これは勝利者なる婦人の姿である。即ち少しの罪の汚れにもそまず、肉体、霊魂ともに天にあげられたマリアの勝利である

◇壮大なしるしが天にあらわれた。太陽に包まれた婦人がありの頭に一二の星の冠をいただいていた。（今日の入祭唱）

❹ 教会におけるマリア

マリアの秘義はまた教会の秘義でもある。

キリストがマリアにおいて悪に打勝たれたように、われわれ各自においても同じ勝利を得たいと主は望んでいる。この勝利は、

（一）洗礼においてすでに始まり

（二）われわれの復活の時に成就し、

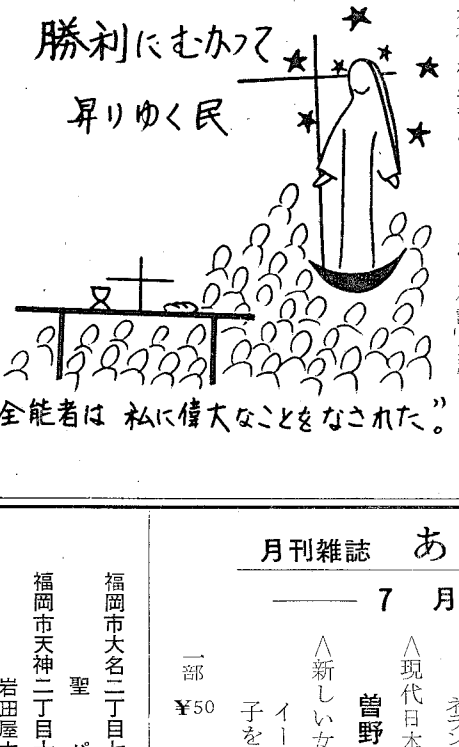
（三）そのあいだ聖体において、キリストは偉大なことをするために全能者としておいでになる

聖体はわれわれの勝利への道であり、上昇である。キリストのご死去とご復活の記念だから、勝利者キリストを拝領することによって、教会（われわれ）もマリアと同じ栄光に達する希望をもつことができる。

だから聖体によって教会は第二のユヂト、勝利の婦人となれる。今日ミサのなかでマリアの栄光と教会の栄光、われわれの栄光をうたう。

（四）実生活において

われわれが勝利をうるためには戦いを恐れず、全力をしぼって悪い排戦すべきである。マリアはわれわれの先頭をゆかれる。その力あるご保護をお願いしよう。



新刊書紹介

パウロ六世教皇回勅

ポプロールム・プログレシオ

―諸民族の進歩推進について―

カトリック新聞に連載して好評を得、教会外からも大いに注目されている。

¥ 120

キリストの建設

沢田和夫著

社会全般の問題を考えるにしても、人間ひとりの生き方を考えるにしても、根本にさかのぼって、あらためて考ざるをえないときというものがある。キリスト自体を追求せざるをえなくなったのもこういうときである。いまや教会はあたらしい建設に向かおうとしている。

¥ 450

ありのまま

坊城佐和子著

―ユニバーサル文庫―

妻として、母として、ひたすら生きる

一主婦の随想

ありのままの気持ちで淡々とけんきょにつづられた本書は信仰あつい慈母の姿と理想の家庭像をほうふつとさせてくれる。

¥ 230

月刊雑誌　あけぼの

―7月号紹介―

主な内容

＜今月のトップ記事＞

ここに生きる

ある信徒の暮らし

―ふつうの暮らしの中に生きる信仰について考える―

＜ずいひつ＞

公教要理と私

火花散る対座、なつかしい六人べや、神のことばをきいたころ、アダムとエワの話、旧教（カトリック）の同心を願って……ネラン塾・やりなおした公教要理

＜現代日本カトリック作家＞

曽野綾子の文学について

＜新しい女性をつくる講座＞

イートン校は敗北感をもつ男子をつくらず

一部 ¥50　予約 一年 六〇〇　半年 三〇〇　（〒共）

福岡市大名二丁目七の三　TEL ㉔ 四五八八

聖パウロ書院

福岡市天神二丁目十一の一　TEL ㉔ 〇一三一

岩田屋六階　セントポールコーナー

「科学的」ということ

古賀睦堂

ある時私はかなり分厚い一通の手紙を受取りました。差出人は全然知らない一女性でありました。その内容はかなり長いものでありましたが、要約すると「あなたはカトリック信者だそうだが、カトリック教は非科学的・迷信的な宗教であるから、速かにわが宗に転向しなさい。わが宗は科学的で一点の非のうちどころのない、現代唯一の真正宗教である」という事でありました。私はこの手紙を見まして「科学的」という事についてあらためて考えてみました。

現代はたしかに科学文明の世の中であります。われわれは科学を無視して一分一秒も過すことはできません。生れる時、否ある場合には受胎そのものから、そして生れて死ぬまでのかなり長い年月、さらに死後のいろいろの処置まですべて科学の恩恵をうけております。

また方面を変えて考えてみますならば、今まで想像の域でしかなかったのに、急に現実化した月旅行の話、あるいはすばらしい強い力、また場合によっては地球上のすべてを破壊しつくすような恐ろしい原水爆のことなど、すべて科学の進歩の賜であります。

こうしたすばらしい科学、それは一体何物でありましょうか。これはわれわれ人間が自身の力によって開発したものであります。一番幼稚な時代、われわれの五感だけを利用しました。例えば肉眼の視力だけを利用して物を見、判別するというような事でありましたが、そのうちかなり近代化になりまして、微小のものを見るために虫めがねを利用することを知りました。また虫めがね二枚を組合せて見ると遠くのものがよく見えることを知りました。こうして顕微鏡、望遠鏡をつくりました。

われわれの見る範囲は非常に拡大しそれを基礎にわれわれの知識はすばらしく進みました。

こうした事と別に、数学が発達しました。数学はわれわれが観察した事柄を整理、理解するのに、さらにある事実から次の事柄を推理するのに非常に役立ちました。

こうして次から次へと私達の祖先は発明発見をつみかさねて、今日の科学文明をつくり上げたわけであります。今日もなお科学者たちは発明発見に日夜努力をいたしておるのであります。

しかしながらここでよく考えなければならない事は、われわれ人間が無から何かをつくり出した事すなわち創造した事は今まで絶対なかったという事であります。恐らく今後もそうしたことはないでありましょう。われわれ人類が何ケ年かかってした事、それはおとぎ話の花咲爺さんに以ています。愛犬ポチに導かれ、裏の畑で大判小判をザクザクと掘出して大喜びのあのお爺さんはに似ています。

われわれは誰かによってすでにつくられ、静かにかくされていたものいるものを掘出し、また掘出しつつあるにすぎません。またポチの導きの力も与えられていました。ただ違う事は、花咲爺さんのあの純な感謝にみちた笑顔を忘れていはしないかという事であります。

以上申し上げましたように、科学は全く人間的のものであります。科学的に正しいという事は、人間の考える限りにおいて正しいという事であります。しかし人知は決してすべてではありません。現在ほんの一部を知り得た人間が、すべて知ったかのような事をいうのは、われわれのごうまんでなくて何でありましょうか。

科学時代のわれわれ現代人は、科学の力によって一木一草の中にも神の御業をまざまざと見る事ができその御摂理を賛美しないではおられぬというのが、科学的に正しいのではないでしょうか。

格言の書より

おろか者は高慢で、自分の力を過信する。

神をおそれることが、知恵のすべてである。（古賀病院長）

光ケ丘教会

光ケ丘教会の侍者会の発表をいたします。

ぼくたちの毎週の集りでは、小学四年から中学三年までの侍者、十六名があつまります。

集会は、日曜学校がすんだあと一一時半から、およそ一時間、教会の研究室で行なわれます。そのとき日曜日の侍者の当番や平日のミサの当番をきめたりします。ミサ中の悪かった点など神父さまに注意されて反省しています。

それから今年は信仰の年なので集会のときは聖書をよむことにしました。聖書を台におき、両側にローソクをともして、うやうやしくよんでおります。一回の集りでは、三章から四章ほどよみます。神父さまの説明もあり、今は、エジプトのはじめの方をよんでいます。

ぼくたちの侍者の会は、たん生してもう八年になります。毎週一回の集会に、神父さまはいつも出席されて、これまでにたくさんの侍者が育てられ、送り出されていきました。

ぼくたちの侍者会には次のような年中行事があります。

黙想会

一つはオブレート会関係の教会にいる侍者たちの黙想会です。去年は香川県の小豆島でありましたが、全国オブレート会の教会から七〇名ほど侍者が参加しました。今年は福岡の志賀島で行なわれる予定です。毎年九州、徳島、高知の各地をじゅんかいして行なわれることになっています。

新年会

ご公現の大祝日には、楽しい新年会があります。神父さまや、伝導士の先生をかこんですきやき会をします。そのときには婦人会の人たちがお手伝いをして下さいます。このとき役員の選挙も行なわれ、会長、副会長、書記、会計の四人がえらばれます。前年度の反省や侍者当番の出席率などの発表があり、忠実であった侍者の三位までにプレゼントが贈られます。記念写真とり、あとで聖体降福式もあります。

ぼくたちは、毎週の侍者の会をたのしみに集り、りっぱな子供になろうと努力しています。

これをもちまして、ぼくたち侍者会の発表を終ります。

昭和四二年六月一一日

光ケ丘教会侍者会代表

ミカエル　山口雄治

（信徒大会での発表文）

侍者の会

よい話し相手

ぼくのお父さん

戸畑明治学園小学生作文

ぼくのお父さんは製鉄マンです、スポーツできたえた体は大きく、がっちりしています。大ていのスポーツはとくいです。

けれども、小学生のころは大へんおとなしく、近所の子供たちにいつもいじめられては、泣いて帰っていたそうです。ぼくは、お父さんが、そんなに弱虫だったとは想像することができません、でも成績はいつも上位だったと、いなかのおばあさんが話してくれました。

お父さんと一緒にお風呂にはいると、風呂はお父さんの大きな体でせんりょうされてしまって、お湯はあふれでてしまいます。体をあらいながらその日のことを話し合うのでつい長湯になってしまいます。

日曜日はお父さんと二人で必ず教会に行きます。肩をならべて歩きながら、ぼくは、お父さんのように、心も、体も大きい人になりたいといつも思っています。

小五　田中　薫

☆　☆　☆

父はスポーツがうまい。写真もうまい、でもときどき、雲ばかりきれいに写って、人物やほかのけしきは暗くなってしまったりすることがあるが、多分カメラのせいだろうと思う。

日曜日は、朝起きると音楽をききながら新聞をよむ。音楽をきくときの顔はいかにもたのしそうだ。朝食がすむと、また音楽をききながら新聞をよむ。昼にも夜にも新聞をよむ。どうして同じ新聞を何回もよむのだろうと、いつも不思議に思う。

ぼくが見たところ、父には悪いくせが少しはある、しかし完全な父より、少しはくせのある父の方が近づきやすいし、親しみやすいと思う、ぼくにとっては今の父のままで、いつまでもへだたりなくおつきあいできるようにと願っている。

小六　下山純也

☆　☆　☆

ぼくのお父さんはとてもやさしいが、ちょっとおっちょこちょいな人です。すごく動物がすきで、犬が迷いこんできたときなど「あしたすててくるから、今日だけ家に入れておこう」というが、すてに行かずそのままかってしまいます。だからぼくの家には犬がいっぱいいます。

お父さんはとても負けずぎらいで、ぼくに「けんかでも勉強でも絶対に勝てよ」と口ぐせのようにいいます。ぼくが二年のとき、三年生とけんかをして勝ったら「けんかはいけないけど勝ったならいい」といってほめてくれました。

お父さんの悪いところはつまみ食いをよくすることで、ご飯のときなどはもうおかずが少なくなっています。

お父さんは歌がすきで、一緒に車にのるとすぐ歌たうをいはじめます。けれど決してうまい歌じゃありません。節もメチャクチャで歌詩もうそばっかりです。ぼくが「お父さん、そこちがうよ」と注意すると、にっこりわらって「これがお父さん流だ」となおさら声を高めてうたいます。

ぼくは、こんなお父さんがなんともいえないほど大好きです。

毛利俊昭

☆　☆　☆

お父さまが出張したら、家の中のいろいろなことが変ってしまいます、わたしには姉妹がいないので、おうちの人が一人でもいなくなると、なおさらさびしくなります。お母さまは、夜中にちょっとした物音で、何回も目がさめるそうです。いつものお父さまのいびきではちっとも目がさめないのに。

お父さまはうちでいつもわたしのあい手になってくれるので、るすのときはとてもいやです。ですから、お父さまが日曜日にゴルフにでかけるときは、大反対をします。

お父さまは音楽がすきで、バッハやモーツァルトなどいろいろな曲をピアノでひきますが、れんしゅうしないので、あまり上手ではありません。にこにこしてひいていますが、ひき終ると、自分で拍手をしておじぎをします。

お父さまは大きな製鉄会社の研究所につとめている工学はかせですが、おうちでは勉強しているお父さまを見たことがありません。

「あれで研究ができるのかしら」とお母さまにいったら「あなたがやすんでから、夜おそくまで勉強なさるのよ」といわれました。

毎朝目がさめると、そっと私の手を取り、みゃくをみてから私の元気なことをたしかめるお父さまです、いつまでも元気でいて下さい。

小四　榎藤智恵

☆　☆　☆

わたしのお父さんは大学の先生なので、学生に教える勉強をしたり、研究をしたり、それに相だんにくる人たちの相手をするなど大変いそがしい、あまりいそがしくないときには、さんぽにつれていって下さったり、ゴムとびのとび方を教えて下さったりします。

このごろ、お父さんの頭には、白い毛がまじってきていますし、おなかも下の方がだいぶふとって前の方にでてきています。「パパもだいぶ年とったのだなあ」と思って悲しくなります。いつまでも元気で、年をとらないでほしいと思います。

小四　藤原真理子

随想

自分のもので他人のもの

私はときどき、ふっと「自分で自分の罪がゆるせたらなあ」などとひとりよがりな考えを起すことがある。司祭として、他人の罪なら何千何万とゆるしてきたのに、自分の罪に関しては、ただの一度もゆるしたことがない。ゆるせないのだ。ゆるしてもらいたいなら他の司祭の前にひざまずかなければならない。「罪のゆるし」という尊い権能は、他人を救うために与えられたものであって、自分のためではないからである。

折角いただいた権能も自分のために全然通用しないとは……何だか割に合わない……などと身勝手な想像をめぐらしながら、よく考えてみると世の中の権能とか権威とかいうものは、みなそんなものではないかと、思うようになったのである。

父親が「もっと勉強しなさい」「あの娘と交際してはいけない」「早く帰ってこなければだめじゃないか」と、わが子を前にして意見するのもよい。父親は一家の主であり、妻子を従がわせる権威を与えられているからである。でもそれは、妻子の幸せのために与えられた権威であり、自部の鄙合や利益のために与えられたとは思えない。もし、「大学を出ていい職につかなければ、わしの老後はどうなるんだい」とか「あの娘では身分がちがう、親の体面がきずつくじゃないか……だから従え」というような自己本位の命令をしたとすればどうだろう。

子供が素直にきくはずはないしそれは父権の乱用であろう。

同じように、会社の社長であるということは、社員に奉仕するためであり、課長、主人になったということは、部下に仕えてもらうためではなく、かえってかれらにつかえ、かれらを助けるためではなかろうか。

すべてに卓越して権能を有しておられる神は、「あなたたちの中で第一の人となろうとする人は、しもべにならねばならない。私は仕えられるためにこの世にきたのではなくかえって仕えるためである」（マテオ二〇・27）とおおせられた。「私に従え」といわれてもそれは、かれらを「人を漁るものとする」（マルコ一・17）ためであり、ひいては「ご自分に服従するすべての永遠のたすかりのもととなる」（ヘブレオ五・9）ためであった。

要するに、権能は他人のために義務は自分のために与えられているということを、私はあまり感じていなかったらしい。むしろ反対に、義務の方は面倒だからひとにやり、権能は自分のためにとっておきたい、というのが正直な所だったろう。あれこれ思めぐらしているうちに、私は司祭として多くの特権をいただいているものの自分で自分の罪をゆるすどころか自分のために与えられた権能は何一つないことを今さらながら考えさせられた。（鵜野）

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和和英辞典
コンサイス英和和英辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス英和和英辞典
コンサイス独和和独辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン英和和英辞典
新クラウン英和和英辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

教会一致と平和のご旅行

教皇、トルコに二日間滞在

パウロ六世教皇は、トルコのイスタンブールとエフェゾを訪問、大統領はじめ政府首脳者、正教会アテナゴラス総主教らと、平和、教会一致などの問題について会談された。

七月二五日朝九時三五分、教皇はティツスラン枢機卿らを伴ってパンアメリカンのジェット機聖パウロ号でイスタンブールに向われた。正午トルコ共和国のチェヴデド・スナイ大統領を公式に訪問、大統領は次のようにのべた。

「教皇聖下のこられの通り、トルコは平和と自由の理想に味方する国です。私たちは国連憲章の原理に深く根をおろしており、私達はあらゆる手段と方法をもって民主主義の原理と人間の権利に忠実に従い、世界の協力と調和のために尽力するよう努力します。」

同日夕刻教皇はイスタンブールの聖ジオルジオの大聖堂でアテナゴラス総主教と会見された。二人はカトリックおよび正教会の信者で埋まった聖堂で平和と教会一致のために祈られた。

それから教皇使節館でアルメニア派正教会主教、回教徒およびユダヤ教徒の責任者と挨拶をかわされた。

翌二六日教皇は七時半からバドアの聖アントニオ教会でミサをささげ、飛行機でスミルネへ、そして車でエフェゾへ向われた。午後七時二五分教皇はエフェゾからローマへの帰途につかれた。教皇のトルコご訪問の動機については、教皇ご自身つぎのように述べておられる。

「それは信仰の年のはじめにあたり、東方の歴史的有名な町々の中で、コンスタンチノープルとエフェゾを訪ね、いくども開かれた重要な公会議を記念し、そこで称えられ、崇敬されている聖マリアを記念し、たたえるためです。」

教皇とアテナゴラス総主教との会談の主な内容は教会の一致についてであった。

世の光

日本二〇五殉教者　列福一〇〇周年

一八六七年（慶応三年）七月七日、日本の殉教者二〇五名が時のローマ教皇ピオ九世によって福者の位にあげられました。今年はその丁度一〇〇周年にあたります。私達は毎年九月一〇日にこの二〇五名の殉教者を記念しお祝いしております。

日本の二六聖殉教者はその五年前の一八六二年（文久二年）六月八日、聖人の位にあげられています。またプチジャン神父が大浦の天主堂で浦上の信者を発見し、興奮の涙をとってパリに「日本の信者健在」の報告を書き送ったのは二〇五名の列福式の二年前のことです。

このような一連のよろこばしい出来事は日本カトリック教会の輝やかしい復活を告げているかのようでした。がしかし長崎の信者たちが大声でオラショ（祈り）をとなえることのできる日は、なお数年間めぐってはきませんでした。かれらは先輩達のなめた殉教の苦痛を経験し、そのいくたりかは配流の地で信仰のために落命するのです。

一〇〇年前に列福された二〇五名の殉教者というのは、十六、七世紀の日本のカトリック教会の主な殉教者のことでなくて、徳川二代将軍秀忠と三代将軍家光の時代正確に言えば、一六一七年から三二年までの二五年間に殉教した人々のうちの二〇五名を指しています。

ドンボスコ社発行の「毎日のミサ典書」を持っている方は、【一六三頁】以下の日本教会の固有ミサの部分をあげると、福者殉教者の主な名前や殉教年月日などを見付けることができます。念のためにそのいくつかを挙げてみます。

○ヨハネ・バプティスタ・マカド神父ら、一六一七年五月三二日大村で殉教。

○アルフォンソ・ナヴァレテ神父フェルナンド神父、レオ田中ら一六一七年六月一日高島で殉教

○邦人司祭レオナルド木村神父と四名の信者、一六一九年一一月一八日長崎立山で殉教。

○同じくアントニオ石田神父、イエロニモ城神父ら一六三二年九月三日長崎で殉教。

これら二〇五名の殉教の模様は、ヴィリオン神父原著、切支丹鮮血遺書、改造社版、明治二〇年八月刊行にくわしく述べてあります。

ちなみに二〇五名のうち一四八名が長崎地方で殉教していますが、一六三三年二月四日イエロニモ神父、シモン遠藤ら五〇名が江戸で殉教したことは、非常に有名です。

日本の殉教者たちの記録をよんで大いに心打たれると同時に、また一つの疑問もわいてきます。当時の一般の信者は、現代の信者に比べると決して十分な教理の指導をうけていないはずです。もともと教養に縁のうすいかれらに、いちいち手をとって叮嚀に信仰の要諦を説明してくれる司祭・伝道士はきわめて少なく、ミサにあずかる機会もまれでありました。知識の上では多くを与えられていなかったかれらが、信仰に反する人間のあらゆる攻撃を前にして、最後まで一歩もゆずらなかったということ、どれほどたくみな甘言や常識にもまどわされなかったということは、まことにふしぎと言わざるを得ないのです。

もちろんこのような事実を知っても、私達は教理の勉強をおろそかにしてもよいとは考えません。ある人において信仰が躍動しない大きな原因は、教理について余りに無知だからです。

あの時代にわが国で教えのためにいのちをささげた人の数は、数万にのぼっています。新井白石はその数二〇万に達すると書いているそうですが、これら一団の殉教者が信仰という高い純粋な目標のために、つぎつぎと冷静な忍従のうちに進んで生命を捨てていったことは、これほどに人間を偉大にすることのできる偉大な神の現存を証明するものでありましょう。

かれらの多くは決して才能ゆたかな情熱家ではありませんでした。封建時代の庶民の心の中には、百姓一揆のような爆発のエネルギー源はあったにせよ、殉教というような、高度の、普通のレベルの生活のなかからは出てこないようなそしてきびしい長い内的な習練がなければ生じえないような力のエネルギーは神の働きかけがない限り生じてくるはずがありません。

日本人の歴史のなかに、たくさんのすばらしい殉教者が見出されることは、どの日本人にとっても恥かしいことでなく、むしろ誇りとすべきことです。かれらを殉教に向かわせた動機は、やはり丁度あの頃に起った島原の乱の加担者のそれとは、本質的に異るものです。この人達は生活のために戦いあの人達はより高いもののために生活と生命をささげたのです。

二〇五殉教者の列福記念の年に当り、私達は、神がわが国三五万の信徒の心にも、燃えさかる信仰を点火して下さるよう祈りたい。

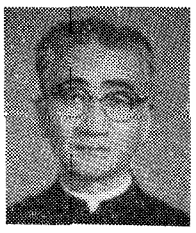
（深堀　敏）

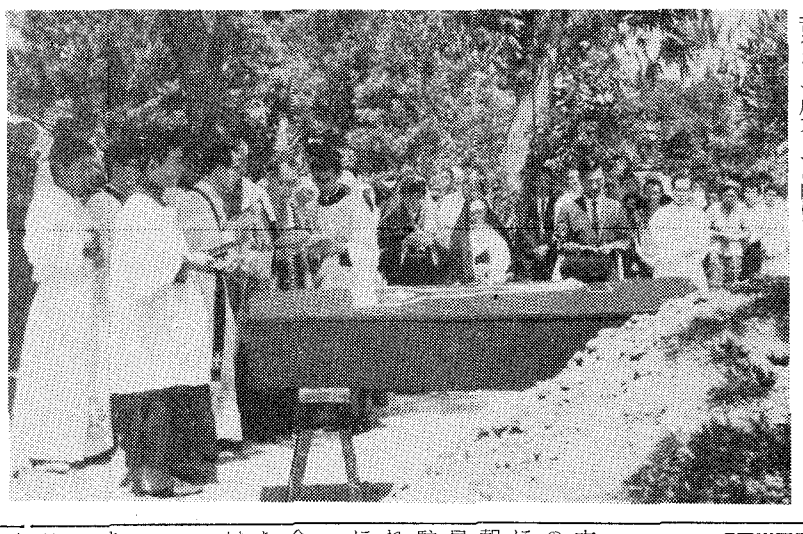
木村義己師逝去

ブラジル宣教から帰国中

南米ブラジルの在留邦人のために働き、休暇で帰日中であったモンセニョール・ミカエル木村義己師（写真＝は肝臓ガンのため八月一四日午前九時三〇分、福岡県行橋市の新田原病院で逝去した。五三才。葬儀は一六日午前九時から新田原教会で平田勇、ルリエ、糸永二の三師によるミサがささげられ、深堀司教が救禅式を司式、隣接の墓地に埋葬された。

木村師は長崎県北松浦郡鹿町町橋崎の出身、昭和一二年東京大神学校入学、一六年三月福岡で司祭に叙階され、馬渡島助任、門司主任のあと終戦少し前から馬渡島主任になり、当時日本で唯一の少数区立海星中小学校を設立して校長の重責を果たした。三三年ブラジルのパラナ州マリンガ教区のコヘリオ司教の要請で渡伯、新任地区では広大な地域に散在する信者の司牧に当る一方、青少年の教育にも病苦をおして尽力、その間にローマからモンセニョールの称号をうけた。





師は七月五日休暇でブラジルから福岡に帰り、九月に予定されているコヘリオ司教の来日を準備するつもりであった。母堂イヨさんは九〇才で健在である。（写真右は新田原墓地での葬儀）

お礼

八月四日私の霊名の祝日にあたりましては、教区のみなさまから霊的花束や色々の贈り物をいただき、心から感謝申し上げます。みなさまのお心づかいは、教区の牧者に対するふかい愛と従順からあらわれたものであると確信いたします。これからも全教区が一つに結ばれて、助け合いつつ信仰の道を進んでまいりましょう。

みなさまのご厚情を感謝しつつ神の御祝福をお祈り致します。

福岡司教
ドミニコ　深堀仙右衛門

ローマからお見舞

西日本の水害のため

伊万里、佐世保、広島など西日本の各地をおそった去る七月豪雨の被害に対し、パウロ教皇はさきに土井枢機卿を通じて見舞いの電報を寄せられたが、七月二二日、見舞金二万ドル（七二〇万円）を駐日バチカン大使を通じて寄せられたので、大使は外務省森審議官にこれを手渡した。

伊万里市では町の中心にある教会（主任サルディ師）が床上浸水なお市内の信者二家族が被害をうけた。

司祭異動

崎津教会主任ケレン師は病気のため一時帰国。

戸畑教会助任ガイヤール師はパリ・カトリック大学で要理教育研究所で勉学のため渡仏。

伊万里トラピスチヌ大修道院付ルカ師は西の宮司会修道院で静養

祈禱の使徒会

（九月）

【一般意向】カトリック団体の国際的発展

【布教の意向】キリスト教徒とマホメット教徒との相互理解

聖ペトロの献金

（七月二日）

茶山	一、五〇〇
大名町	五、九〇〇
二日市	二、六三四
箱崎	二、一四五
東田島	
光ケ丘	四、二七〇
本郷	
今村	九、四三〇
地行	三、〇〇〇
浄水通	三、二三五
古賀	
久留米	七、八五〇
馬渡島	二、三〇〇
鷹島	一、〇一三
西新町	一、五一〇
小郡	
大楠	四、三〇〇
大牟田	二、五〇〇
高宮	二、四五〇
呼子	二、二五〇
吉野	一、五二二
吉塚	
伊万里	
唐津	一、〇〇〇
鹿島	五〇〇
佐賀	
武雄	五〇〇
多久	五〇〇
島栖	五〇〇
八王寺	三、〇〇〇
本城	
飯塚	三、〇〇〇
小倉	一八、〇〇〇
黒崎	一〇、〇〇〇
水巻	二、三三〇
門司	三、二〇〇
門司港	一、二〇〇
直方	一、〇〇〇
新田原	八、〇〇〇
田川	一、二〇〇
天神町	四、〇〇〇
戸畑	一〇、九〇〇
若松	二、〇〇〇
溺川	一、五〇〇
行橋	三、〇〇〇
荒尾	二〇〇
人吉	五、一九〇
本渡	一、二七一
健軍	四、〇〇〇
菊池	三、七二〇
水俣	一、一五〇
大江	一、五〇〇
崎津	
島崎	一三、六〇〇
玉名	一、七五〇
手取	
八代	三、〇〇〇
合計	一六八、五二〇円

聖体礼拝

（九月）

第一日曜	西新教会
第二日曜	新田原教会
第三日曜	福音の光修院
第四日曜	マリアの宣教者人吉修院

9月

3日（日） 聖霊降臨後第16主日
結婚式に招かれて、自分から上席にすすむほど厚顔な人はすくないであろう。しかし遠慮して下に坐ったものの、上位についている人をねたむことがある。名誉心を脱却した人はまれである。
SVP九州ブロック総会（福岡聾唖学園で）

8日（金） 聖母マリアご誕生の祝日

10日（日） 聖霊降臨後第17主日
「主は一つ、信仰は一つ」神の子であるわれらは天の御父をいだく大きな家族である。各教会では主任司祭のもとに全信者が兄弟のように助け合うこと。これがキリスト教的愛徳の典型である。
武雄教会で堅信
移民のための献金日

12日（火） 聖母マリアのいとも聖なるみ名の祝日

14日（木） 聖十字架称賛の祝日
十字架はキリストの御受難のしるしであるだけでなく、むしろわれわれの勝利のしるしである。

15日（金） 聖母マリアの七つのお悲しみの祝日
聖母はキリストのお苦しみに合わせてご自分のお悲しみをおささげになった。
敬老の日

17日（日） 聖霊降臨後第18主日
奇跡をおこなう力をもっているお方は、人の罪をゆるすことがおできになる。奇跡をおこなうことも、罪をゆるすことも、神の全能のお力と慈悲のあらわれである。
古賀教会平和祈願の日（ルルド洞窟祝別とミサ、司教司式午前10時半）
大楠教会で堅信（午後4時）

21日（木） 福音史家使徒聖マタイの祝日

24日（日） 聖霊降臨時第19主日
「アジョルナメント」という言葉が最近よく言われている。刷新という意味である。たまったアカをおとし、だせい的な行動に活をいれ、新鮮な目で自分の使命や理想を見直す。われらは時々信仰生活のくもりを洗いおとすべきであろう。
新田原教会で堅信
秋分の日

29日（金） 日本の保護者大天使聖ミカエルの祝日
大天使ミカエルは天使たちの頭として尊敬されている。またサタンの攻撃をしりぞけているので（黙示録一二・7－8）、死者を天国にみちびく案内者とみなされている。「かれらを冥府におとさず、闇に投げ給うな、旗手聖ミカエルが、かれらを聖い光明にみちびかんことを」
（死者のミサから）。

教区年度統計発表

福岡教区の新しい年度統計が発表された。これによると、大人の受洗数（臨終外）は昨年に比べ七六名減、求道者数は反対に一〇〇名増となる。

結婚では、信者間の結婚よりも未信者との結婚が五〇%上廻っている。

今年はじめて教区事務所では、各教会の信者、受洗者、求道者の男女別報告をうけた。これによると信者総数で女子数は三〇%余、男子数を上廻る。

福岡教区内総人口（福岡・佐賀・熊本3県）
6,607,249名

教区信者総数（司祭・修道者・神学生を含まず）
2,424名 {男子 10,165名 / 女子 13,259名}

求道者数
907名 {男子 235名 / 女子 672名}

小教区 58
巡回教会 10

増加
臨終外の洗礼
939名 {男子 398名 / 女子 541名}
本教区外からの移住 488名
他の理由によるもの 483名

減少
死者 151名
他教区への移住 853名
他の理由によるもの 483名

臨終時の洗礼 201名
復活祭の聖体拝領 13,727名

聖職者
司教 1名
邦人司祭 {教区司祭39名 / 修道司祭 8名}
外人司祭 77名

神学生
大神学生 15名
小神学生 32名

修道士
邦人 8名
外人 6名

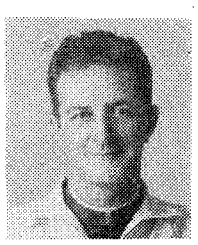
修道女
邦人 369名
外人 42名
修練者、志願者ら 153名

カテキスタ
男子 5名
女子 17名

学校
高等学校 9
中学校 7
小学校 2
各種学校 5
幼稚園 43
保育園 98
日曜学校 22
学生寮 7
病院 3
ベッド数 207
老人ホーム 5
収容者 283名
養護施設 9
児童数 524名

晴れの司祭銀祝

北九州地区の三師



七月一七日北九州市八幡区のパリ外国宣教会本部で、三名の司祭の叙階二五周年のお祝いがひられた。

エミール・モーゼ師（写真右）は一九四一年一二月二十一日パリ外宣会本部聖堂で叙階、フランスで教会司牧にあたり戦後の四九年二月来日日本語勉強のあと五〇年一一月から今日までずっと鵜司教会主任、一五年前の大水害の時には門司区広石町の教会で難に会い九死に一生をえた。

レオン・グロージャン師（写真中央）は一九四二年七月パリ本部で叙階、四六年一一月中国に渡り北京で中国語を勉強、四八年五月満州奉天遼陽教会につとめたが、中共軍の侵入をさけて五一年三月来日、五三年五月から九年間新田原教会主任、現在は小倉区湯川の主任。

レオン・デシャンブー師（写真左）同じく一九四二年七月パリ本部で叙階四七年八月中国に渡り北京で一年間中国語勉強、満州の奉天で三年間司牧にあたり、五一年秋追放されて五二年一月来日、現在まで若松教会主任であるが北九州地区長をつとめたことがある。

要理教育講習会

熊本で大好評

八月八日から四日間、熊本市の県福祉会館で要理教育講習会がひらかれた。主に熊本地区で要理教育に従事している修道者、信者ら七五名が朝九時から四時すぎまで聴講し、また討論、ミサ、会食などのスケジュールで意見の交換と親睦をふかめた。講師には東京豊島教会のパーセル師と大磯教会のグリーン師が招かれて懇切な指導をあたえ大好評であった。

ガラシヤ夫人の墓前祭

日本婦道の鑑みとして有名なガラシヤ細川玉子夫人の没後三六七年の命日にあたった七月一七日の前日、熊本市立田山ろくの細川家菩提寺泰勝寺のガラシヤ夫人廟前で財団法人武蔵会（会長島田真富氏）による恒例の墓前祭が行なわれた。

廟前で祈りをささげたあと、寺内の広間で、手取本町カトリック教会のノーリス師司式の追悼ミサが行なわれ、参列の修道女、信愛女学院聖歌隊が聖歌を奉仕した。

信徒使徒職大会日本代表に

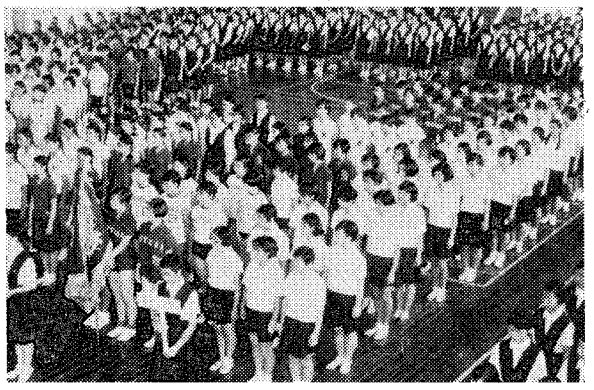
八幡区の石丸さん

来る一〇月一一日から一週間ローマで開かれる第三回信徒使徒職世界大会に出席する日本代表のひとりに、北九州市八幡区の石丸淑恵さんが選ばれ、近く出発する。

石丸さんは安川電機のタイピストとして勤務したあと、JOC福岡地連の女子会長として青年労働者のために活躍している。なお大会終了後、フイリッピンで行なわれるアジア・トレーニングコース（アジア地区のJOCリーダー養成のため三週間行なわれる練成会）に参加する。

八代白百合が総合優勝

女子校親善体育大会



福岡教区カトリック女子学校の親善体育大会が八月七日久留米信愛女学院でひらかれた。これは教区のカトリック教育協議会によるはじめての試みであったが戸畑明治、福岡雙葉、同海星、久留米信愛、大牟田明光、熊本信愛、八代白百合の七校から選手二〇〇名が参加し、バスケット、バレー、ピンポン、テニスの四種目にわたって技をきそった。

一〇時前深堀司教司式の聖体降福式とあいさつがあり、一一時から熱戦をくりひろげたが、総合で八代白百合会が優勝した。なお各部門の第一位と第二位は次の通り。

バスケット＝雙葉、白百合
バレー＝白百合、久留米信愛
ピンポン＝白百合、雙葉
テニス＝久留米信愛、明光

黙想会

【学士会】七月二三日深堀司教指導、黙想の家で、会員一二名参加。

【レジオ・マリエ】八月二〇日福岡セナートスのレジオ会員三〇名が黙想の家で静修、深堀師指導。

【学生会】福岡カトリック学生会員二七名が八月二一日から四泊五日で恒例の夏期黙想会。山内師指導。第二日夕方には深堀司教のお話し。

幼児教育連盟教師研修会ひらく

福岡司教区の幼児教育連盟による第三回教師研修会が、八月二八と二九の両日、二日市の大丸別荘でひらかれた。ヘルベック師らの講演があり、二三五名の参加者は分科会で日頃の経験を吐露した。

映画「十戒」

米パラマウント製作
カトリック映倫推せん

昭和三三年に日本でも公開されたものの再公開。

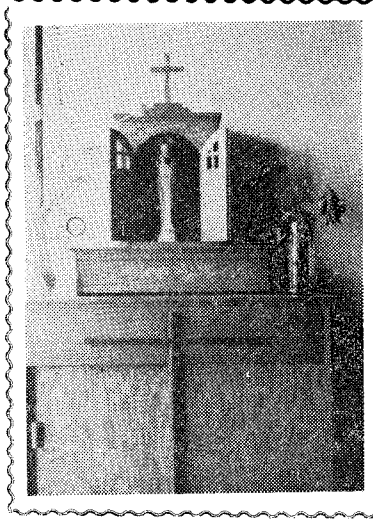
福岡市スカラ座で九月七日より封切　一ケ月上映

当日券　大人　四〇〇円
前売券
一般大人三三〇円
市内教会で取扱いの分二八〇円

福岡教区信者状況

（昭和42年6月30日現在）

教会	種類	洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終外 子供	洗礼 臨終時 大人	洗礼 臨終時 子供	求道者	結婚 信者間	結婚 混宗	信者数 1967	信者数 1966
邦人司祭地区	山町	0	8	0	1	0	2	1	350	346
	茶名市	29	28	0	3	42	9	11	876	863
	大日崎	4	4	0	0	7	1	3	136	139
	二箱島	2	2	0	0	8	1	0	132	142
	東田	7	5	0	0	16	0	1	140	126
	光ケ丘	11	7	0	0	20	1	5	379	372
	本郷	2	27	1	0	2	8	0	680	690
	今村	7	24	0	1	0	4	0	1,247	1,259
	地行	4	10	0	1	36	1	3	290	289
	浄水通	10	2	0	2	12	0	4	205	202
	古賀	4	2	0	0	11	0	0	168	179
	久留米	16	10	61	2	167	11	5	1,129	1,185
	馬島渡	1	18	0	0	1	3	1	539	620
	蓑島	4	1	0	1	7	3	1	189	198
	西町新	11	6	0	4	20	3	3	451	390
	小郡	3	4	0	0	1	0	0	137	118
	大楠	4	3	0	0	6	0	1	196	205
	大牟田	5	5	0	2	9	0	7	267	245
	高宮	6	5	0	0	7	3	1	403	385
	呼子	2	16	0	0	1	2	0	497	495
	吉野	1	1	0	1	13	0	0	51	55
	吉塚	1	10	0	0	9	0	6	319	304
ミラノ会地区	伊万里	6	4	0	0	6	0	3	176	210
	唐津	3	2	1	1	13	1	1	203	200
	鹿島	1	1	0	0	4	0	0	105	102
	佐賀	8	6	0	0	21	0	2	400	399
	武雄	4	4	0	4	8	2	1	109	101
	多久	5	6	0	0	8	3	1	136	124
	鳥栖	1	4	0	0	4	0	2	139	130
パリ会地区	八王寺	1	5	0	0	5	0	2	281	255
	本城	7	2	0	0	20	0	1	135	132
	飯塚	1	4	0	0	6	0	1	276	334
	小倉	52	37	1	2	18	9	13	2,043	1,911
	黒崎	35	16	3	11	36	5	10	996	990
	水巻	2	8	0	2	11	3	3	327	336
	門司	10	7	0	0	25	0	5	374	373
	門司港	0	3	0	1	3	0	2	145	135
	直方	0	5	0	0	4	1	1	178	163
	新原	3	45	0	3	0	9	1	1,341	1,319
	田川	0	1	0	0	13	0	0	155	150
	神町	2	3	1	0	97	2	15	441	465
	畑	99	26	0	1	12	7	3	1,268	1,222
	松戸	9	10	0	0	5	1	1	343	342
	若松	3	16	0	0	6	8	2	653	652
	湯川	9	6	0	1	0	0	3	319	322
コロンバン会地区	荒尾	2	1	0	0	0	0	3	68	83
	人吉	4	4	1	1	11	0	3	280	268
	本渡	0	4	0	10	22	0	1	128	125
	健軍	6	6	0	1	8	0	0	376	367
	菊池	15	1	0	0	16	0	1	319	319
	水俣	1	4	1	0	5	0	0	156	152
	帯山	2	4	0	1	12	2	4	251	243
	大江	1	17	0	0	2	1	2	596	609
	崎津	1	7	0	0	9	3	8	322	390
	崎島	14	6	6	10	58	2	2	460	532
	名取	0	1	0	1	2	0	2	66	72
	玉代	13	18	0	15	20	3	16	794	758
	手八	14	6	2	29	22	0	3	284	268
合計		441	498	78	123	907	114	171	23,424	23,372
							増加数		52	



暁の星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式
事務用・学校用家具一式
室内外装飾・一船塗装

ご用命うけたまわります

福岡県粕屋郡粕屋町下若宮8組
電話（長者原局）09238～2584

聖心の使徒

（昭和四十二年九月号）

九月の意向　視野を広く…岡田純一
回教徒との融和（十月の布教の意向）
……谷口幸紀

黙想　イエズスの聖心の連禱（三十）
……河野義祐
歩みのおもさ……芝崎和男

写真特集　信徒使徒職に生きた高山右近…
高山右近のすがた……千寿利久
高山右近と「椋の木」…奥田康雄
右近を想う……五野井隆史
高山右近について……佐藤由美
高山右近年譜……片岡千鶴子

病める友へ　愛するとは？
…十字架のイエズス修道女会

聖書の時間　イエズスの御姿……
……J・モンステルレ

新本めぐり……
ポスト……

購読会費　一部　〒共　一カ月　五七円
一カ年　五七〇円

教会のおしえ

典礼憲章

「われらの救い主は、ひき渡されたその夜、最後の晩さんにおいて、御からだと御血による聖体の犠牲を制定された。それは十字架の犠牲を主の再臨まで世々に永続させ、しかも、愛する花嫁である教会に、御自分の死と復活の記念祭儀を託するためであった。」（47番）

「したがって、教会は、キリスト信者が、この信仰の秘義に無関係な、あるいは無言の傍観者として列席するのではなく、儀式と祈りによってこの秘義をよく理解し、聖なる行為に、意識的に、敬謙に、また行動的に参加し、神のみことばをもって教えられ、主の御からだの食卓において養われ、神に感謝をささげ、ただ司祭の手を通してばかりでなく、信者も司祭と共に汚れなきいけにえを奉献して、自分自身をささげることを学ぶよう……全力を傾注しているのである。」（48番）

「教会は、復活秘義を祝うためにともに集まる……その際、"聖書全体にわたって、かれについて書かれた箇所"を読み、"主の死の勝利とがいせんを現わす"聖体祭儀を行なうとともに、キリスト・イエスにおいて、"神の栄光と賛美"のために、聖霊の力によって……神に感謝する。」（6番）

「このような偉大なわざを成就するために、キリストは、常にご自分の教会とともにいまし、特に典礼行為に現存しておられる。」（7番）

「（司教は）小教区の共同体意識が盛んになるよう特に主日のミサの共同体的祭儀において努力しなければならない。」（42番）

教会憲章

「かれら（信者）はキリスト教生活全体の泉であり頂点である聖体の犠牲に参加して、神的いけにえを神にささげ、そのいけにえと共に自分自身をもささげる。」（11番）

一平信者の感慨

今村　茂

私がじはめてミサを見たのは、今から十五年以上も前の、十二月半ばの或る寒い日曜日のことでした。その時、私はまだ未信者でしたし、公教要理の勉強も始めていませんでしたので、けっしてミサにあずかったわけではありませんでした。そのころ私はまだ三十にならない青年で、哲学者たろうと志して大学院に籍を置いておりました。ご承知のように、哲学というのは宗教と関係浅からざる学問ではありますが、お恥ずかしいことながら、当時の私はカトリック教会について全然無知だといってよいくらいでした。そして或る出来事がきっかけになって、私の心は急速にカトリック教会に傾いて来ました。折にふれひもといていた新約聖書のなかの、イエズスさまのいくつかの御言葉や聖パウロの言葉が、知らず知らずのうちに私の心を動かしたのでしょう。けれども、教義も知らず信仰も持たない私が、聖堂に入っていいものだろうかと迷っていたので、長いあいだ教会の門をくぐることができませんでした。つまり私は、信仰を求めているというだけでは教会に行く資格がない、と私は自分勝手に決めていたわけです。

こういうわけで、魂の内部には長い複雑ないきさつが秘められていたとはいえ、少なくとも表面的には単なる見物人として、私はミサ聖祭の行なわれている聖堂にはじめて足を踏み入れたのです。そしてその時の印象をありのままに申しますならば、ミサというものは異様な、わけのわからない、そうしていささか趣味の悪い儀式だ、という気がしました。ラテン語はチンプンカンプンだし、グレゴリオ聖歌は坊さんのお経みたいだし、祭壇も祭服も金ピカで良い趣味とは思えなかったし、信者の聖体拝領ときたらつぼの臭ひなみたいな感じを受けたのです。にもかかわらず、私は心のなかで、しかしこれはまさにホンモノの儀式だ、と確信しました。世間にはマヤカシの儀式が横行しています。そのためそれまでの私には、迷信と宗教との区別がつかなかったのです。ミサ聖祭を見て、私ははじめて神と人間との交わりに触れたと思ったのです。そうして、カトリック教会について勉強してみようと決心する一方、カトリックという宗教がいかなる教義に基いているにせよ、その中核をなすものはこのミサ聖祭であるにちがいない、と堅く信じたのです。そしてこの確信は今も変っておりません。

そこで私は、その日から、日曜日ごとに（大祝日はもちろん）教会に通うようになりました。そうしてミサ聖祭にかんする本を読み、ミサ見物の回を重ねるにつれ、私の心のなかに、ミサを見るのではなく、ミサにあずかりたいという希望が芽ばえ、それが次に成長して来ました。こうして公教要理の勉強を始めましたが、その期間中、私の気持をひとり占めにしていたのは、一日も早くミサにあずかる資格を得たいというあせりに近い希望でした。そして最初にミサを見たときに受けた異様な感じが次第に薄れて来たとき、私はすでに洗礼を受けていたのです。

あれから早いもので、すでに十五年の歳月が流れてしまいました。そのあいだ、日曜日のミサにあずかるということの外観もいろいろと変りました。妻と幼い子供たちが受洗してからは、子供たちが走りまわらないように気を使って祈りもできない一時間でしたし近ごろは書物を読み違えないように緊張したり、病気がちの神父様の顔色を気にしながら足の痛みをこらえる一時間（私たちの教会には椅子が少ないので）です。しかし、私にとってミサ聖祭こそ、すべての祈り・すべての説教・すべての布教活動をはるかに越える、神との最高の交りだということ、このことに変りはないのです。朝寝坊と仕事の関係で平日のミサにはまるであずかりませんが、日曜の朝が来るたびに、雨が降ろうが風が吹こうが、また気分がよかろうが悪かろうが妻や子供たちを急き立てて教会へ行き、ミサにあずかり、聖体拝領をすること、これなしに信者の生活というものは不可能であるように思われるのです。

だが近ごろいささか悲しい思いをしていることは、ミサ典礼の多くの部分が日本語で、しかもあまり上等でない日本語で唱えられるようになって、典礼の内容がわかり易くなった反面、儀式としての美しさ・厳しさが以前ほどでなくなったように感じられることです。ミサの意義は信じられるべきものですが、感じられるものではないというものの、弱い肉身を引きずっている私たちにとって、最初にミサを見た未信者をさえとりこにすることのできた、あの美しさ・厳しさが低下するということは耐えがたいことです。ラテン語がどうしても駄目ならば、せめてラテン語に負けないくらい格調のある日本語を使ってほしい、と心から希望する次第です。

「信者さんは日曜日になると教会に行かねばならないのでしょう。大変ですねえ」。今までに何度この様に話しかけられたか分かりません。

私も未信者の頃、カトリックとは、形にはまった、かたくるしい宗教だという先入観を抱いていて、日曜日ごとのミサに与る様になってからも、その代り映えのしない単調さ、空々しさだけを感じておりました。しかし、教理の勉強をする様になり、それが進むにつれて、いつの間にかミサの不思議な荘厳さに魅せられている自分に気がつきました。

やがて洗礼を授かり、ミサ聖祭の甘美なまでの素晴らしさを味わった時、それまで理解出来なかった奥義等についての一切の疑問が氷解するのを覚えました。

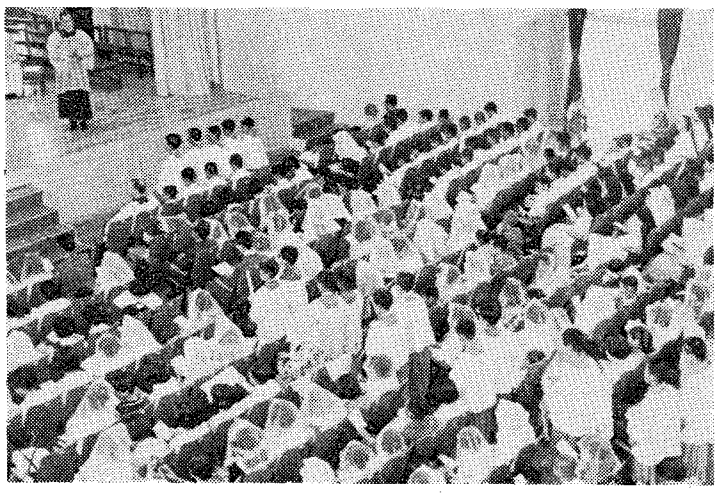
かたくるしい義務と思っていたこのミサ聖祭こそ、実に神の恩恵に浴した人にとって、掛け替えのないものであることを悟り、自分が、その一員に加えられたことに非常な喜びを感じました。

もし仮に、この世から突如としてミサがなくなったとしたら、一体自分達は何を心の拠所とすることが出来るだろうか。そう考えることによって、ミサに与る習慣が惰性に陥らない様心懸けて来ました。

心の安らぎの場であり、信仰が強められる場であり、神との接点であり、一致の場であり、明日への力の源泉であり、生活の中心に位するミサ聖祭、この恩恵を一人でも多くの人が受けることが出来る様願わずにはいられません。

公会議の決定に基づいて、現代社会に適応すべく種々の改革が行なわれている今日、私達信徒も、積極的にミサに与ることにより、常に生き生きとした信仰を保ち、ますます重要になった信徒への期待に応えられる様にしたいものです。

現在の自由で平和な日本に住む一億の人、その中に信者の何と少いことか。それだけに私達信徒の活動の場は無限にあると思われます。



日曜日のミサ参加
教会はなにをのぞみ信者はなにを感じるか

公会議は、私たちがこれまで長い間、慣れ親しんできた教会の掟や典礼に予想もしなかった大変化をもたらしました。

たとえばミサ聖祭を例にとっても、対面ミサが献げられ、聖書朗読や公式祈願など多くの箇所がラテン語から国語になりました。他にも色々と変りましたが、これからまだいろいろ変更されることでしょう。

このような変更を信者たちは一様に受け入れてゆきますが、各自には、色々異った考えや意見があるようです。ただ新奇なものが好きだから変化を好む人あるいはこれまで慣れ親しんできたものを惜しみ、あまり喜ばない人など、さまざまです。

「立ったまま聖体を拝領したり祝福をうけたりするのは、どうも」。「各教会まちまちで困る」

典礼の刷新について

「ラテン語の方が荘厳でよかったのに」など、不満があるでしょうが、それらは考えてみれば大した問題ではありません。とは言うものの、再度にわたる掟典礼や変更について、私たちは口に出したり態度に表わすまではしないにせよ心の奥底にかすかな不安や動揺を感じていることは否めないようです。

「どこまで変るのであろうか」「真理の柱である教会の礎がぐらついているのではないだろうか」「ミサ聖祭が以前と全くちがったものになるのではないか」

「主日や大祝日にミサにあずかる掟もなくなるのではないだろうか」など、そしてこれまでミサ聖祭や教会の掟に対して持ちつづけてきた信仰、尊敬、従順に微妙な不信、軽視、不従順の雲がかかっているのではないでしょうか。

教会の典礼や掟の変更は、決して軽卒に、また現代人への甘い妥協でなされているものでは決してありません。公会議は、人間の知恵、判断が集められただけの会議ではなく、誤ることのない聖霊のおみちびきによるものであることを忘れないで下さい。

典礼の刷新によって、ミサにあずかる信者の心構えが、いちじるしく積極的になり、高められたことは争えない事実です。まだいくつかの点で不備ではあっても、教会全体が一新され、進歩充実してゆきつつあります。信者のみなさんが典礼憲章をよく読み、その精神をよく理解して、日曜日毎に主キリスト様と共に、三位一体の神に完全な礼拝と賛美のいけにえをささげられますよう、希望します。

（司祭・平田正書）

生活の中心

木寺丈弘

気をつけていること

藤川順子

毎週日曜日、ごミサにあずかる。今は暑いが、冷房がよくきいて、とってもすずしいから、ごミサにあずかるのがとても楽しみだ。ごミサにあずかる時、なかのよい友だちとならぶとすぐおしゃべりをしてしまうので、気をつけている。おせっきょの時は、手遊びを始めてしまう。気をつけているのにやはりしてしまうのだ。ごミサは、神様のお話を聞いたり、お祈をしたり、いろいろ勉強になる。わたしは、なにをしているのか、なにをいっているのかわからない時がある。それは、ラテン語で話したり、前をむいて、なにかこそこそとしているからだ。だから、ラテン語を日本語になおしてみんなにわかるようにしたり、むかいあって、ごミサをすればよいと思う。ご聖体はいりょうの時も何かいっているがほんとうは、何をいっているのかわからない。ただ、「アーメン」とこたえているだけだ。よく、ご聖体はいりょうをして、すぐおべん所へ行く人があるが、それは、よくないと思う。どうしても、がまんが、できないのならしかたがないが、がまんできるならやはり、終りまで、がまんすればよいと思う。これは、子どもに多い。また、ごミサの途中に帰る人がいる。これもいけない。ごミサは最後まであずからないといみがない。最初から最後まであずかって、それでこそごミサなのだから、最後まであずかるのがあたりまえだ。イエズス様は、わたしたちを愛していらっしゃる。だから、日曜日は、イエズス様がわたし達をよんでいらっしゃる教会へ、行かなければならない。日曜日は、かならずごミサにおくれないように、教会に行き、熱心に、あずかり、お祈をしなければいけない。

説教

林　隆博

ぼくは、最初、ミサの説教の時は、いつもびくびくしていた。それは神父様のお話しはぼくの、悪いところばかり指摘されているみたいでした。ぼくは、はじめての人なのに、ぼくのことを、よく知っているなあと思ってびっくりしていました。でも、最近は、あまり、なれてきたせいか前よりあまり反応しなくなった。たぶん、神様のことを考えずに、悪いことをしているからでしょう。でも、心をあらため、よく聞こうと思ったときは、わかるのだから、やっぱり、心がけが、たいせつなのだろうと、思いました。

使徒聖ペトロ・聖パウロが殉教して一九〇〇年、信仰再確認の年

信仰の遺産を守ろう

◆キリストの掟　第二巻
B・ヘーリンク著　¥1,500
聖書にもとずいた近代的なキリスト教倫理解説

◆変動する社会と教会
安齊伸編　¥550
公会議後の教会の進路をみつめ把握するため開かれた神学講座の講義の集録

◆神を見つめる
ジャン・ガロ著　十字架のイエズス修道女会訳　¥180
適確な修徳の指針・黄想の結晶のような最尚の助言がピリッとした短章の中で光っています。

信仰はあなたとキリストの対話である
キリストに出会い
キリストのことばに耳を傾け
キリストと一つになって
キリストの目で世界を
ながめよう

◆現代世界とキリスト教との出合い
コンキリウム叢書　¥850
神との出会いキリスト者としての生活、教会と人類戦争と平和、飢餓と繁栄、安定と進歩等々、困難な問題に対して現代第一級の神学者たちが役だたうとする。

◇この世界を愛する信仰
カール・ラーナー著　¥840
本書は初めから終りまで全巻を通じて、人間的キリスト教的生存のかくされた秘義に、あらたな脚光をあびせて、われわれ自身が日常生活で味わっているなやみ苦しみに直接ふれるものである。

大名町　聖パウロ書院
岩田屋六階　セント・ポール・コーナ

二人の青年

柴田武人

床屋にいった。とびらを押してなかに入ると、職人さんたちから「いらっしゃいませ」と大きな声がかかってきた。私はそのひとりT君の方に笑顔をむけて「こんにちは」とあいさつを返した。

かれは私をいすにかけさせ、私の頭をゴシゴシやりはじめた。

「O君の姿が見えませんが、どうしたんですか」

「高見の支店が忙しいので応援に行っています」

「毎日どのくらいの人の頭を刈りますか」

「正月ごろだったら二〇人ぐらい、その時は徹夜ですよ、途中でやめるわけにもいかないし、きついですね」

「七月一六日の平尾台の青年集会はどうでしたか」

「ええ、とっても楽しかったですね」

「海にいった人はどうですか」

「あまり楽しくなかったそうですよ」など、話があっちへいったり、こっちへいったりしながら、私の頭もみちがえるようにきれいになった。

この床屋に行ってT君やO君と話すようになったのは、七月一六日(日)のJOC主催の「北九州働く青年大集会」でかれらに会ってからである。

その日は三五〇名余りの青年が参加した。ジョシスト一〇〇余名残りは教会や商店、職場でジョシストによびかけられた青年達、あるいはその青年達にさそわれて参加した者などであった。T君、O君はジョシストと面識がなくほかの友人からさそわれて参加した人たちであった。

所が丁度その日はこの床屋のある商店街の「杉の子会」というグループで海水浴にゆく計画があったそうだが、そんなある日突然、ひとりの青年が床屋を訪れて「七月一六日に平尾台で青年集会があるそうです。どうぞ参加して下さい。またあなたの友達にもよびかけて下さい」といってたくさんの案内状をおいていった。こんな具合によびかけられて、ふっと出向いた人たちは二五〇名中ただ二人だけではなかったことは確かである。

毎日の勤務時間は長い。また月一、二度の休日もとれるかどうかそれもほかの人と一緒にすごせる休日があれば幸せ。いつも一人きりでなんとなく休日をぼんやり過してしまう商店の店員さん、理容師、美容師さん、中小企業にはたらく青年たち、これら多くの若人たちがだれでも参加できるようにと、北九州のJOCは第三日曜をえらんで平尾台の青年集会を計画したのである。集いの終りに、「今日は楽しかった、すばらしかった」という感想がささやかれるのを聞いて、ジョシスト一同は身にあまるよろこびを感じた。

一方「杉の子会」の海水浴に参加した別の二人の青年は、はじめての人たちばかりのなかで、どうしたらよいかわからなかった。自由行動をしてもよいといわれたが話しかけてきたり、一緒に泳ごうとする者はいなかったので、いつも二人ぎりで行動した。なんとなく一日中ぶらぶらしていたという感じであった。自分のうちが阿蘇の山のなかなので、海を見るのはめずらしいけれども、来年も参加するかどうか解らない、と言っていたそうである。

平尾台の青年集会に集ったT君とO君はこれと全く反対であった。二人は決してとり残されることがなくて、全員が前から知り合っていたように親しく話しかけてくれた。「来年も何かあったら参加したいし、計画があったら知らせて下さい」といっていた。

話しやすい友だちであろうがなかろうが、すべての青年は友達であり、キリストにおける兄弟であると、ジョシストはいつも聞かされている。この確信が今度の集会で実行にうつされ、結果は予想以上の成功であった。床屋ではたらくT君、O君のように参加した人達の多くが、こうして働くよろこびと生きるよろこびに満たされるならば、今回のような集会を何度でも開こうと、私たちジョシストは語り合ったものである。

お互いに手をつなごう

平尾台で働く青年の大集会

七月一六日午後、北九州市小倉区平尾台の草原で「北九州地区働く青年大集会」が開かれた。理髪店や美容店、商店、あるいは大工左官の見習など小さな職場に働く二〇才前後の男女青年三五〇余人のつどいである。

この中には遠く故郷を離れて働いている若者も大勢いる。この人たちの生活はきびしく、誘惑は多い。とかく陥りやすい孤独感に耐えかねて脱落してゆく者もある。

こんなケースを少しでもなくすため、お互いに手をつなぎ励まし合おうとジョシスト（カトリック青年労働者連盟）が中心になってよびかけ、四年前から開かれている集会である。

だれでも気軽に参加できるようにと、会場には平尾台が選ばれた。若松、戸畑、八幡など各地区からバス五台に分乗して集った。はじめての人のためにグループ別に分れてまず自己紹介、そのあとフォークダンス、ゲームで楽しい一日をすごした。

拾ったフライパン

なでしこ

久しぶりで編物の先生のところに伺って、教えて頂いていると、丁度おひるになった。御主人が「オイホットケーキ」と声をかけられた。

先生は、一寸ごめんなさいね、とおっしゃって台所へ立たれた。プーンとホットケーキのやけるいいにおいがして来た。「マア、いいにおい、よっぽど熟練していらっしゃると見えますね。」と私が言うと、「そうじゃないのよ、このフライパンがいいのよ、とってもやきいいのよ」とおっしゃる、そしてわざわざフライパンを見せに持って来て下さった。「ほんとにいいフライパンだ、私もこんなの一つほしいわ、どこに売っておりますの」「ところがねこの会社つぶれちゃったの、あんまり正直だともうからないのかしらん」面白い先生だ。アッサリそう言って又台所へもどられた。

私はそのフライパンがほしくて仕方がない。厚手で丸みがあってほんとにいいフライパンだもの、でもない物は仕方がない。編物も目鼻がついたので雨の中をほつぼつかえりかけた。車のあんまり通らないところをかえろう、車にはねかけられてもいやだから、といつもあんまり通ったことのない道を通った。曲り角のゴミ捨ての側をふとみるとフライパンが捨ててある。古新聞に包んであるが出ているところは見るとまだ新しいフライパンだ。どうして捨ててあるのかしら、拾いあげて見ると、ところどころ赤さびしている。ああこれだ。オヤもう一つある。包紙をあけると、何と今しがたほしくてたまらなかったフライパンだ。

これもところどころ赤さびしている。その足で文房具屋さんによってサンドペーパーを貰ってフライパン二つぶら下げてかえった。

廊下に新聞紙をひろげて編み物そっちのけで一生懸命フライパンみがきが始った。ゴシゴシこすっていたら、何と美事なフライパンだ。赤さびをおとしみがき粉でこすっているところへ孫をつれて娘が来た。孫がよろこんで手伝ってくれる。娘がフライパンがどうかしたのときく。まさか拾って来たなどとは思いもよらないだろう。

「今ね、拾って来たのよ、あんまりいいフライパンで勿体ないからね、そしたらもう一つおまけにこんないいフライパン迄ついていたの。この元の持ち主は宝の持ちぐされね、こんなにさびさせて」と私が言うと娘が「オバアチャマ、まあきたない、拾って来たの？乞食みたい」とひやかす。「大丈夫よキョロキョロそこいら見まわして拾って来たのとちがって使える物拾ってあって勿体ない天主様に相すまないと思って堂々と拾って来たんだからみっともなくもきたなくもないよ」と言い乍らゴシゴシやっていたら嫁が孫を抱いて入って来た。娘が「オバアチャマこのフライパン拾って来たんだってイヤになるわねえ」と言った。嫁がよって来て「すばらしいフライパンぢゃないの、前に持っていた人、宝の持ちぐされね。オバアチャマに拾われてこのフライパン仕合わせね。お母様のそう言うところが私大好き。」と共鳴してくれた。これで助かった。みがき上げて見ると二つともすばらしいフライパンだし、どっちもまだ新しい。

グラグラお湯を煮立てて、次はあぶらをしみ込ませて、今では私の最愛のフライパンになっている。デパートで買ったものと値打ちがちがう。そんなにほしいならあそこにあるよ、と神様がただで惜しげもなく私に下さったフライパンなのだ。その上自分の手で孫の手迄かりてゴシゴシ赤さびを取ってこんなに立派にしたものなのだ。一つの方でビフテキをやくとてもおいしい。おまけの方でホットケーキをやくと玉人はだしにやける。私が神様からいただいたフライパンと特別大事にするので昔からあるフライパン、やきもちやいているかもしれない。

保育所にいって（その三）

カトリック保育所と職員問題

畑原富雄

カトリック保育所の問題の一つに従事者のそれがある。その中で人事管理問題と職員養成機関問題は特に大きなポイントと思われる。人事管理については後日あらためて述べたいと思うので、ここでは職員養成機関の問題にふれよう。

保母資格―わが国の現行制度では文部省の管轄下にある幼稚園教諭資格とは別に、保母資格は厚生省の管轄下にあって、乳児院、養護施設等の第一種施設と保育所のような第二種施設とに共通する資格として賦与される。保母資格取得方法には認定試験によるものと保母養成所や短大保育科によるものとの二つがあるが、最近の業界内部では、保育所の性格的重要性や保母の専門職としての格付けの要望から、次第に試験保母制を縮少して保専や短大二本にもって行くべきだとする声が高まって来た。

保育所職員と保育効果―「事業は人なり」という言葉があるが、保育事業や教育事業には正にぴったりの言葉であろう。数年まえ唱道された人づくり運動が、実業界からの激しい突き上げでいつの間にか技術者養成にすりかえられ、急激に理工科系教育機関の充実を見たことは周知の事実であるが、保育界や教育界に人を得るか否かはそれ以上に極めて大きな意味がある。

カトリック保育所職員の実態―過去において教会の附帯事業を支えてきたのは、修道女の献身的奉仕に負う所大であった。しかし今日では、施設数や保育技術や内容、さらに社会のニードの上からも特定の修道会の能力ではどうしようもない時点に達している。事実、今日の事業維持には多くの一般人、殊に非カトリック者の協力に負う所が大きい。加えて職員採用の場合にも差迫った事情のため志望者があれば適り好みせず採用するといった非科学的採用の例も稀ではない。それは言うなれば宝くじを買うようなものであって、このような実情からカトリック保育の特色やその計画的進展を望むことは極めて困難と言わざるを得ない。

英国国立教育研究財団理事長ウオール博士は「子供を扱う場合には大人の人格が相当大事であるので、職員を採用する場合には十分科学的な方法で行わねばならぬ」と述べている。

一方保育内容に関しては、今日まじめな教育学者や社会心理学者の間で、母親を子供から長時間離すことの効罪や、施設病や、青少年不良化の問題等が真剣に研究されている。近い将来わが国でも或はこの様な視野に立った保育理念や、保育技術の改良、変革がもたらされるかも知れない。保育界の権威を高めるには、右様の勝れた人格と、常に新しい視野に立つ保育知識と技術の練磨とが大切である。かかる権威ある職員は、たなぼた式に待つべきものでなく養成すべきものである。このことに関して、もしカトリック保育界の今日のような、消極的退嬰的姿勢が今後も持続されるとすれば、その命脈を保つことは至難となろう。

カトリック保母養成機関の現状―教会の附帯事業には種々の目的があり得るが、主なものは二つあると思う。その一は事業本来の目的である対象者の福祉又は教育であり、その二は事業を通じての布教である。それらの目的は従事者自身がこれを理解し協力することなしには達成されないし、今日の態勢はこのことに関して十全であるとは言えない。

今日、近畿以西のカトリック保育所は五六施設を数えるが、これに対する保母養成機関は長崎純心短大だけである。毎年三〇名の卒業者を送り出しているが、その大部分が幼稚園に吸収されている。近い将来、大分教区内に二つの養成機関が発足すると聞くが、カトリック保育事業の為にも、また一般保育界の健全な発展のためにも優れた保母を送り出して貰いたいものである。

以上

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス 英和 和英 辞典
コンサイス 独和 和独 辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン 英和 和英 辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂 福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社 東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

インド救ライ事業に援助を

日本の教会は巡回診療車寄贈

去る八月の日本司教協議会は、われわれカトリック信者がインドの救ライ事業に、積極的に援助の手をのべることを決議した。

昨年三月四旬節中に、日本の全信者が教皇の呼びかけに応じて、食糧不足、伝染病、貧困になやむインドに援助物資を送るため献金を行なった（福岡教区からは七〇万円献金）。

ところがインドはこういう食糧問題のほかに、二五〇万人を数えるライ患者の救済をせまられているが、医薬品、医師、看護婦、病院の不足のため、多くの患者が何の手当もうけられず、放置されている現状である。

日本からは同じアジアの国の悲惨を救うために、公けの機関や民間の種々の団体を通して援助を与えているが、日本の巡回医療団の活動には現地のカトリック司祭や修道女たちが直接の手伝いをしている。

日本のカトリック教会は、現地であらゆる不自由に苦しみながら患者のために働いている人たちを助けるために、近く社会・福祉と学校教育と信徒使徒職の三司教委員会が中心になって、募金運動を各小教区教会、学校、病院、その他の施設において推進する。集められた浄財のなかから巡回診療車を購入して、アジア救ライ協会を通して、現地の日本の巡回医療団に届けることになっている。

パウロ六世教皇も数年前、インドのボンベイでの万国聖体大会においでになったときに、この国の窮状を目撃されて多額の援助を寄贈された。われわれも教皇の模範と日本司教団からの呼びかけに従って、地理的には遠くはなれているけれども、人類の苦しみと貧しさを自分のものと感じ、ふかい同情をもって実際の援助をさし出したい。

九州公式訪問

駐日バチカン大使

駐日バチカン大使B・ウステンベルグ大司教は、一〇月二八日から約二週間で大分、福岡、長崎、鹿児島の四教区を初公式訪問なさる。

福岡教区には、一〇月三一日午後六時三五分着の宮崎―板付便でおいでになり、一一月四日まで滞在なさるが、この機会に福岡小神学校の祝別落成式も予定されている。

二つの重要会議

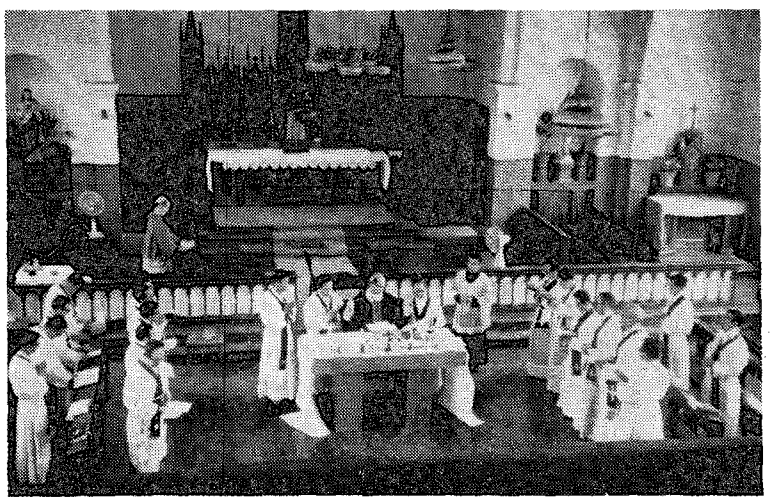
ローマに世界の代表

今秋ローマで二つの重要な会議がひらかれる。一つは九月二九日パウロ六世教皇の臨席のもとに開催される世界代表司教会議（シノドス）。もう一つは一〇月一一日から一八日までの第三回信徒使徒職大会である。

シノドスには各国の司教協議会を代表する司教が、教皇とともに全教会に関する重要問題を審議するもので、全世界から約二〇〇名日本からは大阪教区の田口芳五郎司教が出席し、日本司教団の統一意見を携行して発表する。

信徒使徒職世界大会は、第二回が一九五八年にひらかれて以来九年ぶりのことで、この間の教会内外の著るしい変化に応じる全く大規模の内容ゆたかな大会が予想されている。日本からは各種の使徒職団体から推せんされ、司教団によって選定された一三名が代表として出席する。福岡教区からは北九州市八幡区の石丸淑恵さん（今年六月の福岡雙葉学園での聖ペトロ・聖パウロ一九〇〇年祭での信徒大会での発表者のひとり）がJOC部門を代表して参加する。全世界からは二五〇〇名の代表が一堂に会する。

今大会の主題は「人類の旅路における神の民」で、これが第一部「現代人」第二部「教会の刷新における信徒」に分けられ、各部がさらに八つに区分されて、それぞれを各グループ毎に検討する日本代表は与えられたテーマを掘りさげ、わが国の特殊事情をも考慮しつつ、研究を発表する。



写真左は、ブラジル・マリンガ教区のコヘリオ司教司式の故木村義巳師のために追悼共同ミサ。

棚町師入院

福岡教区総代理・棚町正刀師は腎臓疾患のため八月二八日九大病院に入院、一〇月はじめに手術をうける。深堀司教は教区の全教会と修道院あて、同師の病気恢復のため祈るよう要請した。

世の光

とまって見たもの

私はこの夏神学生ひとりをつれて北海道の旅に出た。八月半ばというのに温度は二五度前後のすずしさ。すばらしい舗装道路を突っぱしる札幌から東道へのドライブは実に壮快であった。

古い友人や司祭との再会、霧のなかにそそりたつ層雲峡、無気味な網走の刑務所、さいはてに横たわる知床の岬、摩周湖の目のとけるようなアイ色、阿寒湖のモーターボート、原始林の緑また緑、内地（北海道の人は本州のことをこう呼ぶ）では見られない見渡すかぎり直線のハイウェイなどが、思う存分私の旅情をなぐさめてくれた。

しかし私はこの旅行中、普段は気がつかないような、いや気がついてもわざと目をそむけていたいような出来事をみせつけられてしまった。

ドライブの途中、私たちは、とある養護施設にたちよった。そこで私は子供たちと出会ったのである。そこはプロテスタントの方の経営になる施設とかで、遠軽の家庭学校とよばれ、大きな雑木林にかこまれた礼拝堂も建っており、日曜日には全員がそこで礼拝の式を行なうそうである。

明治時代に創設されたこの施設は、以前は今の倍以上の土地を政府からゆずりうけていたものだが昭和七年にその半分を小作に解放したとのことで、現在は四五〇ヘクタールの敷地を有していると、受付の人が話してくれた。子供たちは八〇人くらいで、そのほとんどが破壊された家庭の犠牲者であろう。幼稚園に通ったことのある子は、たったひとりというからおよその見当はつく。

ここに来る少年はみな非行性のあるものとみなされているから、かれらを補導するための努力は並大ていのものではなかろう。

もと北大教養学部の教授であったという留岡氏は「私は子供たちにしつけしようとは思いません。とにかくよく食べさせること、そしてなによりも人生は尊く楽しいものであることを納得させるため音楽や芸術に親しませるようにしています。つまらない楽しみにふけるから非行少年と言われるのです。勉強や仕事はそのことがわかってからでいいと思います」と言われた。

なるほどここの施設では、校長のこの方針が一貫して行なわれており、子供たちは家庭的に育てられている。夫婦の職員が一〇名ずつの子供たちを引きうけて、自分の子供と一緒に差別なく育てている。自分の家庭をもつものに、このような生活ができるものかと、思わず目をみはった。

子供たちは自分が求めてえられなかった家庭を幸せを、ここで汲みとっているのであろうか。今は静かなほほえみをたたえた少年が辛かった昔の思い出をことば少なに話しながら「ここに連れてこられる途中、汽車に乗ろうとしていたら、ある女の人が、こんな事をする子の母親の顔がみたいわね、といったんですよ」と、この時ばかりは歯をくいしばっていた。

強盗におそわれて路傍に倒れている人を見ながら、通りすぎていった人もいるし、自分の身を省みずに捨てられた人を助けおこして介抱するサマリア人もいるのだ。自分のせいでなく非行に追いやられて、つき倒された子供に、批難をあびせる女もいれば、自分の家庭のなかに温かく迎えてくれる夫婦もあるのだと知って、思わず目頭があつくなった。

神からさずけられた貴重な宝を無責任に放棄したことが悪いならば面倒な結果をおそれて、見てみぬふりをしながら通りすぎることも許されない。

私は何一つ不足なしに育てられたけれども、それだけに自分の幸せに甘んじているのではなかろうか。社会の片すみに倒されて苦しんでいる人びとに、いち早く救いの手をさしのばす善意の方々が、私の知らない所にまだまだたくさんおられるにちがいない。

私は北海道のことを思い出すとすれば、おそらくあのほほえみをたたえて話してくれた少年のことも忘れることはできないだろう。

（山東　龍雄）

韓国カトリック児童芸術団

☆小さな星☆　日本公演

主催　カトリック青年労働者連盟（JOC）
後援　宣教・使徒職司教委員会
　　カトリック新聞社ほか
推せん　広報司教委員会
　　カトリック中央協議会ほか

☆上演内容☆

韓国の有名な民話「フンブとノルブ」・一幕、一五場、二時間一〇分

☆上演日程

この度来日した一行はスタッフ八名、団員三二名、九月二一日東京を皮切りに一〇月一五日まで日本各地で上演する。西日本関係地での上演日程は左の通り。

10月8日（日）　下関（市民会館OS）
9日（月）　北九州（八幡市民会館）
10日（火）　北九州（戸畑文化ホール）
12日（木）　佐世保（佐世保市民会館）
14日（土）　長崎（三菱会館）
15日（日）　長崎（〃）

☆入場料と上演時間☆

大人・高校生―四〇〇円（前売三五〇円）
子ども―二五〇円（前売二〇〇円）
昼の部―午後二時より
夜の部―同六時半より

☆公演の目的☆

JOC総書記局では「小さな星」日本公演の目的を次のように説明している。

この公演は、日本ではあまり知られていない「カトリック」の名を広めることになり、カトリック精神にあふれた「フンブとノルブ」の上演は、これを観る人々に現代マスコミの中に欠けている真、善、美、愛、平和の尊さを思い起させてくれるでしょう。

また、これが韓国カトリックの少年少女によって上演されることは、日韓両国のカトリック教会の協力のみのりであり、近くて遠い国、韓国の文化に目を開くことは、私たちに、民族は異っても、神の民が一つであることを身をもって味わせ、ひいては全人類の相互理解と尊敬、兄弟的一致へと私たちを導いてくれることでしょう。

なおこの公演にあたっては、恵まれない方々の無料招待や施設訪問も行なわれます。収益があった場合は、その一部を恵まれない方々のために寄付される予定です。

この公演への協力を機会にカトリック教会内のすべての人々が、より近く結ばれ、日本の使徒職運動の一層の前進に役立つことを念願しつつ、信徒の方々はもちろんのこと、まだ教会に来ていらっしゃらない方々もお誘い下さり、ぜひ御鑑賞下さるよう御協力をお願いします。

司祭異動

（カッコ内旧任地）

（邦人司祭地区）
茶山主任畑原富雄師（呼子主任）
入院療養棚町正刀師（茶山主任）
呼子主任牧山重光師（司教館付）
小倉助任浦俊雄師（大名町助任）
司教館付平山高明師（小倉助任）
（コロンバン会地区）
日本語学校ケーリー師（大江助任）大江助任カーレー師（帰国）
コロンバン会日本管区長秘書グリフィス師（菊池助任）菊池助任ランガン師（日本語学校）手取助任ヴォーハン（日本語学校）

聖体礼拝

（10月）

第一日曜　呼子教会
第二日曜　崎津教会
第三日曜　カルメル修院
第四日曜　高宮教会
　　新田原聖母訪問会
第五日曜　手取教会
　　隈府教会

祈禱の使徒会

（10月）

【一般意向】　科学の進歩と宗教
【布教意向】　布教国における信徒集落の組織

一〇月

ロザリオの月

1日（日）　聖霊降臨後第20主日

人生は旅にたとえられるが、ある人は観光旅行のような気晴らしの旅のように考える。ある人は目的を持たない風まかせの放浪の旅のように思っている。人生が旅であるなら、この旅そのものに意義がある。現在のこの歩みに価値がある。

3日（火）　幼きイエスの聖女テレジア童貞の祝日

聖テレジアは一九世紀以来の個人主義にわざわいされていた教会の子らに大きな光明をもたらした。かの女は修道院にとじこもったが、実に広い人類愛に生きた。伝記はそれを十分われわれに示している。

7日（土）　ロザリオの童貞マリアの祝日

8日（日）　聖霊降臨後第21主日

他人のあやまちをゆるすこと、これが今日の福音の教訓である。われわれは、他人の一つ、二つのあやまちは寛大にゆるすことができるが、自分とそりの合わない気質の人とも生活しようと努めるには、英雄的な愛と寛大さを必要とする。

今村教会で堅信

10日（火）　体育の日

11日（水）　神の御母なる聖マリアの祝日

この祝日は三五年前から全世界で祝われるようになった。エフェゾの公会議の一五〇〇周年を記念するためである。われわれにとっては、第二バチカン公会議の開幕の記念日であり（五年前）、この会議で、聖マリアは、神の母であると同時に、教会の母であると宣言された。

15日（日）　聖霊降臨後第22主日

キリスト時代のユダヤの通貨にはセザルの像と銘がほってあった。われわれ信者の心にはキリストのお姿がきざまれているはずではないか。所でわれわれはキリストに税を納めているだろうか。

18日（水）　福音史家聖ルカの祝日

22日（日）　聖霊降臨後第23主日

聖書は三つの復活を述べている。一つはキリストの死者のなかよりの復活（歴史的事実）。第二は洗礼によるわれわれの復活、即ちキリストへの信仰によって神の子とされること（神秘的事実）。最後は世の終りの肉体の復活。キリストと共に神の国に入ること（天上的事実）。

布教の日（信仰弘布会献金の日）

29日（日）　王たるキリストの祝日

復活祭やご昇天祭は王たるキリストをお祝いするものである。キリストはわれわれのために死に打勝って、永遠の生命を与えて下さるから、われわれも罪と戦い勝つことができる。だからわれわれの真の自由と平和はキリストによって確立されたものである。

（毎年一一月三日に福岡大神で行われていた侍者の日の行事は今年は中止になりました）

幼児教育の本質を再考

第3回教師研修会

参加者238名で交歓親睦も

八月二八、二九の両日、カトリック福岡司教区幼児教育連盟による第三回教師研修会が、福岡県二日市大丸別荘でひらかれた。参加者は全教区の幼稚園と保育園の先生たち二三八名。

午前一〇時の開会で会長平田勇師のあいさつのあと、共同祈願「今日ここに集まり、心を合わせ互いに励まし助け合いつつ、幼な児を通して主によりよく仕える道を求めようとする私達を、主よ力づけ給え」と祈り、聖歌をうたって第一の講演、カトリック教育協議会理事長ハンス・ヘルヴェック師の「第二バケチカン公会議に基いて幼稚園教育のあり方」に耳をかたむけた。

中食後の講演では福岡大神学校のラベル師が「公会議後の教理の新しい教え方について」語った。ついで二時からの全体会では「幼稚園の宗教教育課程」について研究発表を久留米信愛幼稚園のシスター・マリア・ボリナが行ない、祈りが生活のなかに入るよう、またカリキュラムの奴れいにならないで心を与えるよう配慮しつつ、神の存在、キリストの神性、愛と慈悲の神、この三点を卒園までにしっかりと教え、祈りができるようにしていると述べた。

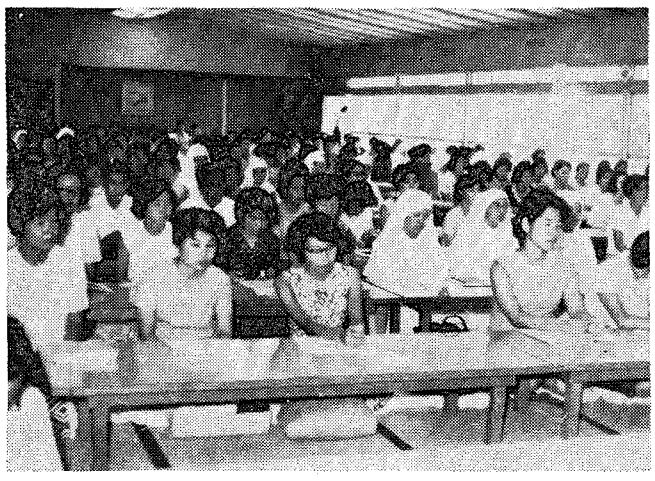
分科会は「年中行事をいかにカトリック的に取扱うか」「家庭と幼稚園と宗教について」「自然の領域における宗教教育をいかに生かすか」の三つに分れ、一時間発表と討議を行なったが、発言が活発で時間の不足がおしまれたほどであった。

深堀司教をかこんでの十一名の司式者による共同ミサでは、「幼な児にイエズスを」と働く教育者たちの祈りと願いが一つとなってささげられた。

夕食後のレクリエーションでは司祭、修道女、教師らが和やかに交歓、熊本のギャラハ師の見事なアコーディオン・ハーモニカの演奏に参加者一同思わず唱和、また各地区代表の熱演に惜しみない拍手がおくられた。とび入りでヘルヴェック師と畑原師の独唱がありフォークダンスなどで楽しい一時をすごした。

翌二十九日の共同ミサのあと、九州大学教育学部の関計夫教授による「現代幼児の心理とその取扱いについて」の講演があり、幼児の未分化から起るさまざまな事例を通して、その心理を解明し、取扱い方についての基礎的な心理学がわかりやすく話された。

全大会では、前日の各分科会において発表された研究と討議の結果を司会者が述べて、研修会のプログラムを終了した。



左は研修参加者　右は講演中のヘルヴェック師

ヘルヴェック師講演概要

教育者とは、小さな子供たちを守るだけでなく、明日の子供を育て、かれらを将来に導き、示す使命をもっている。われわれは、公会議の「キリスト教的教育に関する宣言」をひも解いてその精神を理解して生かしてゆくべきである。すなわちそのなかでは、

❶人間的尊厳の意識とその尊重、

❷教育を通じて奉仕、奉献をすること―その奉仕は社会に対し、子供と親に対して、各々の家庭をりっぱなものにするためになされる。

❸社会においてりっぱな仕事のできる人を作る。そのために幼稚園では何を教えるかでなくて、何を経験させるかである。それによって道徳的判断、価値判断が養われ、りっぱな世界観、価値観をもつ者がつくられる。

❹卓越性―カトリック教師は教育者としてすぐれた者になるよう真実に努力しているか。

❺教師の使命。一つは神と協力すること。それは神の力に与かって人間を造り生むことである。教師は神の前にこの責任を感じなければならない。もう一つは家庭との協力。即ち幼稚園が家庭から子供を取り上げるのでなく、かえって子供が家庭を一番うれしい楽しい場所と感じるように助けるのである。

そのためにも子供達に愛徳の術愛の力を教えよう、宗教教育については、子供がもっている宗教観をこわさず、それに生命を与えることが大切である。

ブラジルから日本訪問

マリンガ教区コヘリオ司教

ブラジル・マリンガ教区のジャイメ・コヘリオ司教は九月二日来日、直ちに福岡にむかい三日午後四時から新田原教会で故モンセニョール木村義己師のためにミサと追悼式をささげ、翌五日には福岡教区邦人司祭一同と同故人のために共同ミサを司式した。さらに二一日には大分から平田司教の案内でふたたび来福、大神学校や市内修道院、学校のほか本郷、今村両教会を訪問した。本郷と今村は多数のブラジル移民を出した部落で、関係者多数が集って司教を歓迎した、マリンガ教区は一三〇万の信者中日系信者は一五〇〇人、司祭六〇名、故木村師はここで九年間司牧にあたった。

福祉三協会代表者会議

カトリック医師会、同看護協会および同医療施設協会の福岡教区代表者七名は、九月一八日午後二時から深堀司教のもとで会議をひらき、使徒職団体として司教との密接な結びつきを再確認し、来年六月熊本で開かれる予定の看護協会国大会の準備について協議した。この全国大会には医師会と医療施設協会の九州支部が合流して大会をひらくことになっている。

福岡小神建設募金状況

福岡小神学校の新築のための募金運動は、そのための特別委員会を通して全教区で推進されているが、四月以降から九月までの各月募金状況は次の通りである。（九月分は九月二七日現在）。

4	月	744,990円
5	月	3,444,395
6	月	777,770
7	月	1,064,659
8	月	1,173,412
9	月	1,034,937
合	計	8,240,163

離郷者への対策協議

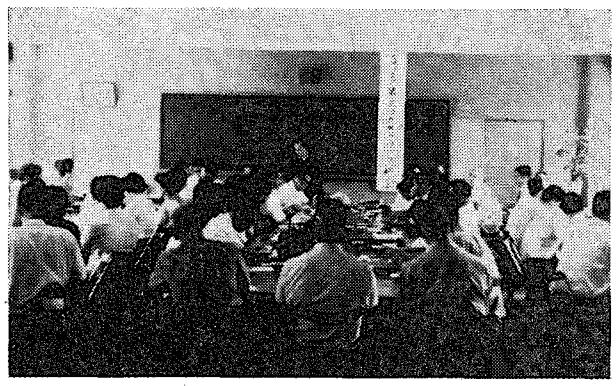
SVP九州ブロック総会

SVP聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会の第三回九州ブロック総会が、「離郷就職者に関する対策」というテーマで、九月三日福岡でひらかれた。

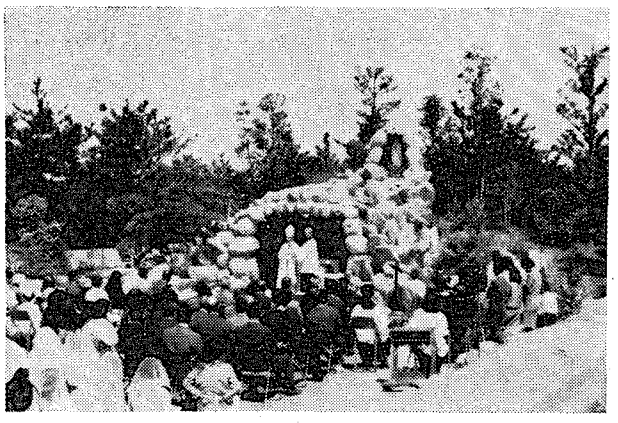
午前一〇時半浄水通教会で深堀司教平田正喜（福岡）と中島政利（長崎）両師による共同ミサにあずかり、雙葉学園会議室に会員六〇名の他、学士会、レジオ、JOC、学生会などの使徒職団体からのオブザーバー六名が集合、深堀司教は冒頭の訓示で、離郷者の問題は小教区と教区の重大な関心事で、国内移住と国外移住の両面において信者各自の救霊を確保することに眼目をおいて、SVPの会員がかれらを援助しなければならないと述べた。

つづいて水波朗九大教授の講演では、聖ヴィンセンシオの生地をフランス在留中に訪問したこと、当時同聖人に協力したのは青年が多かった。現在の九州では壮、老年が多く、活動も根強いものがあって着々と成果をあげているので喜ばしいと語った。

この日の主要テーマについての討議では、離郷者の多い長崎教区では、SVPが中心となって離郷状況の調査を開始したことが報告され、福岡側もSVPが他の会とも協力して移住者を教会に導くよう努力することを確認した。



深堀司教を囲んで話し合うSVP会員



平和の恵み祈願

古賀・ルルド洞窟で

九月一七日（日）福岡県粕屋郡の古賀教会（主任シモンズ師＝聖母献身会）に新設の平和の園で、平和祈願祭が挙行された。

これはさきに竣工していたルルド洞窟の祝別と今度あたらしく建てられた平和祈願碑の除幕をかねて世界の平和を求めるため、地元の官庁関係者や町民、近くの米軍基地の信者多数を招いて催されたもの、午前一〇時半深堀司教が洞窟を祝別、古賀町長三輪修平氏がアシジの聖フランシスコの「平和のための祈り」をきざんだ碑を除幕し、聖火をともした。

洞窟前の野外ミサで司教は「平和とは決して戦争がないというだけのものでなく、個人と社会の内部にあるべき真の秩序が確立されることである。人間の終局の目的である神と結ばれない限り、真の平和は望めない」と力説。参列者一同声をそろえて、主のあわれみと平和を祈願した。

修道女銀祝

北九州市八幡区の援助修道院のシスター・イサベラ修女、楳沢俊子、広島県呉市出身）の初誓願宣立二十五周年のお祝いが、九月八日深堀司教司式で行なわれた。二五〇名余りの信者が共同ミサにあずかって感謝の祈りをささげた。

シスター・イサベラは広島市内で保育園、ベビーホーム、幼稚園で働き、水巻、木城、若松黒崎教会で婦人会の指導にも当り現在は天神町教会の小百合保育園の主任保母をつとめている。

教区要理講座

毎火曜日・福岡で

福岡教区要理講座が九月十九日から毎週火曜日、福岡雙葉学園ではじまっている。時間は午後一時から三時半まで。講義および講師は左の通り。

1信仰について（聖書と教父の教えに基いて）高木神父

2神の国　日置神父

3救いの歴史における贖罪の玄義

信者のキリスト教的生活について。

救いの歴史における罪、以上ラベル神父

精勤者表彰

八幡区の援助修道会が経営している養護老人ホーム聖ヨゼフの園に養母として一一年間精勤しているクララ小野トミ子さん（黒崎教会所属）は、老人の日の前日戸畑文化ホールで行なわれた北九州市老人福祉大会で、民生局長から表彰された。

同老人ホームには九三才を筆頭に七九名のおとしよりが余生を静かに過している。

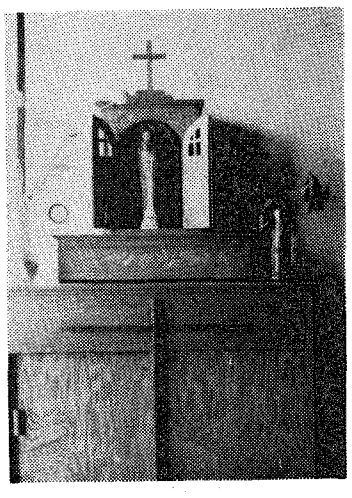
英語講座

福岡市民に大好評の「英語会話講座」の新学期は、九月二〇日で希望者の募集をうち切ったが、一〇〇名の新申込があった。シュルツ師ら三名の講師が、大名町旧聖堂で毎週水金の二日夜六時半から上中下三クラスに分れて会話を教える。

文化祭とバザー

久留米信愛女学院では、九月二三、二四日両日展示と公演による文化祭を挙行。

福岡雙葉学園では九月三〇日と十月一日にバザーを行なう。



暁の星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式

事務用・学校用家具一式

室内外装飾・一船塗装

ご用命うけたまわります

福岡県粕屋郡粕屋町下若宮8組

電話（長者原局092938）2584

聖心の使徒

（昭和四十二年十月号）

巻頭言……鈴木秀子

夕陽と少年……今田健美

十月の意向　科学の進歩と宗教……谷口幸紀

共同体の土着化（十月の布教の意向）……河野義祐

黙想　イエズスの聖心の連禱（三十一）……佐藤潔人

やさしいミサ曲……井手雄太郎

特集　やさしいミサ曲楽譜……品川勝郎

やさしいミサ曲によせて……G・ガイィ

聖書の時間　イエズスの御姿……J・モンステルレ

病める友へ　現実をみつめて……十字架のイエズス修道女会

自動車放浪記（五）……

忠犬の仇討……

これからどうなる……

信徒使徒職の聖者（上）……

ポスト……

新本めぐり……

購読会費　一部　〒共　一カ月　五七円　一カ年　七〇円

神の国の発展のために
信者同志でなにをつとめ社会に対しなにをしているか

まず信者が知り会い語り合うこと

高木　寛

私たちの教会に隣組組織ができて約一年半になりますが、本当によかったと思っています。ごミサに来ても、お互いに名前もどんな人なのかも知らず、行きずりの通行人のようにふるまっていた私たちも、今では兄弟親類のように親しくなりました。それもこの組織作りのために指導して下さった神父様や協力を寄せて下さった有志の方々のおかげと感謝しています。

私たちは隣組毎に月数回集りをしますが、当番制にして家庭をまわります。そこでお祈りしたり、お喋りしたり、年寄りも青年も気軽に集ってくるので、その賑やかなこと、ふんいきが良いというので未信者もぞくぞくに来るほど。

最近では修道院のシスターもこの組織に加わって下さって、それこそ「公会議の精神に満されたわけれらの教会」と、みんな大いにほこりにしています。

誰かもしこの集りに顔を出さない人があれば、余程の事情があるのではないかと心配します。病気ではないかろうか、家に不幸が起ったのではないか、会社の仕事が思わしくないので残業して疲れているのではなかろうか、などと自分のことのように心配します。「あなたがたが相愛するならば、ひとはあなたがたが私の弟子であることを悟るであろう」というイエズス様のおことばは今更めずらしいことではないと、私たちは思っています。

でもいったんはじめな話しになると、私たちは「議論は活発に、決定は司祭と共に」という私たちの作ったモットーで行動します。少しも遠慮することはありません。隣組集会のふんいきのなかで出された信者の意見は、委員会に伝えられ、やがて小教区全体の問題として取り上げてもらうことができます。

わかれた意見のどちらが採用されるか、私たちは大して気になりません。下からの声が無視されず、大切にとり上げてもらえる、ただそれだけでうれしいのです。こうして私たちも神父様や委員会の声をよく聞くことができます。

それもこれも隣組織と、これをよく利用するみんなの協力のためです。どの教会にもこの組織ができれば念願しています。

神との出会いの場をつくってあげる

シスター　栗田

家庭や事務所を布教訪問する時、デパートのコーナーで布教する時、よく次のようなことを聞きます。

「一度教会に行きたいと思っているのですが、わたしのような者の行くところではありませんものね。」「あら、教会にはだれでも行けるんですか。」「キリストさまの教えを聞いてみたいのですが、だれにどう頼んだらよいかわからずに。」「子どもはキリスト教にしたいと思っています。」

デパートのコーナーに布教用パンフレットを置いておくとそっと持ち帰る人はたくさんあります。

「ぼくは正しく生きているからべつにキリスト教にはいる必要はないだろう」という人、仕事に熱中している人、現在の幸福感に酔っている人などは宗教に無関心ですがけっして悪意の人ではありません。

こうしてわたしたちは毎日の布教生活で大ぜいの「善意の人」に会います。「善意にあふれている人、善意を心の奥底に秘めている人たちです。しかし少しふりかえってみれば、どの人も「わたしはとはできない」と思っている人たちばかりであることに気づき、わびしい気持ちにとらわれます。

神はすべての人が救われることを望んでおられるのに、そしてそのためにキリストは苦しみご死去なさったのに、この人たちはキリストになにかひかれながらも、自分には無関係な人として見送ろうとしているのです。善意をもって神に近づいていながらも、神と出会うことのできない人たちがたくさんあります。

聖パウロは「聞いたことのない人はどうして信じることができるでしょう。のべ伝える人がなくてどうして聞くことができるでしょう。」（ローマ書一〇・14）と言いました。第二バチカン公会議は「すべてのキリスト信者は、自分が生活しているその場所で、模範的生活とことばのあかしとをもって受洗に際して身につけた新しい人と、確信によって強められた聖霊の力を現わさなければならない」と言っています。（教会の宣教活動に関する教令より）

この人たちと肩を並べて生活するわたしたちキリスト者こそ、この人たちに神との出会いの場を作ってあげるべきではないでしょうか。そしてこれこそほんとうの「布教」であると思います。

実際わたしたちの訪問を機会に本やことばを通してキリストに近づく人もあります。少なくともキリスト教を身近に感じはじめる人はたくさんあります。

利己的信心生活の殻を破って積極的に隣人に近づき、生活全体を傾け、あらゆる手段をつくしてキリストを伝えることこそほんとうの布教であり、現代の日本にどうしても必要な布教ではないでしょうか。

（聖パウロ女子修道会）

周囲の人を知り進んで交わる

村上あい子

戦後受洗のおめぐみに浴した私のことですから、よくはわかりませんが、これまでの信者婦人の理想像とは、黒っぽい衣服をまとい化粧もせず、忠実に教会に参り、外出も少くよく家庭の仕事に専念し、できるだけ長いお祈りをするというのではなかったでしょうか。

私はめまぐるしく変動する社会の中で生きる信者として、このような理想像だけを後生大事に守るのでは不十分でないかと考えます。聖堂と家庭と祈りのなかにとじこもって、社会との接触をさけようとするのは、世俗のなかに生るよう召された私ども信者の使命に反するようです。

私はむしろ、社会の改善と進歩のために、積極的に信者であることの自覚をもって働きかけをしてゆきたいと望んでおります。

今から八年前NHK婦人学級がはじまったとき、私はPTAで知り会った者一〇名で、これに参加いたしました。当初は毎週一回、のちには月一回、放送を利用していろいろ学習をつづけました。

有意義な学級なので、各校区へも呼びかけ一〇グループができました。自宅でリーダーの集りを持ったとき、共通の話題が多く、時間の足りない思いで別れたこともありました。やがてモデル学級に指定され、教育クラブで合同学習を三ケ月つづけました。テーマは「近所づき合い」「嫁と姑」「思春期の子供」など、助言者には大学の先生やお医者に来て頂きました。

今私の住んでいるA部落は、地方選挙のいざこざから婦人会がつぶれ、隣りのB部落は、農協婦人会が物売りや預金の割当てなどをおしつけられてばかりで、存在がうすくなっていました。所がたまたま両部落合併で公民館が出来上りましたので、これを機会に色々の人に呼びかけ、ついに婦人部を結成することができました。五年後の今日、趣味と教養の七学級が生れ、明るく熱心に学習をやっております。遠地からの見学者もこられ、お互いに交換の話し合いもいたします。

私どもは、視野がせまいと自己中心的になり、感違いから不満が多く、勝手な憶測をして腹を立て反対に、お世辞をいう人にだまされます。話しの場をもてば、ひとの意見に耳をかたむけるようになり、視野をひろげ、自主的で積極的な愛の行動がとれるようになります。

家庭内での和と、お互いの理解がない限り、社会奉仕はむずかしいと思いますが、神さまはさまざまな困難にも負けない力をお与え下さいます。私は今、NHK婦人学級の筑紫郡連絡員と、福岡婦人少年室協助員として、ささやかな奉仕をするかたわら、適令期の方々のご相談をうけることがたびたびございます。

職場の改善につくす

柴田武人

運送会社は、一般的に労働条件の低い職場とされている。天神町組会のジョシストY君も、その例にもれないT運送会社の運転手である。

ある日のJOCの研究会に出席したかれは、いま勤めている運送会社を辞めたいと言い出した。われわれ組会のメンバーは、これについて「見る」「判断」「実行」の方法によって話し合った。

残業が非常に多く、一ケ月最低三〇時間、最高一八〇時間、深夜の運転も入る二交替制をぎりぎりの人員でやっているので、運転手は疲労している。日曜出勤は毎度のこと、ことわると皆勤手当がでない。こんな状態なので当然運転手の出入りも多く、年間四〇人も入社してはすぐに辞めてゆく。人間関係は会社専務が一方的なので不満が多い。かれらが辞める気になるのが解るような労働条件であった。

しかしイエズス様はどういうご計画があってかれをこの職場におかれたのだろうか。福音書から現代世界憲章から、カトリック社会政策から、JOC宣言から、私たちはイエズス様のお声をきこうと努めた。

その結果かれがジョシストであることを自覚するならば、こういう状態の運送会社の中に、何かの使命をもってつかわされたことに気づくはずであり、立ち上って、この十字架を背負うべきであるということになった。

かれは研究会で出された「実行」に従っていった。そうしたなかで会社の専務や奥さんのいやみも聞き耐えねばならなかったし、「そんなことをしても、自分のためにならない、よした方が身のためだよ」と、あわれみとも忠告ともつかない言葉を、同僚からうけた。上役にけむたがられて、会社をやめさせられようとした時もあった。しかし自分は、そこに使命をもっているのだという責任を、片時も忘れずによく耐え、働いた。その結果はやがてあらわれた。

半年位たってようやく二交替制の勤務内容がよくなり、さらには三交替制へ、人員もふえて、一勤務が平均八時間ぐらいになっている。残業も以前より少なく、当然の結果として運転手の定着率も高くなりつつある。

このような外的面での変化向上にもまして、われわれがとくによろこばしく思ったのは、かれ自身と周囲の人たちの精神の成熟である。

かれがまず逃避を思いとどまり勇気をもってこの問題に立ちむかったことや、運転手仲間が人間としての自覚を強めたこと、この問題を通して天神町組会のジョシストが兄弟愛を示し会ったことなど大きな収獲であった。会社側と労働者側が冷たく対立した挙句でなくて、人間の尊重という考えに立脚して、労働条件が改善されたこと、職場の中に利己主義をしりぞけて、連帯責任の気運が高まったことなど、まったくキリストを共にはたらいたかれの努力の結晶であると思う。

よく育てる

「神父さま、子供が生れました」と教会にかけこんでくる父親の顔はいつみてもいいものです。

「生んだだけぢゃだめだよ。よく育てなさい」とわかりきったことを言っても、素直に、「はい」という。そのうれしそうなこと。こ親であったことをあらためて思いだします。

洗礼をさずけて信者をふやすだけならやさしいが、よく育てるということはむずかしいものです。せっかく神の子として生れたからには信者たちがよく育ってくれることを願わぬ司祭はいないでしょう。

あるひ青年弟たちの確信、にしばしばぼうぜんとなっていたようでした。

私は、一人の兄弟のために、ひとの問題も自分の問題として真剣にとりくんで頭をひねっているかれらの姿をみたときに、何ともいえぬよろこびに胸をしめつけられる思いをしました。

それからというもの、かれは研究会で出されたさまざまの意見の一つ一つを、かみしめながら努力しようとしました。まずは周りの人々の心をあらためることが先決と、同僚の一人一人に働きかけたのです。かれらは利己主義を少しずつすてるようになりました。ようやく団結のきざしもみえてきました。かれらは手をつないで職場の改善にのりだしたのです。自分たちは人間であるという自信をもちながら、会社にも自分たちの人間としての尊厳をみとめてもらうよう願いました。専務に、カトリックではひとをせん動するようなことを教えるのかと、いやみをいわれたこともあったようですが、「私の名のために憎まれる」のは当然と思い、あくまでやさしくこれに答えるよう努めたそうです。

あの日から六ケ月になります。みんな変りました。会社もかわったし、彼もかわりました。そしてこれを助けた青年たちも変わりました。

かれらは一粒のからし種のように育っていきました。そして社会の中に根をはびこらせ、枝を繁らせていくのが目にみえるようで、これを眺める司祭としての私のよろこびは、何にもたとえようがありません。

指をなめながら、ぎこちなく聖書をめくるかれらの手の中に、あるいは聖体をいただいて神妙に組み合せた、あのごつごつした手のひらに、神の国の発展が委ねられていることを、私はいつもしみじみ感じています。

（司祭・バイヨ）

みなさんのご家庭に平和が支配することをお望みなら家族そろってロザリオをおとなえなさい

—聖ピオ十世—

ロザリオの月におすすめしたい本

★ロザリオの祈
フルトン・シーン著　¥50
ロザリオをよりよく祈るということは天国の道を一歩づつ確実に歩いていくということである。押絵入小手引き。

★これ汝の母なり
G・Mガレ著　山下房三郎訳　¥500
ロザリオの祈りはすべての祈りに味つける塩のようなものである。本書はロザリオを愛することを教える。

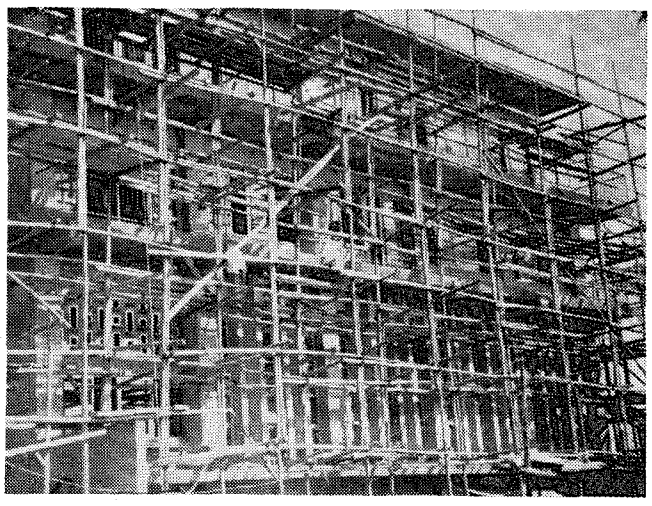
★たえまなきアヴェマリア
A・シュトシル著　A・ローテル訳　¥360
ドイツの有名なカトリック作家アルバン・シュトルシ神父が天使祝詞の解説としてあらわした名作。

★聖母マリアとともに
エ・ヌーベル著　野口光三郎訳　¥750
この本によって、あらゆる人がマリアの信心を照らし養い深めるものを豊かに見出すでしょう。

★ルルドの出来事
志村辰弥編著　¥230
ルルドの出来事と奇跡の真相を誠実に伝えてできるだけ多くの人々とともにわれらの母なるマリアを賛美することを願って書かれたもの。

福岡小神完成にあと一歩

この春から建築に着工した福岡小神学校々舎は、一〇月中旬には完成の運びにいたった。最初のプランより一階分大きく、一番下が食堂、炊事場、浴場、二階が聖堂と納室、三階が教室、四階が自習室となっている。第二期工事着工は未定。



コント　対称的なふたり

夫婦というものはどうしてあんなにうまく組合わされているのかふしぎでならない。

主人がきびしいと奥さんはやさしい、奥さんがきびしいと主人はいやにおとなしい。主人が無口だと奥さんは話しずきだし、旦那さまが内気なら、奥さまはすばらしく社交性がある。

似たもの夫婦というけれども、私のみたところでは、どうも似てない夫婦の方が多いようです。それでいて結構りっぱな家庭を作っているのですから、偶然というべきか、あるいはみせつりというべきか、うまく出来たものだと感心せざるを得ません。

ある小教区に熱心な信者が住んでいました。二人ともかつては司祭・修道女にあこがれていたほどですから、子供の養育には心血をそそいだことは言うまでもありません。しかし子供をりっぱに育てようという心には変りはなくても、その表現にあっては、二人は、例に洩れず大きな違いがありました。

父親は非常にきびしく信仰生活を要求し、母はむしろ心を大切にして、信仰生活には、はばをもたせたい方でした。「お前が甘やかすから子供がだらしなくなってしまう」と、頭からどなりつける父親にいいわけもしないであやまる母親の姿を、子供は何度目にしたかわかりません。

歩いて三〇分もかかる聖堂まで毎朝ゴミサにやらなくても、母親は、父親の出張のときなどわざと自覚しのネジをかけ忘れてみたり、夕食をとり上げられたときは、こっそりと納屋の中にごはんを運んだり、あるいはまた公教要理の点数を水増して父親に告げてくれたりしたそうです。

その子供はやがて司祭になり、大きな教会の主任になりました。子供の頃をなつかしみながら、かれは「夫婦はあまり一致してもらっちゃ困るよ、子供の逃げ場がないもの」という。私はなるほどと思いました。子供の頃は父親のきびしさをうらめしく感じてはいたものの、今となってはただありがたく、母親のとったやさしい態度も今ではよく理解できると述懐する主任司祭の言葉に、私は家庭生活の妙味を教えられたような気がしました。

人はそれぞれ顔形がちがうように、その性格もちがっています。ちがっているからこそ、一致できるというのかも知れません。あまりに自分と似ていたら困るのではないでしょうか。ちがっていればいるほど、合せた性質は多様になるはずですし、そうなれば子供やほかの人がこうむる恩恵も、それだけ多くなるというものです。

そんな風に考えると、自分と似た考えや性質のものばかりと交わることほど、味気なくおろかなことはないと思います。

私はでっぷり肥って、いかにも温厚な主任司祭の姿と、みるからに神経質でやせすぎている自分を比べながら、こんなに対称的な二人がいればこそ、うちの信者はりっぱに育っているのだなあ、と考えるとついうれしくなって、思わずニヤッとしたら、けげんな顔をして主任司祭が言いました。

「なにをひとりで笑っているんだい」。

（きりぎりす）

フラナガン神父の苦悩

かれ、フラナガン神父が家族一同のよろこびのうちに帰郷してきたのは、未曾有の旱魃で収獲労働にあふれた失業者たちが、オマハの町にむらがっていた一九一三年のことだった。かれは前と同じようにやせぎすで、どことなく落着きがなかった。しかもその顔にはふかい悲哀の色がただよっていた。

オーストリアのインスブルグ大学を出たばかりのこの青年司祭は中部ネブラスカの住民のなかで司牧にあたった。日々接触する人のなかには、ぜいたく三昧に暮しているものもいたが、極貧にあえぎ真冬というのに、飢と衰弱で地べたに打伏すものは数え切れないほどであった。

「自分には一体なにが出来るのか」。周囲の窮状を見るにつけフラナガン神父は、売って金に代えるものとて持たぬ自分の無力さに心のえぐられる思いであった。だがかれはいつまでも悲しみに圧倒されてはいなかった。

かれは人びとの悲惨な生活をありのままに直視した。目をそらせないで、これに体当りでぶつかった。かの無残な夏以来「人びとのなかのキリスト」をみるたびに、かれは誰かれの区別なく人を愛する柔和で善良な司祭、貧者の友となり、その燃えたつ愛がかれに一つの夢をいだかせ、ひいてはすぐれた事業へとかり立てていった。

この夢と実践の結果が、かの有名な「少年の町―小さな人びとの町」となった。

しかし「少年の町」は神父がそれを作ろうとはじめから計画していたものではなかった。

あの一九一三年の旱魃のとき、苦しむ人に対する強い同情とともに、生来の大胆さが頭をもたげていた。かれがキビキビと行動に着手したのはそれから間もなくのことであった。聖なる奮発心と疲れを知らぬ活動力が体の内外にみなぎり、「私はなにかしなくてはならん」というのが、かれの口ぐせになった。一友人の助けでオマハ市の一三番街の裏通りに元のホテルの売家を見つけることができた。友人は早速その晩わらを床に敷いて二夜を明かした。

まもなくこの家は、どうにも生活できない人たちの避難所になった。仕事をあてにやってきたが就職できず、そうかと云ってもどる旅費もないというような連中や、渡り職人の出入りははげしかった。無籍者や失業者、アルコール中毒者はいつまでも腰をあげようとしなかった。フラナガン神父はもちろんこんな居候に、だまって寝場所を提供するほどお人好しではなかった。かれらにも何かの仕事をさせた上で、食券を渡し安く食事をさせた。

この労働者の家に出入りする者の顔には一様に、愛にうえて育った暗い少年時代の陰が残っていた。この暗い陰がかれらのうしろ姿ににじみ出るのを見る度に、苦痛が神父の心を走った。

それは一九一六年の夏の日のことであった。ひとりのやせ衰えた顔色のわるい少年がフラフラと神父の前にあらわれた。その顔にはここの労働者の顔にきざまれたと同じ暗い陰があった。少年と労働者には同じ共通の何ものかが欠けているのだ。少年を放っておけばかれもまた同じ道をたどることになるだろう…。

フラナガン神父の胸に突如あたらしい夢が浮かんだ。それからかれはたちまち大車輪のように動きはじめた。司教も同輩の神父もかれの働きに目をみはった。一友人が貸してくれた九〇ドルで、なんとか家が手に入った。これのがちの「少年の町」の最初の家となった。（スティーヴン神父）

下宿

中村道生

このところ降り続いていた雨はいつしか止んでいた。かすかな月明りが雨雲の異様な姿を、青白く浮び上がらせていた。

彼がこの下宿に越して来たのは、三カ月程前であった。三畳の狭い部屋を蛍光灯の不自然な光が白く照していた。そこには、どこの下宿にもあるようなものは一応そろえてあった。机、何冊かの本、新聞、雑誌、服は壁にかけてあった。そして、必要ではあるけれどもあまり用を果さない目覚し時計が置いてあった。それは十一時を過ぎていた。他と少し変ったところといえば、女優の写真の代りに十字架像が机の前に置いてあった。それと、学生の部屋にしてはキチンとかたずけてあって、それはいかにも彼の几帳面な性格を示していた。

しかし、この部屋で最も変った事といえば友達が遊びに来ていたことであった。というのは彼の人間嫌いは相当なものだったからである。だから、その友は彼のほとんど唯一の友であった。彼等の性質は陰と陽ほどに異っていたが同じカトリックの信者であった。彼等は何か互いにひかれるものを感じていたのであった。

『篠田君、ベトナム戦争は相変らずだね』。と友は新聞から目離さないままにいった。彼は椅子をおりながら『しかたがないさ』とほとんどはきだすようにいった。

『しかし、……』といってそのまま口をつぐんだ。これは松島のくせだった。篠田は話を続けた。

『いや、松島君。君のいいたいことは解る。しかし、現実にわれわれと関係がないんだよ、たとえあったとしても、われわれには何も出来ないんだよ』

『そういえばそれまでだ、しかし何故戦争が起るのかと考えていたんだ。ベトナムについてマスコミは色んな事を報道している。また、世の批評家とか、その筋の専門家達は、色んな角度からそれを見、かつ判断している。しかし、それらのほとんどがその視点を現時点においているんだ。もちろん、ニュース解説的なものだから当然かも知れないが…』

篠田は松島の言葉についていった。

『しょせん、戦争は人間の縮図なんだ。ベトナムやカンミールで流されている血はミキサーにかけられて出てくるどす黒いジュースにしかすぎないんだ。われわれは、それが大量流れてるのを見て驚き、その悪臭に顔をそむけるけれども、その悪臭は腐った果実に原因があるんだよ、つまり人間という果実はその中にくさったものをもっているんだ。それがうみとなって外にでる時、傲慢や貪欲や偽善となってあらわれるんだ、だからまた、これらを拡大したものが戦争であるともいえるね』といっきにまくしたてた。彼の熱い視線をそらして松島は、考え込むようにして

『確かにキリストは人を汚すものは口から出てくるものだといっているよ。しかし僕は人間をそのように否定的に見ようとは思わないね、例えば、月をみる時、多分、君は月のこうこうとした岩だらけのあばたづらを想像するだろう。しかし、僕は十五夜を見ればやはり美しく思うよ、人を見る時もそうなんだ、確かに、人間は大なり小なり、皆欠点を持っている。そして、人は何か善業をやったとしても、虚栄心とか、自愛心とかいう不純物が入っている。けれども、やはり僕は、彼の善意を評価してやりたいね』。

『それが僕には出来ないんだね』と淋しくいった。彼が松島と友達になったのも、彼のこういった単純な信仰にひかれたからだった。それは篠田の少年時代の純朴な信仰でもあった。

彼はポットにスイッチを入れた。

『君、コーヒーのむだろう』といった。松島は彼の顔をみて笑いながらいった。

『うん、へんなジュースでなければね』

『少々黒いけど、砂糖があるからいいだろう』といって彼も笑った。彼が冗談をいうのは珍しかった。篠田は学校でも、ほとんど冗談をいわなかった。彼のこういった真面目さが松島は好きであった。

篠田はコーヒーをのみほしてからいった。

『"疑うことから進歩は始まる"というのは、僕の持論なのだ、しかし、最後的にはやはり幼児のような信仰でなければならないと思う』

時計の針はすでに2時を廻っていた。彼等の話しはまだ続いていた。月は雨雲が去った後、夜の静寂を柔らかくつつんでいた。

カトリック新聞をよもう、そしてよませよう

◇新聞は必ず二部買いましょう。
一部は自分がよむために、一部はひとによませるために。

◇新聞は無料で配布してはいけません。
必ず買ってもらいましょう。
ただでやるのはやさしいが、買ってもらうのは、むづかしいものです。
ただでやるときは上に立てるが、買ってもらうときには、下からでなければならないからです。

◇新聞をよんで人が信仰にめざめるか保証はできません。
しかしよんでもらうために頭を下げようとするあなたの謙遜な努力が、ひとの心に革命をもたらすことだけは保証できます。

◇布教に新聞をお使いなさい。
忙がしくて布教ができない、話しべたで布教ができない、自分の信仰もまだ浅いのに布教どころかとおっしゃる方々は、どうぞご遠慮なく新聞をお使い下さい。
「行きて万民に福音をのべつたえよ」というご命令は、あなたに与えられたものです。新聞をあなたの最良の協力者にして下さい。

◇カトリック新聞をよもう、そしてよませよう。
『カトリック』は日本カトリック教会の唯一の広報機関です。

カトリック新聞購読料
○一部　定価　一五円〒三円
○半年　購読　四〇〇円〒共
○一年　購読　八〇〇円〒共

伝統がつくった現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス　英和 和英 辞典
コンサイス　英和 和英 辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス　英和 和英 辞典
コンサイス　独和 和独 辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン　英和 和英 辞典
新クラウン　英和 和英 辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

信仰と愛の奥義

教皇　教会の使命説く

第一回世界代表司教会議（シノドス）が、九月二九日午前一〇時聖ペトロ大聖堂での共同司式ミサで開幕した。正式代表の出席者は一九六名で日本からは大阪教区の田口司教が列席した。ミサにつづきパウロ教皇は次のように演説された。

二年前公会議終了時に約束したとおり、今日ここに再び相会することになったのは、二つの目的による。一つは聖ペトロ・聖パウロの殉教一九〇〇年祭を、信仰のささげによって祝うため、もう一つはこの会議によってわれわれの愛を鼓舞することである。

シノドスは公会議に匹敵する壮厳さと力をそなえてはいないが、そのいくつかの重要主題は公会議の取上げたものと同じである。それはカトリック信仰を守り固めること、すなわち無欠の信仰、その力と進展をはかり、キリスト教的生活の第一の基礎としての信仰の知識を増進することである。信仰の教えを忠実に守ることこそ、公会議後のわれわれに課せられた第一の務めである。

シノドスの開始に当ってささげられたミサは、信仰の奥義であると同時にまた愛の奥義でもある。シノドスは教会での愛の奉仕をめざすものである。教会は信仰と愛に根ざす一致への交わりである。神の愛、そして信者の心に注がれてキリストのように隣人を愛する愛―これこそ教会を生かし建設する力である。教会を内側から支えているのは、血でもなく、領土や文化や政治でもなく、また利益関係でもない。それは愛そのものである。

シノドスとは

シノドスは「小さな公会議」ともいえるもので、司教代議院とも訳すことができる。全世界の司教団の代表者によって構成され教皇の権限で召集される。代表メンバーのうち一五%が教皇直選で、残りメンバーは各国の司教協議会によって自由に選ばれる。

この組織の任務は、さまざまな題目について相互の情報と見解を交換するにある。具体的には、さきの第二バチカン公会議によってえられた実りを確実に継続させるもので「教皇のもとで、かつ教皇と共に」司教団が教会統治の責任をとる。

パウロ教皇は、このシノドスの設置を二年前の九月一五日、第二バチカン公会議第四会期の開会の演説のなかで公けにされた。

インド救ライ募金

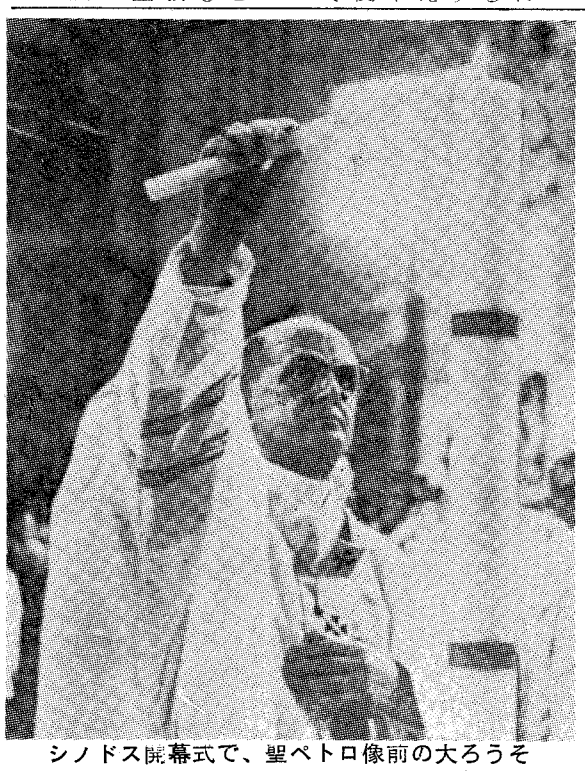
司教団がよびかけ

カトリック社会・福祉司教委員会では、同教育司教委員会と使徒職司教委員会と共同で、来る一一月一日から一二月三〇日までインド救ライ募金を実施することを決定した。

そのためアジア救ライ協会からポスター、パンフレットが教会、修道院、学校、その他の施設に直接送付される。募金は教会内、信者関係者間だけでなく、外部にも働きかけ、歳末運動として街頭募金をするのが望ましいとされている。

福岡教区での募金方法については、追って通知される。

J・B・ドラビ神父（函館市宮前教会助任）一〇月二三日自動車事故で逝去パリ宣教会司祭



シノドス開幕式で、聖ペトロ像前の大ろうそくに点火されるパウロ教皇

世の光

諸聖人の祝日の頃に思う

九州の夕焼は美しいと旅行者はあの大自然の美をたたえる。なるほど趣を異にしたさまざまな夕映に目を見張ることが度々ある。あるときは和やかな春を思わせるような淡い色彩の交叉であり、あるときは刻一刻と表現を豊かにする七色のたわむれのようであり、またあるときは黒味がかった無気味な赤色であり、それが僅かな時間でさまざまに変化し、やがて闇の中に何時とはなしに消えていってしまう。私はこの殉教者の流血を思わせるような夕焼を眺める度にもうかなり前に参列したことのある殉教者の列福式のことを思い出す。

それはあの美しいイタリアの空を思う存分仰ぎ見ることのできる頃のことであった。あの日、雨上がりの空はコバルト色のベルベットでも敷きつめたかのように、そしてその彼方には、幼な心で想像する天国が秘められているかのように感じられていた。その紺碧の空を衝いて鮮かに浮び出る聖ペトロ大聖堂の鐘楼から、澄みきった晩秋の空気を震はせて、荘重に喜びの知らせを告げる鐘の音が流れたのは、世界第二次大戦の終焉の幕がようやく降されてからまだ間も無い頃であった。

この日も大聖堂の儀式に集った人々はまことに多種多様であった。あらゆる世紀の服装を代表するかのようにみえる各修道会の会員たち、裾を長く引く黒の式服にペトニヤで支えるベールを覆い、一足毎に典雅な歩みの線をえがく貴族外交団婦人のみやびやかな姿

純白の長衣を優らしく着こなしている乙女のあどけない、しかも信心深い装い、スータンにスュプリを着け、聖務日課書を手にした司教、司祭方の敬虔な態度など……さしもの大聖堂も定刻前に人垣が築かれるほどであり、後世の光となるべく信仰を公言して、大原の野に散った殉教者たちの勇気を称えるのにふさわしい盛況であった。華やかなシャンデリアの照明に輝く大聖堂の上部から、白大理石を通して流れ込む柔らかな光は、その日、幕で遮られていた。大理石の支柱には、見上げるほど高いところから、赤と金色の細長い緞張が重々しく垂れ下っていて殉教者たちの勝利にひとしおの趣を添えているようであった。

定刻一〇時、枢機卿席にはお歴々の顔振が列を連ねた。列福を宣言する公文書がラテン語で読みあげられたが、これは、その日、栄を受ける二九名の略伝がつけ加えられていたので相当長い時間がかかった。

突然湧き起こる拍手、それと同時に聞えたパイプオルガンの調はテデウム（感謝の歌）を奏していた。大祭壇上方の白大理石の窓を覆っていた幕がパット落され、その瞬間手に手にパルマを持った二九人の新福者たちが、天つみ国に迎えられるかのように輝かしい凱旋の姿で人々の前に現われた。この一大幅画の中央に、純白の修衣をまとった七修道女の姿が見られたがそれがことさらに参列の人々の眼をひいた。これこそ列福式において誰しも味う、まことに感慨無量な一瞬で、人々はただ呆然とこの一大幅画に見とれていた。次の瞬間人々は我に返ったように、ゆるやかに流れる感謝の歌に声を合わせて歌い続けていた。心には今日の栄光と昔日の苦しみとを交々に思い廻らしながら……

当日の荘厳ミサは、殉教の地、大原府の司教が司式された。聖歌隊は巨匠ペロジの指揮で、「ミサ・サピエンチア」の入祭文を美しく歌っていた。人々は光栄に輝く新福者の姿に見入りながら、知らず知らずの中に自分も天に引上げられたかのように感じ、恍惚とした愛が芽生えるよう希望し、より大いなるみのりを未来に託して、祈っていた。やがて勇壮そのものに聞えるメロディーが、無我の境にある人々の心を呼び起こしめた。ヴィアダーネ作の「エクズルタテ・ユスチ」であった―正しき者よ主において歓びおどれ、讃美は直き者にふさわしければなり―と、まことに義人が勇ましく天に駆上るさまが偲ばれる。

ミサ後ただ感激で一杯になった胸を抱きしめながら、人波に押されるようにして大聖堂を出たときは、正午を告げるアンジェルスの余韻も消去って隅々まで晴れ渡った小春日和の空の彼方で、殉教者たちの静かな微笑が見られるように思われた。

× × ×

あの日福者の位にあげられた二九名は、北清事変に散った数多い犠牲者の中に数えられる方々でグタ・ネリア）

殉教録が昔の出来事のように感じられる私共の生活に活を入れ、現に、この地上で幾千万もの神における同胞が信仰の自由を奪われて苦しんでいることを、より現実の問題として取上げ、彼等の上に思いを馳せて、諸聖人の通功により、祈り、犠牲をもって力付けてあげねばならないと思う。（シスター・ネリア）

移民の献金（9月10日）

大名町	六、一四〇
浄水通	一、七三〇
地行町	三、〇〇〇
光ケ丘	四、五一〇
西新	三、〇七〇
囊島	一、一二五
高宮	三、八〇〇
吉塚	—
茶山	二、三〇〇
箱崎	二、四四七
大楠	三、四一一
田島	一、七四四
古賀	—
二日市	二、一三六
久留米	六、一〇〇
大牟田	二、五〇〇
吉野	一、六三〇
今村	九、七〇〇
本郷	三、一〇〇
小郡	一、〇五六
呼子	二、二一八
渡島	二、三〇〇
馬渡	二、〇〇〇
佐賀	一、〇〇〇
唐津	一、四〇〇
伊万里	六六〇
鳥栖	六〇〇
武雄	五〇〇
鹿島	三〇〇
多久	
門司	二、五五〇
広石	一、一〇〇
小倉	二一、五一〇
湯川	六、〇〇〇
戸畑	九、〇〇〇
若松	三、〇〇〇
天神	四、五〇〇
黒崎	八、〇〇〇
八王寺	三、〇〇〇
本城	—
水巻	二、〇一〇
直方	一、〇〇〇
飯塚	二、〇〇〇
田川	一、四〇〇
行橋	三、〇〇〇
新田原	
手取	五、〇〇〇
完尾	六〇〇
人吉	二、五〇〇
本渡	八四〇
健軍	四、〇〇〇
帯山	三、〇〇〇
水俣	一、三〇〇
大江	二、〇〇〇
崎津	二、五〇〇
島崎	一四、七五〇
玉名	一、三〇〇
菊池	二、一五〇
八代	三、〇〇〇
人吉修道院	三、一〇〇
合計	一八八、五九七

四四歳、昭和二七年来日、福岡県飯塚教会および黒崎教会助任、三〇年から三七年まで黒崎主任をつとめ、函館ラ・サール学園で数学を教えていた。

堅信のよろこび

【今村教会】10月8日58名受堅

経過良好

入院中の棚町師

さる一〇月二日九大付属病院で腹部大手術をうけた棚町正力師は恢復の経過がいちじるしく良好で病院内の歩行もできるほどになり各方面からよせられたお祈りにふかく感謝している。

布教の日の催し

福岡市東田島教会（グリフィン師）では一〇月二二日布教の主日に付近の人々を招待して、教会内部を開放して説明、祭服、聖器類を展示、講演などの催しを行なった。信者ひとりひとりが一〇名ずつの教外者をさそうように努め、また幻灯を使っての教理説明を受持った。

司祭異動

カッコ内旧任地

帰国ギャラハー師（島崎主任）
島崎主任ベーカー師（コロンバン会東京本部付）
戸畑助任ベルトラン師（帰国）

受洗者のために

二日の静修

九大カトリック研究会員六名は受洗準備をすすめている同会員三名をかこんで、一〇月二二と二三の両日、福岡市吉塚の聖体の三位一体修道院で静修を行なった。指導は深堀司教と平山師。

聖体礼拝

（11月）

第一日曜　光ガ丘教会
第二日曜　大江教会
第三日曜　トラピスチヌ修院
第四日曜　蒲尾教会
マリアの宣教者熊本修院
玉名教会

祈禱の使徒会

（11月）

【一般意向】キリスト信者とユダヤ人との相互理解
【布教意向】アジアにおける無神論への闘い

11月

煉獄の霊魂の月

1日（水）諸聖人の大祝日（守るべき祝日）
この世に生きて旅している信者も、天国の栄光のうちにある兄弟たち、あるいは死後の清めをうけている者も、みなキリストとともに一体になっている。だから相互いに助け合い、三位一体の神のご光栄をたたえるのである。

教皇大使福岡にお着き

2日（木）諸死者の記念
カトリック信者は決して死者をおろそかにしない。毎日のミサ祈りのなかで死者の平安と安息を願っている。しかし、われわれは墓地の清掃やお墓参りにもっと熱心であるべきではなかろうか。

教皇大使熊本ご訪問

3日（金）福岡小神学校祝別式及び司教座聖堂で共同執行ミサ

4日（土）教皇大使佐賀市へ

5日（日）聖霊降臨後第25主日
風と湖の暴力をしずめ、自然の力の上に立っておられる神の御子キリストは、人間に暴力をふるう罪をとり押さえ、救いの静けさを与えられる。

人吉教会で堅信

9日（木）ローマ救世主大聖堂の記念日

12日（日）聖霊降臨後第26主日
キリスト教的な忍耐は、決して歯をくいしばって感情をおさえ立ち上がる時機をまつというものではない。
聖パウロの考えによると、信者は救いの神をしっかりとみつめることができるから、忍耐ぶかく生活されるのである。

新田原教会で堅信

16日（木）福音の光修道院ではじめての終生誓願式（深堀司教司式午前10時）

19日（日）聖霊降臨後第27主日
キリストの再臨を待望するのは、人間世界のだらくに絶望し、その全面的破滅をのぞむからではない。むしろ神から創造されたこの世界の上に、神のお力がいつも発揮されて、ますます美しく世界が完成されることを望むからである。われわれは神と協力してパン種のように働き、カラシ種のように成長すべきなのである。

水巻教会で堅信

20日（月）吉塚三位一体の聖体宣教会修道院で誓願式（深堀司教司式）

21日（火）童貞聖マリアのご奉献の祝日
福岡サン・スルピス大神学院でお祝

23日（木）勤労感謝の日

26日（日）聖霊降臨後最後の主日
神の御子がこの世に降臨された第一の目的は、人々を「暗黒の権威より救い出して、ご自分の国に移す」ことである。エルサレムの滅亡は、悪の力の滅びを象徴する事件であった。われわれの心のなかにも滅ぼすべき邪魔者があるのではないか。

本渡教会で堅信

30日（木）使徒聖アンドレアの祝日

教皇大使 福岡教区ご訪問へ

駐日教皇庁大使B・ウステンベルグ大司教は、一〇月二八日から大分、福岡、長崎、鹿児島教区の順で九州各地をご訪問される。

大使は大分教区のご日程のあと故吉田元首相の国葬にご参列のためいったん帰京され、一一月一日朝あらためて九州にむかわれる。

福岡教区ご訪問日程

11月1日（水）
- 8時40分　羽田発
- 10時10分　板付着
- 12時　司教館でお食事
- 15時40分　急行しらぬいで熊本へ
- 17時38分　熊本駅着
- 19時　熊本手取教会で諸聖人の大祝日のミサ司式

11月2日（木）
- 9時30分　信者代表あいさつ
- 10時　熊本市役所ご訪問
- 10時20分　熊本県庁ご訪問
- 12時　各施設視察
- 13時30分　ご昼食
- 16時　自動車で福岡へ
- 18時　福岡県庁と市役所ご訪問
- 福岡大神学院へ
- 同院でお食事

11月3日（金）
- 11時　福岡小神学校祝別式司式
- 落成祝賀式にご臨席
- 16時　大名町司教座聖堂で共同司式ミサ
- 信者代表あいさつ
- 18時　高宮フランシスコ修院でお食事

11月4日（土）
- 8時30分　急行玄海で博多駅発
- 9時33分　佐賀駅着
- 10時　老人ホーム・佐賀ロザリオの園へ
- 11時　佐賀県庁ご訪問
- 11時30分　佐賀教会で聖体降福式
- 12時　佐賀司祭館でお食事
- 14時26分　急行出島で佐賀駅発長崎へ

ウステンベルグ大司教

駐日教皇庁大使ウステンベルグ大司教は、本年五五歳、西ドイツのラインハウゼンの生れ、一九三八年ケルンで司祭になり、大戦中の四二年バチカン外交アカデミーを卒業、バチカンの国務省で勤務昨年一〇月二四日前大使マリオ・カーニヤ大司教の後任として駐日大使に任命され、一二月一一日ケルンで司教叙階、去る二月二八日来日着任された。

福岡小神祝別式

今年二月五日以来、全教区あげての協力と注目のうちに工事を進めていた福岡小神学校新築校舎は一〇月末完成の運びになり、来る一一月三日文化の日に、駐日教皇庁大使を迎えて盛大な祝別式が挙行される。

すばらしい舞台披露

韓国の児童芸術団

「小さな星」韓国カトリック児童芸術団の一行は、九月中旬から二週間公演をつづけ、一〇月九日と一〇日の両日北九州市で大好評のうちに、すばらしい舞台をひろうした。八幡市民会館での昼の部には**JOC**の招待にこたえて深堀司教もゆっくり観賞し、団長姜文秀氏以下全団員に歓迎のメッセージを渡し、熱演の興奮さめやらぬ子供たちにかこまれて記念撮影におさまった。

（写真上は司教を囲んだ一行下は舞台のひとこま）

深堀司教から歓迎メッセージ

韓国カトリック児童芸術団、小さな星のみなさまが、はじめて日本公演においでになり、福岡教区の二つの会場で芸術味あふれるすばらしい舞台を見せて下さることを大変うれしく思います。

みなさまは、この舞踊を通して美を追求し、美を表現しようとしておられますが、普通の芸術団体と違って、美の最高が生ける唯一の神ご自身であられることをすでに知っておられます。ですからみなさまにとって芸術を高めこれを世に示すことは、まことの神さまをもっとよく知り、そして知らせることになります。

韓国の信者の方々とわたし達の国の信者とは、一つの信仰で結ばれていますが、みなさまのこの度の来演によってさらに友愛の絆がつよまって、神のご光栄がこの両国の上に輝きわたることを切望いたします。

私は、みなさまを韓国からの珍らしいお客さまとしてだけでなく、天の神さまのもとから舞いおりて来た小さな星として歓迎いたします。

保育所について（その四）

カトリック保育所の人事管理

畑原富雄

文化の進歩に伴い、経済の高度成長と相携えて、種々の事業における物的条件の高度化が、高い人的条件を要求するようになって来た。このことは教育や社会福祉の事業においても、あるいは技術の面で、あるいは社会の複雑化に対処する精神的人格的能力の面で人的条件が高い比重を占めることを意味する。ことに急速な発達過程にある乳幼児を対象者とする保育所にあっては人事管理の巧拙がそのまま事業内容の成否に直結するといっても過言ではない。

職員構成の種々相―民間保育所の職員構成を、その構成メンバーの所属別にみると、非カトリック保育所では家族中心の職員構成を行なっている所が圧倒的に多い。このような場合、家族のメンバーと非家族職員との間に種々の問題を内包しているけれども、事業そのものに生活をかけているので、事業に対する取組み方には厳しい熱意が感じられる。

カトリック保育所では、修道会経営の場合、園長が主任司祭で修道会が現業に協力する場合、園長が主任司祭で他の職員が一般人である場合等がある。いずれの場合も多少とも一般人の協力を得ているわけであるが、その協力の仕方如何は人事管理のあり方と大きな関係があると考えてよい。

人事管理の問題点―管理とは、事業の目的に向かってその施設の諸条件を動員する過程を意味する。管理が停滞すると、当然のことながら事業は動脈硬化を起こす。したがって管理者が管理責任を果すことが何よりも大切である。

教会が附帯事業として保育所を活用しようとするならば、カトリックの特色ある管理によって保育界をリードする努力が望ましいと思うのである。

物的管理に関しては、現行保育制度の措置単価制の中では、設備費や減価消却費が含まれていず、社会福祉法人でなければ融資の道も峻しいなど問題もあるが、ここではふれない。

保育所の人事管理で心すべきことは、職員がかなりきびしい労働条件の下にあること、さらに、時代の進歩とともに高度の技術が要求されるようになってきたことである。このことは、先に述べた職員の福利厚生等神経の行届いた配慮が望まれる。

このような配慮がなされるならば、各職員は不安なく保育に専心でき、したがって職員の定着率もよくなり、保育効果も上昇し、地域住民にアピールする価値ある事業として教会にプラスするであろう。

最後に、人事管理の中に大きなウェイトを占める一面として、職員個々の能力開発の問題がある。施設長が、カトリック社会事業や個々の施設に望ましい職員教育を行なうことや、対外的な研修の機会を多く与えるよう努力すべきは当然である。

しかし私が、ここで特に強調したいのは、個々の職員の潜在能力の開発であるそれらは本人の趣味、嗜好などによっても、さらには日毎の保育計画とその実践、評価、反省、再計画など基本的な保育の流れを注意深く分析することによっても容易に把握できる。またこれ等の長所は、機会あるごとに活用することによってますます伸長する性質のものである。こうして特殊の技能をもつ勝れた職員を得られるであろうが、このような努力が日常保育の場においてばかりでなく、特に年中行事や特殊事業の場において、大きな力となるであろうことは疑いをいれない。

職員養成の問題と併行して、職員の雇傭、健康管理、労務管理に充分の配慮が望まれる。

職員処遇に関しては長年の業界の努力の結果、ようやく数年前から公務員並みの扱いをうけるようになったものの、単価制の枠の中ではまだ矛盾や困難が多い。業界多年の念願である専門職としての格付けも、職員にとって望ましいことであるが、一方では施設長の管理権が多小とも弱体なものとなろう。

カトリック保育所に特に望まれることは、一般職員の身分保障の問題である。退職金制度に関しては全社協の退職共済制度があるがその金額は一般企業にくらべて微々たるものであり、年金制度も厚生年金におんぶしているのが精一ぱいの姿である。これでは充分の身分保障とはいい難いので、この種の問題を単に各施設独自のものとせず、もっと広い視野でとらえ対処すべきであると考える。

さらには職場環境の合理的整備、事務の簡素化や事務分掌の適正化による責任態勢の明確化、職員の福利厚生等神経の行届いた配慮が望まれる。

YMCAで講演

信者グループも顔合せ

熊本市手取教会主任ノーリス師は、同市YMCAのダビデ会有志の申入れで去る一〇月一三日午後六時半から「教会とは何か」について講演した。このめずらしい会合にはプロテスタント側からダビデ会の大久保雄氏をはじめ、YMCA会員、ルーテル、バプチスト信者ら一四名、カトリック側からは熊大助教授宮内久光氏、手取バウロ会長水野泉氏レジオ会長村島チエ子さんら七名の信者も参加して相互理解への努力を示した。

黙祷、讃美歌、聖書朗読のあとノーリス師が、旧約時代における神の民の誕生からキリストによる新しい民の形成、七つの秘跡の役割、位階制度、民の記録書である聖書、神秘体などについて理路整然と説明し、とくに教会がキリストによって設立されたこと、聖書は教会の権威によって解釈される点を強調した。

この講演会にさきだってプロテスタント側にもあらかじめ教会憲章の通読が勧められており、当日は要旨が配布された。なおYMCAを代表して堀原氏が「教会一致をめざしてこのような実践の場を得たことを喜び感謝する。井の中の蛙にならぬよう今後もますます勉強して、プロテスタント教会の刷新をはかりたい。また今年はルター宗教改革四五〇年祭にあたるので、カトリックの立場からの意見をきかせてほしい」との挨拶があった。

色々な質疑も出されたが、明るくなごやかなふんいきで対話がなされ、YMCAの積極的な活動が期待され、カトリック側からの参加者の数が大いに参考になった。

（手取教会・日向常子記）

総長来福

コングレガシオン・ド・ノートル・ダム修道会の総長ガブリエル・マッシコット修女はマルグリット・セン・イレール修女を伴ってカナダ・モントリオール本部から九月中旬来日、東京、福島、北九州の修院・学校を視察、一〇月二一日福岡司教館に深堀司教を訪れた。

修道女銀祝

【聖心のウルスラ修道会】九月二三日大橋修道院でマリア・アンドレイナ・オルランディ修女の立誓願銀祝のミサが、深堀司教司式でささげられた。同修女は中国で約一〇年間布教ののち昭年二七年来日した。

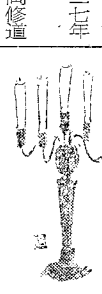
【サンモール修道会】福岡修道院で一〇月二二日、アガタ修女とマリー・ベルナール修女の立誓願銀祝が深堀司教司式で挙行された。

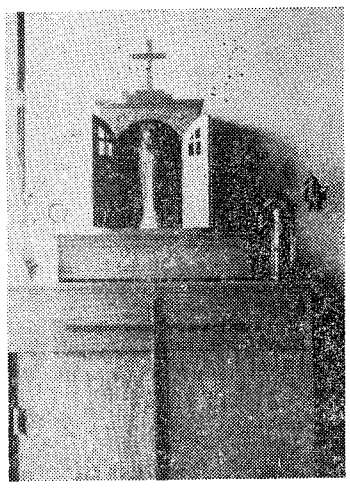
熊本で教誨師大会

一〇月二一、二三両日熊本市の九電ホールで九州教誨師研修大会がひらかれ、地元熊本のドイル師のほか福岡の深堀師、長崎のヤノ師ら三名が出席した。

黒川米吉氏（福岡市地行教会主任黒川博師厳父）一〇月二二日熊本県天草郡合津町で逝去、八四歳。

川口徳男氏（福岡市小神学校長川口康頼師厳父）一〇月二六日熊本県天草郡天草町大江で逝去、七四歳。





暁の星工作所

祭壇・礼拝台・教会用具一式
事務用・学校用家具一式
室内外装飾・一船塗装

ご用命うけたまわります

福岡県粕屋郡粕屋町下若宮8組
電話（長者原局092938）2584

聖心の使徒
（昭和四十二年十一月号）

終末……三木次郎
十一月の意向　キリスト信者とユダヤ人との相互理解……千葉大樹
アジアと無神論（十一月の布教の意向）……谷口幸紀
黙想　イエズスの聖心の連禱（三十二）……河野義祐
聖書のすすめ……柏谷源蔵
写真特集　選民の道……
信ずるもののはじめ……L・カウフマン
アブラハムの故郷ウール……J・ベナール
自動車放浪記（六）……佐藤潔人
信徒使徒職の聖者（下）……品川勝郎
これからどうなる……井手雄太郎
聖書の時間　イエズスの御姿……J・モンステルレ
ポスト……
新本めぐり……

購読会費　一部　〒共　一カ月　五七円
一カ年　五七〇円

若者のうた

首藤三枝子

私は、先日会社から旅行にいった折、中学生・高校生数名が肩を組合いながら労働歌をうたっているのに出合った。会社の同僚たちは「若い者は元気だなー」といっていたが、私にはこの光景が何だか異様に見えてならなかった。労働者が労働歌を歌うのならよいが、なぜ学生がこんな場外れな歌をうたわねばならないのだろうか。子供には子供の歌、学生には学生の歌が労働者には労働者の歌があるはずなのに。

もし人が自分のおかれた環境に満足して生きることができるならば、ひとの歌を姿み歌わなくてもいいものをと、私は考える。子供には未来があり、若者には若さがあるし大人には悟りがある。それぞれ人生の歌をもっているのだ。人はなぜもっと自分の歌を大切にしないのだろう。

他人のものは何でもよく見えて自分のものはつまらなく見えるものだ。だから学生が労働者のまねをしてみたり、男が女のまねをしたりする。要するに人のものを欲しがっているのだ。私たちが静かに自分を眺めたらある。学問はないかもしれないが働いている。青年としての戦いを戦っているのだ。それは他の人にできない私たちにしかできない若者の戦いである。

ライバル意識を克服し利己主義をすてて友情を育てる。目的をみつめて突進する。この行動力こそ青年の特徴であり、私たちの誇るべきよさである。

このようなよさを与えられていることに気付いて、それを喜び、この特徴を生かそうとするなら、人を押しのけて進出しようとねらったり、社会の矛盾に気狂いじみた反抗をくり返えすような、さもしい大人のまねをするはずがない。私たちには私たちの生活があり、若者には若者のうたがあるのだ。

（大名町教会所属）

青年の求めに応じよう

古賀香

「近頃の若い者は…」という言葉をよく耳にする。私自身もすでに若者たちをそこから眺める年代にいたっている。「かれらのやることはわからない、何を考えているんだろう」と首をひねりながら「われわれの若い頃はもっと…」などと、いつのまにか昔を美化しながら、なつかしむこの頃である。

しかし大人になったと思っているわれわれも、しっかりした人生観を身につけようともしないでただ漫然と生きて今日に至ったというのであれば、あまり大きな声で近頃の青年を批判することはできないであろう。青年の姿がやたらに目につく今日このごろ、かれらが何にぶつかってどう戦っているかを心して眺めるなら、大人の目に異様にうつるかれらの行動もいくらか理解できるのではなかろうか。

ある青年は仕事熱心で誠実であったので、技術も上達し会社から腕をみとめられ、かけ代えのない人間と噂されるほどであった。ところが不幸にも病気に犯され入院を余儀なくされた。入院の当初は同僚もかれの休職を惜しみ、かれ自身も会社に迷惑をかけるのを申しわけなく思った。しかし半年たち一年たつと彼を思い出してくれる者はいなくなってしまった。会社は何の影響をうけず、依然として赤い煙をはきつづけている。

病床に横たわりながらかれは自分の今のみじめな姿を眺めた。私は何であろうか。健康に働いている間は重宝がられるが、利用価値がないと見られたら、なんのことはない。一つのナットが外れたから別のとり代えたようなもので自分という人間が大切なのではないが、会社にとって唯一の関心事だったのだろうか。

かれがもしキリストに出合わなかったら、そして「キリストは私を愛して生命を与えられた」ことを知らなかったら、今ごろはすでに「近頃の若い者」になり下っていただろう。

人間は道具ではない。生産能力の大小で人間の価値がはかられるならば、若い者でなくても爆発せずにおれないだろう。社会は急速に変化している。個性の発揮できる職人の分野はせばまり、巨大な社会機構は、人間をメカニズムの中の一個の部品にしか評価しな

伸びゆく力

私の青年時代

平田房刀

三、四〇年前をふりかえって見ることにしましょう。その頃私も農村青年として過ごした時代があります。当時の農村青年は、実直勤勉な者と見られていました。私達信者は周囲の青年に呼びかけてカトリック青年会を設立し、農繁期をのぞいて毎夜集まり、珠算・書道・作文・弁論にと励み、時には農作物の品種改良の研究などもやっておりました。また生活改善の方策として冠婚葬祭の簡素化を呼びかけるなどもしておりました。

私達農家の者は極貧とまではいきませんでしたが、中学校に進んで勉強できる余裕のある者はいませんでした。百姓の子は百姓をやるのが当然で、それ以外に何も考えてはいけないというのです。ですから私が農学校にいけたのは、当時としては全く珍らしいことでありました。

私が農学校を卒業する頃に、カトリック研究会が結成されました。この会に入った者のうち私が最年少者で一六歳でした。大先輩格は私より七—八歳年上だったのです（今は教区司祭の重鎮になっておられます）。

私は先輩の裾にしがみついて、一生懸命に「真理の本源」という書物を手に、神の存在の証明を皮切りにカトリック信仰の基礎を勉強し、指導を仰いだものです。こうしてどうやらまとまった段階にまで達しますと、部落の信者の家で弁論会なるものが催され、毎回五名から八名の弁士がテーブルを叩き大声をはり上げて所論を述べるようになりました。

若輩の私も指名されますと、胸をおどらせ身体をブルブルふるわせながら、原稿を手に神の存在について叫んだようです。新しい主任司祭になって会員も四〇名位にふくれあがり、定例の弁論会はやがて討論会にまで発展するようになり、以来私も家の都合で町に移転するまで七年間、この青年の集会に情熱をもやし続けました。

さて現代の青年はどうでしょうか。断片的に申しますと、利己主義ではないでしょうか、他人に対して思いやりがあるでしょうか、協力心があるでしょうか、積極性があるでしょうか、活力があるでしょうか。戦後二〇数年の今日、青年になくてはならないすべての良いものを、どこかに置き忘れたのではないでしょうか。

勉強も研究も、そして遊びも、若人の持てる力で友と力を合せて自発的に行動してもらいたいものです。（箱崎教会所属）

躍動する力

青年の力を活かそう

◎若い私にできることとはなにか

◎明日をになう彼らに理想像を

「ぼくや教会の人、皆のために他の青年と力を合せて、一生懸命働いてほしい。そしてぼくが大人になるまで、いろいろと注意し見守ってほしい」。そして神父様を助け、明日の教会のために努力してほしいと思う（中一・男子）

現代の青年

現代の青年は明るく溌剌としていて、開放的であると語られる反面、今頃の青年は非常に利己的で、手の付けようが無いということもよく耳にします。

先日も東大のA教授が現代の東大生についての心理学的な面からの分析の中で、現代の学生の一番大きな特徴は、頭が良いということもあるが、特に利己的で自己中心的で、自分を捨てて他に奉仕する精神がないということを語っておりました。

この点に関する教授の分析が根本的にいって正しいものかどうか深く考えてみる必要があります。

実際問題として現代青年は利己的になっているのだろうか。確かに表面的にはそう見えるのですが、ここで青年をもっと探ってみましょう。

やはり現代の青年も昔の青年とその根本心情においては何も変っていません。すなわち自己を捨てて何かのために尽すと云う事は今昔を問わず青年の内に燃えています。しかしその精神が表面に現われて一つの青年の特徴として理解される為には条件が必要です。それは或る事を明白な素晴しい目標であると確信している事と、その目標を達成する手段が自分の実行可能な範囲内にあると言うことを、はっきり把握している事です。

このどちらかが欠けても青年にファイトは起こらず、この両方がある時にのみ青年は、自分を捨てて他に奉仕し、青年の人間らしいダイナミズムも表現するのです。

先日の羽田空港に於ける学生達を取り上げてみると彼らのやった事、考えた目標は、客観的にどうかと言うことは別として彼等学生の主観の中においては少なくとも、素晴しい世界平和を目的とし、しかも彼らがあのようにする事によって、世界平和と直結した行動ができると言うことを確信しているのです。その時に、あれほどのダイナミズムが危険を物ともせずに表現されるのです。

現代の青年が表面的に非常に利己的に見えると言う事は、実は、青年に対しても社会に対しても、崇高な目標とそれに足る明白な手段が示されず、また把握されていないと言う事に、原因しているのではないでしょうか。今後布教活動に於て、青年の自分を捨てたダイナミズムを期待するならば、私達は青年達に明白な素晴しい理想像を示しさらにそれに至るための具体的手段を示し、その手段が青年達の把握したヴィジョンに直結することを、理解させなければならないと思います。（司祭）

青年の指導者として

山口実

子供の心に映る青年像いろいろ

ぼくのおねえさんは、びょういんに、すみこみですんでいます。そのおねえさんは日曜日にかえってきます。かえってくると、ちょっとおねえさんのわるいくせがでるのです。そのくせは、手がはやいということで、その手をもうちょっとおそくしてほしい。おねえさんのいいことは、ただ一つ、ぼくのみかたをしてくれるということです。（六年男子）

× × ×

さわちかのにいちゃんは、かいしゃがおわると、ごはんをたべにきて、ごはんがおわると、あそんでくれたり、もけいをつくってくれたり、べんきょうをおしえてくれたりしました。

そうしておかしをくれたりしました。さわちかのにいちゃんとけんかをしましたが、やっぱりにいちゃんがかちました。そうしてにいちゃんは、どこかにひっこしました。（四年男子）

◆クリスマスカード　イタリア製　日本製 ¥15～¥40

◆クリスマスの御絵　イタリア製 日本製 ¥10～¥90

◆天使像　コーラス天使 ¥100～¥200　ローソク天使 ¥170～¥220

◆クリスマス・セット

クリスマスカード　クリスマス・セット

大名町教会隣　聖パウロ書院

岩田屋六階　セント・ポール・コーナ

キリストを知り

キリストを知らせる

クリスマスのプレゼント

お友だちに・お子様に

◆天からきた人　脇田昌子編 ¥400

◆イエズスのお母さん　脇田昌子編 ¥380

◆クリスマス伝説集　上沢謙二編 ¥200

◆われをだれと思うか　I・トラヴァス・ポール著 ¥230

◆ありのまま　坊城佐和子著 ¥230

◆みんなで読む本　沢田和夫編 ¥200

キリスト者の結婚と家庭 (1)

―リング―

《主キリストの望み》

家庭は、母なる教会をそっくり象るものであり、その最も小さな単位とも言えるものである。地上の教会も「天上のエルザレム」も共に愛なる神の一族である。キリスト教的生活が完成されるか、堕落のふちに落ちこむかは、ひとえにこの家庭という場所のあり方によるのである。

精神的動揺のはげしい今世紀は信仰と家庭の基礎をゆり動かしている。信仰とか良心とかは、われわれ日常生活から段々と縁遠いものになり、宗教または道徳にいってはなおさら人々の心から閉め出されようとしている。神という存在に対する関心は急速にうすれつつあることは否めない。したがってキリストは、せめて信者の夫婦が恩寵の助けのもと、忠実な愛をもって助け合い、不屈の惜しみない愛の模範をまわりの人々に示して、兄弟的な愛の交わりを建設し、母なる教会の証人、協力者となるよう望んでおられるのである。

《結婚の秘跡の真義》

聖霊の光に照らされた第二バチカン公会議は、結婚と家庭の神聖さの根拠を次のように教える。

「夫婦によって結ばれる生命と愛の深い共同体は、創造主によって設立され、法則を与えられた。それは結婚契約すなわち本人自身の、撤回できない同意を基礎とする。こうして配偶者が互いに自分を与え、そして受ける人間行為によって、神の制定による堅固な制度が社会の前にも生れる。この聖なるきずなは、夫婦とこどもと、社会の善のために、人間の自分かってにはならない、神自身が婚姻の創設者であり、種々の善と目的をこれに付与したからである」（現代世界憲章48番）。

神は、配偶者同志のきよい愛を確固たる土台の上にのせようとおぼしめされるのである。そしてこの愛そのものが神の限りない愛から生まれたものである。

結婚というものは実に偉大な神よりのお召しである。だから結婚生活に召された二人の上に、神の恩寵がそそがれる。そしてこのお召しに忠実であろうと努める生活は、生気と実りにみち、尊敬と愛を高めるのである。愛を完成させようとしない夫婦には、神の恩寵がストップする。神のお召しに答える道は愛以外にはないからである。

秘跡とは、神のあわれみから出る〝人間のすくい〟の実現である。結婚の秘跡では、二人の純な愛、はぐくみ合う愛、つきることなくわき出る愛のあるところに、そこに神によるすくいのお働きが表明される。

「主キリストは、神の愛の泉から生じ、キリストと教会の一致にかたどって設立されたこの多面の愛を、ゆたかに祝福された。かつて神が愛と忠実の契約をもって、その民を助けたように、今は人々の救い主・教会の夫は、婚姻の秘跡をもって、キリスト信者である配偶者の助けに来る。そしてキリストが教会を愛して、おのれを教会のために渡したように、夫婦も献身的に、変わることのない忠実をもって、互いに愛するものとなるよう、キリストはかれらのもとにとどまる。真正な夫婦愛は、神の愛の中に取り上げられ、キリストのあがないの力と教会の救いの働きによって導かれ、豊かにされる」（現代世界憲章48番）。

このようにして夫婦の愛は効果的に神のもとに導かれ、父として母としての崇高な努めを果たすときに助けられ、強められるのである。そして温和な中にも不動の愛をつちかうことによって、二人は生まれた子ども、またこれから生まれる子どもにも同じように、救いと成聖の道を教えてゆきたいと望むようになる。

《夫婦愛》

男と女は互いに助け合うために神から造られたものである。愛することができるという点で、神の生き写しである。聖書はこのことを比喩をつかって、わかり易く説明している。

エワはアダムの骨から造られたと、聖書は教える。つまりエワはアダムの分身であり、心の最奥の望みを満たすものである。

だからアダムは、神が女の中にもうひとりの自分を作って下さったことを悟って、ふかい喜悦にひたったのである。

「それ、そ私の骨からの骨、私の肉からの肉、男からとられたのだから、これを女と名づけよう」（創世記二・22、24）。

男女のあいだの愛の美しさを教えるために、聖書はまた神のご自分の民に対する愛を比較にとり上げている。夫が妻を愛するように神は民にいつくしみをたれ給うというのである。

アダムとエワは罪をおかして神との親交をふみにじった。そして二人は責任のなすり合いをする。罪によって夫婦愛が乱れるのである。だから夫婦が身も心も一体になる時に、真のすくいが訪れる。男が暴力をすて、キリストが教会を愛されたような愛をもって妻を愛する時、救いの恩寵が経験される。

同様に女がつつしみを保ちながらも社会的任務を果たし、女性の品位が正しく認められるようになった時、女は救いの神秘を具体化しているのである。（つづく）

贖宥（しょくゆう）について

一一月は煉獄の霊魂の月であり「諸聖人の通功」を信じるわれわれは、祈りやぎせい、とくにミサ聖祭の功徳をかれらにささげるがその他に教会から与えられる贖宥（しょくゆう）を、代祷の形でかれらにゆずることができる。

贖宥（免償ともよばれる）については、今年はじめに新しい教令が発布された。そのなかに新しい規則が述べられているので、重要な箇条だけをとり上げる。

1。贖宥は、罪科としては、すでにゆるされた罪のために負される一時的罰の、神の前におけるゆるしである。

それをうけるにふさわしい心を準備した信者は、きめられた条件を果せば、教会を通してこのゆるしをうけられる。教会は、贖罪のめぐみの分配者であるから、キリストと聖人たちの功徳の宝を、権威をもって分け与えることができる。

2。贖宥には、罪にともなう一時的な罰を、全面的にゆるすもの（全贖宥）と、部分的にゆるすもの（分贖宥）と二つある。

3。この二つはいずれも代祷として死者にも与えられうる。

4。分贖宥を示すのに、これからは日数や年数をつけず、ただ分贖宥とだけ示す。

5。分贖宥がつけられている行為を、痛悔の心をもって果す信者に、その行為につけられているだけの（一時的罰の）ゆるしが、教会から与えられる。

6。全贖宥は一日に一回だけうけられる。ただし臨終にある人のために規定されているものは、その限りではない。分贖宥は特別の指示のない限り、一日に何回もうけられる。

7。全贖宥をうけるためには、きめられた行為を果すこと、次の三条件を満すこと、即ち告白の秘跡、聖体拝領をうけ、教皇の意向に従って祈ること、なおそのうえ小罪をふくめてすべての罪に対する執着をすてることである。

もし充分な心構えがなかったり上述の三条件が満されなかったら分贖宥しかえられない。

8。この三条件は、きめられた行為を行なう前後の数日間に果せばよい。

9。条件の一つである告白の秘跡は、全贖宥のたびにうける必要はない。一回の告白の秘跡でいくつもの全贖宥をうけられる。しかし一回の聖体拝領、一つの教皇のための祈りでは、一つの全贖宥しかうけられない。

10。教皇の意向のための祈りとは、その意向のために主祷文、天使祝詞一回をとなえればよいが、教皇に対する各自の孝情と信心によっては、なにか他の祈りをとなえてもよい。

11。すべての小教区教会、公用の礼拝堂または準公用の礼拝堂＝神学校や修道院付属の聖堂など＝で、一一月二日に全贖宥をうけられる。これは死者のためだけである。

12。教会または礼拝堂につけられた全贖宥をうるには、この教会または礼拝堂に参詣して、主祷文と使徒信経を誦えねばならない。

13。普通に司祭が祝別した信心の聖器具（例えば十字架、ロザリオ、スカプラリオ、メダイ）をうやうやしく使用するものは、分贖宥をえられる。

もし教皇または司教が祝別したものであれば、使徒聖ペトロ・聖パウロの祝日に全贖宥をえられるただし使徒信経の祈りをつけ加えとなえねばならない。

14。もし臨終の信者が、司祭不在で秘跡も教皇祝福も全贖宥もつけることができなければ、母なる教会は、信者が充分な心構えをもっている場合、かれに全贖宥を与える。すでに同日全贖宥をうけていても、この臨終時の全贖宥はうけられる。

15。全贖宥は一日に一回だけであるから、これまで「度ごとに」という規則は廃止される。（したがって一一月二日の死者のための全贖宥も一日一回だけである）

甘酒

鬼木保之

秋もお祭りの頃ともなれば、甘酒の候となる。その甘酒も家により、所により、味が微妙にちがい、どこの家に行っても「わが家の味が一番、おいしいでしょうが……」とだれでも、自分の幼い時からの味を舌にのせて、最上の自慢となる。

甘い、まさに甘い甘酒が良いという人から、どこか酸味の入り始めた頃のがうまいという人、また甘さの入口に達した頃を最上という人など味も様々である。

糯の種類、そのまぜ方、お米ももち米とうるちのまぜ方、そのたき具合などで味は千変万化するが、その中でわが家の味をつくるのはなかなかむつかしい。

今から四、五年前のこと。大阪に行って一日ひまが出来たので、話のついでに何処か行くところはないかと考えて、和歌山に行った。真夏のあついある一日である。市内、お城と見てから、紀の三井寺まで足をのばした。電車を降りて、茶店をぬけると、石段がずっとある。それを上りつめると左手に広場がある。見はらしの良い所で、和歌浦が眼下より右手にずって長汀を見せている所である。

「甘酒あります」の旗が立っていて、茶店の木かげは涼しそうであった。暑さにゆられ、歩きつかれていたので、暑さの中でも甘いものはよかろうと立ち寄って注文する。

待つことしばし。私が考える甘酒とは、米糀を発酵させて作るとばかり考え、まさにそれを期待していたが、出されたのは「はて？」と考えさせられるしろものである。甘いことは甘いが、これはあめ湯の甘さである。美頭狗肉とはこのことか、と思ったが、所かわれば品かわるで、和歌山では甘酒とは麦こうじのあめよりつくったのが、甘酒というのかも知れぬ。

ところでもう一つ。これは鹿児島県のあるお宮での話。

なんでも「どぶろく祭り」とかで、何百年の伝統ある由緒ある祭りだそうである。ところが、税務署が、このどぶろくは酒税法違反で、つくることをきびしとめてしまった。何しろこの酒税法は家庭のブドウ酒つくりすらきびしとめる恐ろしい法律である――。どぶろくがないと祭りの名前はすたれるしというので、税務署の粋なはからいで、甘酒にしたらとすすめてくれたと。

こうなると、甘酒はお祭りには大切なものとなる。もちろん、今でもおくんちには甘酒はつきものであるが、祭りそのものを左右するものとは言えなかったのが、ここでは祭りの名前をかけた大切なものである。

しかし酒税法とやらは、明治以後の国の税金取りのためであり、一方は古くからの当然の権利であるから、何か変な話である。

しかし、話はともあれ、うまいものはうまいから、明治百年とか何んとやらで、日本古来の味をたのしみましょう。

日本カトリック映倫推薦

『わが命つきるとも』

（コロンビア映画・テクニカラー）

◎本年度アカデミー賞六部門受賞

◎10月28日より福岡市東中洲グランド劇場でロードショー

◎同時公開「ロメオとジュリエット」

◎入場料＝大人前売券（各教会で発売　二五〇円）

【解説】

16世紀初頭は、英国史の中でも波らんに富んだ時代である。ヘンリー八世は、一五〇九年に即位後間もなくスペイン王フェルディナンドの娘キャサリンと政略結婚。後に英国とスペインとの国交が危機にひんすると、後継ぎのないキャサリンと離婚しようとした。そのためもあって、王は従来ローマ法王の管轄下にあった力トリック教会の首長になろうと試み、それを認めない人々に多くの犠牲者が出たのである。

この映画の主人公サー・トーマス・モアは「ユートピア」の著者としてわが国にも知られているがこの時代に大法官となり、博学高潔の士としてヨーロッパ中から愛され尊敬されていた。偉大な官吏でもあり文人であったかれは、この困難な時代に正義を守りつつ生きることに努力した。そして国王をはじめ周囲からの圧迫にも屈せず、ついに信念を貫き通し、孤高のうちに死んだのである。

天草殉教祭

定例の本渡市天草殉教祭は、一〇月二九日午後六時半教会からキリシタン公園のキリスト平和像までの聖体行列で始まり、信者七〇人と幼稚園児と父兄ら二〇〇名が参加、ミサ中ブレンチフィールド師が説教、終って千人塚前で死者の安息を祈って九時散会した。深堀司教から祝電も寄せられた。

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和和英辞典
コンサイス英和和英辞典
コンサイス英英辞典
ディリーコンサイス英和和英辞典
コンサイス独和和独辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン英和和英辞典
新クラウン英和和英辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

社会事業に深いご関心

教皇大使　教区を公式訪問

駐日教皇庁大使ブルノ・ウステンベルグ大司教は、一一月一日から四日間、福岡教区をはじめて公式訪問されたが、各地で布教に挺身する司祭、修道者、信者たちと広いゆたかなお心で親しく言葉をかわし、信仰の生活を強調された。

北九州　最初のスケジュールでは、大分教区のご訪問につづいてすぐ本教区を視察されるはずであったが、吉田元首相の国葬にご参列のため一〇月三〇日空路帰京されることになったが、大分から板付空港にむかうわずかの時間をさいて、正午北九州市のパリ会地区本部にお立寄りになり、修道会、信者の代表もまじえて歓談され、福嶋順三氏があいさつをのべた。

熊本　一一月一日午前一一時少し前、浜尾文郎師を伴って空路来福された大使は司教館で信者の出迎えうけ、中食のあと、急行くまがわで熊本訪問にむかわれた。熊本ではまず島崎町のマリアの宣教者フランシスコ修道院のシスター、看護婦、施設のこどもや老人たちから出迎えをうけ、待労院患者の歓迎会では、苦しみの意味と価値、苦しみを通して生きる道をさとるように、はげまされた。

七時からは手取教会で諸聖人の大祝日のミサをノーリス、浜尾両師とともにささげ「諸聖人との交わりを祝う日に、熊本信者のみなさまと親しい一致の交わりをもつことはうれしい。九州の地に流れた殉教者の血に養われた信仰を、堅持するように」と強調、石井氏が信者を代表して、信仰に生きる決意をひれきした。

翌二日は早朝、石坂熊本市長と寺本県知事を訪問のあと、マリスト学園と少年の町をおとずれて記念植樹をし、中食後車で福岡にもどられた。

福岡　午後四時半から阿部市長と亀井県知事に儀礼訪問を行ない、六時から大神学生一同に訓話をのべた。

三日文化の日、まずカルメル修道院でシスター達に声をかけたあと、一一時から、新装成ったばかりの福岡小神学校の祝別式を司式した（別項）。

午後四時、大名町教会で各地区長ら八名の司祭とミサを執行、歓迎会の席上では「日本では信者が少ないからこそ、一人ひとりが生活と言葉をもってキリストの福音の伝達者となり、新しい友を教会につれてくるように」とのべ、布教精神を強調された。桑原氏は信徒団を代表して教皇聖下に対する教区民一同の忠誠を表明した。このあと大濠の聖母訪問会のシスター達の招きに応じてから、高宮のフランシスコ修道院でいこいの一時を過ごされた。

佐賀　最終日四日は、八時三〇分福岡市に別れを告げて汽車で佐賀にむかったが、鳥栖駅では同市のカトリック幼稚園児のかわいい歓迎にうれしい驚きを示され、佐賀市郊外大和町のロザリオの園では、着工した教会の定礎式を行なってから、重症の老人を一人ひとり見舞って、聖母の騎士のシスターたちには「苦しみ病む人々を医しながら福音を教えられたキリストにならうように」とさとした。

佐賀県庁では池田県知事と時のたつのを忘れて歓談、正午から佐賀教会で聖体降福式とことばの祭儀を司式、サルディ師がミラノ会の宣教状況を報告、大使は参列者に「世界は信仰の危機にさらされている。みなさんは最大の宝である信仰のめぐみを大切に保って下さい」とのべた。

佐賀訪問をもって四日間にわたる福岡教区訪問をおわり、大使は午前二時半急行出島でお元気に長崎にむかわれた。

街頭募金で協力

インド救ライ運動に

去る九月三〇日、カトリック社会・福祉司教委員会の指導下にある各会の代表者による臨時特別会議がひらかれ、アジア救ライ運動のための募金、優生保護法改廃期成同盟・カトリック連絡委員会設置の件を了承した。

写真は佐賀教会で聖体降福式を司式された教皇大使

救ライ運動への協力

財団法人アジア救ライ協会（理事長那須皓氏）の申し入れに応え社会・福祉、教育、使徒職の各司教委員会が中心となって、一二月三一日まで各小教区教会、学校、病院、その他の施設および街頭で募金運動をする。

福岡地区では、県知事の許可をえて一二月一杯、SVPやその他の使徒職団体が中心になって、街頭募金を行なうことが、一一月一〇日の深堀司教と地区長との会議で決定したが、福岡地区では、これまで毎年歳末助け合い運動を実施してきているので、一二月一三日から二四日までは、二本立てで募金をする。

優生保護法改廃運動

わが国の人命軽視風潮の第一の原因ともいうべき「優生保護法」を改廃しようという国民運動に、カトリック信者が個人的に、また団体として自主的に参加協力できるために、社会・福祉司教委員会のもとに、カトリック連絡委員会が設置された（委員長松村菅和神父）同委員会はこの運動への協力を教会、修道院、学校、施設、使徒職団体によびかけている。

◇　◇　◇

「優生保護法改廃期成同盟」の沿革

戦後の目覚ましい経済高度成長の裏側で、激増をみせた交通禍、自殺他殺、麻薬禍、青少年非行化などなど、地球より重いはずの人間の生命が、鳥の羽よりも軽々しく取扱われ、特に胎児をおろしてしまういわゆる人工妊娠中絶（ダタイ）の蔓延は、日本の社会から人間の尊厳性を完全にふみにじり閉め出してしまうほどの勢いにある。

この人命軽視風潮の根本的な原因が、実は現行のダタイ公認性とも呼ばれる「優生保護法」の法律にあると判断、これを改廃しない限り、どんなに強力に社会福祉の対策を推し進めたところで、日本社会の陥っているひずみ―性道徳のたいはい、青少年非行化、世界一低い出生率、そこに底流する人間性の軽視風潮などーを是正することは極めて困難であるとして、各界を通じた有志によって「優生保護法改廃期成同盟」が結成されその同盟の理念においてはカトリックのもつ理念が、高く評価されている。しかも、生長の家、日本キリスト教婦人矯風会、その他著名な加盟団体から全員一致で、日本カトリック医師会会長の三浦岱栄博士が、初代会長に選出された。

日本カトリック司教協議会は、この一連の国民運動の推移を司牧的な配慮をもって注意深く見守ってきたが、今回、同司教協議会の社会・福祉司教委員会を通じて、カトリック者が個人として、また団体として自主的にこの同盟に参加することを奨励することとし、この同盟との連絡およびカトリック側の統一を固める意味で「優生保護法改廃期成同盟・カトリック連絡委員会」を設置した。

今後、この優生保護法改正廃止あるいは関連する諸問題については、この連絡委員会が中心となって、諸団体との連絡をとり、カトリック者の国民運動参加の有効適切な施策を促進する。

協力方法

優生保護法改正問題の数ある事業のうち、もっとも基本的なものは「本法改廃運動」であり、その直接的な方法は、国民の権利である国民請願により国民の姿勢を正させることである。同盟はすでに請願の諸準備にとりかかっており、もっとも肝要な全国民の署名運動に教会、修道院、学校、施設、使徒職団体が全面的に協力するよう呼びかけている。

少年の町で記念植樹

パパ様の匂いいつまでも

熊本県菊池郡の「少年の町」では一一時三〇分教皇大使をむかえたが、これを期して長い間の干ばつに終止符がうたれるかのように、小雨が乾き切った大地をぬらした。

少年のひとりは大使の前にすすみ出て、次のような歓迎の辞をのべた。

大人たちは、ブルノ・ウステンベルグ駐日教皇庁大使と、長くむずかしい言い方をいたしますが、僕は、使節閣下と申し上げます。使節閣下という呼び名はローマのパパ様のにおいがし、ローマのパパ様のにおいは、イエズス様のにおいがしますからです。

使節閣下、ようこそおいで下さいました。どんなに、この日の来るのを、お待ちしておりましたことでしょう。でも熊本という田舎のその真中に、こんなすばらしい少年の町があるとは、使節閣下もご存じなかったでしょう。りっぱな施設で僕たちは平和な毎日を送っておりますが、初めて使節閣下をお迎えできますこの喜びはたとえようもございません。

心を合わせ、声をそろえて、ヴィヴァ・パパ、ヴィヴァ・パパと申し上げます。

なおまた記念植樹を感謝して次のようにのべた。

使節閣下、僕たちのホームの真中に植えていただきました木星の下には、一九六七・一一・二使節閣下お手植記念樹と書かれますでしょう。そしてこの木星の香りは、常に僕たちの今日のみちあふれた喜びといっしょになって、窓辺にただよい、殊更にものみな希望にかがやく春の日に、また永遠の生命をしのぶ紅葉の秋に、信望愛に燃える生活をつづけるよう呼びかけてくれますでしょう。

使節閣下、この木星に、時々天国のにおいもするよう、お祈り下さい。僕たちはきっと、いつまでも使節閣下の印象を、この木星と共に思い合わせ、祈りますでしょう。どうもありがとうございましょう。

☆　☆

相良氏に叙勲の栄

福岡市荒戸町の相良病院前院長相良剛氏（78）＝地行教会所属＝は永年の医療、看護婦養成、保険審査などに尽した功績によって、このたび勲五等瑞宝章を授与された。

熊本地区に邦人司祭

熊本県下の宣教は昭和二四年以来聖コロンバン外国宣教会に委託されているが、このたび熊本市健軍教会が邦人司祭にゆずられ、平山高明師（小倉助任）が主任司祭として着任した。

県知事表彰

聖母慈恵病院

熊本市の琵琶崎聖母慈恵病院は模範衛生施設として、一〇月三一日熊本県知事から表彰された。同病院は昭和二七年創立以来、完全看護、完全給食、完全寝具を実施する病院として五年前にも市長から表彰されたことがある。病院は六五床、各科を具える近代的設備をもつ。マリアの宣教者フランシスコ会経営。

聖体行列

一一月五日人吉教会では九時のミサと堅信式に深堀司教を迎えたのを機会に、午後から聖体行列を挙行した。小雨がぱらついたが幸い中止に至らず、ロザリオと聖歌のなかを聖体が進み、二つの祭壇をへて教会で降福式がおこなわれた。

音楽コンクールで入賞

毎日新聞社主催全日本学生音楽コンクールの九州・山口地区中学合唱部門で鷺巣学園が第一位、同じく高校バイオリン部門で同学園高校一年の大坪さなみさんが第一位を獲得した。

また福岡大学主催英語暗誦大会高校の部でも一年の中川まち子さんが第三位に入賞した。

市民クリスマス開催

福岡と小倉で

一二月中に福岡と小倉で市民クリスマスが催される。これはプロテスタント全派合同が、一般市民にクリスマスの正しい認識を普及させようと計画したもので、カトリック教会に参加協力の招きがあった。深堀司教は信者がこれに出席するのを許可した。

堅信のよろこび

【人吉教会】11月5日28名
【新田原教会】11月12日48名
【水巻教会】11月19日28名
【本渡教会】11月26日22名

聖体礼拝（12月）

第一日曜　二日市教会
八代パウロ修院
第二日曜　本渡教会
久留米信愛修院
第四日曜　唐津教会
本城教会

祈禱の使徒会（12月）

【一般意向】諸民族間の兄弟的愛
【布教意向】布教に対する信者すべての協力

12月

3日（日）　待降節第1の主日
われらの救いの日は近い、起ち上がれ（福音）、魂は主を仰ぎのぞむ、起ち上がれ（入祭唱）、眠りよりさめよ、起ち上がれ（第一朗読）。主はお力をふるいおこして、おいでになる（入祭祈願）。
邦人司祭養成の日

4日（月）　聖フランスシコ・ザベリオ証聖者
第16世紀のスペインは世界の覇権国であったが、無数の聖人をも生んでいる。イエズス会の創立者イグナチオ、カルメル会の改革者アヴィラのテレジア、そして神のために世界中の魂を征服しようとの野望をいだいたフランシスコ・ザベリオがそれである。

8日（金）　**童貞聖マリアの無原罪の御やどりの祝日**
「マリアは父の最愛のむすめであり、聖霊の住まわれる聖所であって、このすぐれた恩恵のたまものために、マリアは天上、地上のすべての他の被造物よりはるかにすぐれている」（教会憲章53）。それは神の御子の母になるという最高の役割と尊厳を授けられたからである。

10日（日）　待降節第2の主日
救い主キリストは〝貧しい人びと〟のために来られる。「貧しい人に福音が教えられる」。われわれが困窮している人や、よわさに悩んでいる者をかえりみないならば、救い主を迎え祝う資格はない。「キリストが神の光栄のために、あなたたちを喜び迎えられたように、あなたたちも互いに喜び迎えよ」（第二朗読）。

12日（火）　福岡市民クリスマス
（福岡市民会館で、午後六時）

17日（日）　待降節第3の主日
待降節の典礼のふんいきは、いわばバラ色のふんいきである。めざすものを完全に手にいれた、みち足りたよろこびではないが、遠い国へ旅していた者が、故郷に帰れる時をむかえて、心はずむのに似ている。「主は近くにいます」。
福岡大神学院で叙階式

21日（木）　北九州市民クリスマス（小倉市民会館で、午後六時半）

24日（日）　待降節第4の主日（御降誕の大祝日の前日）
クリスマスは、神が罪に負けたわれわれを救うために、最愛の御子をお与えになった事実をお祝いする日である。人類がどんな絶望にもたえることができるのは、この偉大な事実を知っているからである。

25日（月）　**わが主イエズス・キリストの降誕の大祝日**
クリスマスは真夜中の儀式である。それは目に入る光を通してではなく、暗をつらぬく一条の信仰の光のもとで、神のおどろくべきご計画のあらわれを、観想するときである。
大名町司教座教会で司教荘厳ミサ

27日（水）　福音史家使徒聖ヨハネの祝日

31日（日）　降誕後八日間中の主日
すぎ去った一年をふりかえり、心の成長がどうであったかを反省しよう。

ローマ使徒聖座の援助に感謝

福岡小神学校祝別・落成

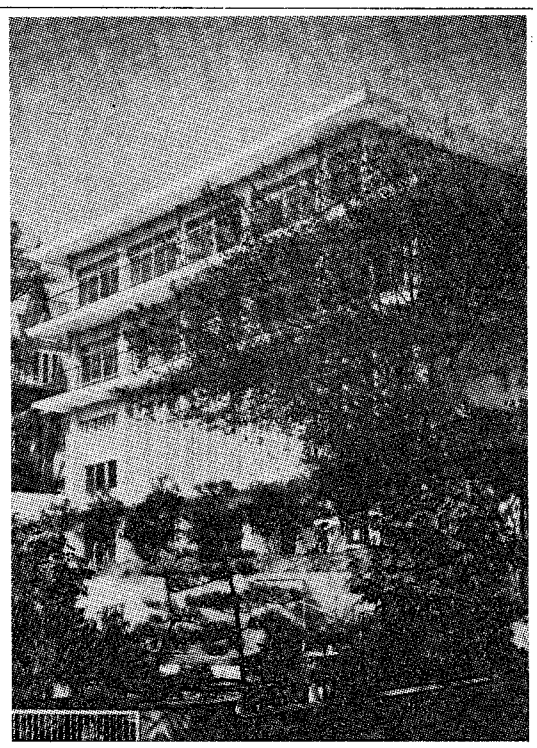
邦人司祭養成の苗床

本年二月五日着工以来、ローマ聖座からの援助と教区あげての拠金によって建築を進めていた福岡小神学校（校長川口康頼師）の第一期工事が、教皇大使の福岡ご訪問とくしくも時を同じうして、一〇月末日見事に完成、文化の日に盛大な祝別・落成式を挙行した。式には平田司教はじめ八〇名余りの司祭、大神学生、修道会と信者代表ら約三〇〇名が参加、定刻一一時大使がボア師と川口師にそれぞれ聖堂を祝別して無原罪の聖母に奉献した。

雙葉学園講堂で行なわれた落成記念式では、まず川口師が布教地での神学校設立と邦人司祭養成に最大の関心をはらって援助を惜しまなかったローマ聖座に感謝をのべ、深堀司教は「福音宣教のご命令をキリストからうけた教会はどの時代にも宣教師を派遣しているが、かれら宣教師はその土地出身の司祭を養成することを第一の仕事と考えた。四〇年前に長崎教区から独立した福岡教区でも、初代司教が何よりも先に司祭の苗床である小神学校を計画したことのべて小神学校の重要性を明らかにした。

つづいてウステンベルグ大司教は日本的感覚を生かした美しい建物が教区民の一致した努力によって生れたことに祝辞をのべ（別項）平田正喜師（建設募金委員長）の工事経過報告のあと、深堀司教から設計者菅種雄氏と施工者高山朝雄氏に感謝状が授与された。

第一期工事でできあがった小神学校は、鉄筋コンクリート四階建。建坪二三六平方㍍（七一・六坪）、総工費三、四五八万円、一階は厨房、食堂、ボイラー室、浴室、食品庫など、二階は聖堂、三階は司祭居室、教室、四階は自習室となっており、各室共温水完全暖房と受水槽を設備している。



小神学校新館

福岡小神の歩み

一、昭和七年四月一一日、福岡市大名町教会内の伝道館に十数名の生徒を集めて開校、初代校長はフレデリック・ボア師（現在は北九州市八幡区の黒崎援助修道院付）。久留米主任の牧山藤房師や今村助住の糸永武男師はこのときの小神学生である。

一、同年九月一五日、同市御所ケ谷に校舎が竣工して移転、カトリック学院と公称。しかしこの校舎はサンモール修道会経営の学校に譲渡されることになり、同八年はじめ再び大名町教会にもどる。

一、同年六月八日、現在の平尾山荘通りに校舎新築して移転。校名は平尾学院になる。

一、一一年三月一〇日、文部省認可をうけて泰星中学となる。

一、二一年学校経営はマリア修道会の手に移され、小神学校は分離。

一、二六年四月、司教館隣接の現在地に移転、現在に至る。

この間、ボア師についでベノア師、レウトル師そして深堀司教と平田司教も校長として指導にあたり、平田智五郎、平田勇、糸永一、青木保、畑原富雄師らが戦後の神学生養成につくし、現在は川口師と岩永薫師が四三名の教育を受持っているが、うち福岡教区は三〇名、大分教区五名、広島教会三名、アトンメント会四名、ドミニコ会一名で、中学生は平尾中学校に、高校生は泰星高校に通学している。（写真上は祝別式）

小神学校落成式での

教皇大使のお祝辞

まず私を福岡小神学校の落成式にお招き下さいました深堀司教様にお礼申し上げます。さらに、今さっき私が祝別いたしましたすばらしい小神学校、日本人のために日本式に設計し建築なさった設計者、建築者の方々にもお礼申し上げます。将来たくさんの若い人々がこの神学校をへて司祭となるよう、発展を望んでやみません。

神学校というものは、たしかに霊的な一致のシンボルであると思います。神学校が一致のシンボルであるというのは、私がこの数日来たびたび申しておりますようにキリスト信者はいかに少く、小さな群にすぎないものであっても、大きな力を秘めているということであります。みなさまもこの神学校を導くために、ひとりひとりが努力し全員で協力なさったと私もうかがっております。シスター方は祈を通じ、信者のみなさまは献金などを通じて神学校建設に大きな力を結集なさいました。みなさま方のこの一致、協力的な一致が、今後もつづけられることを希望します。

ここに列席の小神学生のみなさん、あなたたちが神学校の生活をいとなむことができるよう援助しておられる両親、親族、友人、そして神学校新築のために協力して下さっているすべての人たちの努力に報ゆるべく、みなさんは司祭への道を精進する義務があります。最後に私は、すべてのよいもの与え主であられる神に、心からの感謝をささげたいと思います。

初の終生誓願宣立

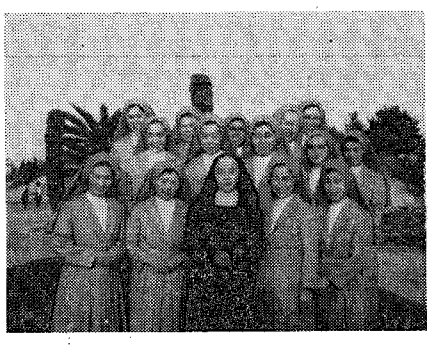
16名が福音の光修道会で

福音の光修道会での初の終生誓願宣立の盛式が、一一月一六日と一七日の両日福岡と広島で挙行され、一六名の修女が神に永遠の奉献を誓った。福岡では光ケ丘教会で深堀司教司式の共同ミサで、八名に約束の指輪がさずけられ、聖体の前で一人ひとり誓願を立てた。翌日は広島県佐伯郡廿日市町地御前の修道院で蜂口司教司式で同じく八名が誓願を立てた。

誓願者氏名と出身教会

ドミニコ堀敏子（東京関口）アンゼラ細見千代子（別府）レジナ青木喜代子（久留米）マリア田中三千代（山口萩）ラファエラ佐藤俊文（大分）アグネス青木光子（久留米）テレジア小田光子（大分）カタリナ井上芋子（大名町）＝以上福岡で誓願。

マリアテレジア木付節子（別府）セシリア渡辺礼子（福島郡山）テレサマリア多田信子（広島三条）ヴェロニカ志方摩子（別府）美島睦枝（奄美大島ヨゼフ教会）フィロメナ川坂春代子（広島廿日市）アンナ川野リエ子（奄美大島蒲上）マリアアグネス淀智子（広島幟町）＝以上広島で誓願。



新修道院発足にともない新総長にシスター・ラファエラ佐藤俊文福岡修道院長にシスター・アグネス青木光子、広島修道院長にシスター・セシリア渡辺礼子（修練長兼任）が選出された。

三位一体会とカルメル会でも

三位一体の聖体宣教会吉塚修道院で、一一月二〇日深堀司教司式によりシスター・マリア・クワダルペ久保田満里子が終生誓願を立てた。下関出身。

福岡の女子カルメル修道院でも一一月二二日シスター・幼きイエスのテレジア西沢恵子が、男子カルメル修道会日本管区長の司式で終生誓願を立てた。鹿児島市出身。

第一回クルシリヨ

来年一月中旬

福岡教区の第一回のクルシリヨ（キリスト信者練成会）が来年一月一二日から一五日まで、福岡默想の家でひらかれる。二五歳から五五歳までの男子信者で参加希望者は主任司祭を通じて司教館の深堀敏神父に申込むとよい。会費二六八〇円、締切は一二月一五日。このクルシリヨでは長崎、大分、広島、大阪の各教区の司祭・信者講師一五名が講義を受持つ。

宗教改革記念祭で

熊本手取教会のノーリス師は一〇月二七日、YMCAの招きで二週間前の講演につづき「ルター宗教改革四五〇年祭にちなんで」と題して講演した。宮内氏ら信者数名も同道した。

津田季穂展

聖母献身会（オブレート）古賀修道院のヨゼフ津田季穂修士は、一一月一九日から一週間福岡フォルム画廊で個展をひらいた。

神学校建設募金委員会

中間報告

（11月21日現在）

〔教会〕	
茶山	50,000円
大名町	108,940
二日市	44,850
箱崎	58,585
東田島	47,320
光ケ丘	45,150
本郷	178,000
今村	322,850
地行	40,000
浄水通	27,000
古賀	11,010
久留米	89,900
馬渡島	37,271
簑島	11,500
西新	19,360
小郡	3,000
大楠	16,000
大牟田	61,950
高宮	45,600
呼子	22,750
吉野	23,950円
吉塚	33,000
伊万里	29,700
唐津	29,000
鹿島	8,750
佐賀	35,320
武雄	9,550
多久	8,750
鳥栖	9,300
八王寺	30,095
本城	7,000
飯塚	—
小倉	106,910
黒崎	25,000
水巻	31,150
門司	45,800
門司港	27,540
直方	21,000
新田原	86,864
田川	5,600
天神町	23,550
戸畑	89,600円
若松	43,000
湯川	29,250
行橋	11,000
荒尾	7,350
人吉	33,450
本渡	14,150
健軍	27,120
菊池	29,934
水俣	6,815
帯山	19,000
大江	41,950
崎津	74,400
島崎	48,000
王名	27,100
手取	109,500
八代	40,500
〔教会合計〕	2,490,984
〔修道女会〕	1,563,100
〔バサー〕	244,229
〔教区事業〕	3,555,800
〔司祭団〕	899,050
〔個人寄付〕	2,100,600
〔待労院〕	18,100
総計	10,871,863

以上，感謝をこめて御報告申し上げます。

浦口均神父（会計）

全欧州を縦横にめぐり、さらに

聖週間を聖地で！

第5回巡礼団へのおまねき

あなたの信仰生活に、
意義深い1ページを！

■訪問地　アムステルダム（オランダ）→ロンドン（イギリス）→ファティマ、アルカバーサ、リスボン（ポルトガル）→マドリッド、ロヨラ、アスペイティア、サン・セバスチャン（スペイン）→ルルド、ポー、パリ、リヨン、アルス（フランス）→ジュネーブ（スイス）→ローマ、アシジ（イタリア）→ウィーン（オーストリア）→イスタンブール（トルコ）→エルサレム、ベトレヘム、ナザレ、サマリア、エリコ、カファルナウム、ティベリアデ、ハイファ、テル・アビブ（イスラエル）→アテネ、コリント（ギリシア）→香港等

合計　11カ国30余都市

■期間　29日間（昭和43年3月21日～4月19日）

■自己負担　¥545,000（全航空運賃、A級ホテル代、三食の食費、傷害保険等すべてを含みますが、この額は当財団で相当額を負担しております。また参加者少数の場合でも、割増金はいただきません。便利な月払い制度もございます）

■申込締切　昭和43年1月31日　詳細は下記主催者へ

主催　C、E、O、財団奉仕局　東京都港区北青山3—616　神宮前ビル　TEL　東京400—2181,2182

貧しい人の父

教皇大使ウステンベルグ大司教は、佐賀の特別老人ホーム・ロザリオの園に余生を送っている老人たちを見舞った。病床についたきりの年寄りたちは、小旗をふって大使を迎え大使はふかい情愛と祈りをこめて、かれらに祝福をおくった。

貧者に目をむける社会

井手一郎

昨年秋、私はウインで開かれた第十五回国際産業医学会議に与ったが、その三日目、私たち各国医学者は数台のバスを連ねて、詩と音楽の故郷ウインの郊外へ向いSOS子供の村を訪れた。

両親と故郷を失った子供たちのためにてられたこの村は一〇年前ヘルマン・ケマイネルスというインスブルック大学医学部出身の医師によって創立されたが、二〇年前から聳手されたかれのこの種の救済事業は、いつのまにか世界各国に及び、建設計画のものを含むと、その施設はすでに五三カ所に達しているという。

ウインの森の谷間に位するこの村には、あちこち小さな別荘にも似た寮舎や幼稚園、集会室や治療施設が散在しており、秋の日差しに柔かに包まれた谷間の風情は、いかにも平和なおちつきをみせ、訪れる者の心をとらえずにはいられない。

そのときまで樹陰の芝生に遊びたわむれていた子供たちは、訪れたわれわれ異国人にもことさら人見しりするでもなく、ニコニコ顔で近づいて来た。これが不幸を背負った子供たちとはとても考えられないくらいである。

見学中の産業保健婦さんたちは自分の国々の工場附属の保育所と比較して、全くうらやましいと感嘆していたが、これらがみな、キリストの精神にもとづいて行なわれた、善意の結晶であることに気付いたものは、どのくらいいたであろうか。カトリックの伝統に支えられ、国をあげて貧しい人々に手をさしのべるオーストリヤ国民の善意が、ただ外的設備の充実に感嘆するだけで見逃がされてはならないと思った。私たちはこれらの子供たちの幸福をうなずかたに心暖められて、各々応分の喜捨を行なって園を去ったのであった。

最近私は貧しい人々への援助を少し違った角度から考えてみている。援助は貧しい人々のためではあるかも知れないが、それはまた一方、与える者のためのものでもあるということである。

ハーマンカーンの「紀元二千年の世界」という論文の中に、もし日本が現在のような年率で経済成長を続けていくなら、紀元二千年の頃には、世界一位の国民所得になるのは当然予測されるし、そうなればその富をどう処理するかが問題である。国防国家の建設を試みたり、超越的な民族主義についやしたりすることなく、福祉国家の理想を実現し、またアジア太平洋地域の進歩しつつある国々と協力し、互いの文化と生活の向上につとめなければならないと、強く主張している。

本年九月東京で開かれた未来学国際会議においても同問題がとりあげられ、日本の前途に横たわる様々な危険を予測し、物質文化の極限的発展に伴って刻々と変化する社会的価値観を、改変する用意が必要であると強く叫ばれていた。

日本の社会的価値観を正常化すること、これが私たち日本人の、特にカトリック信者の義務であると思う。そのためには、各自が自らの生活をきびしくして、貧しい人々に援助を惜しまぬ徹底的なキリストの精神が要求されるだろう。

他人を援助することがひいては自分を助けるのである。日本が貧しい者に目を向けるとき、日本の社会は自らを救うであろう。

高度の物質文化の発展の中にあってもう一度じっくり山上の垂訓を考えよう。幸なるかなあわれみある人、かれらはあわれみをうけるであろう。（久留米教会所属）

いたわり

安部福吉

神様は、日常のともすれば見逃し勝ちな出来事を通じて、その御業をあらわされ福音の精神を悟らせて下さいます。

先日校区の運動会が行なわれました。私たちの町内は綜合で優勝したので、選手と役員が集まって祝杯をあげたのですが、私はそこで実に美しい姿をみました。それは貧しい者をいたわり給う神のみ姿だったのかも知れないと思っています。

私たちは完全優勝をめざしていましたし、特に最後のリレーでは絶対に一等になって、有終の美を飾ろうといきごんでいただけに、最初の選手がバトンを落すという失策にはみな大きなショックを受けたようでした。幸いあとでは三位にまでこぎつけたものの、スタートがよけりゃ一番になれたのに、スタートが……スタートが……と彼女を非難する声が、この祝宴のときまで続いたほどでしたから、みなよほどくやしかったに違いありません。彼女はこの席には来ていませんでした。つらかったのでしょう。

人々の無遠慮な非難を、それまでだまって聞いていた一人の役員が突然立ち上がって「今日の選手の中で一番りっぱだったのはスタートの彼女だと思います。うら若き女性でありながら失敗にもめげず最後まで走りつづけることは、誰にでもできるものではありません。彼女がもし責任を放棄したなら、三等にもなれなかったろうし、綜合優勝もできなかったかも知れないのですよ」と堂々と皆に話したのです、県の支所長であるというこの人の勇気に私はおどろきました。人の話題の流れに堂々と逆らって正義を守り、悲しむ者をかばうその態度に、私は思わずみ主の姿を思いうかべたのです。しかも彼が当の選手を俗にいう部落民と知っていてあえて彼女をべん護したと聞いたときは、一層胸の奥をゆさぶられる思いがしました。

居合わせた人々もみな、彼の話に聞いて心を打たれたようでした。「すまなかった、年のより申要もなくぐちをこぼしたりして」「あの人にあやまりたいが何故来てないのか」などとリレーに負けた口惜さもどこへやら、人々の目は一せいに、うちひしがれた一人の娘の心に注がれ始めたのでした。

私はまたもや並居る人々の素直さに感激しました。何と美しい心の人たちの集りだろう、私はこの校区の人々がよく一致団結していることを前から聞き知っていましたが、今それをまのあたりに見たようで本当にうれしく思いました。

神様は、この人々の中でも働いておられることを強く感じましたし、ここの出来事を通じて神様は私を照らして下さっていることも感ぜずにはいられません。

心の貧しき者は幸なり　善意の人に平和あれ

（小倉教会所属）

教会は貧しい人の友である

キリストはかれらに福音をもたらした私はかれらの苦しみを理解しているか

十数年前のこと、総合病院の結核病棟に教え子を見舞った折、二、三、四、五才かと思われる一人の青年がやってきて、付添のおばさんにお茶を願った。ついでもらって立ち去る彼の後姿を見ながら、おばさんは「あの人は身内に恵まれず、病院の人たちからも毛嫌いされている。かわいそうな人ですよ」と言うちしてくれた。私はその言葉が気になって、どうしても会いたくなり、次の日曜日には彼の部屋を訪れてみました。ドアを叩いて入った瞬間、どうしてここへ、間違いでは？　という自差しを受けましたが、私はできるだけ自然につとめ、謙虚を胸にしながら話しているうちに、安心したのか、いろいろと打ち明けてくれました。

この人こそ貧しさの極限に生きているというのでしょうか。幼い時両親をなくし、戦争に召集され、復員してからは、義兄の世話になり、そのうち独立できないまに、病気に倒れたとのこと。早く出てゆけばよいのに、口にはださないまでも、冷たい肉身の仕うち、院内でのしめつけるような淋しさ、回復の希望も持てない暗い毎日。

この苦しみを誰かに打ちあけたくても聞いてくれる人がいない。金でもあれば……などと社会の冷たい面だけが自分の上に容赦なくのしかかるように感じられ、幾度死を決意したかわからない、と。

ずいぶん長い話しでした。苦労と悩み、不安にみちた長話しでした。胸にしまっていた苦悩のかたまりをすっかりはきだしたとみえて、大きな溜息をつきました。二分ほどの沈黙のあと「胸がすうっとしました。心が空になったようです」といかにも晴れやかな顔。思わず私は「今こそこの空になった心に神の王座を」を祈らずにはいられませんでした。

それからわずか二カ月で、この方は天の王座に呼ばれることになったのですが、よき種はすでに蒔かれていたのです。死の数日前、ベッドの横に片膝を掛けて話しておられたノーリス神父様の姿と、「私は幸せです、お先に行っておきます」という彼の顔が、今でも印象深くよみがえってきます。

物質的貧しさなら人目にもつきやすく、なんとかなるにしても、精神的貧しさは、なかなか見付けにくいものです。他人に対する関心がなければその苦しみに気づくことさえできないのです。その人の精神的苦しみを救うために、原因を探したり、助ける手段を講じることがいかにむつかしいかは誰もが感じるでしょう。しかし、あの人のようにたとえ他人に毛嫌いされ、打ち解けそうもない殻の中に閉じこもっているとしても、愛は求めているのです。理解してあげよう、何かしてあげようという心さえもつならば、どんなにかたくなな人の心も必ず解かすことができると、私は確信しています。

（一修道女）

心の閉じた人と

私たちのよろこび

SVP大名町協議会

患者との対話の中に

SVPの会員の諸活動のうち病院訪問は、実にかけがえのない信仰の場である。一見不治の病人とみえる患者でも、心はなんとおだやかなのだろう。じっと耐えている姿には、何とも言えない神々しささえ感じられることがある。顔中ひろがった笑み、ポツつりポツつり話しかけてくるやさしい口調など。

よく人間の価値は、極限状況における行動如何といわれるが、こうやって、ぎりぎりの所で努力している人に接すると、なんとも形容しがたい、神の連帯意識を覚える。そしていつのまにか、励ましにきたはずの僕が逆に励まされて帰っていくのに気付く。

公会議以来、信徒使徒職の使命がやかましくいわれているが、僕はSVPこそ青年の特権である若さと情熱を生かす、格好の実践の場であると思う。そして余暇の善用としての僕たちのささやかなボランタリー活動が、使徒職の任務を少しでも果しているとすれば、これに過ぎる喜びはない。（H）

お助け

"不幸な人"　"貧しい人"と一緒になることはむつかしい。神様のお助けがなくては、どうしてこんな大それた尊いことができるでしょうか。

巷にいる貧しい不幸な人びとに対して、かわいそうだ、気の毒だと、涙はいくらでも流すことができよう。だが本当にこういう人と共になるのはむつかしい。

神様のお助けがどうしても必要である。（K）

善業の義務

私たちSVPの会員は、悩める貧しい人びとを、米や石けんなど日常必需品を持って訪問しています。それがどんなに小さな善業であれ、ひとりの人にすることはキリストに対してすることだと思えば、大きな喜びです。

援助をうけられる方は、別に私たちに感謝する必要はありません。私たちは義務を果しているだけで、むしろ自分のためになっているからです。

SVPは世界的な組織です。若い人たちが力を合せて、国際的なスケールでこのような善業をつづけるとき、国際的な真の友情も生れるのではないでしょうか。（U）

愛のわざについて

愛の活動は今日、いっさいの人とあらゆる窮乏にゆきわたることができ、またゆきわたらなければならない。

食物、飲み物、衣料、医薬、仕事、教育などをはじめ、人間らしい生活をおくるために必要なものを欠く人々、困窮や病弱に悩む人々、追放や投獄で苦しむ人々、そうした人々を、キリスト教的な愛徳は、所を問わず、いずこにおいても捜しだし、暖かい心づかいをもって慰め、適切な援助をしなくてはならない。

このような愛の実践はなんらの疑惑も招かない純粋なものであるべきで、そのためには隣人の中に神の姿と主キリストを見るようにしなければならない。

また援助を受ける人の自由と品位が、深い心づかいによって尊重されなくてはならない。

信徒は、困苦に悩む個人や国民に効果ある助けを与える公的、あるいは、さらに国際的な愛の事業と、社会福祉の事業を重んじ、すべての善意ある人々と協力して、これらの事業を援助すべきである。

（信徒使徒職教令8番より）

クリスマス・プレゼント

▶クリスマスカード　イタリア製　日本製　¥15～¥50
▶クリスマスの御絵　イタリア製　日本製　¥10～¥20
▶天使像　コーラス天使　¥100～¥200　ローソク天使　¥170～¥220
▶クリスマス・セット　14点セット　¥300～¥4,500

大名町教会隣　聖パウロ書院
岩田屋六階　セント・ポール・コーナー

祝ご降誕
父なる神と主キリストから恵みと平安があなたとともに！

クリスマス・おめでとう

▼天からきた人　脇田昌子編　¥400
▼イエズス　福岡女子カルメル会訳　―救い主に注ぐ単純なまなざし―　¥350
▼クリスマス伝説集　上沢謙二編　¥200
▼大いなるよろこび　J・モンステルレ著　¥560

キリスト者の結婚と家庭 (2)

ヘーリング

≪こどもは付随的なものではない≫

結婚生活に入るのは、本質的にいって、こどもを生み育てるという使命に召されることである。しかしこどもに恵まれない結婚は、存在の意味がないとか、呪われたものであるというのは、まちがいである。現代世界憲章もこの点を明確にしている。「婚姻は繁殖のためだけに制定されたのではない…したがって、熱望することが与えられない場合でも、婚姻は全生涯の生き方および交わりとして存続するのであり、婚姻の価値と不解消性は持続する」(五〇番)。

夫婦愛がまことのもので、こどもを生み育てるという使命にひらかれているものであるならば、ふたりの間に何の過失もないのにこどもが恵まれない場合でも、かれらの愛は不毛なのではない。愛がほんものであるが故に、生活の様々の局面において〝父として母として〟行動することができるのである。

夫婦愛かこどもを持つか、どちらかを選ぼうとする誤った考え方は、結婚生活とは相容れない、余りにも単純な見方である。配偶者が付随的なものでないように、こどももそうである。もともと人間のふかいつながりから出るものをこれは第二目的、これは第二目的であるというように区分するのはおかしなことである。夫婦間の愛、こどもへの愛は、全く神秘的なものであり、神の愛のあらわれである。夫婦が互いにほんものの愛にむかってゆくなら、それだけ愛というものの源泉にふかく達することができる。

ヒットラー、ムッソリーニ、毛沢東らの独裁主義的観点からすれば、夫婦愛は結婚生活にとっては付随的なものでしかない。かれらが結婚制度を助長するのは、専ら人口の増加をめざすからである。ヒットラーは兵卒を、毛は労働者がほしいのである。こどもの生産と養育だけが大切なのであって、夫婦間の愛には何の関心もない。近い将来に、両親を必要としない人造人間を製造してみたいと思っていることだろう。

これに反しキリスト教はすべてを愛の観点から眺める。そして夫婦愛とこどもへの愛というこの二つの人間の根本的な愛には、価値の優劣はない。しかしそれらは相互のつながりなしに、単に並列的に存在しているのでもない。「婚姻と夫婦愛はその本性上、こどもを生み育てることに向けて定められている。実にこどもは婚姻の最も貴重なたまものであり、両親自身の善のためにも大いに寄与する」(同上憲章50番)。

夫婦愛は神の愛の讃歌であり、それ自身、高い価値を具えているが、親としてのこどもへの愛につながるものでなくてはならない。夫と妻は共にこどもへの慈愛をあらわし、またこどもからの愛にも応じることによって、相互の愛と尊敬を高めてゆくことができるのである。

≪真の愛情≫

キリスト教の根本に立っていうならば、結婚生活を営むのに愛以外にもっと別の徳が必要だというのは誤りである。ほかのものは、どんなにすばらしいものであっても、夫婦愛にまさることはないしかえってそれらのものが真の夫婦愛から出たものである。

真の夫婦愛は強く、誠実で、やさしい。尊敬と思慮にあふれ、情けあつく、思いやりがある。利己心がなく犠牲をおそれない。相手が忠実を守っていき易いように、心をくばる。「愛はすべてをゆるし、信じ、希望し、耐えしのぶ」(コリント前一三章参照)。

キリスト教的愛は、他人の過失をゆるすということのなかに、その価値をあらわす。夫婦間でおかされる罪のうち最大のものは、不貞である。しかしその場合でも、夫婦愛が生きているならば、罪のない方は向うの過失をとがめるよりも、まず自分もこの過失に何かに責任を負うべきなのではないか—やさしい思慮が足りなかったのではないか。向うの愛情を拒絶したからではないか、などとけんそんに反省することができる。

大きな愛は何ものにも打勝つ。「われらが人にゆるす如く、われらの罪をゆるし給え」という主祷文の精神に従って祈り生活するには、どうすればよいかを知っている。神の忠実さは、人間の罪をゆるす愛のうちに示される。このようなゆるす神の愛が、この地上で最大のよろこびをうたい、永遠の勝利をかちとるのである。

罪をあがなってもらった者は、ひとの罪をあがなうほどの愛をもつ。これは神秘体に属するものに対するキリストの愛を模倣し具体化しようとする救いの業である。

ひとの救いに対する関心は、夫婦愛に付随的なものでないし、またそれがあれば親切、理解、優しさを欠かしてもよいというものではない。愛情的に夫を飢えさせ、家事をおろそかにしておいて、宗教の話をちらつかせる〝信心ぶった〟妻は夫婦関係を破壊にさらすものである。しかし心から愛情のすべてを夫にささげるならば、愛の神についてのかの女の言葉は、夫の上に実を結ぶであろう。

婚姻の秘跡による聖寵が、こどもの上に大きな祝福をもたらすには、両親が互いの愛をどんな境遇に際しても強く持ちつづけ、真の愛の姿をこどもに見せることができなければならない。そうすればこども達は、神の愛のよきおとずれの担い手となっている両親を見ることによって、信仰と生活の一体化を学ぶであろう。

写真は熊本待労院での大使歓迎式

信徒使徒職　世界大会から

日本代表　石丸淑恵

親愛なる日本の皆さんへ

お手紙ありがとうございました。皆さんの御好意がどれほど私をはげましてくれるかわかりません。今頃は何をしておられるだろうかとなつかしく思い出しています。今日は少しおちつきましたので今までのことを書いてみようと思います。大会の内容については私より皆さんの方が新聞などで、すでにくわしいことと思いますので、個人的な見物やエピソードなどを書くつもりです。

日本を出るときはちょっぴりさみしかったけど始めての旅にいろいろ驚ろくことばかり、あまりセンチになってもいられません。ローマでは皆同じ宿舎に泊ったので少しも外国という気がしませんでした。聖ペトロでは千度教皇様のベネディクションがあっていたのでこれに参加、ものすごくでっかい聖壇に目をパチクリ。

三千名も集った大会です。どこに誰がいるやらさっぱり、JOCのミーティングも二回ありました。二百余名の全国闘士達、自己紹介されても、石の耳から左の耳へつつぬけです。そのうちいろいろな神父様方と会うことができました。(略)

10月9日はアジヤ大陸の集り。二〇〇人以上はいたでしょう、いきなり「石丸さん今日は」と声をかけられてびっくり、この前日本にこられたスタン神父様でした。(略)

10月11日は開会式でした。ゆっくりしたスケジュールだろうとのんきにかまえていたのに、その忙がしいこと。昼寝もなにもあったものではない。12日、13日はウォーク・ショップ移民の問題でした。(略)

15日には教皇ミサが行なわれました。聖ペトロ大聖堂のパイプオルガンの音が聖壇一ぱいにこだまし美しい典礼がくりひろげられる荘厳なふんいきの中で皆さんのために祈りました。ミサの後、JOCのリエンジさんが信徒代表として教皇様に挨拶、実に堂々たるもので、富沢司教様いわく「こういう所にくると、学士会とJOCは幅がきく」と。私もついうれしくなりました。(略)

その日の昼食はアメリカの神父様方とともにしました。午後からは講演の予定だったが、コンガー氏が来られないので、悪かったけど失礼して誘われるままに観光にでかけました。ところが聖パウロ大聖堂まできたとき、司教様とバッタリ、互いにびっくり悪いことはやっぱりできないなと痛感しました。司教様は何ともいわれないでむしろ会ったことを喜こんで下さいました。ここで皆と別れ、私は今度は司教様とデイト。すばらしい光栄に浴しました。

18日、大会が終りました。はりつめた気持が一度にゆるんだようでした。夜は日本代表団で夕食会をもち、大会の成功を祝ってからスタン神父様達はパリにでかけられました。始めて会った人々、もう二度と会えないかも知れない人々との間にとりかわされた情愛の美しさに名残りを惜しみながら、皆とわかれました。サンピエトロを眺めながらかじったアイスクリーム、一人でピエトロの頂上までかけていったこと、ドミティクのカタコンブで見たがいこつ……いろいろな楽しい思い出をのこしてローマを去りました。(略)

今マレーシヤにいます。その後のことはまたいずれ後便にてお知らせするつもりです。書記局の皆さん北九州のバイヨ神父様なつかしい天神町のジョシストの皆さん元気で頑張りましょう。沢山の祈りをお願いします。早く英語がしゃべれるように、自分の頭のわるさに歯がゆくなっているところです。

随想　姉、妹たち

いよいよ師走、待降節を迎える！久しぶりに姉妹が会った。

前途は洋々として長いようでも過ぎ去った年月は夢のように短かく感じられる。

神様が育てそのにあきないように……とのご配慮か、顔も性質もそれぞれちがっている。

長女は、母が〝弟妹を見るように〟と頼むと、どんなに自分がつらくてもがまんし、いわれたとおりにじつに世話が届いていた。今でも会の長としての使命を果すことに生きる喜びを感じている。祈る姉君で通用している。

飾ることが好きで、名もない草花でもいい感じにいけ、自分で創作し、身近な材料で人形などうまく作り床の間に飾るなど安らしい心づかいの持主だったが、現在高校一年をかしらに二人の子供に囲まれてのよき母親で、多忙と喜び驚きのまっただなかである。

末の妹は小さいときから頭の感度がよく、何でも一番でなくては気がすまなくて電気がスパークするみたいで手がつけられないときが度々だった。ついさきごろ結婚。博士同士だし、どんな子供が与えられるかと期待をかけられているが……。

本にかこまれ、本代におわれての生活！大、小鳥、猫と動物の好きな二人は、現在ドジョウを飼っているとのこと、アブラハム、デビット、イザアク、ジャコブとそれぞれ名をつけて眺めていると聞いて微笑したことでした。

手、足の裏、表とそれぞれ役目を持った姉妹、これからも与えられた道をみ旨のままにと祈りつつ……。

連合大会準備委員会

来年六月上旬熊本市で開催される日本カトリック看護協会、九州地区同医師会、同ケース・ワーカー協会、同医療施設協会の連合大会の準備委員会が、一一月五日手取教会信者会館でひらかれ、横浜から社会・福祉司教委の秘書松村宣和師も討議に参加した。

地区婦人会一泊静修

佐賀地区の婦人会員二四名は一月一一日土曜日夕方から翌日午後五時まで、福岡默想の家に一泊してクレメント師の指導のもと静修を行なった。去る三月には同地区の壮年男子信者も信徒使徒職への霊的訓練の目的で静修をしている。深堀司教も第一説教をした。

SVP会員も

SVP福岡中央理の各協議会の会員二八名も一泊静修を行なった。深堀司教もかれらを激励したが、二日目正午のミサのあと定例会をひらいて、救ライ運動と歳末助け合い運動への協力を話し合った。

全九州カトリック高校生　長崎巡礼のお知らせ

全九州カトリック高校生は、来年三月末、信仰の年記念行事として、信仰の祖先のゆかりの地である長崎への巡礼を計画している。

参加資格

カトリック信者高校生（諸種カトリック・グループに所属しているといなとに関らず）

指導司祭

長崎の山口大司教様のもとに各教区にひとりの指導責任司祭がいる。

長崎教区—アギラール師
鹿児島教区—深堀師
大分教区—清部師
福岡教区—ボネ師

日程

○3月28日(木)午後　長崎集合
○3月29日(金)
集会　二六聖人記念館
テーマ　殉教について
ミサ　キリストのいけにえと殉教者の苦しみに合せて高校生としての苦しみをささげる。
講演　二六聖人の殉教
セミナー　殉教者の信仰の光のもとで自分達の苦しみを考える。
○3月30日(土)
集会　大浦天主堂
テーマ　司祭との出会い
ミサ　十字架によって苦しみは喜びの源になる
講演　浦上キリシタンと宣教師との出会い
セミナー　高校生の苦しみと司祭との関係
○3月31日(日)
集会　浦上教会
ミサ　山口大司教のミサにあずかって、全世界の教会に心をひろげる
正午散会

責任分担

大分・熊本地区はリクリェーション、長崎地区は会場と運営、鹿児島はセミナー、北九州は祈りとミサを準備をする。

参加申込先

（福岡教区の分）
福岡県—司教館の日曜師
熊本県—マリスト学園のニーダム師
佐賀県—ガッザルディ師

巡礼プログラム、説明のパンフレットを希望者に新春早々おくります。ポスターはすでに出来ているので、お知らせ下さい（一枚三〇円）

伝統がつくった
現代人の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和和英辞典
コンサイス英和和英辞典
コンサイス英英辞典
デイリーコンサイス英和和英辞典
コンサイス独和和独辞典
コンサイス仏和辞典
コンサイス露和辞典

クラウン
初級クラウン英和和英辞典
新クラウン英和和英辞典
新クラウン英語熟語辞典
カレッジクラウン英和辞典

携帯用
明解国語辞典
明解漢和辞典
明解古語辞典
三省堂国語辞典

新刊
三省堂新国語中辞典
三省堂新漢和中辞典

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町